

# 和歌山大学地域連携・生涯学習センター 20周年史

和歌山大学

## ご挨拶

学長	伊東千尋	3
地域活性化総合センター長	足立基浩	5

## 寄稿

初代センター長	山本健慈	7
第二代センター長	堀内秀雄	10
第三代センター長	出口寿久	13
第四代センター長	村田和子	15
第五代センター長	遠藤 史	17

## 1. 沿革

沿革	21
運営委員会名簿	22
センターの設置・組織・人的体制の整備・事業に関わる基本理念	23
センターの20年の実績	30

## 2. 調査・研究

地域生涯学習プロジェクト研究	35
地域発展学習プログラムの開発と実施に関するセミナー	38
調査・研究に関するセンターの発行物一覧	43

## 3. 特色ある事業

教員の長期社会体験研修	47
土曜講座	50
交流サロン「なまけん会」	68
社会教育主事講習	72
KOKÔ 塾「まなびの郷」	114
マナビイスト支援セミナー・企画ゼミ	120
地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー	126
子育て支援員研修	129
まちかど事業（和歌山市・和歌山大学連携事業）	130
韓国・公州大学校師範大学との交流	136

## 4. 参考資料

歴代教員・センター長、副センター長、スタッフ一覧	169
事業一覧	172
10周年記念事業（生涯学習ニュース29号より抜粋）	204
運営委員会規則	209





## 「和歌山大学地域連携・生涯学習センター 20 周年史」巻頭ご挨拶

学 長  
伊 東 千 尋

和歌山大学創設からの 70 年の歴史を振り返ってみれば、地域・社会からのご支援により、本学が発展してきたことは明白であり、平成 28 年の国立大学の重点支援の枠組みにおいて、「地域のニーズに応える人材育成・研究を推進」を担う重点支援①を選択したことは必然であったと理解できます。

「地域ニーズ」とは一体何か？その広さと深さは圧倒的であり、本学の限られた資源の中でその全てに対応することは極めて困難です。そこで、様々な地域ニーズから大学が対応できるものを見出し、その対応を行うことが、地域に支えられる地方国立大学の役割であると考えます。本学では、先に述べた重点支援の枠組み制定に先立つ平成 10 年に生涯学習教育研究センターを設置し、地域連携の取り組みの一つとして生涯学習を展開してきました。大学に集積された知的シーズを市民の皆さんへの教育という形で地域に展開することは、教育機関である大学として王道とも言える対応でした。他の大学にも生涯学習を担うセンターが設立され、個々の市民が持つ学習ニーズに応える公開講座の開講をしていた中、本学の生涯学習センターは独自の取り組みである「土曜講座」を開講してきました。この「講座」は総体としてテーマを持った一連のもので、自治体や NPO などの企画提案を受けて、地域発展を目指すという位置付けで企画され、様々な視点からの市民教育を展開してきました。このような位置付けで実施される「講座」からは、「地域生涯学習事業開発プロジェクト」が生まれ、単なる市民向け学習講座提供とは異なり、研究への展開を志向した事業として発展しました。

上述の活動を経て、平成 22 年からは「地域連携・生涯学習センター」と名称を改めました。これまで生涯学習を広義に捉え展開してきた活動を、地域連携と生涯学習に分け、その両者を併記することでセンターの役割を鮮鋭化させ、名実ともに地域連携を志向した組織となりました。生涯学習は広い意味を持ち、その概念を共有できるのであれば、様々な活動を包含する言葉となります。しかしながら、社会での言葉の意味が厳密化、細分化されるに従い、上記のような概念の共有が必ずしも容易ではなくなり、生涯学習が特別の分野であるとの認識が生じ、特定の教員による活動との認識が生じたこともこの組織改革の一因であったと考えます。「生涯学習センター」に、地域連携をさらに付け加えることは、地域連携を本学全体の取り組みとして掲げるための必然でもあったと考えます。

20 年史の編纂にあたり、地域連携・生涯学習センターの 20 年にわたるこれまでの活動を省みることは、今後の本学における地域連携及び生涯教育への取り組みを展望する上で大変重要であり、得られた資料は今後の礎になるものと考えます。地域連携、生涯学習のあり方は時代を経て変化しており、実社会で利用可能な知識や技術の再教育（リカレント教育）がその主役



に躍り出つつあります。また、人口流出により著しい人口減が生じている地方においては、地域活性化の取り組みに切実な要望が出てきています。このような社会状況の変化は、これまで本学が実施してきた、地域貢献そして生涯教育のあり方にも変化を与え、新しい形での地域貢献、市民への教育展開の形を作ることが求められています。今回の20周年史の刊行により、和歌山大学の地域貢献及び生涯教育の新しい形への緒を掴み、次のステップへと発展させていくことが、昨年70周年を迎え、地域と価値を共創する大学としての新しい一歩を踏み出した本学の「そして ここから」であることを述べさせていただき、巻頭言を締め括ります。



## 地域連携・生涯学習センター史

地域活性化総合センター長  
足 立 基 浩

1998年に和歌山大学に生涯学習教育研究センターが設置され、生涯学習を通じて官民連携の拠点を担ってまいりました。また、2010年からは「地域連携・生涯学習センター」と名称が変わり、地域連携が今まで以上に強調され、本学のみならず地域のまちづくりの拠点としての役割を果たしてきました。このころより、行政はもちろん、市民から和歌山大学の「地域連携といえは生涯学習センター」、としての位置づけが明確になってきたように思います。

私がこの地域連携・生涯学習センターで思い出すのは、今から20年ほど前の和歌山県と連携した「ヒューマンカレッジ」です。当時は月に一度の勉強会で、3年間は和歌山県と和歌山大学の協働で進めさせていただきましたが、私が講師を務めさせていただきました（この講座は3年で終了しましたが、今でもメンバーと集まっています）。

この講座では、中心市街地活性化などをはじめ、いくつかのテーマについてワークショップを作り、チームごとに議論を行いました。

なかでも記憶にあるのが「コミュニティバスに乗って街に飛び出そう」というチームです。メンバーはリタイアされた方、主婦、行政関係の方も一市民として加わり、みんなで和歌山のバス路線・時刻表に求めたいもの、についてわいわい話し合いました。和歌山のまちづくりで課題で上げられるのが公共交通の問題。今では路面電車を復活させる話なども出るようになりましたが、当時は公共交通は行政任せ、というイメージでした。しかし、このチームは「市民目線」でバス路線の構想を練り、病院や学校、また商店街などを網羅するコースを自らの手で作り上げたのです。

思えば、生涯学習センターの役割は、生涯現役で市民の学びを促進すること。人生100年といわれる時代のなかで、やはり学びは若者だけの特権ではないと思います（これは現在本学が進めているリカレント（社会人再教育）も同じです）。最近では高齢者が不動産会社の経営をスタートさせたり、アプリ開発を行ったりなど様々な学びを経営などに生かす場面も増えているのです。

この「コミュニティバスに乗って街に飛び出そう」のチームは和歌山市内のバスに実際に乗り、その乗り心地や、運賃、バリアフリーなど様々な観点から学習したのです。私はコーディネーター役を務めるのみで、議論の主役は10人ほどからなるメンバーの皆さんでした。

そして、21世紀も20年を過ぎた現在でも、この学びは生きているように思います。

政府は現在、コンパクトシティ政策を進め、中心市街地の再生などについて公共交通機関の役割を重視していますが、実は今から20年ほど前に我々はそのことに気が付き「学び」を自主的にスタートさせていたのです。

その他のチームについては、市民条例について考えるチームがありました。日本の各地の市

民条例を調べ上げ、民主主義について話し合いました。地方については首長を除き議会制度は間接民主主義性となっています。しかし、まちづくり条例や市民条例はそこに一般住民の声を「もっと聴くように」と主張します。

民主主義にはコストがかかります。意思決定に時間がかかり、少数意見も重要です。上意下達のシステムを有する国の方が確かに早く、特に非常事態が発生したときは、市民の意見などを聞かずに官僚機構を運用して物事を決定した方が早いかもしれません。

しかし、実はこうした「時間がかかる」システム、市民サイドに立った市民主導のシステムの構築を実際に制度化するのがどれほど大変なことでしょうか。

行政の意思決定には過半数や3分の2などのルールがありますが、こうした根源的な部分にまでこの「生涯学習講座」の「市民条例研究チーム」は深く議論を行ったと思います。

これからの日本は、少子化を迎え、また高齢化を迎えています。人口減少も深刻であり、そんな時代だからこそ、市民力が重要になるのだと思います。

和歌山大学も、こうした生涯学習を重視し市民とともに成長させて頂いてきたように思います。

同様に、高校などの地元教育機関との連携も行いました。紀の川市にある粉河高校とKOKO塾なる「大学と高校との共同の勉強会・研究会」を開催し、すでに20年近くの月日を数えることとなりました。これも地域連携・生涯学習センターが中心となって地元との連携のもとに実施してまいりました。

地域連携はこれからもその重要性を増すことと思います。本稿を執筆している現在、著者は山形県にありますが、先ほどまで地元の方々と膝を詰めて山形県の将来について考えました。私の専門分野は中心市街地の再生、商店街の再生ですが、実に多くの関係者がいます。商店主、商店街振興組合、商工会議所、市役所、県庁、地権者、中学生高校生、まちづくり会社、建設業、警察、病院。参加者は40代から50代の方が多いのですが、空き店舗が増え続ける現在、今でも地域のことを学び続け、処方箋を探しておられます。

すべての関係者が絡み合い、地域が育つと思うのです。そして、その地域には共通に理解する言葉と考えるが必要です。地域の底力は、こうした地域連携力がものをいうのだと思います。

地域の絆が重要な社会インフラだった時代が遠くになりつつある。そんな時代だからこそ、地域連携、生涯学習を意識的に構築する必要があるのだと思います。

これまで、生涯学習センターでは実に様々な地域活動を行ってきましたが、現在では「リカレント」という名称で社会人などのエンパワーメント（教育）もなされるようになっています。「生涯学習」が自発的なテーマ設定と学びが強調されるのに対し「リカレント学習」はどちらかというと時代が要請する学びといえるかもしれません。これからの時代は両方の学びを实践する体制づくりが必要とされます。

時代の変化の中においても変わらぬ教育理念を持ち、市民の皆様の「学びたい」という気持ちを支える機関でありたい、と考えております。

## センターの誕生と国立大学への寄与

初代センター長

一般社団法人国立大学協会専務理事

山 本 健 慈

### 大学改革のキーステーションとしての期待

和歌山大学のセンターを、『大学事典』（2018年平凡社）は、「地域社会と大学－地域の知の拠点－生涯学習と地域再生」の項で「自治体、企業、NPOなどの多様な組織と結んで住民の主体的力量の形成に貢献し、大学と地域を繋ぐ新たな人材を育成する各種セミナーを積極的に提供していることで知られる」と記述している。紙数も少ないので、そのセンターの生まれた経過と特徴、その後の日本の大学への寄与を記したい。

私は、1977年4月に教育学部教員として赴任以来、キャンパス統合、新課程設置、修士課程の設置等にかかわってきたが、自分の研究や教育実践、社会的実践の小さな成果を実感しつつも、大学の現状を見ると、マンネリと陳腐さの蔓延にうんざりしていた。そうした1996年の秋の早朝、就任したばかりの守屋学長から、「生涯学習センターを設置しようと思うが、構想を創ってくれないか」と声をかけられた。瞬時に過重な負担を承知で、「やりましょう」と応じた。当時大学には、地域にコミットし住民の活動に貢献したいと考える研究者は少なかった。しかし彼らは、学部組織を越えて機動的、柔軟に動くことは容易ではなく、意欲ある研究者は個人的に動くか、閉じ込められていた。これではますます大学が地域の要請に立ち遅れてしまう。「改革」を実現する最後のチャンスかもしれない、大学に身を置く最後の時間をこの課題に費やしてもいいのではないかと思い至っていた。

97年7月、概算要求の折衝で文部省（当時）大学課国立大学第二係長の平野浩之氏（現在東京大学副理事・財務部長）と大学改革推進室長の関靖直氏（現北海道大学理事 前文科省研究振興局長）と会い、旧キャンパスに放置していた松下幸之助氏寄贈の松下会館を改修し設置する旨、説明した。平野氏は、「そのような財産が、まだあるなら処分してもらうのが当然」と言い放ち、関氏は、「大学が生涯学習にかかわるとはどういうことか」と遠慮がちにコメントしたシーンは、いまでも記憶に残る。こうしてセンター設置は、8月末文部省予算案にも組み込まれた。その直後、橋本内閣は、緊縮財政から内需拡大に転じ、かつて文部省会計課で長く敏腕をふるった原政敏事務局長は、「これから補正予算が付きますよ。松下会館の改修に手を付けましょう」と、陣頭指揮をとられた。センターは、98年度予算成立によって設置され、松下会館の改修も、秋には完成した（総額約2億円）。西口知事は、「まさに大学が戻ってきた」と歓迎のメッセージを寄せられた。

### 生涯学習センター系協議会への寄与

和歌山大学のセンターは、国立大学としては後発の設置であったが、その業績は、研究者に注目され、すでに多くの研究もあるので、ここでは、国立大学生涯学習系センター協議会への

寄与を記す。

生涯学習系センターが、大学改革のキーステーションになるためには、一つには実践の蓄積と理論化、政策化を担う恒常的事務局を確立すること、二つには、生涯学習政策および高等教育政策のなかに＜大学と生涯学習＞というテーマを位置づかせること、三つには、センターの機能が充実したものになるためには、アカデミックキャリアの研究者が実践的なセンスをもつこととともに、いわゆる事務系職員が、地域と大学を繋ぐコーディネイターとしての資質、能力をもつように、交流研鑽を重ねていくことが重要だということである。

2009年8月、図らずも学長に就任することになった私は、「地域を支え、地域に支えられる大学」「地方国立大学モデルをつくる」「和歌山大学は、生涯あなたの人生を応援します」をスローガンに大学運営をすすめ、上記の3つの課題にも学長就任後、可能なかたちで関与してきた。

第1の、恒常的事務局の確立については、参加大学の合意でセンター事務体制が確立している和歌山大学で持つべきだと、センター長時代から考えていた。事務負担増はあっても必要な全国業務を引き受ける姿勢が、国立大学総体が社会的承認を得るうえで必要なことだからである。2011年、和歌山大学に事務局が整備されたことは幸いな事であった。

### 生涯学習政策と高等教育政策に位置づける

第2のテーマについては、1990年代半ばから付き合いがあり、センターの設置を契機により親密になった寺脇研氏等文部省幹部に、生涯学習政策のなかに大学を位置づけるべきことを進言していた。

2005年の和歌山大学での第27回協議会には、文科省から佐藤誠氏（生涯学習政策局政策課地域づくり支援室室長補佐）と米本善則氏（生涯学習推進課放送大学振興係長）を招き、2008年のセンター10周年記念集会には、生涯学習統括官をへて高等教育局審議官に就任した久保公人氏を招き「今後の大学と生涯学習への期待」を語ってもらった。久保氏には、センター系協議会と文科省生涯局および高等局との懇談を積み重ねることの必要も進言し、彼もその必要について同意していたが、機は熟していなかった。

2010年10月急きょ和歌山大学での開催となった第32回センター等全国協議会の歓迎の挨拶で、私は、「大学と地域生涯学習というテーマにおける実践と研究は、大学の事業実践論、経営論における新しい領域」「日本の生涯学習政策、高等教育政策の新しい領域」であると述べ、文科省への期待として、「今回の協議会には、文部科学省生涯学習政策局が、本気で協同していただけることになっており、うれしいかぎりです。（第2日目には、生涯学習政策局長など幹部も参加され、熟議が行われた）ここにもうひとつ高等教育局も同席、同伴していただければ、いっそうの前進であります。またその域には文科省も、多くの国立大学長も達していないと思われます。みなさまの実践、研究が、高等教育局を動かし、またそれぞれの大学の経営、学長さんを動かすことを願っております。」と締めくくった。

その後センター系協議会として、事務局、理事会という体制の整備もあって、文科省生涯局の担当課と、定期的な懇談が重ねられることになった。

### 生涯学習実践を担う大学人を育てる

第3のテーマについては、後にセンター系協議会の研究協議のなかに職員の分科会等の設定もなされるようになった。

和歌山大学では、2010年、＜地域と大学＞というテーマで、「地域型大学サテライト拠点情報交換会」を、国公私を超えた大学に呼びかけ開催した（11大学・機関の地域型サテライトから40名参加）。参加者は、研究者、事務系職員、正規、非正規であり、大学の現状を示す構成となっている。12年度からは毎年「地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー」を、国公私の大学に呼びかけ開催している。15年度以後は、長野大学、宮城・尚絅学院大学、福岡大学、高知大学、高崎商科大学と共催。19年度共催した高崎商科大学長は、「このセミナーに本学職員は参加し育てていただいた。感謝しています」と、筆者に述べられたことは、和歌山大学が国立大学として私学への貢献という責務を果たしていることとして誇りとしてもよいことである。

## 私の大学原点としての「センター」

第二代センター長  
和歌山大学名誉教授  
堀 内 秀 雄

和歌山大学生涯学習教育研究センター（以下、「センター」という。）は、今はもうない。

和歌山市西高松地区に施設そのものが存在しない。栄谷キャンパスに同種の機能移転をされたが、まちなかの生涯学習拠点は消えた。大学のかげがえのない財産の喪失である。

開設当初に助教授として着任し、2009年度まで同センター長・教授を務めた大学人として一文を捧げる。20周年誌の企画構成は不明だが、詳細は年表・資料等に委ねたい。ここでは大学原点としてセンターの実像を、私が中心的に関わった時期の歩みの一端を省察する。

### 1. センターの開館

1998年10月1日に本センターは開館した。早朝に学長室で辞令をいただき、大学本部から西高松のセンターに到着した。研究室には机だけ無造作に置かれ、PCも本棚もない。「ここから教育・研究者として一から新たな仕事を開拓していこう」という覚悟と希望を決めた。

### 2. 疾風怒濤の日々

新しい器に新しい水を注ぎこむ。大学と県域及び全国を駆け巡り、疾風の如く仕事起こしの連続であった。着任挨拶を兼ねて、声がかかれば喜んで出向き、県内各地に足を運んだ。挨拶回りを兼ね、多様な学習会や地域活動に参画した、年の暮れには850枚の名刺交換を行い、現在まで続く有能なる知己を得た。センターへ訪問者が続々と増え、そのつながりが宝物になった。

### 3. 共に耕した生涯学習の仕事開拓史

実質11年間のセンターの仕事は走馬灯のように脳裏に映る。少しは大学と地域に貢献したであろう思い出を、10のラフ・スケッチとして記しておこう。

- ① 何よりもセンター内外の教職員、地域住民に支えられたことだ。毎年、県教委派遣の研修員諸氏が個性的で優秀であったこと。故人の方もふくめてすべての関係者に感謝の言葉しかない。
- ② 開館翌年から毎月定例の土曜講座の看板事業として継続したこと。中秋の名月頃に星を見る会と茶席を地域行事化し続けたこと。文部省委託「わかもの交流事業」も初期の大成果である。
- ③ 大学教員として学生たちと共同学習を楽しんだこと。授業風景の残像がクリアだ。（担当科目は、地域文化事業論・生涯学習論・社会教育計画論・社会教育実習・生涯学習演習・地域福祉論・自治体政策論・地方自治体論等である。

- ④ 田辺市生涯学習計画の策定事業は力が入った。自治体と大学が初めて委託契約を交わし、センターの自主財源を獲得した。地域と住民参画型の計画は全国モデルとして注目された(2001)。
- ⑤ 和歌山大学と秋津野塾(田辺市上秋津地区)が策定した「上秋津マスタープラン策定基礎調査報告」(2002)。地域と大学の先駆的な共同研究であり、農を中心とした地域づくりと人材育成活動が評価された。その後「秋津のガルテン」のムラづくりは農林水産大臣表彰を受けた。
- ⑥ 「高大地域連携の開発—KOKÔ 塾・まなびの郷」(2002～)。粉河高校とセンターが独自連携した地域発展の共同学習システムを創る先験的な高大地域連携方式である。文科省や関係機関から高い評価をいただいた。試行錯誤しながら継続中で、まもなく20年を迎える。
- ⑦ 「共育コミュニティの推進」。県教委とセンターが協働し、地域全体で子どもを育てる全県運動を展開した。家庭・学校・地域の連帯を再生し、学社連携の再構築をめざした。
- ⑧ 大学サテライトの設置。大学・岸和田市連携協定(2002)から岸和田サテライト開設(2006)。南紀熊野サテライト(2005)。大学が社会貢献する地域プラットフォームの役割。
- ⑨ 文部省主管の社会教育主事講習を初めて実施し(2000)、現在も継続中。県内の社会教育主事有資格者の裾野を耕し、市町村に専門職配置を広げネットワークを形成している。
- ⑩ 学会や民間研究団体の全国大会を和歌山県内で開催。運営事務局をセンターが担当した。  
 ＊第21回国立大学生涯学習系センター研究協議会(2005) ＊第47回社会教育研究全国研究集会(2007)。第55回日本社会教育学会(2008) ＊日本ボランティア学会(2009)。

#### 4. センター 20 年の歴史から学ぶべきこと

無から有を生み出すには渾身のエネルギーを必要だが、有を無に帰するのは一瞬である。

- ① 大学の生涯学習拠点が喪失することは、和歌山だけでなく日本の社会教育・生涯学習が疲弊・劣化することにつながる。教育学部の生涯学習課程は既に廃止され、大学院教育学研究科も募集停止した。センターの廃止は、日本の大学教育／研究の危機とリンクしている。
- ② 私は振り返る。10周年記念シンポジウム(2008)では、センター10年の歩みをDVDとして作成した。スタッフと推敲を重ねたエンドロールに、以下のメッセージを書いた。今読み返してどうだろうか。10年から20年。その過程の後半期は生涯学習行政が衰弱が加速し、とりわけ国立大学の法人化以降に競争的環境と再編の危機に翻弄されてきた。

##### ▶「10年の歩みから、新しい10年へ！」～和歌山大学生涯学習教育研究センターのめざす道～

地域には無数の課題があり 地域はそれを解決するほんまものの学習を求めている  
 そのニーズに大学の生涯学習部門がいかに応えうるのか つねに問い直し、耕し続けた10年でした  
 幕を開けた新しい世紀 世界は混沌と危機の渦の中 日本は構造改革・格差社会と生きづらい時代  
 地域は 市町村合併・少子高齢化・経済疲弊に喘いでいる 人づくりを担うべき 生涯学習行政は  
 衰弱しつつある

大学もまた 競争的環境と再編の風にさらされている されど地方国立大学には貧しくとも 知的資源の宝庫でもある

教育・研究・地域連携 問われているのはその質とベクトルだ センターは その価値を受発信する



大学の最前線！

心のこもった学内外のメッセージに励まされ 地域・自治体をはじめ よき人々に教えられ  
ゆるぎないミッションとしなやかなネットワークで 地域に支えられ 地域を支える 大学をめざし  
たい

生涯学習は 持続発展可能な世界を創るキーワード 大学の生涯学習化 生涯学習の大学化をもやい  
なおす拠点として

「まちの中の大学」から 教職協働のハーモニーで 初心・原点に立ち返り 新たな 10 年へ 挑戦を  
続けていきます

- ③ センターの設置理念とその施設は、化石の遺産ではない。「あったことをなかったことにはできない」のである。「地域を支え、地域に支えられる大学」とは、大学のための地域ではない。地域のための大学でなければならない。センターのめざした使命は不可欠であり永遠である。
- ④ あがなう風や新しい芽は、蒲公英の胞子を飛ばすだろうか。地域連携・生涯学習の担当セクションで蠢く新たなチャレンジに一抹の希望を寄せてみたい。めざす道は不変である。

## 時代を先取りした和歌山大学の地域連携

第三代センター長

北海道科学大学全学共通教育部教授

出口 寿 久

山本健慈先生、堀内秀雄先生の後を受け、センター長を拝命したのは2011年4月であった。私立大学の非常勤講師の経験しかなかった私がいきなりセンター長を命ぜられ、身が引き締まる思いで、辞令交付を受けたことを思い出す。「生涯学習教育研究センター」は、3か月後の7月に「地域連携・生涯学習センター」と名称変更し、その役割の一つに「地域連携」が大きく位置付けられ、それをどう形作っていくかが私の大きなミッションとなった。

就任当初から、田辺市上秋津地区で取り組まれていた「紀州熊野地域づくり学校」の経済産業省の支援を受けた人材創出移転事業に関わらせていただいた。そこで、上秋津地区で永年取り組まれてきた地域づくりについて学ぶ機会を得た。この地域づくりの活動の中で、和歌山大学が果たしてきた役割には、目を見張るものがあった。それは、2002年10月に策定された「上秋津マスタープラン21」づくりへの協働である。このプランは、上秋津地区で行われてきた地域づくりが、これまで取り組んできたとおりでよいのか、今一度原点に立ち返って考えようという出発点から住民が主体となって、和歌山大学と共同でまとめられたものである。このマスタープラン作成に当たっては、上秋津地域のイメージ等に関するアンケートとして農業経営主・農業青年・農家女性を対象に「上秋津地域農業の基本方向と活性化に関する調査」、高齢者・公民館利用者を対象とした「住民の合意形成づくりのあり方に関する調査」、小中学生を対象とした「上秋津地域小中学生アンケート調査」が行われるなど、丁寧に住民の意向を把握することに努めている。マスタープランでは、基本理念として、「暮らしを豊かにし、住み心地が良い地域を創る」、「訪れるひとびとの琴線を揺さぶる地域を創る」、「『農村と都市の結婚』による新しい魅力的な地域を創る」、そして「住民主体、『行政・大学参加』が原則の地域づくりを進める」の4つのテーマが示され、地域づくりの主体は、住民であり、住民の主体的な取り組みに行政、大学、企業、NPOなどが「参加」し、連携していくことが重要と訴え、行政への依存から脱却し、地域のことは住民が自ら考え、決めていく、そうした地域づくりを提唱している。

政府は、2014年、地方の人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保するなど、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくため、「地方創生」に取り組むこととし、「まち・ひと・しごと創生法」を制定するとともに、今後5ヵ年の施策である「まち・ひと・しごと総合戦略」を示した。これに基づき、各都道府県、市町村においては、それぞれ版の総合戦略が策定され、各種施策が展開されている。「まち・ひと・しごと総合戦略」に盛り込まれている施策の一つに「地域運営組織」（2016年に施策として位置づけられた）の設置がある。これは、人口減少や加入率の低下による構成員の減少、市町村合併に伴う地域課題の多様化・広域化等を背景に、自治会・町

内会が従来の役割を果たすことが困難となる地域が出てきてきたことから、自治会・町内会の機能を補完しつつ、市民団体やNPO法人等との協働により、「地域経営型」自治を目指すものである。「地域運営組織」は、2018年度総務省の調査によると711自治体で4,787の団体がすでに設置されている。前述の「まち・ひと・しごと総合戦略」では、5,000団体の形成を目指すこととしている。「地域運営組織」は、地域住民自らによる主体的な地域の将来プランを策定し、地域課題の解決に向けた多機能型の取組を持続的に行う組織と位置付けられ、組織形成のプロセスとして、

- ① 地区のことを話し合う場づくり
- ② 地域の実態把握
- ③ 実態把握のための調査の実施
- ④ まちづくりプラン・活動計画の策定
- ⑤ 地域運営組織の設立
- ⑥ 活動のための人材・拠点の確保、活動計画の実践

が示されている。

上秋津で取り組まれてきた地域づくりは、「地域運営組織」そのものであり、上述の組織形成のプロセスは、まさに「マスタープラン」づくりとまったく合致するものである。国が進める地域づくりを14年もはやく先取りした形で取り組んだことになる。和歌山大学が協働で取り組んだ上秋津のマスタープランづくりは、全国の地域づくりの原点となったと言えるだろう。

大学の役割として、地域連携の重要性が謳われてから久しいが、多くの大学においてその在り方を今も模索し続けている。これからの大学の地域連携のポイントは、各自治体の喫緊の課題である地域活性化にどう関わっていくかではないだろうか。地域が疲弊しているのは大学の発展は考えられない。教員や学生が地域づくりに積極的に関り、住民とともに地域の未来について活発な議論を展開し、支え合う活動に多くの人たちを巻き込むことが重要である。和歌山大学の地域連携は、そのモデルであり、時代を先取りしていたものと思われる。

私が和歌山大学でお世話になったのは2年9か月とわずかな期間であった。この間、冒頭のミッションを明らかにできたかと問われるといささか自信がない。自分なりに県内自治体との連携に積極的に取り組んだものの、短い期間では成果を見るには至らなかった。結果として、それまでのセンターの事業等を継続したに過ぎず、つなぎ役に留まったのではと反省している。ただ、私にとっては何事にも代えがたい経験を数々させていただいた。文科省勤務時は、地域の現状を知っているものと思っていたが、和歌山勤務で社会教育の現場に関わらせていただくことによって、それまでいかに机上の空論を展開していたかということに気づかせていただいた。これがその後の私の文科省での施策立案に大きな影響を与えたのは間違いない。私は、2018年度から縁あって再び大学教員として勤務しており、主に地域運営組織や小さな拠点と公民館の関係性について研究を進めている。これも和歌山大学で経験させていただいたからこそその研究テーマであって、今後支え合う地域づくりに一役を担うことができると考えている。

改めて、当時お世話になった皆様方に感謝し、お礼申し上げますとともに、大学の地域連携の先頭を走ってきた和歌山大学の今後の益々の発展を祈念するものである。

## 大学生涯学習機関の地域連携モデルとしての「センター」

第四代センター長  
地域活性化総合センター・教授  
村 田 和 子

センター発足後の20年は、国立大学改革プランが進められるなかで、大学の生涯学習センターの在り方、位置づけが大きく変化した歳月であった。省令施設として1991年に宇都宮大学で「生涯学習教育研究センター」（以下、センター）が設置されて以降、1998年に本学は全国国立大学17番目のセンターとして設置された。近年の国立大学改革は、3つの機能別分化や「ミッションの再定義」という高等教育政策を背景に、センターの再編成も進んでいる。さらに、国立大の87大学中55大学が、地域貢献型大学を「選択」し、同時に全国のセンターも、地域を冠したセンターの再位置づけが顕著であり、本学も例外ではない。

本学センターが恒常的な組織化に寄与し、後に、事務局長として貢献した「全国国立大学生涯学習系センター研究協議会」では、2018年9月『協議会40周年史』が編纂された。私も理事の一人として編纂に携わり、作業行程から多くの示唆を得た。その一端を記せば、各センターに共通しているのは「大学の生涯学習の在り方を内省的に問い、そのあり方が研究され、実践されてきているという事実である。さらに、学内外の調整窓口機能を担う仕事の仕方や意思決定の仕組みが異なる教員と職員が両者の関係を組み合わせ、活かしかうことや自治体、NPO等の市民との学び合いを通じた地域連携の経験において蓄積と連携のノウハウを有してきており、これらは大学にとって貴重な資産となる」ということであった。そこで、本学センターがいかなる特徴を有したのかを検証することで、本学及び全国のセンターの今後の在り方に貢献することができればと考える。

私は、2008年に和歌山大学生涯学習教育研究センターに准教授として着任した。研究業績及び社会教育主事の経験を有するものを研究職として採用したこと自体が、当時の「センター」のコンセプトを明確に表すものであった。折しもセンター10年という節目の年であり、山本健慈先生からは、「自身が、センター10年史を学びなさい」と激励され、日本社会教育学会の開催校としての受け入れにあたって、開催校として企画運営した「和歌山大学生涯学習センター10周年」のシナリオ作成、(のちに、堀内秀雄センター長の下で、DVD化)作業を通じて、本センターが果たしてきた3つのミッション、5つの役割とその内実を知ることとなった。

本学センターは、1998年の開設当初から、大学の一方的な知の伝授といった「公開講座」の実施に留まらず、地域の核となる高等教育としての社会的責任の果たし方を探究し、実践してきた。これは、日本社会は、地域産業、教育等あらゆる領域における「再生」「再建」を必須としており、大学の生涯学習は、「再生」「再建」の主体形成への貢献であり、そのための生涯学習の内容・方法の開発と実施を探究することに主眼をおいてきた。教育学によって立つ生涯学習理解といえ、生涯学習を母体とした地域連携センターとしての機能を発揮することに努めてきたのである。これは、全国センターと比較しても大きな特徴といえる。

私のセンター長の経験は、2013年度からの2年間であったが、通算12年にわたり、専任教

員として、主要事業であった「土曜講座」企画・運営を始め、各種の主催、共催事業、海南市や有田市、橋本市の生涯学習推進計画策定に関わり、センターの経験知の発揮に努めた。センターのプロジェクト研究の一環であった「地域子育て支援」のテーマについては、コンソーシアム和歌山の受託研究を得ながら森下順子（現、和歌山信愛大学准教授）や、子育てサークル関係者、行政、医療関係者といった県内の支援者たちとのネットワークを構築してきた。

プロジェクトに参画した小児科医師が相互の学び合いを重ねるなかで、地域社会では「個別の専門性を超えた専門性が求められている。この気づきや専門分野を超え、親の主体性を引出す支援という学びを医療現場に持ち帰りたい」と語り、医療機関が核となって地域に参加を働きかけた「地域子育て支援研究会」が組織されていく実際は、高等教育機関が果たす役割を再認識する機会であった。後に、こうした人的つながりに支えられ、松下会館におけるセンター最後の事業となった和歌山県の受託事業「子育て支援員研修」を主管。大学の生涯学習、学び直しとして位置づけ、3年にわたって県内各地（和歌山市、田辺市、那智勝浦町）の開催によって約5,000人の「子育て支援員」を輩出した。ひとえに内外の研究者をはじめ、センターが醸成し、支えられた人的ネットワークの賜物といえる。

本センターを対象とする研究は、日本国内に留まらない。2014年度に、韓国・公州大学校師範大学ヤン・ビョンチャン教授のサバティカルに関し、センターの外国人研究員に迎えた。ヤン教授は、大学による地域貢献型生涯学習体系に関する研究を目的とし、本センターを研究対象としたのである。これが共同研究の契機となり、私自身を日韓比較研究という新たなテーマに誘い、同時に、2015年2月には部局間交流協定を締結し、今日に至る。この間、本学教育学部生の留学や公州大が連携する広域自治体である韓国・忠清南道からの平生教育士や奨学士の力量形成に資する研修を目的とした和歌山県内自治体との実践、研究交流が図られている。

一方、軌を一にして、この間の20年は、国立大学改革プランが進められるなかで、大学の生涯学習センターの在り方、位置づけが再定義されてきた。本学では、2015年春に本センターを含む全学共通センターのミッション再定義が瀧学長（当時）の下で進められた。7月のヒヤリングには、遠藤センター長、私と金子両副センター長が同席した。検討の結果、地域連携と生涯学習を切り離し、クロスカル教育機構に再位置づけされた。その後2016年2月の役員会決定を経て、2017年4月に生涯学習部門となり、2019年7月には生涯学習・リカレント推進室と目まぐるしく変わった。組織の再編成以上に大きな変化は、それまで松下会館において展開されてきた地域連携・生涯学習の機能を栄谷キャンパスに一元化し、スタッフの事務室及び専任教員（村田、西川）の研究室も栄谷に再配置された。1998年松下会館のリニューアルによって大学の生涯学習、地域連携拠点として設けられた空間は、2017年3月末をもって閉じられた。

センター長時代にあっては、和歌山市との連携推進業務をはじめ、地域連携業務が拡大した時期であった。産学連携以外の「連携」に関する業務が、地域連携を担当する部署でもあった当センターに持ち込まれることが多くなり、自身が非力であり、連携の方法論が属人的で、組織としてのノウハウも未確立であった。

こうした中で、現在まで続けられる「地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー」が企画、実行され、今日に至っている。「地域を支え、支えられる大学」にセンターの経験や資産は活かせるのか。活かすことが、次なるミッションであると思っている。

## センター長時代の思い出、そしてその後

第五代センター長  
経済学部教授  
遠 藤 史

地域連携・生涯学習センター長就任への打診を受けたのは2015年（平成27年）の初春のことだった。当時は国際教育研究センター（IER）の長を務めており、留学生の受け入れや学生の海外派遣といった仕事になじんでいたところだったし、担当科目も英語中心で、自分ではいっばしの「国際派」のつもりだったから、最初にこのお話をいただいた時には驚いた。考えてみれば、地域貢献や生涯教育といった分野で貢献してきたことも、それまでの自分のキャリア上にほとんどなかったと思う。そもそも自分のような者にできる仕事なのかどうか、困惑した気持ちになったことを覚えている。

三月末に前任の村田センター長から引き継ぎの資料をいただくと、その不安はさらに増した。そもそもこのセンターには3つのミッション（目的）があるのだと教えられる。地域の課題と大学の資源を結びつけて、市民の意欲的な地域作りを支援する。地域発展を目指す生涯学習事業をプロデュースする。社会教育・生涯学習の理論・実践に関する研究を行うという3つであった。どの一つも自分が主導できるような気がしない。しかもセンターの傘下には南紀熊野および岸和田の両サテライトがあるのだという。意外にも大組織ではないか。それに、和歌山大学のサテライトが大学の地域貢献に大きな役割を果たしてきた、いわば大学の一つの看板であることくらいは自分も知っていた。その期待に応えなければいけないと考えると、大変なことになったと冷汗をかくような思いであった。

四月になり、松下会館に置かれた高松のセンターに赴いた。事務スタッフの机がずらりと並び、外部から派遣された職員も含めて多くの人々が入り出しており、職員室のような雰囲気だった。ここに研究室を構えている村田先生、西川先生もさっそく顔を出してくださったが、センター全体が和気藹々として、活気に満ちた空間だという印象を受けた。松下会館には国際教育研究センター長の頃からたびたびお邪魔する機会があったのだが、旧高商時代からの悠然とした気が漂い、栄谷の忙しい雰囲気を忘れさせてくれるような空間だと感じた。小さな学校の校長室を思わせるセンター長室の机に座ると、開けた窓から春の風が吹きこみ、街のざわめきを運んできた。

いま僕の机の上には、その時から始まった日々の書類を綴じ込んだ分厚いファイルが載っている。ページを繰りながら思い出せば、わずか2年間の仕事ではあったが、ここから始まった仕事の分野は想像以上に多岐に渡り、様々な分野と関わりを持つことになったし、それに伴って様々な人々と交流を持つことになった。もとよりセンター全体の仕事は膨大なもので、センター内外を含めての教員・職員はもちろん、協働してくださった市民の皆様の多大なご尽力に支えられていたことは言うまでもない。その全貌を総括することはとても自分の力ではできないことから、以下ではそれらの仕事のうちから、印象に残った仕事の一端だけをいくつか書き記しておきたい。

仕事の中で特に楽しく、やりがいも感じたのは、やはり市民の皆様、学外の様々な組織の皆様との交流を伴った行事の運営であろうか。地域住民を対象とした「土曜講座」、高・大・地域連携をテーマとした「KOKÔ 塾まなびの郷」、他大学との積極的な協働を伴った「地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー（CD セミナー）」などが、特に本学に特徴的な活動として印象に残っている。もちろん自分にできたことは、これらの行事が始まる時にセンター長として挨拶を申し上げることくらいだったが、それでも行事に参加させていただき、参加した皆様とことばを交わし、熱気を実感できたことは嬉しかった。

特に印象に残っているのは、長野大学（長野県上田市）で開催された第4回の「地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー」に参加したことだ。信州は自分の出身地なのだが、それまで長野大学には縁がなく、このとき古田睦美・長野大学地域連携センター長のお話によって開学の背景を知ることができたのだった。大正年間に「上田自由大学運動」という、民の手による自発的・自治的な教育機関を作ろうとした動きがあったことを、背景の一端として紹介して下さったのである。これを聞いてから、子どもたちが地域で活動することを積極的に支援してくれた地域が、幼い頃から身の回りに存在していた記憶がよみがえった。あれが地域連携であり、生涯教育だったのだと思い返すと、生まれ故郷の小さな私塾から出発する、臼井吉見の小説『安曇野』の世界が自分につながるように感じ、地域連携や生涯学習というものが、抽象的な概念ではなく、実感を伴って想像できるようになった。

困難だったのは、センター長就任直後から開始された「学内附属機関のミッション再定義」の仕事だ。学内予算の措置が困難で、センターの整理統合を考えざるを得ない時期になっていた。センター内での意見集約、本部との意見調整といった仕事は自分の力を超えるものだったし、最終的には組織再編と栄谷移転に至った一連の出来事を思い出せば、最大限の努力を払ったとは思いますが、やはり自分の限界を実感せざるを得ない。2年間のファイルの最後の方は専ら、この件に関する本部との意見交換の、苦渋に満ちたメモで占められている。

話はここで終わらない。センター長としての任期が終わった2017年（平成29年）の春からは理事・副学長を務めることになったからである。その職務分担の一つに「地域連携」があった。今度は大学全体の経営に責任を持つ立場で、予算の逼迫を前提として、地域連携に向き合わなければならない。非力な自分に十分満足すべき結果は出せず、成果といえば、地域連携の価値を何とか当時の瀧学長に理解していただいたであろうこと、そして、サテライトを含め、センターを含む地域連携組織を「地域活性化総合センター」という大きな部局の中にまとめることができたことだろうか。いま本学の地域連携組織は更なる発展を目指し、新たな予算獲得に乗り出していると聞く。新組織での地域連携・生涯教育の発展を心から望みたい。地方に立脚する国立大学の強みの一つがそこにあることは明らかなのだから。

責任のある仕事を終えた今、僕は地域貢献の現場に帰っていく。九度山町の深い山の中、かつての小学校を改装しての「森の童話館」。九度山町の主催で、春と秋にそこで小さなコンサートを開いている。山の上まで運び上げた古いアップライト・ピアノが僕の担当で、地域の演奏家たちとの共演も含め、演奏曲目はすでに40曲を超えただろうか。こうした活動ができるようになったのも、センター長経験を通じての成長の証だと実感している。末筆ながら、未熟な自分を支え、ご協力とご理解をくださった皆様方に心から感謝申し上げます。

# 1. 沿 革





## 沿 革

1998 年 4 月 1 日 (前史)	和歌山県教育委員会より、長期社会体験研修員として 2 名が準備室に派遣
1998 年 10 月 1 日	松下会館をリニューアルして、全国の国立大学で 17 番目のセンターとして、和歌山大学生涯学習教育研究センターが設置される。
2008 年 10 月	センター設立 10 周年 日本社会教育学会開催校 設立 10 周年記念フォーラム「地域生涯学習の展開と大学の役割」を開催
2011 年 7 月 1 日	「地域連携・生涯学習センター」に名称変更
2011 年 12 月 10 日	松下会館設立 50 周年式典を実施
2012 年 11 月 30 日	まちかどサテライトは、大学事務局一元化により、事務室機能を地域連携・生涯学習センターに移転
2013 年 4 月 1 日	地域創造支援機構発足。地域連携・生涯学習センターに改組 同機構は、「センター」のほかに、サテライト（岸和田、南紀熊野）、産学連携・研究支援センターを所管
2016 年 4 月	クロスカル教育機構 地域連携・生涯学習センターに改組 同機構は、「センター」のほかに、サテライト（岸和田、南紀熊野）を所管
2017 年 3 月	松下会館から、地域連携・生涯学習機能を栄谷キャンパスに一元化
2017 年 4 月	クロスカル教育機構 生涯学習部門に改組 地域連携と切り離し、地域連携は、地域イノベーション機構に
2018 年 7 月	地域イノベーション機構 地域活性化総合センター 生涯学習・リカレント教育推進室に改組

# 運営委員会名簿

## 運営委員会委員(企画運営委員会委員)

	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
センター長	山本健慈	山本健慈	山本健慈	山本健慈	山本健慈	山本健慈	山本健慈	山本健慈	山本健慈	山本健慈
副センター長	小島敏宏	小島敏宏	小島敏宏	小島敏宏	小島敏宏	小島敏宏	小島敏宏	瀧野邦雄	瀧野邦雄	堀内秀雄
センター教員	堀内秀雄	堀内秀雄	堀内秀雄	堀内秀雄	堀内秀雄	堀内秀雄	堀内秀雄	堀内秀雄	堀内秀雄	
教育学部	永守基樹	永守基樹	永守基樹	寺川剛央	寺川剛央	寺川剛央	寺川剛央	寺川剛央	寺川剛央	寺川剛央
	本山 貢	本山 貢	本山 貢	本山 貢	本山 貢	本山 貢	本山 貢	山下晃一	山下晃一	米田頼司
経済学部	橋本卓爾	橋本卓爾	橋本卓爾	橋本卓爾	橋本卓爾	河音琢郎	河音琢郎	河音琢郎	河音琢郎	足立基浩
	大津正和	大津正和	大津正和	大津正和	大津正和	大津正和	大津正和	大津正和	大津正和	大津正和
システム工学部	床井浩平	床井浩平	床井浩平	床井浩平	床井浩平	床井浩平	床井浩平	床井浩平	床井浩平	床井浩平
	濱田學昭	濱田學昭	濱田學昭	山田宏之	山田宏之	山田宏之	山田宏之	濱田學昭	平田隆行	平田隆行
観光学部										
総務課長				室溪 浩	室溪 浩	宮地 弘	宮地 弘			
企画総務課長補佐								中北幸一	中北幸一	
センター係長								木下 博	木下 博	
理事(研究・社会連携担当)									森本吉春	
研究・社会連携推進課長										森 雅昭
研究・社会連携推進課長補佐										中筋章夫
研究・社会連携推進課										
地域創造支援マネージャー(地域創造支援機構特任教授)										
地域創造支援機構(社会連携課)										
産学連携・研究支援センター教授										
総務課地域連携室										
総務課参事役/地域連携室長										
総務課副課長(地域連携)										

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
センター長	堀内秀雄	堀内秀雄	出口寿久	出口寿久	出口寿久	村田和子	村田和子	遠藤 史	遠藤 史
副センター長	松田忠之	松田忠之	松田忠之	床井浩平	床井浩平	床井浩平		床井浩平	床井浩平
								村田和子	村田和子
								金子泰純	金子泰純
センター教員	村田和子	村田和子	村田和子	村田和子	村田和子	西川一弘	西川一弘	西川一弘	西川一弘
教育学部	寺川剛央	寺川剛央	寺川剛央	永沼理善	永沼理善	久富邦彦	久富邦彦	久富邦彦	久富邦彦
	米田頼司	菅 道子	菅 道子	原 通憲	原 通憲			片山聡一郎	山名敏之
経済学部	足立基浩	足立基浩	足立基浩	大泉英次	大泉英次	大泉英次	大西敏夫	中嶋正博	中嶋正博
	藤木剛康	佐藤 周	佐藤 周	大西敏夫	大西敏夫	藤田和史	藤田和史	藤田和史	藤田和史
システム工学部	床井浩平	保田一則	保田一則	呉 海元	呉 海元	金子泰純	金子泰純		
	宮川智子	秋元郁子	秋元郁子				床井浩平		
観光学部	米山龍介	米山龍介	米山龍介	藤田武弘	藤田武弘	上野山裕士	上野山裕士	上野山裕士	上野山裕士
総務課長									
企画総務課長補佐									
センター係長									
理事(研究・社会連携担当)									
研究・社会連携推進課長									
研究・社会連携推進課長補佐									
研究・社会連携推進課	森 雅昭	越本泰弘	山田博文						
	山田博文	山田博文							
地域創造支援マネージャー(地域創造支援機構特任教授)				湯崎真梨子	湯崎真梨子	湯崎真梨子	湯崎真梨子		
地域創造支援機構(社会連携課)				瀧口美千代	瀧口美千代	杉山哲也	杉山哲也		
				森中崇文	松尾 寛	松尾 寛	神山展任		
産学連携・研究支援センター教授								湯崎真梨子	湯崎真梨子
総務課地域連携室								西川博紀	
								森本充昭	
総務課参事役/地域連携室長									山畑一男
総務課副課長(地域連携)									西川博紀

# 和歌山大学生涯学習教育研究センター設置 組織整備・人的体制の整備 事業に関わる基本理念

センター長 山 本 健 慈

センター年報・第4号 2005（平成17）年9月発行より

## 1. 生涯学習教育研究センターの設置に至るまで

本学は1987年、市街地の西高松団地（本部・経済学部）、真砂団地（教育学部・附属小学校）から現在の栄谷団地への移転統合が完了して以来、松下会館を含む西高松団地の有効利用構想の立案が求められてきた。

しかし、この時期の本学にとっての最大の課題は、第3学部・理工系学部の設置であり、それ以外の課題が具体化される機運はなかった。しかし、90年代に入り、理工系学部の見通しが生まれ、設置準備室の開設等が進む中で、93年12月、評議会は、西高松団地利用計画検討委員会を設置し、95年3月に「和歌山大学の地域及び国際交流のための施設」の設置構想をまとめた。その基本的機能は、①知的情報・資源の伝達・継承活動、②文化・芸術活動、③物的な学術資源の陳列・展示活動、④古文書・公文書、記念品等の収蔵・整理活動、⑤その他（留学生関係の展示など）である。この施設を拠点として、本学に蓄積された学術研究の業績を地域社会に還元するとともに、本学を地域社会と国際社会に開かれたオープンカレッジとして展開しようとする構想であった。

95年10月システム工学部設置後の、96年8月第13代学長に就任した直後の守屋駿二学長から、私に「生涯学習センターを設置したい。案をつくってほしい」という打診を受けた。

私は、80年代後半から教育学部の教員採用数の激減に対応する「学部整備」に関わる作業（私は「生涯学習」関連課程・コースの立案に携わった）や教育学研究科設立の作業の中心であった守屋教授と緊密に協力してきた経過もあり、私は、余り考えることもなく「わかりました。やりましょう」と応えた。

守屋学長にとっては、学長として和歌山大学の発展にとってできるだけ早く成果を出したいという思いと若干のポストの移動で、新しい事業が展開できるという判断だったと思う。

しかし、私の心中は個人にかかる負担等を予測すると複雑なものがあった。ただ学部改革等の議論の中心にいて、大学というもの、それはもちろん和歌山大学で考えた場合であるが、教育研究面でも、社会貢献という意味でも、学部を越えたメンバーが柔軟な組み合わせで動くことのできる方法を考える必要があり、遅すぎるかもしれないがそれを実現する時期ではないか、そうした課題に大学に身を置く最後の時間を費やしてもいいのではないかと思いついた。

全学委員会の作業委員会の責任者は、システム工学部教授であったが、実際上の作業は萩原均庶務課長（その後、文化庁を経て、現在鳥取大学総務部長）と私とが担い、96年度後半からはじまった文科省との折衝も原政敏事務局長（後に埼玉大学事務局長、独立法人少年自然の

家監事、現在埼玉大学理事）や萩原課長に同伴した。他方、和歌山県教育委員会は、社会教育・生涯学習担当であった小関洋治教育次長（その後、教育長）を中心に、和歌山大学の作業をバックアップしていただいた。県社会教育課では〈大学との協同による地域生涯学習の振興〉をテーマとしたプロジェクトが生まれ、私もその一員として調査研究に参加した。長崎大学、宇都宮大学、茨城大学の生涯学習教育研究センター等の調査には、和歌山大学から澤田清成庶務課長補佐（当時、現財務課長補佐）と私、県教委からは社会教育主事が参加した。こうした設立構想の立案段階からの県教委との共同作業は、設置後の人的・事業的な関係を生みだした。

学部からの定員振替を前提とした本学の生涯学習教育研究センターの設置要求については、ほとんど問題はなかったが（かつては振替1をすれば増員1で設置されていたが、本学の設置要求の頃から増員は難しく、結局、私が貼り付いていた「社会教育」と守屋教授が学長に就任して空いていたフランス語のポストをセンターに振り替えることで概算要求案はまとめられた）、そのやりとりのなかで文部省（当時）の高等教育局の担当者に「生涯学習」を理解してもらうには、いささかの困難を感じた。

問題は、組織としての設置ではなく、市街地に立地し、それも規模の大きい独立施設（移転後、事実上放置されていた松下会館を改装整備）をリニューアルして使いたいという折衝であった。当時、橋本内閣の「財政構造改革」方針による緊縮財政下であり、松下会館改装整備を求める本学の予算要求は問題外であった。文部省会計課の担当者からは「移転後もそんな財産があったのですか。国は財政危機です。その土地を売ってお金をつくってくださいよ」などと、冗談半分とはいえ厳しいやりとりのくり返しであった。

しかし、幸運なことに97年度後半より財政方針が転換され、相次ぐ補正予算の執行の中で、組織としての「生涯学習教育研究センター」の設置だけでなく松下会館のリニューアルは順次可能となった。当時の原事務局長は、本省会計課で長く腕を振るってきた人であり、上京するたびに予算を獲得してこられ、最終的には約2億円をかけた完全リニューアルが実現した。

そして、98年4月8日国会での予算成立を受けて、和歌山大学生涯学習教育研究センターは、省令施設として設置され、9月の工事完成を受けて、松下会館で事業を開始した。

すぐさま、西口知事（当時）は、「和歌山大学が郊外に移転して10数年、今また街に大学が戻って来た」（有識者による和歌山大学懇談会での発言）と、本センターへの期待を表現された。

こうした期待は市民の動きからも感じられた。立地のよさや、〈生涯学習〉という間口の広さもあって、講座等事業への参加だけでなく、生活の中で感じた疑問や不安をもつ市民や和歌山大学への様々な関心・注文のある方などの訪問を受けた。「街に大学が戻った」という実感があつた。

## 2. 組織整備・人的体制の整備

① 98年4月、専任配置された私（専任教授、センター長併任）と係長の二人と、先にふれた設置に関わる県教委との協同作業の中で、「教員の長期体験研修」の派遣機関として本センターを位置づけることになり、派遣された高校教員一人、そして、近い将来、和歌山県で初めて社会教育主事講習を実施するためのプログラム開発を協同で行う社会教育主事（松下会館に隣接した県立図書館に配属）の4人で体制を組んでスタートした。

県教委の後押しもあり、大桑教育文化振興財団等民間団体からは、「生涯学習教育研究センターの活動資金」として和歌山大学への資金提供もいただいた。

②センターの運営機関としての、3学部より二人ずつの教員からなる運営委員会は、直ちに助教授と事務補佐員（6時間勤務）の採用人事に着手した。

この二つの人事が本センターを機能させるために決定的であると私は考えていた。

生涯学習教育研究センターは、〈和歌山大学と地域・市民〉を結びつけるチャンネルであり、ここで働くスタッフは、教員であれ、事務職員であれ、このチャンネルにふさわしいフットワークとネットワークをもち、地域のさまざまな課題を鋭敏なセンサーでキャッチし、それを学内外の人的ネットワークを駆使して学習事業化する意欲と能力をもつことが必要だと考えていた。

③幸い、7月1日付けで、地域でこどもの文化活動に取り組んできた活動実績を持つ事務補佐員を採用することができた。

彼女には、「6時間勤務の事務補佐員という職責であるが、その職責に限定せず意欲と希望に応じてあらゆる仕事に参加してほしい。給与面や待遇面では十分なことはできないが、ここで働く時間があなたの人生にとって有意義なものとなるようにできるための環境を整備するから」と伝えた。

彼女は、事業を本格的に始動した2年目からさまざまな事業を担当し研究者・専門家、行政担当者との折衝を経験し、今では学内外の人々から深く信頼されている。その後、配属されてきた本学事務職員も研修員も、経験を蓄積している彼女に学びながら事業の企画、実施を担当している。

④助教授の採用については、上述の考えを教員選考基準に具体化し、アカデミックな業績とあわせて、生涯学習や地域振興に関わる調査研究、事業実施についての実績を重視することで、3学部選出の運営委員も一致した。

その結果、岸和田市企画部課長補佐であった堀内秀雄氏を採用することに決まった。

彼は、社会教育主事として地域社会教育・生涯学習の事業実施、文化ホールのプロデューサー、障害者福祉、地域振興、組織改革、政策立案等地域自治体の主要な舞台で活躍し、それを論文として学会等で報告していた。しかし、岸和田市長を支える政策スタッフの主要な一員であり、市長は彼の退職に難色を示されたが、原事務局長など大学からの懇請により、10月1日からの採用が実現した。

⑤こうして97年10月、スタッフの整備が完了した。このとき原事務局長は、センターが大学本体とは独立して対外的な折衝実務の多いことに着目され、センター係長についた、内部規定では係長であるが、対外的には「事務室長」と呼称し、補佐員も研修員も含め「事務室員」として仕事をしてはどうかと提案された。

⑥歴代の事務室長（係長）をはじめとする事務室スタッフの誠実で意欲的な仕事ぶりがわかるのは、2002年4月から土曜開館を実現することができたことである。

土曜開館は、センター発足以来の課題であったが、「国立大学で土曜を勤務日としているところはない」という、当時の庶務課長の意向で結論は先送りになっていた。しかし、事務量が増えるにしたがって、先送りではすまなくなってきた。センター長としての私は、当初「土曜

開館、日曜・月曜休館」を提案したのであるが、事務室スタッフの議論の中で、「月曜日は市民や自治体からの照会が多い。月曜休館にすると土曜開館の意味が半減する。ローテーション勤務で土曜・月曜を開館しよう」ということになった。正規の事務室スタッフは、2001年度より一人増員配置されていた。当初、センター業務に戸惑っていた若手職員が、事業に参加し市民などとの出会いを重ねる中で、土曜開館の議論に積極的に参加するようになったことはうれしいことであった。

先にも述べたように本センターでは、仕事には職責・待遇に関係なく意欲に応じて参加することを経営の基本にしてきた。土曜勤務のほかに夜間勤務も珍しくないという中で、このように意欲的で誠実に働くスタッフがいてこそ、本センターの多彩で多様なサービスが可能となってきた。

さらにいうと係長（事務室長）など事務職員等が、〈社会〉との接点で生ずる新しい経験〈利用者とのトラブル、連携する行政機関やNPO・民間団体とのトラブル、本部事務局との齟齬など〉に戸惑いながら、大学職員として〈社会〉と接する方法を開発し習得していることは注目される。くり返しになるが、フルタイム雇用ではない職員（事務補佐員）も、歴代の研修員もさまざまな事業へのコミットの中で訓練され人的ネットワークを広げ、本センターの中心的担い手となっている。

国立大学法人の未来を創造するための主題の一つは、職員層の大学運営力量の形成だといわれているが、本センターでの業務で鍛えられた力量は、未来の和歌山大学創造に貢献するものであると考えている。県教委派遣の研修員は、研修後、配属された部署（教育行政機関や学校現場）で、研修で獲得した生涯学習の観点と研究者のネットワークを生かして活躍している。

### 3. 地域・市民をエンパワメントする事業を軸に～事業に関わる基本理念

本センターでの活動は、多岐多彩なものであるので、基本的な考え方のみについて触れておきたい。

①かつて、大学評価・学位授与機構が「教育サービス面における社会貢献」（2000年度着手）について評価作業をした際、本センターの社会貢献は高く評価された（2003年3月公表）。

機構のヒアリングでは、本センターに関して多くの質問が出された。関心を持たれた評価員の視察でも同じ質問が出された。それは「なぜ、和歌山大学の生涯学習教育研究センターは多様多彩な事業が展開できているのか。システム上の特徴は何か」というものであった。

その際の私の答えは「地域には無数の課題があり、地域や市民（団体）はそれを解決するための学習を求めている。一方、和歌山大学には約300人の研究者がおり、また、背景には研究者のネットワークがある。センターの仕事は、課題、人材、費用を含めて両者の関係を探り出し、結びつけること。その関係が可能かすべてに対応している。」というものであった。

そして、それを保障する最大の鍵は、センタースタッフが「地域のさまざまな課題を鋭敏なセンサーでキャッチし、それを学内外の人的ネットワークを駆使して学習事業化する意欲と能力」を持っていること。また、〈地域・市民の意欲と大学の人材・資源を結びつけることで市民が学び意欲的な地域づくりがはじまる〉と考える和歌山大学内外の人々が本センターに結集してくれたことを強調した。

## ②定点・定時の土曜講座の実施

センターが市街地に立地する利点を生かして、定点・定時の講座を「土曜講座」という形式で行っている。これは、基本的に第1土曜日、午後2時から4時と決めている。

これは、月一度、本センターに足を向けてくれる層を確保したいということであり、また、この講座情報が発信されることを願ってのことである。

講師を引き受けてくださる教員には、「専門的な知識がなくてもよくわかり、専門的教養があっても興味が持てる」ものにしていただきたいと、講義内容・方法について厳しい注文をしている。市民向け講座においては、評価者は受講者市民であるからである。受講者からのアンケート結果は、担当教員にフィードバックするようにしている。幸い担当の教員は、綿密に準備されており、受講者からは高い評価を得ている。

99年開講以来、毎講座100人前後が受講し、その6、7割がリピーターの受講者である。学習意欲の高いシニアが中心であるが、「高大連携講座」としても位置づいており、毎年約10人の高校生が受講している。

この講座は「ニュース和歌山」社（以前はラジオ局和歌山放送との共催）との共催であり、月末の刊行の紙面に講師自身が執筆する要約が掲載されている。テーマによっては、講演内容が、毎日広告社の企画記事として毎日新聞に掲載されている。

本学教員300人余りで月一回の講座を、一定のテーマを設定しながら、毎年ラインナップすることはかなりの困難であるが、先に触れたように本学の研究者の背後に存在するネットワークを本センターのこうした事業に組み込むことも意味あることだと考えて、近年では転出した元教員、本学教員と共同研究などを行っている。また、そのテーマの最先端の研究者などにも加わっていただいている。こうした学外の研究者に和歌山の課題、本センターの事業にコミットしてもらいながら研究者ネットワークを広げることも本センターの任務だと考えている。

③地域には無数の課題があり、地域や市民（団体）は解決するための学習を求めている。

地域課題に取り組む市民・NPO・行政との協同、支援することを中心に事業編成を行ってきた。地域には無数の解決を迫られる課題があり、市民の中にも多様な学習ニーズが潜在している。本センターでは、一方的な講義スタイルになりがちな（しばしば学生教育の延長線上のような）いわゆる「公開講座」を実施していない。個別の市民の学習ニーズに応える一般教養的な内容の講座を事業化するよりも、地域課題に取り組もうとする自治体や市民事業体・NPOなどの企画提案を受けて本学の資源とを結びつけることによって、〈地域発展をめざす生涯学習〉の支援を中心に事業化している。

これらの事業のプロデュースを教員・事務室員は行っており、もちろん、ここでも学内教員、その背後にいる他大学・機関の研究者に参加いただいている。

また、本センターの研究活動は、この事業化のプロセスを中心に行っている（2001年度より「地域発展学習の内容と方法の開発セミナー」を開催）。

④地域支援の事業を先行させ、この事業に重なる形で学内の共同研究及び「地・学協同研究」の体制を整備してきた。

2000年8月には、和歌山県及び関西の生涯学習・社会教育に関わる実践者、実務者及び学内研究者が加わる「和歌山社会教育・生涯学習研究会」が発足し、本センターに事務局を置い



ている。2004 年 4 月からは、月一度定例の交流・研究サロンを開催し組織的継続的な学内共同、地・学共同の研究の前進をめざしている。

事業（学生企画の「まちづくりフォーラム」）の中から、本センターの花壇の管理を自主的に担当してくださるグループも生まれている（ライフロングガーデンの会）。

⑤今後については、以上のような運営・事業方針を点検評価しながら継続していきたいと考えているが、次の点について本センターの活動として発展させたいと考えている。

以上の報告からもわかるように、本センターの事業・研究活動には学部の枠を越え意欲的に参加してくれている教員が少なくない。また、学外の研究者及び地域・行政レベルの実践的研究者にも参加していただいている。こうした人々を、〈地域発展と生涯学習〉の中で位置づく個別プロジェクトに組織し、これまで以上の社会貢献と地域に立脚した研究成果を上げていきたいと考えている。（この項の方針の具体化として 9 月 1 日付で、本センターのもとに「宇宙教育研究ネットワークプロジェクト」が発足し、本学学生自主創造センター担当教授、教育学部助教授、システム工学部助教授が、本センターの兼任教員となり、みさと天文台職員 3 人が本センター客員助教授として配置されることになっている。）

#### 4. 大学全体における生涯学習系センターの役割～全国協議会の開催を控えて

冒頭でもふれたが本年（2005 年）11 月には、本センターが主管となって第 27 回全国国立大学生涯学習系センター研究協議会を開催する予定となっている。

国立大学法人への移行を前後して、かつて省令施設として設置された〈生涯学習教育研究センター〉も、学内組織体制の自由化に伴い、「地域連携推進センター」（岩手大学）や「国際・地域連携センター」（高知大学）と改変されるものも生まれている。一方、大学独自で「生涯学習教育研究センター」（奈良女子大学）や「生涯教育総合センター」（鳥取大学）「エクステンションセンター」（山口大学）を立ち上げたところもある。

国立大学法人への移行後、各大学とも財政効率的な運営を迫られている事情、今まで以上に社会貢献的な機能確立しようという事情が反映していると思われる。

センター協議会に加わる各センターは、これまでも〈生涯学習系センター〉としてひとくくりにはできない実態の多様性があった。全学的な学部構成・センター構成の中での位置、地域における位置、組織・事務職員組織や教員構成の特徴、事業内容など一様なものではなかった。

本学の場合のように、市街地に位置し、学内教員の共同研究・共同活動の拠点としての役割を果たし、行政・民間団体等とは独自のネットワークを築き、〈生涯学習〉という間口の広さゆえに市民からのアクセスも多い事例は多くはないであろう。和歌山では、地域生涯学習の事業提供において競合する大学や行政・民間機関が少なく、したがって地域からの信頼と期待が大きいというのも本センターの特徴といえよう。

しかし、多くの大学のセンターは、本学のような位置に必ずしもなく、また、法人移行後の新たな事情を考えれば、今後、より多様化することが考えられ、〈生涯学習系〉を名称とするセンターが少なくなることも予想される。

そうしたもとで、〈全国協議会〉を今後どのように運営していくかについての議論も必要であろう。

全国協議会は、教員だけでなく、事務系スタッフも参加し、議論・交流できる場として存在してきた。〈生涯学習〉だけでなく、〈社会・地域貢献〉を考えると、教員だけでなく事務系スタッフの機能が重要であり、これまで大学には存在しなかったプロデューサー能力を持つスタッフの養成と配置も課題である。国立大学協会も、法人化後、新たな研究・研修事業を立ち上げているが、まだ本稿が述べてきた課題に取り組むまでには至っていないことを考えれば、全国協議会が国立大学法人に、もとの新たな大学の使命を実現する交流・研修の場として機能することも考えられる。

この意味で全国協議会の場で、特殊個性的な事例であるかもしれないが、本学の実績を紹介し検討していただくことは、意味のあることであろうと考えている。

# 生涯学習センターの実績(1998年～約20年)

## 和歌山大学 地域連携・生涯学習センター — 地域を創る学びのプロデュース

### 地域連携・生涯学習センターのミッション

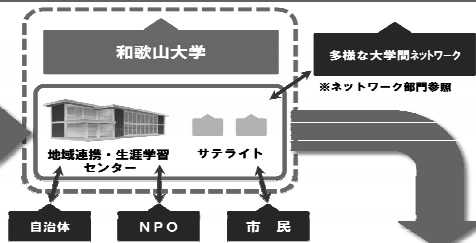
#### ● 3つの目的

- I 地域のさまざまな課題を鋭敏なセンサーでキャッチし、それを学内外のネットワークを駆使して、地域・市民の意欲と大学の人材資源を結びつけ、市民の意欲的な地域作りを応援します。
- II 地域課題の解決を目指す自治体・教育委員会・NPOなどの企画提案をうけて、本学の知的財産を活用し、地域発展を目指す生涯学習事業をプロデュースします。
- III これを通して、社会教育・生涯学習の理論と実践に関する研究及び地域生涯学習を発展させる基礎的研究を発信します。

#### ● 5つの特徴

- I 市街地に存在する「まちの中の大学」 II 学内外の人的ネットワークを駆使して学習事業化
- III 地域課題に取り組み住民参加型セミナーの実施
- IV 地域・市民の意欲と大学の人材・資源の有効化
- V 教員・教員・事務スタッフが支える多彩な事業展開

### 地域と大学 — 多彩なつながり



### 地域を創る学びにつながる多彩な事業

#### 事業部門

- ・土曜講座
- ・社会教育主事講習
- ・地域発展学習プログラムの開発と実施に関するセミナー
- ・各種刊行物の発行

#### 例 土曜講座

- ・「まちの中の大学」定時定額開講(第1土曜)
- ・大学の知的資源・研究成果を還元。190テーマの講座を提供
- ・高校生から市民まで延べ18,000名の参加者

#### 調査研究部門

- ・地域生涯学習事業開発プロジェクト
- ・生涯学習フォーラム
- ・配要・年報の発行
- ・自治体・地域との共同研究、委託研究

#### 例 自治体との共同研究、委託研究

- ・主にセンター専任教員の専門である生涯学習推進計画の策定に関する研究(田辺市・海南市・橋本市・有田市)

#### ネットワーク部門

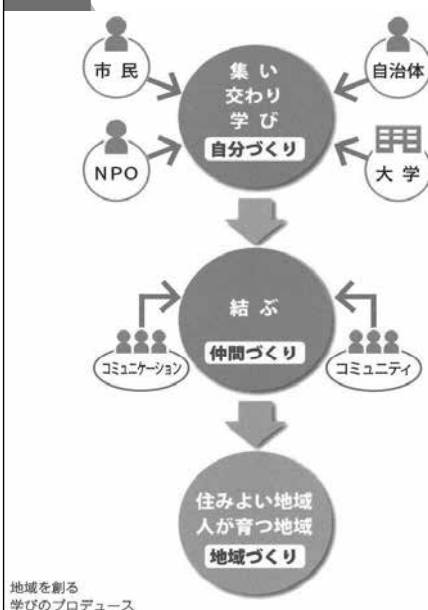
- ・まなびの郷 KOKO塾
- ・和歌山県教育委員会生涯学習課との連携事業
- ・高等教育機関コンソーシアム和歌山公開講座WG
- ・全国国立大学生生涯学習センター研究協議会
- ・韓国・公州大学校との部局間学術交流

#### 例 まなびの郷 KOKO塾

- ・紀の川市粉河地区
- ・学校再生・地域再生を目指す。粉河高校・地域・大学連携の非学歴型プログラム。センターは企画運営を担う。
- ・次世代の社会・地域を担う若者の活躍。
- ・国際フォーラムにも日本代表として招待される。

## 地域を創る学びのプロデュース

## 地域連携・生涯学習センターの概要と特徴



地域を創る  
学びのプロデュース

### 1. 社会人のリカレント教育の推進

社会人の学び直し事業のプロデュース

### 2. 社会教育・生涯学習を発展させる研究の推進

社会教育・生涯学習の理論と実践に関する研究及び地域生涯学習を発展させる基礎的研究を推進する。

### 3. 地域のプラットフォームとしての役割

「ヒトが育つ地域づくり」をキーワードにした研究は、子どもの育ちの支援・子育てに取り組む親の支援(「子育て・子育て支援」)へと広がり、近年、大学コンソーシアムによる共同研究「地域の子育て支援力の強化に関する実証的研究」等につながり、子育てNPO、行政関係機関等のエンパワーメントに寄与し、プラットフォームとしての大学センターの役割を發揮するに至っている。

### 3. 社会教育主事講習、学生を生涯学習者とした育てる

社会教育主事講習をはじめ自治体及び社会教育関係職員・NPO関係者などのリカレント教育に資するとともに地域生涯学習事業の開発を促進し、学生を生涯学習者として育てる。

### 4. 和歌山県教育委員会・自治体との連携

こうした広範な機関と協力した研究と実践をなしたのは、センタースタッフおよび意欲的に参加した本学教職員の貢献であるが、それ以上に和歌山県教育委員会から派遣された「長期社会体験研修員」の、研修終了後の学校もしくは和歌山県教育委員会生涯学習課等における「大学と地域」<高校教育内容の改革>等にかかわる意欲的な実践によるところが大きい。



和歌山大学

# 地域発展学習と地域展開の構造

## 背景

日本社会は、地域、産業、教育等あらゆる領域における「再生」「再建」を必要としている。

和歌山県では、「地方分権」改革の進行の中で、「地域再生」の懸命な努力が続けられている…

「再生」「再建」の過程における高等教育機関に求められるものは

単なる研究成果ではなく…

**「再生」「再建」の主体形成への貢献**  
(「生涯学習」の内容、方法の開発と実施)

- 和歌山大学地域連携・生涯学習センターは、この内容・方法の開発に努力してきた。
- 和歌山県の各地には、自治体・住民・学校等さまざまな主体による先進的な実績ももっている。

### 地域連携・生涯学習センターの蓄積

自治体(和歌山県・和歌山県教育委員会など)および  
地域の機関・団体との  
深い信頼関係とネットワーク

- これらのすぐれた実績を集約し総括しうる立場にある
- ネットワークの結び目にキーパーソンが存在している  
＜長期社会体験研修員OB・OG、和歌山大学社会教育主事講習修了者など＞

## 地域の核となる 高等教育機関の寄与



国立大学法人  
和歌山大学

4

# 地域を創る学びをプロデュース

地域のさまざまな課題を鋭敏なセンターでキャッチ  
学内外のネットワークを駆使して、地域・市民の意欲と大学の人的  
資源を結びつけ、市民の意欲的な地域づくりを応援



土曜講座



地域発展学習の開発と実施に関するセミナー



自治体との共同研究事業

### ◆事業部門

学習機会の提供  
指導者養成・研修  
大学の学術業績の公開  
情報発信・相談業務

### ◆調査研究部門

基礎研究・地域応用研究  
におけるプロジェクトの実施  
紀要・年報の発行

### ◆ネットワーク部門

地域生涯学習に関わる共同研究  
自治体・NPO等との事業の共同企画  
及び実施



国立大学法人  
和歌山大学



## 2. 調査・研究



# 地域生涯学習プロジェクト研究

## 衰弱する地域生涯学習・社会教育実践を大学から支える試み

— 「地域生涯学習事業開発」プロジェクトについて —

### I 本センターの事業・研究組織論の基本コンセプト

地域には住民にとって切実な課題が無数とあり、住民やNPOや行政等団体はそれを解決するための学習(「实际生活に即する学習」)を求めている。一方和歌山大学には約300人の研究者がおり、また背後には彼らのネットワークもある。センターの仕事は、課題、人材、費用を含めて両者の関係を探り出し、結びつけること。その関係が可能なすべてに対応する。

これが本センターの事業および研究組織論の基本コンセプトである。地域課題に取り組もうとする自治体や市民事業体・NPOなどの企画提案をうけて、この課題解決学習に大学(研究者)が参加し寄与する〈地域発展をめざす生涯学習〉の支援を中心に事業化し研究を積み重ねていく。この研究成果は大学に蓄積してだけでなく、地域の関係者(行政・施設・専門職・団体・住民等)にも蓄積していくことをめざしてきた。県立粉河高校校長(当時)、山口裕市氏の発意によって始まり、山口氏と堀内秀雄センター教授のプロデュースで展開したKOKO塾(高校の生徒・教員、地域住民の地域課題調査研究セミナーに多様な専門分野の大学教員・学生が参加)が、高校と地域の活性化に貢献している実践などは典型である



(センター年報3号・4号の山口論文参照。山口氏は本年4月和歌山県教育長に就任)。

これを実現するための最大の鍵は、センタースタッフ(教員も非常勤を含む職員も)が、地域の課題を捉える鋭敏なセンサーをもち、その課題を学内外の人的ネットワークを駆使して学習事業化する意欲と能力をもっていることであるが、もうひとつ重要なことは、地域の最前線で善戦する社会教育職員を含む社会教育実践者が、センターのシステムに「参加」してくれることである。

こうした地域の社会教育実践者との関係をつくるため、センターでは二つの「共同学習の場」を作っている。和歌山・大阪・京都にまたがる生涯学習・社会教育にかかわる実践者および研究者が加わる「和歌山社会教育・生涯学習研究会」は、そのひとつである。これは月一度定例の交流・研究サロン・「なまけん会」を開催し、語り合っている。

こうした日常の交流をより研究的・事業的に組織したものが、「地域生涯学習事業開発プロジェクト」である。







## II 地域生涯学習事業開発プロジェクトの課題と特徴

日本社会は、地域、産業、教育等あらゆる領域における「再生」「再建」を必要としており、高等教育機関の寄与が求められている。とくに和歌山県においては、「地方分権」改革の進行の中で、「地域再生」の懸命な努力が続けられている。

この「再生」「再建」の過程における高等教育機関に求められるものは、単なる研究成果ではなく、「再生」「再建」の主体の形成への貢献（「生涯学習」の内容、方法の開発と実施）である。本センターは、この内容・方法の開発に努力してきた。同時に、和歌山県の各地には、自治体・住民・学校等さまざまな主体による先進的に実績ももっている。

しかし近年自治体教育委員会の社会教育・生涯学習関係部門が、自治体合併などの影響を受けて不安定かつ衰弱しているなかでは、大学の役割はきわめて重要であると思われる。



幸い本センターは、和歌山県・和歌山県教育委員会をはじめとする自治体および地域の機関・団体と深い信頼関係とネットワークを確立しており、これらのすぐれた実績を集約し総括しうる立場にある。とくに和歌山県教育委員会から派遣された「長期体験研修員」は、研修終了後の学校もしくは和歌山県教育委員会生涯学習課等における〈大学と地域〉〈高校教育内容の改革〉等にかかわる意欲的な実践を作り出している。また和歌山大学社会教育主事講習修了者が存在している。

このネットワークを生かしたメンバーを構成しプロジェクトを構築したのである。

## III 地域生涯学習事業開発プロジェクトの構成

プロジェクトには、「コミュニティデザイン」部門と「コミュニケーションデザイン」のふたつの部門を置き、大学スタッフと客員スタッフが共同研究・共同事業開発を行うこととした。

### ①コミュニティデザイン部門の概要

#### (1)目的

地域づくりの主体形成にかかわる学習プログラムの開発、とくに地域づくりプロデューサーの養成にかかわるプログラムの開発を行う。

#### (2)研究・事業開発課題は次の通り

地域再生と子どもの居場所づくり  
 高大連携による学生・青年参加のまちづくり  
 図書館・文化施設とまちづくり  
 県民カレッジシステムと地域づくり学習  
 地域発展学習内容の開発



(青年、市民共同の学習内容開発)

(3)スタッフ構成

・責任者

堀内 秀雄 (センター助教授)

・副責任者

足立 基浩 (経済学部助教授、センター兼任助教授)

・客員スタッフ

客員教授

山口 裕市 (元粉河高校長)

客員教授

松岡 伸也 (元貝塚市教育委員会教育部長・和歌山大学教育学部講師 (実地非常勤))

客員助教授

音川 進 (和歌山県図書館文化情報センター専門員兼和歌山県生涯学習課専門員 社会教育主事、社会教育主事講習受講者、センター研修員)

客員助教授

村崎 隆志 (和歌山県図書館文化情報センター専門員兼和歌山県生涯学習課専門員 社会教育主事、社会教育主事講習受講者、センター研修員)

②コミュニケーションデザイン部門の概要

(1)目的

地域・市民レベルでの問題解決能力を高めるうえで、またコミュニティを構成する人間関係形成能力を高めるうえで、今日コミュニケーション回路の開発が緊急の課題となっている。これには「知識をもつ専門家」(医者、教員、保育士等専門家)と「知識をもたない非専門家」(患者、保護者等市民)という枠組みを越えた関係・コミュニケーション回路の開発および市民同士の関係・コミュニケーション回路の開発と教育が必要である。この成果は、対人サービス専門職(医療、教育、福祉等)の研修内容の開発でもあり、また今日の市民教育や高校生大学生の共通教養的教育内容開発ともなることが期待される。

(2)研究・事業開発課題は次の通り

学校・幼稚園・保育園等におけるコミュニケーション回路の開発(和歌山県教育委員会資料「本音で、トークノ」の活用と改善の研究) デスエデュケーション等を含む青年期学習内容と対話的学習方法の開発

専門職における対話的能力の開発

(3)スタッフ構成

・責任者

山本 健慈 (センター教授)

・副責任者

山下 晃一 (教育学部助教授、センター兼任助教授)

・客員スタッフ

客員教授

本田 昌子 (和歌山市子ども支援センター長、社会教育主事講習修了者、2000年度社会教育主事講習講師)

客員教授

市原 悟子 (アトム共同保育園園長、和歌山大学教育学部講師、社会教育主事講習講師)

客員助教授

熊代 卓矢 (和歌山県教育庁生涯学習局生涯学習課社会教育主事、2003年度社会教育主事講習修了者)

客員助教授

原 寿宏 (和歌山県福祉健康部社会福祉局子ども未来課主査)

客員助教授

児玉恵美子 (和歌山高校教諭、センター研修員)

Ⅳ その他の活動

プロジェクトは、サテライトをおく岸和田周辺の大阪府南部(泉南)をフィールドとする「泉南研究会」も継続的に行っている。

本年報では、プロジェクトの活動の成果の一部を掲載する。

(山本健慈)

## 地域発展学習プログラムの開発と実施に関するセミナー

回	地域	年度・日時・会場	内容・テーマ	所属	名前
1	紀北	平成14年度(2002) 平成15年 2月18日(火) 和歌山県立図書館 (和歌山市)	「大学・地域・行政との連携・協力による生涯学習社会のあり方を考える」 ・基調講演 地域発展学習プログラムの開発と学習展開の方法・長崎大学の経験から ・シンポジウム 「地域発展学習プログラムの開発と学習展開について」 事例報告 滋賀県における地域発展学習の事業展開・淡海カレッジを事例に きのくに県民カレッジ構想における地域発展学習プログラム 和歌山紀南地域における地域学習ニーズと大学の役割	長崎大学  和大学生涯教員 (コーディネーター) 滋賀大学  和歌山県・生涯学習課 和歌山大学	新田 照夫  堀内 秀雄 梅田 修  音川 進 鈴木 裕典
2	紀北	平成15年度(2003) 平成16年 2月21日(土) 和歌山大学生涯学習 教育研究センター (和歌山市)	・基調講演 地域発展学習への高等教育機関の貢献のあり方 ・シンポジウム 「大学は、地域住民の学習にいかなる貢献ができていますか。到達と課題」 事例報告 和歌山県のまちづくり・エンパワメント・カレッジの到達点 平成12年度わかやま・ヒューマン・カレッジで学び獲得した力  高校生の意欲的な学び、地域に根ざす高校づくりへの関与と貢献 コンソーシアム講座(県民カレッジ中核講座)を企画・実施した経験から	北海道大学  和大学生涯教員 (コーディネーター)  和歌山県・生涯学習課 和歌山子どもミュージアムをつくる会代表 和歌山県立粉河高校 Slow Wave代表	木村 純  堀内 秀雄  原 寿宏 野澤ゆう子  山口 裕市 向口 睦美
3	紀北	平成16年度(2004) 平成17年 2月19日(土) 粉河ふるさとセンター (紀の川市)	※KOKO塾「まなびの郷」ジョイントフォーラムとジョイントで実施 ・基調講演 地域・高校・大学の連携のなかで青年を育てる 地域を視野に置いた高校のマネジメント論 ・シンポジウム 「高校と拠点とし、大学と連携した地域発展学習と地域づくりの可能性」	和歌山県立粉河高校長  生涯教員 (コーディネーター) 大阪府立岬高校長 北海道大学 和歌山大学 和歌山大学	山口 裕市  堀内 秀雄 島崎 英夫 姉崎 洋一 山下 晃一 足立 基浩
4	紀北	平成17年度(2005) 平成18年 2月18日(土) 浪切ホール (岸和田市)	「地域づくり・人づくりと生涯学習の課題」 ・基調講演 文化のまちづくりは人づくりから ・シンポジウム 「地域づくり・人づくりと生涯学習の課題」 事例報告 高校を拠点に、大学と連携した地域づくり学習 女性の学びと地域づくり・女性センターの窓から 地域を創る学びと人のネットワーク・私ライフヒストリー	弘前市民会館長  和大学生涯教員 (コーディネーター) 和大大客員教授 岸和田市立女性センター 天神山地区市民協議 会事務局長	田中 弘子  堀内 秀雄 山口 裕市 鍋谷佐和子 昼馬 光一
5	紀南	平成18年度(2006) 平成19年 2月25日(日) 県情報交流センター Big-U(田辺市)	「人が育ち・地域を創る生涯学習」地域・住民と自治体は、大学に何を求めているか ・リレー講演 地域住民は大学に何を求めているか 自治体の生涯学習計画づくりと大学  地域に生涯学習者をつくる・大学の役割	高知四万十楽舎楽長 北翔大学・前長沼町社 会教育主事 北海道大学 田辺市教育委員会 (コメンテーター) 和大紀南サテライト (コメンテーター) 和大学生涯センター長 (コーディネーター)	山下 正寿 谷川 松芳  木村 純 小川 雅則  中筋 章夫 山本 健慈

回	地域	年度・日時・会場	内容・テーマ	所属	名前
5	紀北	平成19年 3月4日(日)  浪切ホール (岸和田市)	「地域づくり学習が、まちと人を再生する」 ・基調講演 「世のため、人のため」人を活かす企業経営 ・シンポジウム 「市民・行政・企業と大学のネットワークの可能性」	大正紡績(株)取締役  和生涯大生教員 (コーディネーター) 北海道大学 岸和田市 貝塚市教育委員会 大正紡績(株)取締役	近藤 健一  堀内 秀雄  亀野 淳 明瀬 正武 村田 和子 近藤 健一
6	紀南	平成19年度(2007) 平成20年 2月24日(日)  県情報交流センター Big-U(田辺市)	「地域と大学の協働による地域づくり～地域学習における大学の役割～」 ・基調講演 いま、生涯学習と地域づくりの未来を語る ～長野県飯田市における社会教育・公民館の到達が提起するもの～ ・シンポジウム 事例報告 田辺市生涯学習計画づくりにおける和歌山大学との連携 自治体・地域づくり現段階と地方国立大学の役割・田辺市生涯 学習計画づくりから ・総括講演 社会教育・地域づくりの未来のために	法政大学  和生涯大生センター長 (コーディネーター) 田辺市教育委員会 和生涯大生教員  文科省・生涯学習局	佐藤 一子  山本 健慈  小川 雅則 堀内 秀雄  出口 寿久
	紀北	平成20年 3月8日(土)  浪切ホール (岸和田市)	「地域と大学の協働による地域づくり～地域学習における大学の役割～」 ・シンポジウム 岸和田からのレポート  市民がいま大学に求めること 自治体行政・自治体職員の現場から大学・サテライトへの期待 岸和田市生涯学習計画の展開と大学(和歌山大学)の役割 高知から学び 高知県幡多地方の大学づくり住民運動に見る大学への期待	貝塚市教育委員会 (コーディネーター) 和岸和田サテライト 田尻町民生部・サテライ ト友の会副会長 和生涯大生教員 高知大学	村田 和子  神谷 千春 島田 牧人  堀内 秀雄 内田 純一
7	紀北	平成20年度(2008) 平成21年 3月8日(日)  浪切ホール (岸和田市)	「生涯学習機関としての地域・学校・自治体・大学の連携と可能性」 ・研究報告 鹿児島大学と地域づくり第4次垂水市総合計画策定における連携活動 ・シンポジウム 「地域発展と生涯学習・大学は地域・自治体になにができるか」 ・特別講演 生涯学習の未来と地方国立大学への期待	鹿児島大学  和生涯大生教員 (コーディネーター) 岸和田市自治基本条 例推進委員会委員 岸和田市・企画調整部 和歌山大学 元文科省・京都造形芸術大学	小栗 有子  村田 和子  次井 義泰  西川 照彦 河音 琢郎 寺脇 研
	紀南	平成21年 3月28日(土)  新宮地域職業 訓練センター (新宮市)	「生涯学習機関としての地域・学校・自治体・大学の連携と可能性」 ・特別講演 コミュニティ・スクールと地域生涯学習の可能性 ・シンポジウム 「地域と学校・大学が共に育ちあい支えあう、生涯学習のまちづくり」 事例研究	元文科省・京都造形芸術大学  和生涯大生センター長 (コーディネーター) 新宮市立光陽中学校長 新宮市立光陽中学校 学校運営協議会長 秋津コミュニティ顧問 元文科省・京都造形芸術大学 (コメンテーター)	寺脇 研  堀内 秀雄  石川八州男 田岡実千年  岸 裕司 寺脇 研

回	地域	年度・日時・会場	内容・テーマ	所属	名前
8	紀南	平成21年度(2009) 平成22年 2月20日(土)  上富田町文化会館 (西牟婁郡)	「共に育ち合う地域づくりと“つながり力”」 ・基調講演 子どもと共に育ちあう大人の専門性とは ・シンポジウム 「上富田っ子は地域で育ちあう」	和歌山大学  生涯センター研修員 (コーディネーター) 上富田町地域ふれあい ルームコーディネーター 上富田町地域共有 コーディネーター 上富田町教育委員会 和歌山大学 (コメンテーター) 和大大生涯センター長 (コメンテーター)	二宮 衆一  辻本 敦子 幾島 浩恵 松本 輝子 湯川 善典 二宮 衆一 堀内 秀雄
	紀北	平成22年 2月27日(土)  浪切ホール (岸和田市)	「共に育ち合う地域づくりと“つながり力”」 ・基調講演 共に育ちあう地域づくりと“つながり力” ・シンポジウム 「自治を築くまなびへ、地域と大学の協働とは」	法政大学  和大大生涯教員 (コーディネーター) 和太岸和田サテライト 連携協議会会長 岸和田市 法政大学 (コメンテーター)	佐藤 一子 村田 和子 金野精一郎 馬野ヤス子 佐藤 一子
9	紀南	平成22年度(2010) 平成23年 2月19日(土)  県情報交流センター Big・U(田辺市)	「地域を元気にする力」 ・基調講演 「新しい公共」と社会教育の役割・人をつなぐ、地域をつなぐ社会 教育の出番 ・シンポジウム 「『新しい公共』形式と生涯学習～地域を元気にする力～」	文科省・生涯学習政策局  和大大生涯センター長 (コーディネーター) 田辺市大塔公民館三 川分館長 南紀若者サポース テーション 新宮市社会福祉協議会 文科省・生涯学習政策局 (コメンテーター)	塩見みづ枝  出口 寿久 山本 恵美 南 芳樹 奥田 修子 塩見みづ枝
	紀北	平成23年 3月12日(土)  浪切ホール (岸和田市)	「地域を元気にする力」 ・基調講演 「新しい公共」形成と生涯学習～人が育つ地域をつくる～ ・シンポジウム 「『新しい公共』形式と生涯学習～地域を元気にする力～」	北海道大学大学院  和大大生涯教員 (コーディネーター) 岸和田市・企画調整部 貝塚市教育委員会 熊取町図書館協議会 岸和田市蛸地藏商店街役員	宮崎 隆志 村田 和子 梶野 省治 折出健二郎 森崎シズ子 泉原 一弥

回	地域	年度・日時・会場	内容・テーマ	所属	名前
10	紀北	平成23年度(2011) 平成24年 2月18日(土)  浪切ホール (岸和田市)	「新しい公共と地域の未来 自治体・地域・大学のつながり力で新たな社会の創造を」 ・基調講演 『までいの力』福島県飯館村の学習・実践に学ぶ ・シンポジウム 「自治の担い手をどう育てるか」	福島大学  和大学生涯教員 (コーディネーター) 岸和田市青少年指導員協議会広報部長 和大客員教授 海南市教育委員会 福島大学 (コメンテーター)	千葉 悦子  村田 和子 出上 実  古田 義久 堀内 信宏 千葉 悦子
	紀南	平成24年 3月10日(土)  新宮市福祉センター (新宮市)	「災害に立ち向かう地域と大学」 ・基調講演 東日本大震災と台風12号災害から学ぶ社会教育の役割 ・シンポジウム	特定非営利活動法人教育支援協会代表理事 新宮市社会福祉協議会 田辺市本宮公民館四 村川館長 特定非営利活動法人わかやまNPOセンター	吉田 博彦  奥田 修子 折戸 富子  土橋 一晃
	紀南	平成24年度(2012) 平成25年 2月9日(土)  御坊市民文化会館 (御坊市)	「コミュニティづくりにおける生涯学習と大学の役割 ～共助のための地域防災の在り方とは～」 ・基調講演 これからの防災教育 ・リレートーク 共助のためのコミュニティづくり (事例紹介・全体協議)	北海道大学名誉教授  和大学生涯教員 (コーディネーター) 美浜町長 田辺市長野町内会伏 菟野区長 前日高川町消防団長、 前日高川町入野区長 北海道大学名誉教授 (コメンテーター)	岡田 弘  出口 寿久 森下 誠史 谷口 順一 清長 皓二 岡田 弘
11	紀北	平成25年 2月16日(土)  浪切ホール (岸和田市)	「地域づくりと生涯学習 ～地域課題の解決にむきあう自治体と大学の役割～」 ・基調講演 地域創造と生涯学習 ・リレートーク (事例紹介・全体協議) 社会教育の学びから地域の課題へ 持続発展教育(ESD)の実践 ～なぜ公民館でESDか～ ソーシャル・キャピタルと公民館研究から	佐賀大学  和大学生涯教員 (コーディネーター) ボランティアグループ「サン・アーチ」 岡山市教育委員会事務局指導課課長補佐 和大学生涯教員 (コーディネーター) 佐賀大学 (コメンテーター)	上野 景三  村田 和子 大井 順子 内田 光俊 村田 和子 上野 景三

回	地域	年度・日時・会場	内容・テーマ	所属	名前
12	紀南	平成25年度(2013) 平成26年 2月15日(土) 県情報交流センター Big-U(田辺市)	「地域の担い手づくりと生涯学習 ～地域社会教育実践と社会教育委員～」 ・基調講演 社会教育委員を支える立場から見える地域社会教育実践と社会教育委員の関係性 ～恵庭市の取り組みを通じて～ ・パネルディスカッション 地域社会教育実践と社会教育委員	北海道恵庭市教育委員会社会教育主事  北海道恵庭市教育委員会社会教育主事 田辺市社会教育委員会 議長 文部科学省国立教育政策研究所フェロー 和大大生涯教員 (コーディネーター)	藤野真一郎  藤野真一郎 久保 正博 合田 隆史 西川 一弘
	紀北	平成26年 2月22日(土) 浪切ホール (岸和田市)	「生涯学習と社会参加 ～おとなが育つ地域社会の創造～」 ・基調講演 生涯学習における地域連携—おとなも次世代も育つ地域社会をめざして— ・パネルディスカッション 人が育ちあう地域社会に向けた大学の役割	法政大学  文部科学省生涯学習政策局生涯学習総括官 貝塚市立中央公民館 NPO法人紀州粉河まちづくり塾会長 和大大学院教育学研究科学生 和大大岸和田サテライト 法政大学 (コメンテーター) 和大大生涯教員 (コーディネーター)	佐藤 一子  藤野 公之 中川 知子 楠 富晴 西田 喜一 神谷 千春 佐藤 一子 村田 和子
	紀南	平成26年度(2014) 平成27年 2月21日(土) ベルヘヴェデーレ (すさみ町)	「地方消滅?」時代、若者は地方で暮らしていけるのか ～地域創造と社会教育の可能性 ・基調講演 「地方・農漁村消滅って本当ですか ～住民の力こそ「宝」、自治体職員の発奮に期待!～」 ・パネルディスカッション 「若者はこれから地域で暮らし続ける ～地域創造と社会教育の接続～」	北海道・訓子府町長  公益財団法人わかやま地域力応援基金 専務理事 公益財団法人奈良市生涯学習財団事務局 統括主任 上富田町町民創作劇実行委員会 北海道・訓子府町長 (コメンテーター) 和大大生涯教員 (コーディネーター)	菊池 一春  有井 安仁 佐野万里子 正垣 耕平 菊池 一春 西川 一弘
	紀北	平成27年 1月31日(土) 浪切ホール (岸和田市)	「人が育つ地域・地域をつくる学び」 ・基調講演 「ヒトが育つ地域・地域を創る学び」～私の研究と実践～ ・パネルディスカッション 人が育つ地域・地域をつくる学びと大学の役割	和歌山大学長 文部科学省生涯学習政策局社会教育課課長補佐 和歌山大学経済学部教授 NPO法人ここからKit代表 桃山学院大学1回生、まなびの郷KOKO塾OB 和大大生涯教員 (コーディネーター)	山本 健慈 米本 義則 足立 基浩 長谷川秀美 西端 崇典 村田 和子

各年度の記録は、『センター紀要・年報』に所収している。

## 調査・研究に関するセンターの発行物一覧

### 【年報・紀要】

- ・「平成 12 年度和歌山大学生涯学習教育研究センター年報第 1 号」  
発行：2001（平成 13）年 7 月 31 日、和歌山大学生涯学習教育研究センター
- ・「平成 13 年度和歌山大学生涯学習教育研究センター年報第 2 号」  
発行：2002（平成 14）年 3 月 31 日、和歌山大学生涯学習教育研究センター
- ・「平成 16 年度和歌山大学生涯学習教育研究センター年報第 3 号」  
発行：2005（平成 17）年 3 月 1 日、和歌山大学生涯学習教育研究センター
- ・「平成 17 年度和歌山大学生涯学習教育研究センター年報第 4 号」  
発行：2005（平成 17）年 9 月 1 日、和歌山大学生涯学習教育研究センター
- ・「平成 18 年度和歌山大学生涯学習教育研究センター年報第 5 号」  
発行：2006（平成 18）年 10 月 1 日、和歌山大学生涯学習教育研究センター
- ・「平成 19 年度和歌山大学生涯学習教育研究センター年報第 6 号」〈10 周年記念号〉  
発行：2008（平成 20）年 3 月、和歌山大学生涯学習教育研究センター
- ・「平成 20 年度和歌山大学生涯学習教育研究センター年報第 7 号」  
発行：2009（平成 21）年 3 月、和歌山大学生涯学習教育研究センター
- ・「平成 21 年度和歌山大学生涯学習教育研究センター年報第 8 号」  
発行：2010（平成 22）年 3 月、和歌山大学生涯学習教育研究センター
- ・「平成 22 年度和歌山大学生涯学習教育研究センター年報第 9 号」  
発行：2011（平成 23）年 3 月、和歌山大学生涯学習教育研究センター
- ・「平成 23 年度和歌山大学地域連携・生涯学習センター紀要・年報第 10 号」  
発行：2011（平成 23）年 12 月、和歌山大学地域連携・生涯学習センター
- ・「平成 24 年度和歌山大学地域連携・生涯学習センター紀要・年報第 11 号」  
発行：2012（平成 24）年 12 月、和歌山大学地域連携・生涯学習センター
- ・「平成 25 年度和歌山大学地域連携・生涯学習センター紀要・年報第 12 号」  
発行：2013（平成 25）年 12 月 31 日、和歌山大学地域連携・生涯学習センター
- ・「平成 26 年度和歌山大学地域連携・生涯学習センター紀要・年報第 13 号」  
発行：2014（平成 26）年 12 月 31 日、和歌山大学地域連携・生涯学習センター
- ・「平成 27 年度和歌山大学地域連携・生涯学習センター紀要・年報第 14 号」  
発行：2015（平成 27）年 12 月 31 日、和歌山大学地域連携・生涯学習センター
- ・「平成 28 年度和歌山大学地域連携・生涯学習センター紀要・年報第 15 号」  
発行：2017（平成 29）年 1 月 31 日、和歌山大学地域連携・生涯学習センター
- ・「平成 29 年度和歌山大学クロスカル教育機構生涯学習部門年報第 16 号」  
発行：2018 年（平成 30 年）3 月 31 日、和歌山大学クロスカル教育機構生涯学習部門



## 【調査・研究】

- ・村田和子・森下順子『地域の子育て支援力の形成と強化に関する検討』2010年12月、高等教育機関コンソーシアム和歌山、和歌山大学・地域連携生涯学習センター
- ・村田和子、森下順子、此松昌彦、堀内信宏『公民館によるソーシャル・キャピタルの強化に関する実証的研究報告書』2012年12月、和歌山大学地域連携・生涯学習センター
- ・村田和子編『KOKÔ 塾まなびの郷 10 周年史』2012年7月、和歌山大学地域連携・生涯学習センター
- ・村田和子、堀内信宏『地域に生きる公民館』2012年12月、和歌山大学地域連携・生涯学習センター
- ・村田和子『地域生涯学習事業開発プロジェクト 地域子育て支援研究会成果報告書』2014年2月、和歌山大学地域連携・生涯学習センター
- ・村田和子・森下順子・小笠原眞弓『「地域子育て支援」強化に向けた地域と大学の連携に関する研究』2014年3月和歌山大学地域連携・生涯学習センター
- ・山本健慈学長退官記念シンポジウム「日本の高等教育の未来を考える」2016年1月31日 和歌山大学地域連携・生涯学習センター
- ・村田和子編『高校が地域コミュニティの核に』－KOKÔ 塾まなびの郷 15 周年史－ 2017年7月

## 〔地域と大学を繋ぐコーディネーターネットワーク構築事業〕

西川一弘・後藤千晴ほか編『大学地域連携研究 vol.1（2014年2月）～ vol.5（2018年3月）』

2018年3月現在

### 3. 特色ある事業



# 教員の長期社会体験研修員

## 1. センターへの長期社会体験研修員派遣の経緯について（概要）

1988 年本学生涯学習センター（当時）の設立に対しては、和歌山県教育委員会からの期待も高く、県教育委員会からのセンター準備委員会へのメンバーの参画を得て、約 3 年にわたり先行事例の調査や、大学と県教委生涯学習の協働の在り方等の検討が重ねられた。協議のなかから構想され、実現されたのが、教員の長期社会研修員制度（和歌山県教育委員会教育センター学びの丘）を活用した、センターへの教員派遣である。現職教員に学習センターでの研修をとおして、社会教育・生涯学習及び学校と地域の連携の理論、スキルを学び、学校現場や教育行政の牽引車となっていくことを期待してのものであった。これまで、表Ⅰのと通りの派遣がなされてきた。計画的な教員研修の実績を有してきたといえる。

## 2. センターにおける研修内容

### 1) センター（高等教育機関の生涯学習）における研修の特色

- ①研究員企画と実施（自らの研究テーマを明らかにし、生涯学習事業として企画化し、運営、実施する。講師交渉なども研修の一貫して実施する）。テーマは、年間の研修の成果をふまえた研修員による自主・創造的な企画を尊重し、実現する。過去の実績は、表Ⅰのとおりである。センターでは、こうした企画を教員の指導・援助のもとに公開型の主催事業として展開してきた。
- ②上記事業の結果や研修成果を論文・研究レポートとして、取りまとめる。（論文作成により、洞察力・考察力・文章力を培う）  
とりまとめられた論文は、センター刊行物（『紀要』等）に収録するため、より高度で専門的な検討が加えられる。
- ③センター・部門は、和歌山県教育委員会をはじめ、県内自治体、NPO はもとより、幅広い人的ネットワークを有している。大学センターに身を置き、自らも幅ひろい人脈、多様なキャリア、領域に直接、間接的に関与することで、学校段階だけでない幅広い知見を得ることができ、教員として求められるコミュニケーション力やコーディネート力を養う。また、これらを復帰後の教育現場に還流させていく。さらに、研修後のキャリアを支え、「生涯学習者」としての教員、研修と現場の知的循環を支える仕組みとして、センターでは、「研修員 OB・OG 企画」という事業化支援を行っている。
- ④生涯学習にかかわる授業、演習に参加し、現役学生とともに学び、研鑽を深める。
- ⑤その他。センター、部門の一員として、各種事業における運営（司会）、記録化（ニュース発行）、その他事務的な業務を経験する。

## 特別企画「死と向き合い、生を考えるつどい」

平成 15 年度研修員であった児玉恵美子氏による「研修員 OG 企画」である、「死と向き合い、生を考える集い」は、死というものを身近に感じることで、ヒトははじめて自分の人生を大切にできるようになるをコンセプトに、第一線で活躍する医師、ジャーナリスト、がん患者当事者を講師として、毎年一回継続し、17 回開催された。

## フラワーフォーラム

平成 13 年度研修員であった村崎隆志氏による「研修員 OB 企画」である「フラワーフォーラム」は、花を育てることが、人を育てることをコンセプトに、平成 13 年度の研修終了後から現在まで毎年 1 回のフラワー・フォーラムが継続して開催されている。



## 3. 社会教育主事講習（文部科学省主催）

センターでは、平成 12 (2000) 年度より 3 年に一度文部科学省「社会教育主事講習」を開催し、和歌山県をはじめ、近畿地区における社会教育主事の養成を進めてきた。当該年度にあたる研修員には、講習の実務補助、受講とともに各回の司会進行を託してきた。これらをとおして社会教育主事の任用資格の取得につなげてきた。有資格者となった研修員が、県社会教育行政においての発令者（社会教育主事）として、社会教育行政推進の中核的な役割を果たしている事例も生まれている。また、学校現場に戻った研修員においても、学校と地域の連携推進のリーダーとしての活躍がみられる。



平成 30 年度社会教育主事講習で司会を行う柴田拓研修員

## 長期社会体験研修員派遣実績一覧

年度		代	氏名	2017年4月現在	研修員企画事業名
H10	1998	1	中野 一三	教・文化財センター	
			吉田 千秋	高・きのくに青雲高校	
H11	1999	2	音川 進	教・県立図書館	
H12	2000	3	中村 憲司	教・県立紀南図書館	
			雑賀 敏浩	教・県立近代美術館	
H13	2001	4	村崎 隆志	高・きのくに青雲高校	花づくり・学校づくり・まちづくり
H14	2002	5	若野 俊朗	高・耐久高校	
H15	2003	6	児玉恵美子	教・生涯学習課	「死と向き合い、生を考える」 ①ホスピス医からみたドラマ 「僕の生きる道」 ②在宅ホスピスの現場から「おおきに」ゆうて逝きたいな ③death educationについて考える
H16	2004	7	岩崎 隆明	和・向陽中	「夢をチカラに今を生きる」 ①若者の本音を聞こうやないか ②NPOから学ぶ活きるチカラ 夢を見つけるヒントが まっている
H17	2005	8	米田 眞由美	和・日進中	障害者の自立 ～障害者も住みよい社会をめざして～
H18	2006	9	山下 真二	和・本町小	メディアと市民の上手な付き合い方 ～今、なぜメディアリテラシーか～
H19	2007	10	仲岡 儀員	退職	書とサウンドセラピーを紡ぐつとい ～手書き文字に想いをこめて～
H20	2008	11	瀬岡 美景	和・和歌山高	幸せって何だろう ー村田早耶香の伝えたいことー
H21	2009	12	辻本 敦子	有・糸我小	共に育ちあう地域づくりと”つながり力” ～上富田っ子は地域で育ちあう
H22	2010	13	佐藤 智子	退職	「からだ」ってなに? ～からだの視点からコミュニケーションを考える～
H23	2011	14	林下 勝一	高・橋本高	高大地域連携を考える ～学校に地域の力を貸してください!～
H24	2012	15	平井 雅人	高・箕島高	現代の若者とどう向き合うべきか ～異世代の交流への提言～
H25	2013	16	栗本千香子		発達障害の理解からいじめをなくすために ～青年期に焦点をあてて～
H26	2014	17	久保田貴子	有・たちばな支援	ないものは自分でつくる。 ～地域の生活課題を解決する仕組みづくり～
H27	2015	18	中村三重子	和・紀北支援	学びたい!話したい!楽しみたい!! ～障害者の青年期教育の充実～
H28	2016				
H29	2017	19	山本 勝利	長期社会体験研修員	「現代父親考」～父親のこれまでとこれから

## 土 曜 講 座

センターが松下会館という市街地に立地する利点を生かして、定点・定時の講座を「土曜講座」という形式で行われてきた。(※ 1999 年 6 月 5 日～2015 年 3 月 5 日まで)。開催は、基本的に第一土曜日の、午後 2 時から 4 時で実施されてきた。これは、月に一度センターに足を向けてくれる層を確保したいということであり、また、この講座の情報が受講者を通じて発信されることを願ってのことである。講師は、全学の協力により設定し、時には内外のネットワークを駆使して外部から招へいた講師によって担われた。

講師を引き受けてくださる教員には「専門知識がなくてもよくわかり、専門的教養があっても興味がもてる」ものにしていただきたいと講義内容、方法についてきびしい注文をしていた。市民向け講座においては、評価者は受講者市民であるからである。受講者からのアンケート結果は、担当教員にフィードバックするようにしている。さいわい担当の教員は、綿密に準備されており、受講者からは高い評価を得ている。99 年開講以来、毎講座 100 人前後が受講し、その約 6、7 割がリピーターの受講者である。学習意欲の高いシニアが中心であるが、「高大連携講座」としても位置づいており、毎年約 10 人の高校生が受講している。この講座は「ニュース和歌山」社（以前はラジオ局和歌山放送との共催）との共催であり、月末の刊行の紙面に講師自身が執筆する要約が掲載されている。テーマによっては、毎日広告社の企画記事として毎日新聞に掲載されている。

本学教員 300 人余で月一回の講座を、一定のテーマを設定しながら、毎年ラインナップすることはかなりの困難であるが、さきにふれたように本学の研究者の背後に存在するネットワークを本センターのこうした事業に組み込むことも意味あることだと考えて、近年では転出した元教員、本学教員と共同研究を行っている。またそのテーマの最先端の研究者などにも加わっていただいている。こうした学外の研究者に和歌山の課題、本センターの事業にコミットしてもらいながら研究者ネットワークを広げることも本センターの任務だと考えている。

山本健慈「年報・第 4 号刊行にあたって」『和歌山大学生涯学習教育研究センター年報・第 4 号』和歌山大学生涯学習教育研究センター発行、平成 17 年 9 月より

1999（平成 11）年度

テーマ「21 世紀和歌山へのメッセージ」

回	期日	テーマ	講師等	受講者
1	6 月 5 日（土）	21 世紀の和歌山・和歌山大学を語ろう ・プレゼンテーション ・トーク&トーク	作家 斎藤 史子  和歌山放送社長 北野 栄三  学長 守屋 駿二	71
2	7 月 10 日（土）	和歌山発宇宙行き銀河の旅	教育学部助教授 富田 晃彦	68
3	8 月 7 日（土）	環境時代の地域活性化	システム工学部講師 神吉 紀世子	59
4	9 月 4 日（土）	企業間競争の裏舞台	経済学部助教授 吉村 典久	50
5	10 月 2 日（土）	〈健康〉の考古学	教育学部講師 片淵 美穂子	30
6	11 月 6 日（土）	目を持ったロボット	システム工学部助手 加藤 浩仁	34
7	12 月 4 日（土）	ハイテク農業最前線	システム工学部助教授 内尾 文隆	30
8	1 月 8 日（土）	「東京外国為替市場」ってどこにあるのだろうか?	経済学部助教授 松林 洋一	96
9	2 月 5 日（土）	2002 年学校改革まったなし	教育学部助教授 舩越 勝	54
10	3 月 4 日（土）	パパのおこずかい、ママの家計簿、ぼくたちの教育費	経済学部講師 小森 尚子	32

※受講者 延べ 524 名



2000（平成12）年度

テーマ「世界から見た日本&和歌山から見た世界」

回	期日	テーマ	講師等	受講者
1	4月8日（土）	ロシア ～一番近いヨーロッパ～	経済学部助教授 斎藤 久美子	171
2	5月13日（土）	インドネシア国家崩壊の危機 ～世界・アジア・日本への影響は何か～	教育学部助教授 山田 満	161
3	6月3日（土）	英国ケンブリッジに住みたい！ ～英国の住宅事情・住宅政策～	経済学部助教授 足立 基浩	164
4	7月1日（土）	コンゴ民主共和国のライフ・スタイル	経済学部助教授 クバニ・ルンビディ	146
5	8月5日（土）	遠くて近い国イラン ～日本人学校教師から見て～	付属小学校経論 山本 眞喜	164
6	9月2日（土）	ゆれる楽園ニュージーランド ～遠くて近い南半球の国～	教育学部教授 武田 勝昭	154
7	10月7日（土）	スウェーデン ～背景と社会事情～	システム工学部助教授 橋本 正人	120
8	11月4日（土）	先進国文化の未来 ～オランダに見る生涯学習の現状～	経済学部助教授 遠藤 史	105
9	12月2日（土）	21世紀世界とアメリカの進路 ～大統領選挙結果から～	経済学部教授 佐藤 信行	122
10	1月6日（土）	中国における市場か移行の経緯と展望	経済学部助教授 金澤 孝彰	107
11	2月3日（土）	南米の『独裁者』について	教育学部助教授 内田 みどり	109
12	3月3日（土）	一年間のホン（ドイツ）生活を体験して	システム工学部助教授 曾我 真人	106

※受講者 延べ1,629名

2001（平成 13）年度

テーマ 前期「20 世紀を回顧し、21 世紀を展望する…わかやまから」

後期「21 世紀、わかやまの自然環境をいかして」

回	期日	テーマ	講師等	受講者
1	4 月 7 日（土）	21 世紀の教育を考える	教育学部教授 碓井 岑夫	123
2	5 月 12 日（土）	わかやま農業の過去・現在・未来	経済学部助教授 橋本 卓爾	108
3	6 月 2 日（土）	デフレ脱却の道を探る ～経済史から見た 20 世紀と将来展望～	経済学部助教授 今井 武久	126
4	7 月 7 日（土）	スポーツは 21 世紀の文化だ!	教育学部教授 出原 泰明	109
5	8 月 4 日（土）	メディアは何を伝えたか。そして何を伝えられなかったのか	経済学部助教授 鈴木 裕範	103
6	9 月 1 日（土）	21 世紀の最先端技術 ～光メカトロニクスの世界～	システム工学部教授 森本 吉春	95
7	10 月 6 日（土）	誰にでもできる自然と共生する近自然化への対応	システム工学部助教授 中島 敦司	89
8	11 月 3 日（土）	わかやまの活断層と地層	教育学部教授 久富 邦彦	86
9	12 月 1 日（土）	わかやまに住むちょっと変わった魚たち	教育学部教授 岩田 勝哉	78
10	1 月 12 日（土）	わかやまの生き物たち ～レッドデータブックに見る絶滅と危機の現状～	教育学部教授 高須 英樹	82
11	2 月 2 日（土）	みどりを生かす街づくり	システム工学部助教授 山田 宏之	83
12	3 月 2 日（土）	木の国わかやま～森林、林業と木材	教育学部教授 池際 博行	92

※受講者 延べ 1,174 名

2002（平成 14）年度

テーマ 前期「2002 年教育改革—学校が変わる 教育が変わる」

後期「文学を通して見る世界」

回	期日	テーマ	講師等
1	4 月 6 日（土）	2002 年日本の教育改革を語る	教育実践総合センター教授 松浦 善満
2	5 月 11 日（土）	情報教育で学校が変わる	教育実践総合センター助教授 野中 陽一
3	6 月 1 日（土）	総合学習で学校が変わる	教育学部教授 川本 治雄
4	7 月 6 日（土）	今、生きるためのわざを教える教育を!	システム工学部教授 養父 志乃夫
5	8 月 3 日（土）	住民参加で学校が変わる	教育学部助教授 山下 晃一
6	9 月 7 日（土）	子どもが育ち、大人が育つ教育システムへ ～生涯学習社会への展望～	生涯学習教育研究センター教授 山本 健慈
7	10 月 5 日（土）	文学を通して学ぶ日本人のアイデンティティ	教育学部教授 榎本 正純
8	11 月 2 日（土）	「史」の伝統	教育学部教授 松村 巧
9	12 月 7 日（土）	湖水地方のトラヴェル・ライティングと自然保護意識	教育学部助教授 今村 隆男
10	1 月 11 日（土）	黒人文学とアメリカ南部文化	教育学部助教授 土井 仁
11	2 月 1 日（土）	マン家の人々	教育学部助教授 千田 まや
12	3 月 1 日（土）	文学を通して見る韓国の歴史と文化	教育学部教授 柏原 卓

※受講者 延べ 1,013 名

2003（平成 15）年度

テーマ 前期「日本経済の活路を拓く」

後期「見て聴いて広がるクリエイティブな世界」

回	期日	テーマ	講師等
1	4月5日（土）	日本経済の活路を拓く ～混迷する経済情勢を解く視点～	経済学部教授 大泉 英次
2	5月10日（土）	日本経済の再生と金融のグローバル化	経済学部教授 加藤 國彦
3	6月7日（土）	ネットワークにより変化する産業構造と今後の展望	経済学部客員教授 (株) UFJ 総合研究所研究開発本部 地域社会共創室長 徳田 裕平
4	7月5日（土）	土地神話の崩壊と都市再生プラン	経済学部教授 山田 良治
5	8月2日（土）	“ないものねだり” から“あるものさがし” の地域経済学 ～地域開発とまちづくりの新たな方法を探る～	経済学部助教授 河音 琢郎
6	9月6日（土）	少子高齢時代の社会保障を考える	経済学部助教授 金川 めぐみ
7	10月4日（土）	なんで動くの・動かすの	教育学部助教授 永沼 理善
8	11月1日（土）	絵画鑑賞の方法を考える	教育学部教授 長谷川 哲哉
9	12月6日（土）	建物を観る～エジプト：日干しレンガが語るもの	地域共同研究センター助教授 川崎 昌之
10	1月10日（土）	『鉄道謳歌』を通してみる日本の替え歌文化	教育学部助教授 嶋田 由美
11	2月7日（土）	美しい曲線とデザイン	システム工学部助教授 原田 利宣
12	3月6日（土）	アートってよくわからん～具象から抽象へ	システム工学部助手 北村 元成

※受講者 延べ1,080名

2004（平成 16）年度

テーマ 前期「南海地震とわかやまを考えてみる」

後期「高野・高野の文化遺産と民衆～世界遺産登録記念～」

回	期日	テーマ	講師等	受講者
1	4月10日（土）	来るべき南海地震にどう備えるか	独立行政法人消防研究所理事長 室崎 益輝	98
2	5月8日（土）	南海トラフ地震が起こったら和歌山にはどんな揺れが襲うのか	京都大学理事 入倉 孝次朗	160
3	6月5日（土）	和歌山平野のおいたちから地震災害を考える	和歌山大学教育学部教授 久富 邦彦	156
4	7月3日（土）	災害救援とボランティア・NPO ～現状と課題	和歌山大学経済学部教授 岩田 誠	97
5	8月7日（土）	洪水・水害・治水	和歌山大学システム工学部教授 宇民 正	118
6	9月4日（土）	防災先進「和歌山県」になるためには？	和歌山大学教育学部教授 此松 昌彦	100
7	10月2日（土）	世界遺産の新しい取り組み 文化的景観	和歌山大学システム工学部助教授 神吉 紀世子	138
8	11月6日（土）	悪党・海賊・熊野牛玉（ごおう）～中世熊野の海の道	和歌山大学教育学部教授 海津 一郎	129
9	12月4日（土）	日本の巡礼と熊野古道	和歌山大学名誉教授・帝塚山大学 教授 小山 靖憲	121
10	1月8日（土）	江戸期、きのくにの街道	和歌山大学理事 藤本 清二郎	123
11	2月5日（土）	物語の中の紀州	和歌山大学教育学部助教授 佐藤 和正	114
12	3月5日（土）	万葉の風景から見た紀伊国	近畿大学文芸学部教授 村瀬 憲夫	115

※受講者 延べ1,469名

2005（平成 17）年度

テーマ 前期「和歌山の防災～昨年の世界の災害から考える」

後期「少子高齢化時代にどう立ち向かうか」

回	期日	テーマ	講師等	受講者
1	4月9日（土）	和歌山の防災計画を考える	教育学部助教授 此松 昌彦	95
2	5月7日（土）	波のメカニズムと被害、防災対策	和歌山工業高専助教授 小池 信昭	136
3	6月4日（土）	2004 年新潟中越沖地震から和歌山の地震災害を考える	新潟大学積雪地域災害研究センター 助教授 ト部 厚志	115
4	7月2日（土）	地形と洪水～水害の多様性と総合的な防災を考える	京都大学名誉教授・ 国土問題研究会理事長 奥西 一夫	101
5	8月6日（土）	少子高齢化・人口減少社会とは	国立社会保障・ 人口問題研究所 政策研究調査官 島崎 謙治	80
6	9月3日（土）	少子高齢化時代の子育て ～子どもたちを群れの中で育てよう～	生涯学習教育研究センター長・教授 山本 健慈	96
7	10月1日（土）	少子高齢化時代の健康で豊かな生活 ～豊かな食への変身術～	教育学部教授 赤松 純子	98
8	11月12日（土）	少子高齢化時代の大学経営	和歌山大学理事 小畑 力人	84
9	12月3日（土）	少子高齢化時代の経営戦略 ～どんな製品・サービスで『儲け』るか～	経済学部助教授 吉村 典久	87
10	1月14日（土）	少子高齢化時代の人的資源管理 ～魅力ある組織をつくる～	経済学部助教授 竹林 明	73
11	2月4日（土）	少子高齢化時代の社会保障 ～介護保険、どう変わるか～	経済学部助教授 金川 めぐみ	81
12	3月4日（土）	少子高齢化時代の地域福祉 ～「おたがいさま」で共助の地域づくりを～	生涯学習教育研究センター 堀内 秀雄	89

※受講者 延べ 1,135 名

2006（平成 18）年度

テーマ 前期「世界研究探訪—私のテーマ、出会った世界—」

後期「和歌山・新・天文対話 2006」

回	期日	テーマ	講師等	受講者
1	4月8日（土）	パリについて知ること、パリを知ること ～「分析」と「直観」について考える～	教育学部助教授 小関 彩子	87
2	5月6日（土）	気候風土や文化を背景として存在する私たちの衣服 ～フィンランドでの生活から感じたこと～	教育学部助教授 今村 律子	119
3	6月3日（土）	イタリアのひとと文化財	教育学部講師 高橋 健一	122
4	7月1日（土）	日本語を学ぶ外国人たち ～オーストラリアを中心に～	国際教育研究センター長 長友 文子	106
5	8月5日（土）	イギリスにおける環境再生・管理によるまちづくり ～マンチェスターにおける環境づくりによるまちづくり～	システム工学部助教授 宮川 智子	146
6	9月2日（土）	太陽活動の変化と宇宙天気予報	東京大学大学院理学研究科付属 天文台教授 黒河 宏企	125
7	10月7日（土）	電波で見る宇宙	国立天文台特別共同利用研究員・ 和歌山大学研究支援員 佐藤 奈穂子	95
8	11月4日（土）	もしリンゴがなかったら～重力と時間の話～	教育学部教授 石塚 互	104
9	12月2日（土）	コンピュータで見る宇宙	システム工学部助教授 曾我 真人	92
10	1月13日（土）	星空カルタ大会	学生自主創造科学センター教授 尾久土 正己  みさと天文台主任研究員・ 生涯学習教育研究センター客員教授 矢動丸 泰	79
11	2月3日（土）	銀河研究の新展開	教育学部助教授 富田 晃彦	99
12	3月3日（土）	人間原理と宇宙の見方	京都大学名誉教授・ 甲南大学特別客員教授・ みさと天文台名誉台長 佐藤 文隆	103

※受講者 延べ 1,277 名

2007（平成 19）年度

テーマ 前期「和歌山の光～観光へのアプローチ～」

後期「ヒトが育つ環境づくり～コミュニケーショントラブル解決からコミュニティ形成へ」

回	期日	テーマ	講師等	受講者
1	4月7日（土）	観光復興に果たす大学の役割 ～和歌山大学の観光学部構想～	学長 小田 章  理事 小畑 力人	86
2	5月12日（土）	ビジット・ジャパン・キャンペーンの行方	（株）インターアクト・ジャパン 代表取締役 帯野 久美子	96
3	6月2日（土）	文化力と観光 ～文化は地域を再生させる～	雑誌「上方芸能」代表 経済学部観光学科客員教授 木津川 計	102
4	7月7日（土）	旅行業者のうまい使い方 ～パッケージツアーの契約～	経済学部観光学科教授 廣岡 祐一	107
5	8月4日（土）	森林レクリエーションと地域再生	経済学部観光学科准教授 大浦 由美	91
6	9月1日（土）	新たなツーリズムへのアプローチ 新たな観光へのアプローチ	長野県飯田市役所産業経済部担 当企画幹内閣府「観光カリスマ」 井上 弘司	105
7	10月6日（土）	市民に支えられる先端医療に向けて	理化学研究所・再生科学総合研究センター 副センター長 幹細胞研究グループ・グループディレクター 西川 伸一	84
8	11月10日（土）	『イチャモン』から対話へ ～学校と保護者の励まし合う関係づくり～	大阪大学大学院人間科学研究科 教授 小野田 正利	118
9	12月1日（土）	つながりを変える つながりが創る ～KOKÔ 塾『まなびの郷』の取組を中心に～	和歌山県教育庁 元県立粉河高校校長 山口 裕市	103
10	1月12日（土）	『分かり合う社会』から『説明しあう社会』へ ～演劇が育てる対話力～	劇作家、演出家・ 大阪大学コミュニケーションデザインセンター教授 平田 オリザ	115
11	2月2日（土）	こねて、ぶつけて、通い合うところ ～5歳でここまで育つコミュニケーション力～	アトム共同保育園園長・ 和歌山大学客員教授 市原 悟子	98
12	3月1日（土）	地域住民の対話と合意が『人が育つしくみ』をつくる ～これからの学校運営・教育行政のあり方～	神戸大学大学院 人間発達環境学研究科准教授 山下 晃一	107

※受講者 延べ1,212名



2008（平成 20）年度

テーマ 前期「和歌山・地域再生へ～観光振興からのアプローチ」

後期「わたしたちの生活にせまるリスク～対処方法を考えます」

回	期日	テーマ	講師等	受講者
1	4月12日（土）	観光のマネジメント ～いかに資源を活用するか～	観光学部教授 出口 竜也	76
2	5月10日（土）	顧客志向と観光復興 ～旅行者・観光客の心理から考える～	観光学部准教授 佐々木 壮太郎	76
3	6月7日（土）	『食』と『農』をめぐる問題状況と農山村地域における『着 地型観光』の可能性	観光学部教授 藤田 武弘	86
4	7月5日（土）	サービスとホスピタリティ	観光学部准教授 竹田 明弘	86
5	8月2日（土）	地域活性化のために	（財）自治総合センター理事 御園 慎一郎	67
6	9月6日（土）	観光と地域活性化	国土交通省港湾局港湾経済課長 若林 陽介	74
7	10月4日（土）	環境汚染物質の健康リスクを考える ～どのように基準値は決められるの？～	京都大学大学院工学研究科教授 内山 巖雄	68
8	11月1日（土）	不動産とリスク	（財）日本不動産研究所顧問 山本 忠	64
9	12月6日（土）	和歌山における水害リスク	国土問題研究会副理事長 宇民 正	66
10	1月10日（土）	感性が大切 ～橋本ダイオキシン対策におけるリスクコミュニケーション体験～	三菱電機（株）冷熱システム製作所 専任 岩井 敏明	66
11	2月7日（土）	震災とまちづくり・むらづくり	システム工学部助教 平田 隆行	66
12	3月7日（土）	リスクを低減する地図情報管理	システム工学部准教授 谷川 寛樹	66

※受講者 延べ 861 名

2009（平成 21）年度

テーマ 前期「世界天文年 2009 ～宇宙・解き明かすのはあなた～

後期「紀伊万葉の世界に学ぶ～[ 地域 ] に生きる万葉をめざして～

回	期日	テーマ	講師等	受講者
1	4 月 11 日（土）	世界天文年 2009 ～ガリレオから400年～	観光学部教授 尾久土 正己	135
2	5 月 2 日（土）	和歌山発 宇宙行き	戦略の大学連携支援事業担当 特任教授 秋山 演亮	128
3	6 月 6 日（土）	光と風景の惑星科学	観光学部講師 中串 孝志	140
4	7 月 4 日（土）	アジアの星伝説	かわべ天文公園研究員 古屋 昌美	128
5	8 月 8 日（土）	電波で見る我々の銀河系	本センター研究支援員 佐藤 菜穂子	147
6	9 月 5 日（土）	星の輪廻 ～個性豊かな星の一生～	かわべ天文台長 矢動丸 泰	110
7	10 月 3 日（土）	さあ、紀伊万葉の世界へ ～スライドと冊子と講話で、紀伊万葉の故地を訪ねる～	元奈良産業大学教授・ 元桐蔭高等学校長 永廣 禎夫  教育学部教授 菊川 恵三	180
8	11 月 7 日（土）	紀伊万葉の前史 ～紀ノ川筋の歴史と文化遺跡～	和歌山県文化財センター 埋蔵文化財課長 村田 弘	130
9	12 月 5 日（土）	紀伊万葉をささえた道と文化と歴史と ～南海道、熊野古道～	藤白神社宮司 吉田 昌生	121
10	1 月 9 日（土）	あさよし紀伊万葉に遊ぼう ～歌碑・植物・朗詠・染織・絵画・書など～	万葉歌碑研究家 佐々木 政一  万葉植物研究家 山本 晃  全国万葉協会役員 馬場 吉久	120
11	2 月 6 日（土）	ふるさとの再生 ～若者の定住化をめざして～グリーン・ツーリズムからの提言～	観光学部教授 藤田 武弘	95
12	3 月 6 日（土）	紀伊万葉文化の継承と定着のために ～紀伊万葉ネットワークからのメッセージ～	近畿大学文学部教授 村瀬 憲夫  紀伊万葉ネットワーク事務局長 木村 哲也	119

※受講者 延べ 1,553 名

2010（平成 22）年度

テーマ 前期「本から広がる世界」

後期「持続可能な社会をつくる」

回	期日	テーマ	講師等	受講者
1	4月10日（土）	本読む人々 ～フィンランドから学ぶ読書文化～	和歌山県教育庁学校教育局長 岸田 正幸	130
2	5月8日（土）	小説の読者	教育学部教授 佐藤 和正	113
3	6月5日（土）	図書館 ～過去、現在、そしてこれから～	和歌山県立図書館長・ 和歌山大学名誉教授 副島 昭一	116
4	7月3日（土）	映画の脚本を読む	教育学部教授 永井 邦彦	85
5	8月7日（土）	ふたつの詩	経済学部准教授 亀山 幸枝	79
6	9月4日（土）	本の死に様、人の生き様	教育学部教授 天野 雅郎	91
7	10月2日（土）	『共助』で創る福祉の街	経済学部准教授 金川 めぐみ	82
8	11月6日（土）	発達障害の理解	教育学部教授 武田 鉄郎	84
9	12月4日（土）	現代家族を生きる私達	教育学部准教授 木村 めぐみ	78
10	1月8日（土）	キャリアと資格・検定	教育学部教授 佐藤 史人	70
11	2月5日（土）	交通まちづくりの時代	経済学部准教授 辻本 勝久	88
12	3月5日（土）	環境・自然エネルギー革命	経済学部教授 中村 太和	84

※受講者 延べ 1,100 名

2011（平成 23）年度

テーマ 「新しい公共の」へのみちしるべ～共生の和歌山を創る～

回	期日	テーマ	講師等
1	4月9日（土）	食と農の再生を考える ～生産者と消費者の顔の見える関係づくり～	経済学部教授 大西 敏夫
2	5月7日（土）	「参加・協働」の森づくり	観光学部准教授 大浦 由美
3	6月4日（土）	食文化が地域を創る・和歌山食文化論	経済学部准教授 鈴木 裕範
4	7月2日（土）	「食べる」ことの基本 ～氾濫する食情報に振り回されないように～	教育学部准教授 山本 奈美
5	8月6日（土）	農村の女性起業 ～食農から地域活性化へ～	和歌山大学地域創造支援機構 特任教授 湯崎 真梨子
6	9月3日（土）	栽培して食べる ～農業大学～	和歌山大学名誉教授 小林 民憲
7	10月1日（土）	情報メディアの活用と地域づくり	教育学部准教授 豊田 充崇
8	11月5日（土）	住まいから紐解く 環境・まちづくりのデザイン	システム工学部教授 本多 友常
9	12月3日（土）	紀伊半島の景観や集落からみる地域らしさ	システム工学部准教授 宮川 智子
10	1月7日（土）	都会に払い続けるから地域は貧乏になる ～地域資源を活用した豊かな地域社会～	システム工学部教授 中島 敦司
11	2月4日（土）	地域福祉とまちづくり	システム工学部教授 足立 啓
12	3月3日（土）	ナノテクノロジーによる地域産業振興	システム工学部教授 伊東 千尋

※受講者 延べ1,000名

2012（平成 24）年度

テーマ「3.11 これからの地域・日本・世界～ひとり一人が学び・考え・行動する～」

回	期日	テーマ	講師等
1	4月7日（土）	災害から命を守る防災教育～学校と地域との協働～	教育学部教授 此松 昌彦
2	5月12日（土）	いま改めて、暮らしと環境のつながりを考える	システム工学部講師 山本 祐吾
3	6月2日（土）	3.11 が動かした心、行動	観光学部教授 加藤 久美
4	7月7日（土）	3.11 以後に見えてきたもの / 隠されていくもの	教育学部准教授 内田 みどり
5	8月4日（土）	震災後の自治体財政の役割を考える	立命館大学経済学部教授 河音 琢郎
6	9月1日（土）	津波と漁村	システム工学部准教授 平田 隆行
7	10月6日（土）	災害と情報通信	システム工学部准教授 塚田 晃司
8	11月10日（土）	津波・洪水と古文書～水軒堤防と西浜地区の江戸時代～	教育学部教授 藤本 清二郎
9	12月1日（土）	災害救と心のケアを考える	教育学部准教授 則定 百合子
10	1月12日（土）	「個」への対応～自治体の試みと課題～	観光学部准教授 澤田 知樹
11	2月2日（土）	震災時に役立つ地域コミュニティ	経済学部准教授 佐藤 周
12	3月2日（土）	これからの「絆」づくり～お互いに支え合う社会に～	文部科学省初等中等教育局 参事官付学校運営支援企画官 出口 寿久

2013（平成 25）年度

テーマ 「3.1 1 人口減少社会への挑戦」

回	期日	テーマ	講師等	受講者
1	4月6日➡ 5月25日（土）	人口減少と社会保障財政	経済学部准教授 中島 正博	49
2	5月11日（土）	人口減少社会における都市計画・まちづくりのあり方	システム工学部講師 小川 宏樹	85
3	6月1日（土）	地域で支える高齢化の生活	教育学部教授 村田 順子	102
4	7月6日（土）	高齢社会を明るくするスポーツのチカラ・可能性 ～成人・中高年のスポーツを考える～	教育学部講師 彦次 佳	95
5	8月3日（土）	人口減少社会のものづくり ～中小企業の現場から考える～	経済学部准教授 藤田 和史	81
6	9月7日（土）	過疎地域の小規模自治体の挑戦 ～地域資源を活用しながら～	和歌山大学附属図書館館長 / 特任教授 渡部 幹雄	104
7	10月5日（土）	人口減少社会と「方言」の可能性	教育学部准教授 澤村 美幸	89
8	11月2日（土）	現代社会と「障害」 ～障害児教育や障害者福祉の現状から～	教育学部准教授 古井 克憲	78
9	12月7日（土）	災害救助ロボット ～夢の実現に向けて～	システム工学部助教 徳田 献一	74
10	1月11日（土）	生活文化資源を活かした交流型まちづくり	観光学部講師 永瀬 節治	66
11	2月1日（土）	地域の「生活交通」をみんなで支え合う ～住民主導の生活交通～	和歌山大学地域連携・ 生涯学習センター講師 西川 一弘	88
12	3月1日（土）	いじめ・不登校・ひきこもりはなぜ減らないのか ～繋がりが消える社会と向きあう～	教育学部教授 松浦 善満	78

※受講者 延べ 989 名

2014（平成 26）年

テーマ 「医を多面的に考える」

回	期日	テーマ	講師等	受講者
1	4月5日（土）	医療保障をとりまく変化 ～「地域完結」は可能か～	経済学部准教授 金川 めぐみ	100
2	5月10日（土）	現代日本の若者を支える ～ひきこもり支援から見える風景～	保健センター准教授 山本 朗	108
3	6月7日（土）	医療分野における情報通信技術を用いたコミュニケーション 支援	システム工学部教授 吉野 孝	110
4	7月5日（土）	西洋医学と東洋医学の長所に基づく医療について	保健センター長 / 教授 別所 寛人	124
5	8月9日➡ 10月25日（土）	健康管理のための生体信号の取得	システム工学部講師 鈴木 新	71
6	9月6日（土）	日本人の顔面における曲線の性質分析とその形成外科手術への応用	システム工学部教授 原田 利宣	93
7	10月4日（土）	医療を支える「良い看護師」を育てるために ～看護技術の分析～	大阪府立大学大学院工科研究科 教授 真嶋 由貴恵	89
8	11月1日（土）	サービス人として経験から学ぶ ～学習しつづける職場であるために～	システム工学部准教授 松田 憲幸	77
9	12月6日（土）	人に優しい医療現実を目指す高分子素材のアクチュエータ・センサ	システム工学部助教 菊地 邦友	77
10	1月10日（土）	へき地医療や緊急医療問題の背景を考える	和歌山県医科大学救急集中治療部 教授 加藤 正哉	77
11	2月7日（土）	”医”と観光の関わりについて	観光学部准教授 竹田 明弘	74
12	3月7日（土）	「医の倫理」と医学研究の現状について	和歌山県立医科大学医学部教授 井原 義人	62

※受講者 延べ1,062名

2015（平成 27）年度

テーマ 「現代社会と人文社会科学」

回	期日	テーマ	講師等	受講者
1	4月4日（土）	和歌山の災害の歴史 ～ 災害から何を学ぶか ～	附属図書館 特任准教授 橋本 唯子	67
2	5月2日（土）	フィールドワークを通じた地域連携教育の可能性 ～ 地域からの学びと魅力 ～	教育学部特任准教授 阿部 英之助	77
3	6月6日（土）	子どもの学びと育ち ～ 乳幼児期からはじまる造形 ～	教育学部准教授 丁子 かおる	71
4	7月4日（土）	「憲法現場」の変化とその評価	経済学部教授 森口 佳樹	69
5	8月8日（土）	祭り／祭礼と無形文化財の保存と継承	紀州経済史文化史研究所 特任准教授 吉村 旭輝	58
6	9月5日（土）	子どもの貧困と学校教育（政策）の課題	教育学部准教授 越野 章史	73
7	10月3日（土）	人口減少社会の到来と統計利用	観光学部准教授 大井 達雄	70
8	11月7日（土）	現代社会に浸透する人工知能	和歌山大学学長 瀧 寛和	73
9	12月5日（土）	社会化教育と社会参画	教育学部准教授 岩野 清美	56
10	1月9日（土）	経済学と経済学者：経済学の二つの流れ	経済学部准教授 阿部 秀二郎	72
11	2月6日（土）	浮世絵版画と近代日本～近代浮世絵の「メディア性」	「教養の森」センター 准教授 菅原 真弓	60
12	3月5日（土）	企業統治・経営と社会の新たな関係	経済学部教授 吉村 典久	59

※受講者 延べ 805 名

\* 「土曜講座」のまとめの記事は講師により「ニュース和歌山」紙面に掲載された。また、センター発行の『紀要・年報』に概要がまとめられている



## 交流サロン「なまけん会」

生涯学習研究会、通称「なまけん会」は、月に一度（第2週の木曜、18時半～）の交流、研究サロンで、2004（平成16）年4月に、第一回が開催された。

地域には無数の課題があり、地域や市民（団体）は、解決するための学習を求めている。そのことの具現化のひとつとして取り組まれたものであり、定例の交流・研究サロンによって、組織的継続的な学内共同、地・学共同の前進が目指されていた。

当初は、2003（平成15）年に本学では初めての開催となった「社会教育主事講習」修了生たちの研究・交流、学び直しの間という位置づけではじめられた。しだいにこの場は公開され、講習修了者だけでなく、自治体職員、教員、NPO関係者、大学関係者、学生等、だれもが参加できる自由な空間として、毎回20名前後の方々の参加のもと、実践報告や意見交換が重ねられた。

「なまけん会」の形態は、毎回さまざまな分野で活躍する方に60分程度話題提供いただき、その後、参加者からの質疑応答ということになる。質疑応答も「ワンクエスチョン・ワンコメント」をルールとして参加者を一巡する。だが、決して型通りではない。ときには、職場や家庭生活の悩みや愚痴が吐露され、それも含めて参加者同士が聞きあい、受け止めあう。ときには、テーマをめぐる激論され、口角泡をとばす。自由に、本音で語りあうことを尊重し合う場の空気感は、非意図的であり、そこに集う人たちが、意識的に創り出していた。大学が自由な学びの公共空間をつくりだし、松下会館という立地も手伝って、仕事を終えて集いやすいということもあったようだ。

センターでの会を終えると、有志で懇親会に出かけ、それを楽しみにする参加者もあった。一日の仕事を終えて、車で一時間以上かけて駆けつける参加者もあり、自由な雰囲気を出しつつも、新たな出会いと学びを求める姿が常に漂う会であった。会には毎回センター教員も参加していたが、市民とともに学び成長しようとするスタッフの姿もあり、その成果を研究レポートとしてまとめ、全国国立大学生涯学習系センター研究協議会等で発表された。教職協働というセンターの運営の基本的な在り方は、こうした職員の自己研さんにも支えられていたのである。<sup>i</sup> 多種多様なつながりを生み出すプラットフォームでもあった。

大学が地域社会に開かれた場としての交流サロン「なまけん会」であったが、センターの業務が増大する中で、センター業務を見直しに伴い、2013（平成25）年3月、100回を節目に終了することとなった。



2010年第66回交流サロン「なまけん会」  
(2010年7月8日)

<sup>i</sup> 永沼美和「大学の新しいミッションと大学職員の役割 - センター職員9年の経験から」和歌山大学生涯学習教育研究センター年報6号、2008年3月

# なまけん会の歩み（2004 年度～ 2013 年度）

和歌山大学地域連携・生涯学習センター  
2014 年 3 月 20 日

## ■2004年度

第1回	研究会発足会	第6回	「スペース“いばしょ”」について 和歌山県文化情報センター職員 村崎隆志・野澤ゆう子・田中直子
第2回	平成17年度からの文化情報センターについて 和歌山県文化情報センター職員 音川 進・村崎隆志	第7回	和歌山県の生涯学習・社会教育行政の現状と課題 和歌山県教育委員会生涯学習課長 一山直子
第3回	「死と向き合い、生を考える」集い 和歌山県立和歌山高等学校教諭 児玉恵美子	第8回	特別企画「夢をチカラに今を生きる」 2004年度和歌山大学生涯学習教育研究センター研修員 岩崎隆明
第4回	「生涯学習フォーラム2004 in 龍神」報告会	第9回	中学生海外研修の舞台裏 ～事務局の苦悩～ 吉備町教育委員会社会教育主事 三角 治
第5回	社会教育行政におけるNPOの位置づけ(日本社会教育学会報告) 和歌山大学生涯学習教育研究センター長 山本健慈		

## ■2005年度

第10回	次世代育成支援地域行動計画の策定と生涯学習・親の育ち支援 －大阪府熊取町の事例から－ 和歌山大学生涯学習教育研究センター長 山本健慈	第15回	K高校の事例にみる生涯学習と学校改革の接点 －教師は「学ぶ」ことができるか 学校はいかに地域に結びつくか－ 和歌山大学教育学部助教授 山下晃一
第11回	和歌山インターネット市民塾について 和歌山大学経済学部助教授 佐藤 周	第16回	研修員特別企画「障害者の自立 ～障害者も住みよい社会をめざして～」 2005年度和歌山大学生涯学習教育研究センター研修員 米田真由美
第12回	家庭教育支援の手引きの作成と活用について 和歌山大学生涯学習教育研究センター長 山本健慈	第17回	学生ボランティアの育ちを見守る公民館 －講座“思いっきりあそんじゃ王”のあそびボランティア－ 貝塚市立浜手地区公民館嘱託職員 中川知子
第13回	地域での通学宿舎 ～調査活動結果より～ 和歌山県教育センター学びの丘社会教育主事 樋木芳高	第18回	悩める和歌山の子ども・親 ～子ども支援センターからの報告～ 和歌山市子ども支援センター長 本田昌子
第14回	「おどろんや2005」第2回紀州よさこい祭りの取り組み 紀州お祭りプロジェクト実行委員会副会長 内田嘉高 事務局長 上森成人	第19回	和歌山でのメディアリテラシーの挑戦と課題 メディアリテラシー研究会 真砂美香

## ■2006年度

第20回	年度初め打ち合わせ会	第26回	紀南サテライト事業と防災研究教育プロジェクトの取り組みについて 和歌山大学紀南サテライト部事務室長 中筋章夫
第21回	地域生涯学習事業開発プロジェクトについて 和歌山大学生涯学習教育研究センター長 山本健慈	第27回	第47回社会教育研究全国集会 －「阪・奈・和」集会について 和歌山大学生涯学習教育研究センター助教授 堀内秀雄
第22回	今、大学は…、激変の高等教育を読み解くために 和歌山大学理事 小畑力人	第28回	特別企画「メディアと市民の上手なつきあい方 ～今なぜメディアリテラシーか～」から 2006年度和歌山大学生涯学習教育研究センター研修員 山下真二
第23回	私の地域活動実践論 ～紀南・豊島との出会い～ わかやまNPOセンター事務局長 西川一弘	第29回	中学校区をベースとした地域コミュニティ再生の試み 京都市教育委員会首席社会教育主事 吉田義久
第24回	2006年度社会教育主事講習を振り返って 2006年度社会教育主事講習の修了生	第30回	校長室からの家庭教育・子育て支援とコミュニケーションづくり 京都市教育委員会首席社会教育主事 西澤安夫
第25回	生涯学習研究センター、オークワ研修3か月で学んだこと 和歌山大学企画総務課職員 南方伸之 和歌山大学生涯学習教育研究センター職員 嶋崎 徹		

■2007年度

第31回	教師の職能成長を促す自立的な学校経営 和歌山県立和歌山北高等学校教諭 西條哲司	第36回	今までの経験からの組織の立ち上げ、生涯学習の経験など 和歌山大学事務局長 盛本 力
第32回	私のみてきたフィンランド 湯浅町立湯浅小学校教諭 辻本敦子	第37回	補助金を活用した地域シニアアドバイザーと学生のコラボレーションによる地域の活性化 和歌山大学教務課職員 山田 純
第33回	橋本市の教育改革プラン 橋本市教育委員会学校教育課長 佐藤昌吾	第38回	日本社会教育学会研究大会準備会 和歌山大学生涯学習教育研究センター長・副学長 山本健慈
第34回	私のなりたい職員像 和歌山大学の未来! 和歌山大学生涯学習教育研究センター職員 中井邦昭	第39回	大学職員、文部科学省、自治体経験の中で感じられたそれぞれのあり方 熊取町副理事(企画部) 米本善則
第35回	学びの質の高まりをめざして ～研究授業への構想と取組～ 和歌山大学教育学部附属小学校教員 田中いづみ	第40回	出会いと縁が紡ぐ人の温もりー特別企画講座を中心にー 2007年度和歌山大学生涯学習教育研究センター研修員 仲間儀員

■2008年度

第41回	自己紹介…私がここにいるわけ 和歌山大学生涯学習教育研究センター准教授 村田和子	第46回	「死と向き合い、生を考える」集いの企画・学習課程の分析とそこにおける大学の役割(その2) 和歌山県教育委員会生涯学習課 兄玉恵美子
第42回	嘱託職員としての10年、センターの仕事から学んだこと ～大学の新しいミッションと大学職員の役割 和歌山大学生涯学習教育研究センター職員 永沼美和	第47回	観光カリスマ講座「由布院盆地のく願い>を決めるもの」 旅館亀の井別荘総支配人地域生活圏研究所代表 中谷健太郎
第43回	熱血教頭奮戦記 和歌山市立楠見西小学校教頭 芝 保弘	第48回	私も共に育っている…か?～きのくに共育コミュニティー 和歌山県教育委員会生涯学習課 松下香好
第44回	いつも明るく前向きに!ある文部科学省職員(元)は語る 和歌山大学企画総務課長 佐藤秀雄	第49回	学びヒルズに吹く風は 良い風 追い風 向かい風 ～学びねっとわーくはノッチワーク～ 和歌山県教育センター学びの丘社会教育主事 福田勝也
第45回	私の社会教育・生涯学習への想い 財団法人奈良市生涯学習財団 西部公民館 佐野万里子	第50回	文部科学省及び大学の勤務を経て学んだもの 和歌山大学入試課長 増岡芳雄

■2009年度

第51回	地域・社会に参加する大学を創る 和歌山大学教育学部教授・次期学長 山本健慈	第56回	出会いに感謝～教職生活を振り返り～ 和歌山県教育委員会生涯学習課長 東中啓吉
第52回	私の社会教育実践史 ～職員として成長した日々～ 岡山市職員 田中純子	第57回	子どもを柱とした大人たちの繋がりを ～公民館からの仕掛け～ 橋本紀見地区公民館 藤田ひとみ
第53回	アートもケアも市民知も 日本ボランティア学会@南紀熊野に向けて 財団法人たんばの家のスタッフ 北田鶴士	第58回	2009年度社会教育主事講習&近況報告会 2009年度社会教育主事講習修了生
第54回	医療者の観点から経営を学ぶー九州大学での学習体験ー 和歌山大学観光学部准教授 竹田明弘	第59回	新米事務職員は見た!?ー続・私の人生・私の課題ー 和歌山大学企画総務課職員 武内未来
第55回	笑顔と元気 麦の郷 社会福祉法人一麦会理事長 田中秀樹	第60回	「私の中の学社融合」ー先生と呼ばれるほどの馬鹿でなしー 2009年度和歌山大学生涯学習教育研究センター研修員 辻本敦子

■2010年度

第61回	社会教育と私 和歌山大学生涯学習教育研究センター長 出口寿久	第66回	ライブラリーで朝食を ～タブーを破った図書館 アレックの挑戦～ 有田川町アレック図書館長 三角 治
第62回	これからのまちづくりに必要な商店街の再生について・学生さんとの連携 紀州粉河まちづくり塾主宰 楠 富晴	第67回	子どもの発達を導く介入のあり方について ～ダイナミック・アセスメントの理論と実践～ 和歌山大学教育学部講師 平田知美
第63回	江戸の風情・佐野町場の活性化 泉州佐野にぎわい本舗理事長 寺崎重弘	第68回	移住・定住による地域再生効果 NPO法人きみの定住を支援する会会長・紀美野町セミナーハウス未来塾 平井二嗣

第64回	最近の家庭教育支援施策と我が家の子育て 和歌山大学企画総務課長 西村慎治	第69回	地域農業戦略 いずみの農業協同組合 谷口敏信
第65回	社会教育行政を担当し、他の部署で活かされていること 紀の川市危機管理防災課 東山壽彦	第70回	地域に支えられた図書館 和歌山大学附属図書館副館長 渡部幹雄

#### ■2011年度

第71回	子育て支援と私 和歌山信愛女子短大 森下順子	第76回	自分発見から進路実現 和歌山東高校 山本多華子
第72回	スポーツでの地域活性化とは 紀州レンジャーズ 木村竹志	第77回	防災ボランティアを通して見えてきたこと 学びの丘研修課指導主事 山口仁美
第73回	町役場から文科省に出向して感じたこと 有田川町税務課 山崎一宏	第78回	KOKO塾から地域共育コミュニティへ 前和歌山県教育長 山口裕市
第74回	本県における子育て支援の状況について 県教委生涯学習課長 森本修司	第79回	和歌山ラーメンという物語 和歌山大学システム工学部准教授 床井浩平
第75回	わたしの 食育考 ～食育のもつ社会的意義～ 紀の川市社会教育委員長 三國和美	第80回	東北被災地支援の中での学びと連帯を考える 法政大学 佐藤一子

#### ■2012年度

第81回	子育て支援と私 日赤和歌山医療センター小児科医師 井上美保子	第86回	ボラリスを知っていますか ボラリスセンター長 辻幸代
第82回	生物多様性とは 有田中央高校教諭 仲里長浩	第87回	地域に寄り添う社会教育実践を目指して 海南市教育委員会係長 堀内信宏
第83回	新人社会教育主事奮闘記 守口市公民館職員 播磨正弥	第88回	コミュニティたてもの 和歌山大学システム工学部准教授 平田隆行
第84回	身のまわりの有害物質 和歌山大学理事 平田建正	第89回	地域の建築遺産を掘り起こす K&Nアーキテクト 建築士 中西重裕
第85回	社会教育主事講習発表会 2012年度社会教育主事講習修了生	第90回	これからの公民館の可能性 ～公民館のソーシャルキャピタルの強化に関する実証的研究 和歌山大学地域連携・生涯学習センター准教授 村田和子 和歌山信愛女子短期大学 森下順子 海南市教育委員会 堀内信宏

#### ■2013年度

第91回	和歌山大学地域連携・生涯学習センター着任にあたって 和歌山大学地域連携・生涯学習センター 西川一弘	第96回	東京から見た和歌山の魅力再発見 和歌山県広報課PRマネージャー 日根かがり
第92回	文化情報センターの「いつやるか!今でしょ!」 和歌山県立図書館 文化情報センター長 谷口義彦	第97回	なぜ、Portlandは全米で最も暮らしやすいまちとなったか 公益財団法人わかやま地元力応援基金専務理事 有井安仁
第93回	生き抜くために、地域で共に支え合うことの大切さ わかやまNPOセンター 土橋一見	第98回	有田市公民館調査報告 ～公民館の可能性を求めて～ 和歌山大学地域連携・生涯学習センター長/教授 村田和子 有田市社会教育委員会議長 平野勝寛 有田市教育委員会生涯学習課係長・社会教育主事 森川高行
第94回	分権国家スウェーデンの地域づくり、人づくり 和歌山大学観光学部観光教育研究センター特任助手 上野山裕士	第99回	社会教育施設としての動物園を目指して ～私が動物園を好きなワケ～ 和歌山大学地域連携コーディネーター 後藤千晴
第95回	ふれあいの居場所「ほっこりさん」 NPO法人WACわかやま理事長 中村富子	第100回	100回を記念して ～なまけん会がめざしたもの～ 和歌山大学長 山本健慈

# 社会教育主事講習

## 1. 社会教育主事講習について

社会教育主事講習とは、社会教育法第9条の5の規程に基づき、社会教育主事となるべき者にその職務を遂行するに必要な専門的知識・技術を修得させ、社会教育主事となりえる資格を附与することを目的とするものである。主催は、文部科学省、実施機関は、国立大学（一部）及び国立社会教育実践センターである。本学では、1998年4月生涯学習教育研究センターの設置に伴い、かねてより社会教育主事講習の和歌山大学での実施を要望していた和歌山県教育委員会との協議を重ね、2000（平成12）年に実施に至った。

こうして2000（平成12）年に第一回を開設し、以来平成30年度現在まで、近畿地区大学の申し合わせもあり、和歌山県教育委員会の要望も受けとめて、3年に一度夏期の期間において、社会教育主事講習を受託し、開設してきた。

これまで、次のような開設の経緯、コンセプトをふまえて実施し、とくに演習プログラムにおいては、教育学部教育学教室をはじめとする学部教員をはじめ、各テーマの専門の全学からの教員の協力と共に、和歌山県教育委員会より全演習班において現役の社会教育主事を助言者として派遣いただく等のご尽力による実施体制を整えてきた。こうした人員体制と合宿演習による濃密な相互学習の展開によって、より充実した講習内容の展開が図られてきた。これまで近畿各府県から、府県及び市町村社会教育関係課・機関職員、学校教員、自治体職員等の受講者が本学に集い、2018（平成30）年（第7回）までの総数は、320人に及ぶ。

受講後、年次が経過して、職員・教員を退職している方々もおられるが、社会教育主事・関係職員、教員として講習で培った経験、スキルを生かして職業生活を継続され、その知見は行政のみならず、幅広く地域づくりの実践に生かされ、リーダーシップを発揮している。修了生の多くが異口同音に語るのは、講習によって得られた人脈とつながりであり、こうしたネットワーク、コネクションが、仕事の幅を広げたり、新たなアイデアを生み出したり、困難や課題に直面した際のよき相談相手として生かされているという。

本学では、修了生を対象とした「和歌山生涯学習・社会教育研究会」の支援、また、ゆるやかなネットワークの形成と交流、学びの場づくりとしての生涯学習研究会「なまけん会」を組織し、受講後のフォローアップ（継続学習の機会）に努めてきた。

## 2. 開設の経緯と本学における講習のコンセプト

和歌山大学における社会教育主事講習の実施は、センターにおける「悲願」（山本健慈）であり、初代センター長であった山本健慈、和歌山県教育委員会との協力、協働で講習を実現させた。その経緯は、次のとおりである。センター設置後、和歌山県教育委員会との間で近い将来において和歌山大学の社会教育主事講習の実施を見通して「社会教育主事講習の充実のために」（試案）が策定されている。

原案作成には、山本と中野一三（和歌山県教育委員会生涯学習課当時）が携わった。生涯学

習審議会答申「社会の変化に対応した今後の社会教育行政の在り方」（1998年9月）、中央教育審議会答申「今後の地方教育行政の在り方について」等の諸答申を踏まえ、これらの答申を全面的に実現するための人材養成が課題であり、かつ、これらの答申が指摘する課題に行政施策及び住民サービスの最前線で応えていくためには、それぞれの専門領域の教養と技術をふまえつつ、地域と住民の実態を深く総合的に認識し、かつ、住民と住民、行政間、住民同士の共同学習とネットワーク形成の援助者としての力量を持たなければならない。

この新たに求められる課題に対して総合的に対応しうるのが社会教育主事の専門的教養と技術であると考えられる。この意味で、従来社会教育主事の資格と能力として養成し、実績を重ねてきたものを整理したうえで、新たな必要項目を加え、内容編成を行うことが、喫緊、かつ適切な対応だと考えられる。

このため、和歌山大学の社会教育主事講習においては、社会教育主事の職務内容を

- ①「まちづくり生涯学習コーディネーター」
- ②「開かれた学校づくりコーディネーター」
- ③「地域における青少年育成活動コーディネーター」
- ④「家庭教育・子育て支援コーディネーター」
- ⑤「健康・生涯スポーツコーディネーター」

年度	期間	会場	受講者数
2000 (平成12)	7月21日(金)～8月25日(金)	和歌山大学松下会館(生涯学習教育研究センター)、紀三井寺「はやし」、セミナーハウス未来塾	62
2003 (平成15)	7月22日(火)～8月22日(金)	和歌山大学松下会館(生涯学習教育研究センター)、大泉研修所、セミナーハウス未来塾	46
2006 (平成18)	7月24日(月)～8月22日(火)	和歌山大学松下会館(生涯学習教育研究センター)、大泉研修所、セミナーハウス未来塾	51
2009 (平成21)	7月22日(水)～8月26日(水)	和歌山大学松下会館(生涯学習教育研究センター)、秋津野ガルテン、セミナーハウス未来塾	42
2012 (平成24)	7月24日(火)～8月24日(金)	和歌山大学松下会館(地域連携・生涯学習センター)、秋津野ガルテン、セミナーハウス未来塾、	35
2015 (平成27)	7月22日(水)～8月21日(金)	和歌山大学松下会館(地域連携・生涯学習センター)、秋津野ガルテン、セミナーハウス未来塾	48
2018 (平成30)	7月23日(月)～8月21日(火)	和歌山大学キャンパス内北4号館(産学連携イノベーションセンター他)、秋津野ガルテン	36

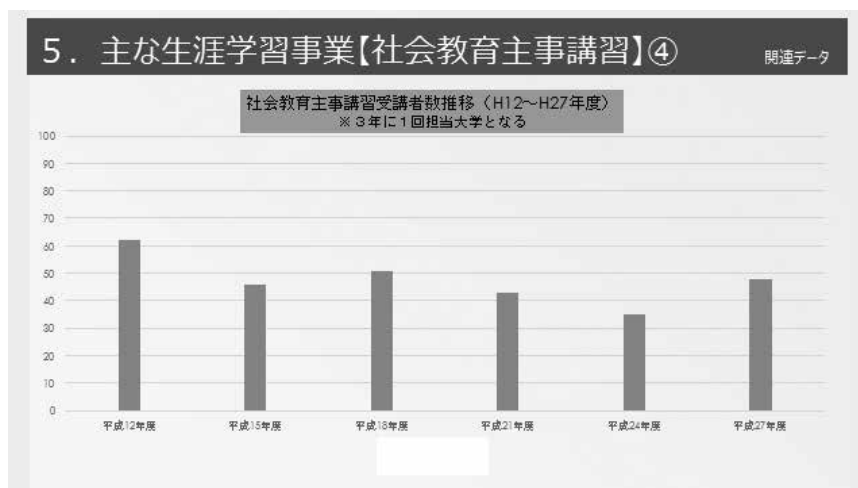
として整理し、自治体職員、学校教員、就学前教育・保育者、カウンセラー等とも互いに連携・協力し、学校や社会教育だけでなく、福祉やまちづくりも視野に入れ、地域の教育力の推進に従事できるよう新たな知識や技術を修得し、地域活性化の推進の核となりうる内容編成をすることとした。また、これらは具体的な科目内容に反映されるとともに、演習テーマのグループとしてプログラム化された。

演習テーマは、受講者の選択によるものとし、講師は、本学教育学部教育学教室教員の全面的な協力を得るとともに、和歌山県教育委員会による複数の社会教育主事の派遣を得て、宿泊研修も含めての濃密な時間を受講者とともに共有する充実した演習プログラムが展開され、受講者間の学びの深化を生みだしてきた。

#### 4. 開催要項、科目名、単位数、内容・テーマ、教育方法、配分時間数及び担当講師、運営委員会名簿

(後記に年度ごとに別掲)

#### 5. データでみる社会教育主事講習



平成 15 年度開講式あいさつ



平成 15 年度 スポーツ演習



平成 27 年度社会教育主事講習

## 平成12年度社会教育主事講習実施要項

### 1. 趣 旨

本講習は、社会教育法第9条の5の規定に基づき、社会教育主事となるべき者にその職務を遂行するに必要な専門的知識・技術を習得させ、社会教育主事となり得る資格を附与することを目的とする。

### 2. 主 催

文部省

### 3. 実施機関

和歌山大学

### 4. 講習の機関及び会場

平成12年7月21日（金）から 和歌山大学生涯学習教育研究センター  
平成12年7月22日（土）まで 〒641-0051 和歌山市西高松1丁目7-20  
TEL 073-427-4623

平成12年7月24日（月）から 和歌山大学生涯学習教育研究センター  
平成12年7月27日（木）まで 〒641-0051 和歌山市西高松1丁目7-20  
TEL 073-427-4623

平成12年7月28日（金）から 紀三井寺「はやし」  
平成12年7月29日（土）まで 〒641-0012 和歌山市紀三井寺673  
TEL 073-445-5151

平成12年7月31日（月）から 和歌山大学生涯学習教育研究センター  
平成12年8月4日（金）まで 〒641-0051 和歌山市西高松1丁目7-20  
TEL 073-427-4623

平成12年8月7日（月）から 和歌山大学生涯学習教育研究センター  
平成12年8月8日（火）まで 〒641-0051 和歌山市西高松1丁目7-20  
TEL 073-427-4623

平成12年8月9日（水）から セミナーハウス未来塾  
平成12年8月11日（金）まで 〒640-1363 和歌山県海草郡美里町田25  
TEL 073-498-0521  
（平成12年8月10日（木） みさと天文台  
〒640-1366 和歌山県海草郡美里町松ヶ峰180  
TEL 073-498-0305）

平成12年8月12日（土） 実地参観演習（各グループ毎に実施）

平成12年8月16日（水）から 和歌山大学生涯学習教育研究センター  
平成12年8月18日（金）まで 〒641-0051 和歌山市西高松1丁目7-20  
TEL 073-427-4623

平成12年8月21日（月）から 和歌山大学生涯学習教育研究センター  
平成12年8月25日（金）まで 〒641-0051 和歌山市西高松1丁目7-20  
TEL 073-427-4623



5. 開設科目及び単位

社会教育主事講習等規程第3条により4科目9単位を開設する。

6. 講習を行う科目名、単位数及び担当講師の職氏名等

別表1のとおり

7. 講習時間割

別表2のとおり

8. 単位の認定方法

各科目の出席状況、演習における発表、レポート及び報告書による総合判定

9. 受講人数

62人

10. 運営機構

府 県 名	滋 賀	京 都	大 阪	兵 庫	奈 良	和歌山	計
受講人数	0	0	5	3	0	54	62

(1) 運営委員会

講習の実施運営について、重要事項を審議決定する。

	氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
委員長	山 本 健 慈	和歌山大学生涯学習教育研究センター長	
委 員	福 島 健 郎	文部省生涯学習局社会教育課長	
委 員	牛 尾 則 文	滋賀県教育委員会生涯学習課長	
委 員	吉 岡 一 寿	京都府教育庁指導部社会教育課長	
委 員	本 田 良 博	大阪府教育委員会教育振興室地域教育振興課長	
委 員	安 積 正	兵庫県教育委員会事務局社会教育・文化財課長	
委 員	松 井 秀 史	奈良県教育委員会生涯学習課長	
委 員	濱 口 太 久 未	和歌山県教育庁生涯学習課長	
委 員	小 島 敏 宏	和歌山大学生涯学習教育研究センター副センター長	
委 員	堀 内 秀 雄	和歌山大学生涯学習教育研究センター助教授	副主任講師
委 員	本 山 貢	和歌山大学教育学部助教授	副主任講師
委 員	田 崎 哲	和歌山大学事務局長	
委 員	山之内 恵 一	和歌山大学庶務課長	
委 員	中 山 敏 泰	和歌山大学会計課長	

(2) 指導部

副主任講師 堀 内 秀 雄

〃 本 山 貢

イ 講習日程の作成

ロ 科目・指導要項の調整

ハ 合宿研修・実施参観演習に関すること

(3) 別に受講生代表若干名よりなる連絡委員会を設け、受講者と実施機関との連絡・調整をはかる。

別表1

## 講習を行う科目名、単位数、内容・テーマ、教育方法、配当時間数及び担当講師予定者職氏名

科目名	単位数	内 容 ・ テ ー マ	配当時間数	教育方法	担 当 講 師 予 定 者 の 職 氏 名
生涯学習概論	2	1.生涯学習と社会教育Ⅰ	30	3 講義	和歌山大学生涯学習教育研究センター教授 山本 健慈
		2. 〃 Ⅱ		3 〃	和歌山大学生涯学習教育研究センター教授 山本 健慈
		3.学習者の特性と学習の継続的発展		3 〃	和歌山大学生涯学習教育研究センター教授 山本 健慈
		4.世界の生涯学習		3 〃	龍谷大学教授 上杉 孝實
		5.社会教育と社会教育行政		3 〃	和歌山大学生涯学習教育研究センター助教授 堀内 秀雄
		6.社会教育の内容と方法Ⅰ		3 〃	神戸大学発達科学部助教授 松岡 廣路
		7. 〃 Ⅱ		3 〃	神戸大学発達科学部講師 津田 英二
		8.社会教育の指導者		3 〃	和歌山大学生涯学習教育研究センター助教授 堀内 秀雄
		9.社会教育施設の現状		3 〃	同志社大学文学部教授 国生 寿
		10.生涯学習政策論		3 〃	大阪外国語大学事務局長 竹下 典行
社会教育計画	2	1.地域社会と社会教育	30	3 講義	和歌山大学経済学部教授 橋本 卓爾
		2.社会教育調査とデータの活用		3 〃	大阪音楽大学音楽学部教授 大前 哲彦
		3.社会教育事業と住民の活動Ⅰ		3 〃	貝塚市教育委員会教育部社会教育課社会教育主事 村田 和子
		4. 〃 Ⅱ		3 〃	大阪府立大学社会福祉学部助教授 望月 彰
		5.社会教育と学習相談Ⅰ		3 〃	和歌山信愛女子短期大学助教授 関根 剛
		6. 〃 Ⅱ		3 〃	熊取町立図書館長 小谷 恵子
		7.社会教育施設の経営Ⅰ		3 〃	貝塚市立浜手地区公民館長 松岡 伸也
		8. 〃 Ⅱ		3 〃	和歌山大学教育学部助教授 永守 基樹
		9. 〃 Ⅲ		3 〃	美里町立みさと天文台長 尾久土正巳
		10.社会教育の評価		3 〃	和歌山大学教育学部講師 山崎由可里
社会教育演習	2	1.地域社会教育計画の企画・立案 (1)まちづくり・生涯学習	60	45 演習	(1)和歌山大学生涯学習教育研究センター助教授 堀内 秀雄 (1)和歌山大学システム工学部講師 神吉紀世子 (1)南部町教育委員会社会教育主事 山口 謙
		(2)開かれた学校づくり		45 〃	(2)和歌山大学教育学部教授 松浦 善満 (2)和歌山大学教育学部講師 山下 晃一 (2)高野口町立高野口小学校教頭 原 泰孝
		(3)地域の青少年育成と生涯学習		45 〃	(3)和歌山大学教育学部助教授 船越 勝 (3)和歌山大学教育学部講師 山崎由可里 (3)由良町教育委員会社会教育課長 岩崎 正伸
		(4)家庭教育・子育て支援		45 〃	(4)和歌山大学生涯学習教育研究センター教授 山本 健慈 (4)和歌山信愛女子短期大学助教授 関根 剛 (4)和歌山県教育委員会生涯学習課社会教育主事 西中 啓
		(5)健康・生涯スポーツ		45 〃	(5)和歌山大学教育学部助教授 本山 貢 (5)那智勝浦町教育委員会社会教育主事 吾妻 信也 (5)白浜町教育委員会社会教育主事 桑原 仁史
		2.社会体育計画の企画・立案		9 〃	和歌山大学教育学部助教授 本山 貢 高野町教育委員会社会教育主事 藪下 純男
		3.実地調査		6 〃	***
社会教育特講	3	1.情報化と社会教育	45	3 講義	和歌山大学経済学部教授 小島 敏宏
		2.人権問題と社会教育		3 〃	和歌山県立耐久高等学校長 薮添 泰弘 滋賀大学教授 梅田 修
		3.ボランティア・NPOと社会教育		3 〃	(NPO法人)子ども劇場和歌山県センター事務局長 島 久美子
		4.まちづくり・環境問題と社会教育		3 〃	和歌山大学システム工学部教授 濱田 學昭
		5.音楽文化と生涯学習		3 〃	和歌山大学教育学部教授 奥 忍
		6.高齢者と社会教育		3 〃	立命館大学産業社会学部教授 高橋 正人
		7.地域子ども組織と社会教育		3 〃	和歌山大学教育学部助教授 船越 勝
		8.開かれた学校づくり		3 〃	和歌山大学教育学部教授 松浦 善満
		9.文化財の保護と社会教育		3 〃	和歌山大学教育学部教授 藤本清二郎
		10.女性問題と社会教育		3 〃	和歌山県女性センターセンター長 宮崎 恭子
		11.子育て最前線事情と社会教育		3 〃	アトム共同保育所所長代理 市原 悟子
		12.家族問題と社会教育		3 〃	和歌山大学教育学部助教授 廣井 亮一
		13.障害者問題と社会教育		3 〃	社会福祉法人一妻会妻の郷常任理事 伊藤 静美
		14.健康・地域保健と社会教育		3 〃	和歌山大学教育学部助教授 本山 貢
		15.スポーツ文化と生涯学習		3 〃	和歌山大学教育学部教授 出原 泰明

\*\*\* の担当講師は、堀内、神吉、山口、松浦、山下、原、船越、山崎、岩崎、山本、関根、西中、本山、吾妻、桑原、藪下

別表2

## 平成12年度社会教育主事講習時間割

月/日		午 前	午 後		月/日		午 前	午 後	
		9:30～12:30	13:30～16:30	19:00～22:00			9:30～12:30	13:30～16:30	19:00～22:00
7/21	科目名	開講式・オリエンテーション	生涯学習概論1		8/8	社会教育計画7	社会教育計画4		
(金)	講師名		山本 健慈		(火)	松岡 伸也	望月 彰		
7/22	科目名	生涯学習概論2	生涯学習概論3		8/9	社会教育演習1	社会教育演習1#	社会教育演習1	
(土)	講師名	山本 健慈	山本 健慈		(水)	***	***	***	
7/24	科目名	社会教育特講7	生涯学習概論4		8/10	社会教育演習2	社会教育計画9	社会教育演習1	
(月)	講師名	船越 勝	上杉 孝實		(木)	***	尾久土 正巳	***	
7/25	科目名	生涯学習概論5	社会教育特講8		8/11	社会教育演習2	社会教育演習2		
(火)	講師名	堀内 秀雄	松浦 善満		(金)	***	***		
7/26	科目名	生涯学習概論6	社会教育特講14		8/12	社会教育演習3	社会教育演習3		
(水)	講師名	松岡 廣路	本山 貢		(土)	***	***		
7/27	科目名	生涯学習概論7	社会教育特講11		8/16	社会教育計画10	社会教育計画8		
(木)	講師名	津田 英二	市原 悟子		(水)	山崎 由可里	永守 基樹		
7/28	科目名	社会教育演習1	社会教育演習1#	社会教育演習1	8/17	社会教育特講1	社会教育特講3		
(金)	講師名	***	***	***	(木)	小島 敏宏	島 久美子		
7/29	科目名	社会教育演習1			8/18	社会教育演習1	社会教育演習1		
(土)	講師名	***			(金)	***	***		
7/31	科目名	生涯学習概論8	社会教育特講4		8/21	社会教育特講5	社会教育特講6		
(月)	講師名	堀内 秀雄	濱田 學昭		(月)	奥 忍	高橋 正人		
8/1	科目名	社会教育特講13	生涯学習概論9		8/22	社会教育特講9	社会教育特講12		
(火)	講師名	伊藤 静美	国生 寿		(火)	藤本 清二郎	廣井 亮一		
8/2	科目名	社会教育計画1	生涯学習概論10		8/23	社会教育特講10	社会教育特講2		
(水)	講師名	橋本 卓爾	竹下 典行		(水)	宮崎 恭子	梅田 修・藪添泰弘		
8/3	科目名	社会教育計画3	社会教育計画2		8/24	社会教育特講15	社会教育演習1		
(木)	講師名	村田 和子	大前 哲彦		(木)	出原 泰明	***		
8/4	科目名	社会教育演習1	社会教育演習1#		8/25	社会教育演習1	特別講義・閉講式		
(金)	講師名	***	***		(金)	***			
8/7	科目名	社会教育計画5	社会教育計画6						
(月)	講師名	関根 剛	小谷 恵子						

(注1) \*\*\* の担当講師は、堀内、神吉、山口、松浦、山下、原、船越、山崎、岩崎、山本、関根、西中、本山、吾妻、桑原、藪下

(注2) #の講座の时限は13:30～17:30

(注3) 7月28・29日は1泊2日の宿泊演習(於紀三井寺はやし)

(注4) 8月9・10・11日は2泊3日の宿泊演習(於セミナーハウス未来塾)

(注5) 8月12日は、演習グループ単位で場所を設定し、実施する。

(注6) 演習場所は、上記の宿泊演習を除いて和歌山大学生涯学習教育研究センターである。

## 合宿研修について(1)

1.研修期間 7月28日(金)～29日(土)1泊2日

2.研修場所 「はやし」  
〒641-0012 和歌山市紀三井寺673  
TEL 073-445-5151

3.研修概要 社会教育演習

7月28日(金) 9:00 オリエンテーション  
9:30 演習  
12:30 昼食  
13:30 演習  
17:30 入浴  
18:00 夕食  
19:00 演習  
22:00 就寝準備  
23:00 消灯

7月29日(土) 7:00 起床  
8:00 朝食  
9:30 演習  
12:30 解散

## 合宿研修について (2)

1.研修期間 8月9日(水)～11日(金) 2泊3日

2.研修場所 「未来塾」  
〒640-1363 和歌山県海草郡美里町田25  
TEL073-498-0521

3.研修概要 社会教育演習

8月9日(水)	9:00	オリエンテーション
	9:30	演習
	12:30	昼食
	13:30	演習
	17:30	入浴
	18:00	夕食
	19:00	演習
	22:00	就寝準備
	23:00	消灯

8月10日(木)	7:00	起床
	8:00	朝食
	9:30	演習
	12:30	昼食
	13:30	演習
	17:30	入浴
	18:00	夕食
	19:00	演習
	22:00	就寝準備
	23:00	消灯

8月11日(金)	7:00	起床
	8:00	朝食
	9:30	演習
	13:30	演習
	16:30	解散

## 平成15年度社会教育主事講習実施要項

### 1. 趣 旨

本講習は、社会教育法第9条の5の規定に基づき、社会教育主事となるべき者にその職務を遂行するに必要な専門的知識・技術を修得させ、社会教育主事となり得る資格を附与することを目的とする。

### 2. 主 催

文部科学省

### 3. 実施機関

和歌山大学

### 4. 開催期間及び会場

(1)期 間：平成15年7月22日(火)から平成15年8月22日(金)まで

(2)会 場：和歌山大学生涯学習教育研究センター

〒641-0051 和歌山市西高松一丁目7-20 (TEL 073-427-4623)

大泉研修所

〒640-8453 和歌山市木ノ本1521 (TEL 073-455-2409)

セミナーハウス未来塾

〒640-1363和歌山県海草郡美里町田25 (TEL 073-498-0521)

### 5. 開設科目及び単位

社会教育主事講習等規程第3条により4科目9単位を開設する。

### 6. 講習を行う科目名、単位数、内容・テーマ、教育方法、配当時間数及び担当講師

別表1のとおり

### 7. 講習日程

別表2のとおり

### 8. 単位の認定方法

各科目の出席状況、演習における発表、レポート及び報告書による総合判定

## 9. 受講人数

46名

## 10. 運営機構

府県名	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	計
受講人数	0	0	4	0	0	42	46

### (1)運営委員会

講習の実施運営について、重要事項を審議決定する。

	氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
委員長	山本健慈	和歌山大学生涯学習教育研究センター長	主任講師
委 員	折原 守	文部科学省生涯学習政策局社会教育課長	
委 員	一山直子	和歌山県教育委員会生涯学習課長	
委 員	中野理美	滋賀県教育委員会生涯学習課長	
委 員	高熊秀臣	京都府教育委員会社会教育課長	
委 員	幸田武史	大阪府教育委員会教育振興室地域教育振興課長	
委 員	田村卓也	兵庫県教育委員会事務局社会教育課長	
委 員	大西利文	奈良県教育委員会生涯学習課長	
委 員	小島敏宏	和歌山大学生涯学習教育研究センター副センター長	
委 員	堀内秀雄	和歌山大学生涯学習教育研究センター助教授	副主任講師
委 員	山下晃一	和歌山大学教育学部助教授	副主任講師
委 員	坂本邦夫	和歌山大学事務局長	
委 員	宮地 弘	和歌山大学総務課長	
委 員	羽生 稔	和歌山大学会計課長	

### (2)指導部

副主任講師 堀内秀雄

〃 山下晃一

イ 講習日程の作成

ロ 科目・指導要領の調整

ハ 合宿研修・実地参観演習に関すること

(3)別に受講生代表若干名よりなる連絡委員会を設け、受講生と実施機関との連絡・調整をはかる。

別表1

## 講習を行う科目名、単位数、講習内容、配当時間、教育方法及び担当講師職氏名

科目名	単位数	講 習 内 容	配 当 時間数	教育 方法	担 当 講 師 の 職 ・ 氏 名			
生涯学習概論	2	1. 生涯学習と社会教育	6	講義	和歌山大学生涯学習教育研究センター教授	山本 健慈		
		2. 社会教育と社会教育行政	6		和歌山大学生涯学習教育研究センター助教授	堀内 秀雄		
		3. 社会教育施設の現状	4		大阪音楽大学音楽学部教授	井上 英之		
		4. 世界の社会教育	4		桃山学院大学教育研究所名誉所長	伊藤 正純		
		5. 社会教育の内容及方法	4		京都女子大学短期大学部助教授	岩槻 知也		
		6. 生涯学習政策論Ⅰ	4		紀伊民報編集局長	政井 孝道		
		7. 生涯学習政策論Ⅱ	2		和歌山県教育庁生涯学習局生涯学習課長	一山 直子		
社会教育計画	2	1. 社会教育と地域	4	講義	和歌山大学経済学部教授	橋本 卓爾		
		2. 社会教育調査とデータの活用	4		大阪音楽大学音楽学部教授	大前 哲彦		
		3. 社会教育事業と住民の活動	4		貝塚市教育委員会社会教育課社会教育係長	村田 和子		
		4. 社会教育と学習相談	4		滋賀県永源寺町図書館長	巽 照子		
		5. 社会教育の評価	4		和歌山大学教育学部助教授	山崎由可里		
		6. 社会教育施設の経営Ⅰ	2		和歌山大学教育学部助教授	米田 頼司		
		7. 社会教育施設の経営Ⅱ	2		美里町立みさと天文台長	尾久土正巳		
		8. 社会教育施設の経営Ⅲ	2		田辺市上秋津公民館長	玉井 常貴		
		9. 社会教育施設の経営Ⅳ	2		貝塚市立浜手地区公民館長	岡野 智子		
		10. 社会教育施設の経営Ⅴ	2		紀伊風土記の丘副館長	永光 寛		
社会教育演習	2	1. 地域社会教育計画の企画・立案 (1)家庭教育・子育て支援	40	演習	(1)和歌山大学生涯学習教育研究センター教授 (1)NPO法人子ども劇場和歌山県センター事務局長 (1)和歌山市教育委員会子ども支援センター長	山本 健慈 島 久美子 本田 昌子		
		(2)まちづくり・生涯学習	40		"	(2)和歌山大学生涯学習教育研究センター助教授 (2)建築家・和歌山県社会教育委員 (2)和歌山県理事室改革推進班長	堀内 秀雄 中西 重裕 福田 良輔	
		(3)地域の青少年育成と生涯学習	40		"	(3)和歌山大学教育学部助教授 (3)和歌山大学教育学部助教授 (3)高野口町立応其小学校教頭	松越 勝 山崎由可里 辻 正雄	
		(4)開かれた学校づくり	40	"	(4)和歌山大学教育学部助教授 (4)和歌山大学教育学部教授 (4)上富田町立生馬小学校教頭	山下 晃一 川本 治雄 長野 文昭		
		(5)健康・生涯スポーツ	40	"	(5)和歌山大学教育学部助教授 (5)野上町教育委員会派遣社会教育主事 (5)高野町立富貴中学校教頭	本山 貢 中屋多加志 藪下 純男		
		2. 社会体育計画の企画・立案	12	"	和歌山大学教育学部助教授 那智勝浦町教育委員会派遣社会教育主事	本山 貢 吾妻 信也		
		3. 実地調査	8	"	演習担当講師	15名		
		社会教育特講	3	1. 開かれた学校づくり	4	講義	和歌山大学教育学部助教授	山下 晃一
				2. 地域子ども組織と社会教育	4		和歌山大学教育学部助教授	松越 勝
3. 家族問題と社会教育	2			和歌山大学教育学部助教授	廣井 亮一			
4. 健康スポーツと社会教育	2			和歌山大学教育学部助教授	本山 貢			
5. 子育て最前線事情と社会教育	4			社会福祉法人アトム共同保育園園長	市原 悟子			
6. 音楽文化と社会教育	2			和歌山大学教育学部教授	米山 龍介			
7. まちづくりと社会教育	2			和歌山大学経済学部助教授	足立 基浩			
8. 日本経済と社会教育	2			和歌山大学経済学部助教授	河音 琢郎			
9. ボランティア・NPOと社会教育	4			"	和歌山大学生涯学習教育研究センター助教授 NPO法人子ども劇場和歌山県センター事務局長 NPO法人WACわかやま理事長		堀内 秀雄 島 久美子 中村 富子	
10. 陶芸を学び、つくる	2			"	和歌山大学教育学部助教授		寺川 剛央	
11. 学社融合の地域づくり	2			"	大阪府社会教育委員		油谷 雅次	
12. 障害者問題と社会教育	2			"	社会福祉法人一麦会常任理事		伊藤 静美	
13. メディアと社会教育	2			"	和歌山大学経済学部助教授		鈴木 裕範	
14. 人権問題と社会教育	2			"	和歌山県教育庁生涯学習局生涯学習課人権教育推進室長		勝丸 健司	
15. 男女共同参画と社会教育	2			"	「アクト研究室」主宰・女性起業家		鳥淵 朋子	
16. 少子高齢化と社会教育	2			"	和歌山大学経済学部助教授		金川めぐみ	
17. 情報化と地域づくり	4			"	和歌山大学経済学部教授		小島 敏宏	
18. 過疎問題と社会教育	4			"	龍神村教育長		鈴木 直孝	

☆最終日の記念講演は新潟県聖籠町教育長手島勇平氏



別表 2

## 平成15年度社会教育主事講習日程表

月/日		午 前		午 後		夜 間	備 考
		9:20～10:50	11:00～12:30	13:30～15:00	15:10～16:40	18:50～20:20	
7/22 (火)	科目名 講師名	受 付	開講式 オリエンテーション	生涯学習概論 1	生涯学習概論 1		
				山本健慈	山本健慈		
7/23 (水)	科目名 講師名	生涯学習概論 1	生涯学習概論 2	生涯学習概論 2	生涯学習概論 2		
		山本健慈	堀内秀雄	堀内秀雄	堀内秀雄		
7/24 (木)	科目名 講師名	社会教育特講 1	社会教育特講 1	生涯学習概論 4	生涯学習概論 4		
		山下晃一	山下晃一	伊藤正純	伊藤正純		
7/25 (金)	科目名 講師名	社会教育特講 2	社会教育特講 2	社会教育特講 3	社会教育特講 4		
		舩越勝	舩越勝	廣井亮一	本山 貢		
7/28 (月)	科目名 講師名	社会教育計画 5	社会教育計画 5	社会教育特講 5	社会教育特講 5		
		山崎由可里	山崎由可里	市原悟子	市原悟子		
7/29 (火)	科目名 講師名	社会教育演習① 1	社会教育演習① 2	社会教育演習② 1	社会教育演習② 2	社会教育特講 6	合宿研修 住金・大泉
		※※※	※※※	※※※	※※※	米山龍介	
7/30 (水)	科目名 講師名	社会教育演習① 3	社会教育演習① 4	社会教育演習① 5			合宿研修 住金・大泉
		※※※	※※※	※※※			
7/31 (木)	科目名 講師名	生涯学習概論 5	生涯学習概論 5	社会教育計画 1	社会教育計画 1		
		岩槻知也	岩槻知也	橋本卓爾	橋本卓爾		
8/1 (金)	科目名 講師名	生涯学習概論 6	生涯学習概論 6	社会教育計画 3	社会教育計画 3		
		政井孝道	政井孝道	村田和子	村田和子		
8/2 (土)	科目名 講師名		社会教育特講 7	☆社会教育特講 8			
			足立基浩	河音琢郎			
8/4 (月)	科目名 講師名	社会教育特講 9	社会教育特講 9	社会教育計画 2	社会教育計画 2		
		堀内秀雄・島久美子・中村富子		大前哲彦	大前哲彦		
8/5 (火)	科目名 講師名	社会教育特講10	社会教育特講11	生涯学習概論 3	生涯学習概論 3		
		寺川剛央	油谷雅次	井上英之	井上英之		
8/6 (水)	科目名 講師名	生涯学習概論 7	社会教育特講12	社会教育計画 4	社会教育計画 4		
		一山直子	伊藤静美	巽 照子	巽 照子		
8/7 (木)	科目名 講師名	社会教育計画 9	社会教育計画 8	社会教育演習① 6	社会教育演習① 7		
		岡野智子	玉井常貴	※※※	※※※		
8/8 (金)	科目名 講師名	社会教育計画10	社会教育計画 6	社会教育演習① 8	社会教育演習① 9		
		永光寛	米田頼司	※※※	※※※		
8/11 (月)	科目名 講師名	移 動		社会教育演習①10	社会教育演習①11	★社会教育計画 7	合宿研修 未来塾
				※※※	※※※	尾久土正巳	
8/12 (火)	科目名 講師名	社会教育演習② 3	社会教育演習② 4	社会教育演習①12	社会教育演習①13	社会教育演習①14	合宿研修 未来塾
		※※※	※※※	※※※	※※※	※※※	
8/13 (水)	科目名 講師名	社会教育演習② 5	社会教育演習② 6				合宿研修 未来塾
		※※※	※※※				
8/18 (月)	科目名 講師名	社会教育演習③ 1	社会教育演習③ 2	社会教育演習③ 3	社会教育演習③ 4		
		※※※	※※※	※※※	※※※		
8/19 (火)	科目名 講師名	社会教育特講13	社会教育特講14	社会教育特講15	社会教育特講16		
		鈴木裕範	勝丸健司	鳥淵朋子	金川めぐみ		
8/20 (水)	科目名 講師名	社会教育演習①15	社会教育演習①16	社会教育特講17	社会教育特講17		
		※※※	※※※	小島敏宏	小島敏宏		
8/21 (木)	科目名 講師名	社会教育演習①17	社会教育演習①18	社会教育特講18	社会教育特講18		
		※※※	※※※	鈴木直孝	鈴木直孝		
8/22 (金)	科目名 講師名	社会教育演習①19	社会教育演習①20	特別講義	閉講式		
		※※※	※※※	手島勇平			

\* 社会教育演習の①は地域社会教育計画の企画・立案、②は社会体育計画の企画・立案、③は実地調査

\* ☆印の科目の授業時間は14時00分～16時00分、★印の科目の授業時間は20時00分～21時30分

\* ※※※印の担当講師は山本、島、本田、堀内、中西、福田、舩越、山崎、辻、山下、川本、長野、本山、中屋、篠下、吾妻

## 合宿研修について(1)

1. 研修期間 7月29日(火)～30日(水) 1泊2日

2. 研修場所 「大泉研修所」

〒640-8453 和歌山市木ノ本1521

TEL073-455-2409

3. 研修概要

### ● 7月29日(火)

9:00～9:20	ガイダンス	中教室②
9:20～12:00	社会教育演習①	107 …………… 演習班 1 108 …………… 演習班 2 小教室③ …… 演習班 3 小教室④ …… 演習班 5 中教室② …… 演習班 4

12:00～12:30	昼食	食堂
-------------	----	----

### 和歌山大学へ移動

13:30～14:20	社会教育演習②	体育館
14:40～15:30	社会教育演習②	プール
16:00～17:30	社会教育特講	教育学部音楽棟

### 大泉研修所へ移動

19:00～21:00	懇親会	大広間
-------------	-----	-----

### ● 7月30日(水)

8:30～9:00	朝食	食堂
9:20～12:40	社会教育演習①	
12:40～13:30	昼食	食堂
13:30～15:00	社会教育演習①	

## 合宿研修について(2)

1. 研修期間 8月11日(月)～13日(水) 2泊3日

2. 研修場所 「未来塾」

〒640-1363 和歌山県海草郡美里町田25

TEL073-498-0521

3. 研修概要

### ● 8月11日(月)

13:30～13:50	ガイダンス	実習室 2
13:50～16:40	演習①	実習室 1 ……………演習班 1 実習室 2 ……………演習班 4 多目的実習室………演習班 3 研修室 7 ……………演習班 5 研修室 8 ……………演習班 2
17:00～18:00	入浴	
18:00～18:50	夕食	
18:50～20:20	社会教育計画	実習室 2

### ● 8月12日(火)

8:00～9:00	朝食	
9:20～12:30	演習②（ウォークラリー）	未来塾グラウンド
12:30～13:30	昼食	
13:30～16:40	演習	実習室……………演習班 3 実習室 2 ……………演習班 5 多目的実習室………演習班 1 研修室 7 ……………演習班 4 研修室 8 ……………演習班 2
16:45～17:00	講演（坂本和歌山大学事務局長）	実習室 2
17:00～18:00	入浴	
18:00～18:50	夕食	
19:15～	演習①	
	天体観測	みさと天文台

● 8月13日(水)

7:00～8:00 朝食

野上町ふれあい公園へ移動

9:00～11:30 演習②（パークゴルフ）

パークゴルフ場

11:30～12:00 表彰

動物愛護センター会議室

12:00～12:15 講演（動物愛護に関して）

〃

## 平成18年度社会教育主事講習実施要項

### 1. 趣 旨

本講習は、社会教育法第9条の5の規定に基づき、社会教育主事となるべき者にその職務を遂行するために必要な専門的知識・技術を修得させ、社会教育主事となり得る資格を附与することを目的とする。

### 2. 主 催

文部科学省

### 3. 実施機関

和歌山大学

### 4. 開催期間及び会場

(1)期 間：平成18年7月24日(月)から平成18年8月22日(火)まで

(2)会 場：和歌山大学生涯学習教育研究センター

〒641-0051 和歌山市西高松一丁目7-20 (TEL 073-427-4623)

ウェルサンピア

〒641-0051 和歌山市西高松1-7-87 (TEL 073-436-8111)

セミナーハウス未来塾

〒640-1363 和歌山県海草郡紀美野町田25 (TEL 073-498-0521)

### 5. 開設科目及び単位

社会教育主事講習等規程第3条により4科目9単位を開設する。

### 6. 講習を行う科目名、単位数、内容・テーマ、教育方法、配当時間数及び担当講師

別表1のとおり

### 7. 講習日程

別表2のとおり

### 8. 単位の認定方法

各科目の出席状況、演習における発表、レポート及び報告書による総合判定

## 9. 受講人数

51名

## 10. 運営機構

府県名	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	計
受講人数	1	10	2	2	0	36	51

### (1)運営委員会

講習の実施運営について、重要事項を審議決定する。

	氏名	所属・職名	備考
委員長	山 本 健 慈	和歌山大学生涯学習教育研究センター長	主任講師
委 員	三 浦 春 政	文部科学省生涯学習政策局社会教育課長	
委 員	勝 丸 健 司	和歌山県教育委員会生涯学習課長	
委 員	西 原 節 子	滋賀県教育委員会生涯学習課長	
委 員	角 南 ちえみ	京都府教育委員会社会教育課長	
委 員	鉄 野 孝 之	大阪府教育委員会教育振興室地域教育振興課長	
委 員	滝 波 泰	兵庫県教育委員会事務局社会教育課長	
委 員	西 川 隆 彰	奈良県教育委員会生涯学習課長	
委 員	森 本 吉 春	和歌山大学理事（研究・社会連携担当）	
委 員	堀 内 秀 雄	和歌山大学生涯学習教育研究センター助教授	副主任講師
委 員	山 下 晃 一	和歌山大学教育学部助教授	副主任講師
委 員	岡 田 和 彦	和歌山大学事務局長	
委 員	吉 田 元 重	和歌山大学企画総務課長	
委 員	河 村 勝 行	和歌山大学財務課長	

### (2)指導部

副主任講師 堀内秀雄

〃 山下晃一

イ 講習日程の作成

ロ 科目・指導要領の調整

ハ 合宿研修・実地参観演習に関すること

(3)別に受講生代表若干名よりなる連絡委員会を設け、受講生と実施機関との連絡・調整をはかる。

別表1

## 講習を行う科目名、単位数、講習内容、配当時間、教育方法及び担当講師予定者職氏名

科目名	単位数	講習内容	配当時間数	教育方法	担当講師予定者の職・氏名					
生涯学習概論	2	1. 生涯学習と社会教育	30	6	講義	和歌山大学生涯学習教育研究センター教授	山本 健慈			
		2. 社会教育と社会教育行政		6	和歌山大学生涯学習教育研究センター助教授	堀内 秀雄				
		3. 社会教育施設の現状Ⅰ		4	和歌山大学教育学部講師	村田 和子				
		4. 社会教育施設の現状Ⅱ		2	文化庁室長補佐	一山 直子				
		5. 学校経営と社会教育		4	和歌山大学教育学部助教授	山下 晃一				
		6. 社会教育の内容と方法		4	京都女子大学短期大学部助教授	岩槻 知也				
		7. 生涯学習政策論Ⅰ		2	和歌山県串本町教育長（前文科省室長）	手塚 健郎				
		8. 生涯学習政策論Ⅱ		2	熊取町教育委員会理事（前文科省課長補佐）	江崎 俊光				
社会教育計画	2	1. 社会教育と地域	30	4	講義	和歌山大学経済学部助教授	足立 基浩			
		2. 社会教育調査とデータの活用		4	エフプラン	原田 仁				
		3. 社会教育事業と住民の活動Ⅰ		2	貝塚市教育委員会元教育部長	松岡 伸也				
		4. 社会教育事業と住民の活動Ⅱ		2	貝塚市立浜手地区公民館長	岡野 智子				
		5. 社会教育事業と住民の活動Ⅲ		4	田辺市上秋津公民館長	玉井 常貴				
		6. 社会教育と学習相談		4	和歌山県立紀南図書館長	川口 幸三				
		7. 社会教育の評価		4	和歌山大学教育学部助教授	山崎由可里				
		8. 社会教育施設の経営Ⅰ		2	和歌山大学教授	尾久土正巳				
		9. 社会教育施設の経営Ⅱ		2	和歌山県教育庁生涯学習課社会教育主事	村崎 隆志				
		10. 社会教育施設の経営Ⅲ		2	上富田町立生馬小学校教頭	長野 文昭				
社会教育演習	2	1. 地域社会教育計画の企画・立案 (1)家庭教育・子育て支援	60	40	演習	(1)和歌山大学生涯学習教育研究センター教授 (1)和歌山市立子ども支援センター長 (1)和歌山県教育庁生涯学習課社会教育主事	山本 健慈 本田 昌子 熊代 卓夫			
		(2)まちづくり・生涯学習		40	和歌山大学生涯学習教育研究センター助教授 (2)和歌山大学経済学部助教授 (2)みなべ町教育委員会地域教育主事	堀内 秀雄 足立 基浩 細川 安弘				
		(3)地域の青少年育成と生涯学習		40	和歌山大学教育学部教授 (3)和歌山大学教育学部助教授 (3)紀の川市教育委員会地域教育主事	松越 勝 山崎由可里 寺本 達也				
		(4)開かれた学校づくり		40	和歌山大学教育学部助教授 (4)田辺市教育委員会児童育成課地域教育主事 (4)上富田町立生馬小学校教頭	山下 晃一 中平 誠治 長野 文昭				
		(5)健康・生涯スポーツ		40	和歌山大学教育学部教授 (5)和歌山大学教育学部教授 (5)紀美野町教育委員会地域教育主事	本山 貢 中 俊博 中屋多加志				
		2. 社会体育計画の企画・立案		12	和歌山大学教育学部教授 紀北養護学校愛徳分教室教諭	本山 貢 高橋 玉泉				
		3. 実地調査		8	演習担当講師	15名				
		社会教育特講		3	1. 開かれた学校づくり	48	4	講義	和歌山大学客員教授	山口 裕市
					2. 地域子ども組織と社会教育		4	和歌山大学教育学部教授	松越 勝	
3. 健康スポーツと社会教育	4		和歌山大学教育学部教授		本山 貢					
4. 家族問題と社会教育	4		和歌山大学保健管理センター長		宮西 照夫					
5. 子育て最前線事情と社会教育	4		社会福祉法人アトム共同保育園園長		市原 悟子					
6. まちづくりと社会教育	4		和歌山大学システム工学部助教授		宮川 智子					
7. 文化財の活用とまちづくり	2		和歌山県教育庁文化遺産課専門員		田中 修司					
8. ボランティア・NPOと社会教育	2		和歌山県NPOサポートセンター長		島 久美子					
9. 青年とボランティア	2		和歌山県社会教育委員		上森 成人					
10. メディアと社会教育	2		和歌山大学経済学部助教授		鈴木 裕範					
11. 人権問題と社会教育	2		和歌山県教育庁生涯学習課人権教育推進室長		岡本 哲司					
12. 障害者問題と社会教育	2		社会福祉法人一麦会常任理事		伊藤 静美					
13. ワークショップの意義と方法	4		「アクト研究室」主宰・女性起業家		鳥淵 朋子					
14. 少子高齢化と社会教育	4		和歌山大学経済学部助教授		金川めぐみ					
15. インターネットと学習支援・まちづくり	4		和歌山大学経済学部助教授		佐藤 周					
記念講演		子どもの安全のまちづくり		千葉大学園芸学部教授	中村 攻					

☆最終日の記念講演は千葉大学教授中村攻氏

別表 2

## 平成18年度社会教育主事講習日程表

月/日		午前		午後		夜間	備考
		9:20～10:50	11:00～12:30	13:30～15:00	15:10～16:40		
7/24 (月)	科目名	受付	開講式 オリエンテーション	生涯学習概論 1	生涯学習概論 1		
	講師名			山本健慈	山本健慈		
7/25 (火)	科目名	生涯学習概論 1	生涯学習概論 2	生涯学習概論 2	生涯学習概論 2		
	講師名	山本健慈	堀内秀雄	堀内秀雄	堀内秀雄		
7/26 (水)	科目名	生涯学習概論 5	生涯学習概論 5	社会教育特講 1	社会教育特講 1		
	講師名	山下晃一	山下晃一	山口裕市	山口裕市		
7/27 (木)	科目名	社会教育特講 2	社会教育特講 2	社会教育特講 3	社会教育特講 3		
	講師名	松越勝	松越勝	本山貢	本山貢		
7/28 (金)	科目名	社会教育計画 7	社会教育計画 7	社会教育特講 5	社会教育特講 5		
	講師名	山崎由可里	山崎由可里	市原悟子	市原悟子		
7/31 (月)	科目名	生涯学習概論 4	社会教育演習① 1	社会教育演習② 1	社会教育演習② 2	社会教育演習① 2	合宿研修 サンビア
	講師名	一山直子	※※※	※※※	※※※	※※※	
8/1 (火)	科目名	社会教育演習① 3	社会教育演習① 4	社会教育演習① 5	社会教育演習① 6		合宿研修 サンビア
	講師名	※※※	※※※	※※※	※※※		
8/2 (水)	科目名	生涯学習概論 3	生涯学習概論 3	社会教育計画 3	社会教育計画 4		
	講師名	村田和子	村田和子	松岡伸也	岡野智子		
8/3 (木)	科目名	社会教育計画 9	社会教育計画10	生涯学習概論 7	生涯学習概論 8		
	講師名	村崎隆志	長野文昭	手塚健郎	江崎俊光		
8/4 (金)	科目名	社会教育計画 1	社会教育計画 1	社会教育計画 5	社会教育計画 5		
	講師名	足立基浩	足立基浩	玉井常貴	玉井常貴		
8/5 (土)	科目名	社会教育特講13	社会教育特講13	社会教育特講 6	社会教育特講 6		
	講師名	鳥淵朋子	鳥淵朋子	宮川智子	宮川智子		
8/7 (月)	科目名	生涯学習概論 6	生涯学習概論 6	社会教育計画 2	社会教育計画 2		
	講師名	岩槻友也	岩槻友也	原田仁	原田仁		
8/8 (火)	科目名	社会教育計画 6	社会教育計画 6	社会教育特講 8	社会教育特講 9		
	講師名	川口幸三	川口幸三	島久美子	上森成人		
8/9 (水)	科目名			社会教育演習① 7	社会教育演習① 8	社会教育計画 8	合宿研修 未来塾
	講師名			※※※	※※※	尾久土正己	
8/10 (木)	科目名	社会教育演習① 9	社会教育演習①10	社会教育演習② 3	社会教育演習② 4	社会教育演習①11	合宿研修 未来塾
	講師名	※※※	※※※	※※※	※※※	※※※	
8/11 (金)	科目名	社会教育演習①12	社会教育演習①13	社会教育演習② 5	社会教育演習② 6		合宿研修 未来塾
	講師名	※※※	※※※	※※※	※※※		
8/16 (水)	科目名	社会教育演習③ 1	社会教育演習③ 2	社会教育演習③ 3	社会教育演習③ 4		
	講師名	※※※	※※※	※※※	※※※		
8/17 (木)	科目名	社会教育特講11	社会教育特講12	社会教育演習①14	社会教育演習①15		
	講師名	岡本哲司	伊藤静美	※※※	※※※		
8/18 (金)	科目名	社会教育特講15	社会教育特講15	社会教育演習①16	社会教育演習①17		
	講師名	佐藤周	佐藤周	※※※	※※※		
8/19 (土)	科目名	社会教育特講10	社会教育特講 7	社会教育特講 4	社会教育特講 4		
	講師名	鈴木裕範	田中修司	宮西照夫	宮西照夫		
8/21 (月)	科目名	社会教育特講14	社会教育特講14	社会教育演習①18	社会教育演習①19		
	講師名	金川めぐみ	金川めぐみ	※※※	※※※		
8/22 (火)	科目名	社会教育演習①20	特別講義	閉講式			
	講師名	※※※	中村攻				
		特別講義：中村攻千葉大学教授 子どもの安全の地域づくり					

\* 社会教育演習の①は地域社会教育計画の企画・立案、②は社会体育計画の企画・立案、③は実地調査

\* ※※※印の担当講師は山本、本田、熊代、堀内、足立、細川、松越、山崎、寺本、山下、中平、長野、本山、中、中屋、高橋



## 合宿研修について（１）

1 研修期間 7月31日（月）～8月1日（火）1泊2日

2 研修場所 「ウェル・サンピア」

〒641-0051 和歌山県和歌山市西高松1-7-87

TEL 073-436-8111

### 3 研修概要

- 7月31日（月）09：20～11：00 生涯学習概論 4 2 F ホール
- 11：00～12：30 社会教育演習① 1 1 F 共同研究室 演習班 1
- 2 F ホール 演習班 2
- 2 F 会議室 演習班 3
- 2 F 講義室 2 演習班 4
- 1 F 講義室 1 演習班 5
- 12：30～13：30 昼食
- 13：30～15：00 社会教育演習② 2 F ホール
- 15：10～16：40 社会教育演習② 2 F ホール
- ウェルサンピアに移動
- 16：50～18：50 グループ打ち合わせ等
- 18：50～ 社会教育演習① 2
- 8月1日（火）07：00～09：00 朝食
- 生涯学習教育研究センターに移動
- 09：20～12：30 社会教育演習① 3・4
- 12：30～13：30 昼食
- 13：30～16：40 社会教育演習① 5・6

## 合宿研修について（２）

1 研修期間 8月9日（水）～8月11日（金）2泊3日

2 研修場所 「セミナーハウス 未来塾」

〒640-1363 和歌山県

- 8月9日（水） 13：30～13：50 ガイダンス 実習室2  
13：50～16：40 演習①7・8 演習班1 研修室3  
演習班2 多目的実習室  
演習班3 研修室4  
演習班4 実習室1  
演習班5 実習室2
- 17：00～18：00 入浴  
18：00～18：50 夕食  
18：50～20：00 社会教育計画8 実習室2  
20：00～20：30 みさと天文台へ移動  
20：30～ 天体観測  
22：00～23：00 就寝準備～消灯
- 8月10日（木） 08：00～09：00 朝食  
09：20～12：30 演習②（ウォークラリー） 未来塾グラウンド  
12：30～13：30 昼食  
13：30～16：40 演習①9・10  
17：00～18：00 入浴  
18：00～18：50 夕食  
18：50～20：20 演習①11  
22：00～23：00 就寝準備～消灯
- 8月11日（金） 07：30～08：30 朝食  
08：50～12：00 演習①12・13  
12：00～13：00 昼食  
13：00～13：30 野上町ふれあい公園へ移動  
13：30～16：40 演習②（パークゴルフ） パークゴルフ場

※各自、懐中電灯・運動できる服装・運動靴のご用意をお願いいたします。

# 1 平成21年度社会教育主事講習実施要項

和歌山大学

## 1. 趣 旨

本講習は、社会教育法第9条の5の規定及び社会教育主事講習等規程に基づき実施するもので、社会教育主事の職務を遂行するに必要な専門的知識・技術を習得させ、社会教育主事となりうる資格を附与することを目的とする。

## 2. 主 催

文部科学省

## 3. 実施機関

和歌山大学

## 4. 開催期間及び会場

期 間：平成21年7月22日(木)から平成21年8月26日(木)まで

会 場：和歌山大学生涯学習教育研究センター

〒641-0051 和歌山市西高松一丁目7番20号(TEL 073-427-4623)

秋津野ガルテン

〒646-0001 和歌山県田辺市上秋津4558-8(TEL 0739-35-1199)

セミナーハウス未来塾

〒640-1363 和歌山県海草郡紀美野町田25(TEL 073-498-0521)

## 5. 受講者数

43名

## 6. 講習科目名、単位数、内容・テーマ、教育方法、配当時間数及び担当講師

別表1のとおり

## 7. 講習日程

別表2のとおり

## 8. 単位修得の認定

講習修了後に、各科目の出席状況、演習における発表、レポート及び報告書による総合判定。

## 2 講習科目・担当講師名

別表 1

科目名	単位数	講義内容・テーマ	教育方法	配当時間数	講 師
生涯学習概論	2	教育原理と社会教育・生涯学習	講義	3	和歌山大学副学長・教育学部教授 山本 健慈
		社会教育と生涯学習の意義	〃	3	和歌山大学生涯学習教育研究センター長・教授 堀内 秀雄
		社会教育の内容と方法	〃	3	京都女子大学発達教育学部准教授 岩槻 知也
		社会教育施設の現状	〃	3	和歌山大学生涯学習教育研究センター准教授 村田 和子
		学習者支援と社会教育主事の職務	〃	3	和歌山大学生涯学習教育研究センター准教授 村田 和子
		生涯学習政策論Ⅰ	〃	1.5	京都造形美術大学教授 寺脇 研
		生涯学習・社会教育政策論Ⅱ	〃	1.5	文部科学省生涯学習政策局参事官室参事官補佐 出口 寿久
		生涯学習・社会教育政策論Ⅲ	〃	1.5	文部科学省生涯学習政策局参事官室参事官補佐 出口 寿久
		社会教育と社会教育行政	〃	3	和歌山大学生涯学習教育研究センター長・教授 堀内 秀雄
		社会教育・生涯学習施策の体系化	〃	3	和歌山大学副学長・教育学部教授 山本 健慈
		社会教育と学校改革の可能性	〃	1.5	和歌山県教育委員会教育長 山口 裕市
		世界の成人教育	〃	3	畿央大学教授 上杉 孝實
社会教育計画	2	生涯学習・社会教育関連法	講義	3	和歌山大学教育学部教授 久保富三夫
		社会教育と地域	〃	3	和歌山大学経済学部准教授 足立 基浩
		社会教育事業計画と評価	〃	3	和歌山大学教育学部教授 山崎由可里
		社会教育委員の役割	〃	1.5	貝塚市社会教育委員会議議長 梅原 直子
		社会教育施設の経営	〃	3	和歌山大学観光学部教授 尾久土正己
		高齢社会と社会教育計画	〃	1.5	和歌山大学客員教授 松岡 伸也
		地域子ども組織と社会教育	〃	3	和歌山大学教育学部教授 船越 勝
		学校と地域社会の連携・協働	〃	3	京都市教育委員会生涯学習部首席社会教育主事 古田 義久
		地域調査と地域再生	〃	3	和歌山大学観光学部准教授 堀田祐三子
		教育資料の活用と教育	〃	3	和歌山大学教育学部准教授 越野 章史
社会教育演習	2	地域社会教育計画の企画・立案 ①家庭教育・子育て支援	演習	60	和歌山大学生涯学習教育研究センター准教授 村田 和子
		②まちづくり・生涯学習	〃		京都市教育委員会生涯学習部首席社会教育主事 古田 義久
		③地域の青少年育成と生涯学習	〃		貝塚市社会教育委員会議議長 梅原 直子
		④開かれた学校づくり	〃		和歌山大学生涯学習教育研究センター長・教授 堀内 秀雄
		⑤健康・生涯スポーツ	〃		和歌山大学特任助教 西川 一弘
					和歌山大学教育学部教授 船越 勝
社会教育特講	3	生涯スポーツ論	講義	1.5	和歌山大学教育学部教授 山崎由可里
		健康スポーツと社会教育	〃	1.5	和歌山大学教育学部教授 久保富三夫
		社会教育と地域社会	〃	1.5	和歌山県教育センター学びの丘生涯学習支援課社会教育主事 越野 章史
		社会教育・生涯学習計画と住民の活動	〃	1.5	田辺市教育委員会生涯学習部生涯学習課企画推進係長 小川 雅則
		子育て最前線事情と社会教育	〃	3	アトム共同保育園園長・和歌山大学客員教授 市原 悟子
		NPOと行政のパートナーシップ	〃	1.5	和歌山県NPOセンター長・和歌山NPOセンター副理事長 島 久美子
		文化活動と地域おこし	〃	1.5	NPO紀州お祭りプロジェクト事務局長 上森 成人
		国際天文年―電波でみる我々の銀河系	〃	3	和歌山大学観光学部研究支援員 佐藤奈穂子
		伝統文化と上方文化	〃	1.5	天満天神繁昌亭支配人 恩田 雅和
		文化財保護と活用	〃	1.5	和歌山県教育庁文化遺産課教育企画員 田中 修司
		家族問題と社会教育	〃	3	和歌山大学保健管理センター所長 宮西 照夫
		人権問題と社会教育	〃	1.5	和歌山県教育庁生涯学習局生涯学習課副課長 岡本 哲司
		障害者問題と社会教育	〃	3	社会福祉法人一麦会麦の郷理事 伊藤 静美
		社会福祉と社会教育	〃	1.5	和歌山大学経済学部准教授 金川めぐみ

科目名	単位数	講義内容・テーマ	教育方法	配当時間数	講 師
社会教育特講	3	子育てネットワークと家庭教育支援	シンポジウム	3	貝塚子育てネットワークの会前代表 貝塚市立浜手地区公民館嘱託職員 貝塚子育てネットワークの会代表 貝塚子育てネットワークの会副代表 沼野 伸子 中川 知子 朝日 陽子 加嶋さおり
		高大連携一学びの郷KOKO塾	シンポジウム	3	和歌山県立和歌山高校教諭 マザー西山代表 粉河高校3年生 粉河高校3年生 瀬岡 美景 西山エイ子 宮本 佳歩 中谷 絵里
		若者支援とまちづくり	シンポジウム	3	和歌山大学特任助教 近江八幡市中間支援センターアドバイザー 奈良市生涯学習財団職員 NPO法人ハートツリー代表 西川 一弘 高見 啓一 佐野万里子 南 芳樹
		秋津野ガルデン、グリーンツーリズム	シンポジウム	3	農業法人柳秋津野副社長 秋津野地域づくり学校長 農業法人株式会社秋津野専務 玉井 常貴 原 和男 木村 則夫
		きのくに共育コミュニティと社会教育	シンポジウム	3	和歌山県教育庁生涯学習局生涯学習課社会教育主事 白浜町立南白浜小学校校長 田辺市社会教育委員・地域共育コーディネーター 和歌山大学生涯学習教育研究センター長・教授 松下 香好 長野 文昭 羽根千恵子 堀内 秀雄
		和歌山の教育の未来	シンポジウム	3	和歌山県教育委員会教育長 和歌山大学副学長・教育学部教授 和歌山大学生涯学習教育研究センター長・教授 山口 裕市 山本 健慈 堀内 秀雄

### 3 平成21年度社会教育主事講習日程表

別表 2

			午 前		午 後		夜 間	備考
月	日	曜	9:20~10:50	11:00~12:30	13:30~15:00	15:10~16:40	18:30~21:30	
7	22	水	受付	開講式	生涯学習概論(山口)	生涯学習概論(寺脇)		
	23	木	生涯学習概論(堀内)	生涯学習概論(堀内)	生涯学習概論(村田)	生涯学習概論(村田)		
	24	金	生涯学習概論(山本)	生涯学習概論(山本)	社会教育計画(久保)	社会教育計画(久保)		
	27	月	社会教育計画(船越)	社会教育計画(船越)	生涯学習概論(上杉)	生涯学習概論(上杉)		
	28	火	社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習	合宿
	29	水	社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習		合宿
	30	木	社会教育計画(山崎)	社会教育計画(山崎)	生涯学習概論(山本)	生涯学習概論(山本)		
	31	金	生涯学習概論(堀内)	生涯学習概論(堀内)	社会教育計画(堀田)	社会教育計画(堀田)		
8	3	月	生涯学習概論(村田)	生涯学習概論(村田)	生涯学習概論(出口)	生涯学習概論(出口)		
	4	火	社会教育計画(足立)	社会教育計画(足立)	生涯学習概論(岩槻)	生涯学習概論(岩槻)		
	5	水	社会教育特講(小川)	社会教育特講(福田)	社会教育計画(梅原)	社会教育計画(松岡)		
	6	木	社会教育特講(市原)	社会教育特講(市原)	社会教育特講(中)	社会教育特講(本山)		
	7	金	社会教育特講(島)	社会教育特講(上森)	社会教育計画(尾久土)	社会教育計画(尾久土)		
	8	土	①社会教育特講(子育てネットワーク)		社会教育特講(土曜講座に参加)			
	10	月		社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習	合宿
	11	火	社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習	合宿
	12	水	社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習		合宿
	13	木	社会教育計画(越野)	社会教育計画(越野)	社会教育計画(古田)	社会教育計画(古田)		
	17	月	社会教育特講(恩田)	社会教育特講(田中)	②社会教育特講(高大連携)			
	18	火	社会教育特講(宮西)	社会教育特講(宮西)	③社会教育特講(若者支援とまちづくり)			
	19	水	社会教育特講(岡本)	社会教育特講(金川)	社会教育特講(伊藤)	社会教育特講(伊藤)		
	20	木	社会教育計画(豊田)	社会教育計画(豊田)	社会教育演習	社会教育演習		
	21	金	④社会教育特講(グリーンツーリズム)		社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習	
	24	月	⑤社会教育特講(共有コミュニティ)		社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習	
	25	火	社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習		
	26	水	社会教育演習		⑥社会教育特講(鼎談)	閉講式		

7/28,29の合宿場所は、秋津野ガルテン、8/10~12は、セミナーハウス未来塾

#### ■演習

家庭教育・子育て支援/村田、古田、梅原、川口

まちづくり・生涯学習/堀内、西川、湯川

地域の青少年育成と生涯学習/船越、山崎、恩地

開かれた学校づくり/久保、越野、中田

健康・生涯スポーツ/本山、中、寺本

#### ■特別講義(①から⑥は、シンポジウム形式)

#### 4 和歌山大学 平成21年度社会教育主事講習運営委員一覧

役 職	氏 名	現 職
委員長	堀 内 秀 雄	和歌山大学生涯学習教育研究センター長
委 員	森 晃 憲	文部科学省生涯学習政策局社会教育課長
委 員	東 中 啓 吉	和歌山県教育庁生涯学習局生涯学習課長
委 員	大 谷 雅 代	滋賀県教育委員会事務局生涯学習課長
委 員	安久井 由紀子	京都府教育庁指導部社会教育課長
委 員	太 田 浩 二	大阪府教育委員会事務局地域教育振興課長
委 員	三 木 忠 一	兵庫県教育委員会事務局社会教育課長
委 員	福 田 裕 光	奈良県教育委員会事務局人権・社会教育課長
委 員	森 本 吉 春	和歌山大学理事・副学長
委 員	村 田 和 子	和歌山大学生涯学習教育研究センター准教授
委 員	山 本 健 慈	和歌山大学副学長
委 員	松 浦 功	和歌山大学理事・副学長・事務局長
委 員	佐 藤 秀 雄	和歌山大学企画総務課長
委 員	西 村 仁 秀	和歌山大学財務課長

(平成21年 7 月22日現在)

## 1 平成24年度 和歌山大学社会教育主事講習実施要項

- (1)趣 旨 本講習は、社会教育法第9条の5の規定及び社会教育主事講習等規程に基づき実施するもので、社会教育主事の職務を遂行するに必要な専門的知識・技術を習得させ、社会教育主事となりうる資格を附与することを目的とする。
- (2)主 催 文部科学省
- (3)実施機関 和歌山大学
- (4)開催期間 平成24年7月24日(火)～平成24年8月24日(金)
- (5)会 場 和歌山大学松下会館(和歌山大学地域連携・生涯学習センター)  
〒641-0051 和歌山市西高松1-7-20(TEL 073-427-4623)  
秋津野ガルテン  
〒646-0001 和歌山県田辺市上秋津4558-8(TEL 0739-35-1199)  
セミナーハウス未来塾  
〒640-1363 和歌山県海草郡紀美野町田25(TEL 073-498-0521)
- (6)受講定員 50名
- (7)講習科目名、単位数、内容・テーマ、教育方法、配当時間数及び担当講師  
別表1のとおり
- (8)講習日程 別表2のとおり
- (9)単位認定 講習修了後に、各科目の出席状況、演習における発表、レポート及び報告書による総合判定の上、合格した者に対して行う。



## 2 講習科目・講師名

別表 1

科目名	単位数	講義内容・テーマ	教育方法	配当時間数	講 師	
生涯学習概論	2	1. 教育原理と社会教育・生涯学習	講義	3	和歌山大学長	山本 健慈
		2. 社会教育と生涯学習の意義	"	3	和歌山大学理事・副学長	堀内 秀雄
		3. 社会教育の内容と方法	"	3	京都女子大学発達教育学部教授	岩槻 知也
		4. 社会教育施設の現状	"	3	和歌山大学地域連携・生涯学習センター教授	出口 寿久
		5. 学習者支援と社会教育主事の職務	"	3	和歌山大学地域連携・生涯学習センター准教授	村田 和子
		6. 生涯学習政策論ⅠⅡ	"	3	佛光大学教育学部教授	白石 克己
		7. 生涯学習・社会教育政策論Ⅲ	"	1.5	文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課長	平林 正吉
		8. 社会教育と社会教育行政	"	3	和歌山大学地域連携・生涯学習センター准教授	村田 和子
		9. 社会教育・生涯学習施策の体系化	"	3	徳島大学大学開放実践センター教授	馬場祐次朗
		10. 社会教育と学校改革の可能性	"	1.5	前和歌山県教育委員会教育長	山口 裕市
		11. 世界の成人教育	"	3	神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授	末本 誠
社会教育計画論	2	1. 生涯学習・社会教育関連法	講義	3	和歌山大学教育学部教授	久保富三夫
		2. 社会教育と地域	"	1.5	和歌山大学経済学部教授	足立 基浩
		3. 社会教育事業計画と評価	"	3	和歌山大学教育学部教授	山崎由可里
		4. 社会教育委員の役割	"	1.5	貝塚市社会教育委員	梅原 直子
		5. 社会教育施設の経営	"	3	和歌山大学附属図書館長	渡部 幹雄
		6. 高齢社会と社会教育計画	"	1.5	和歌山大学地域連携・生涯学習センター客員教授	松岡 伸也
		7. 地域子ども組織と社会教育計画	"	3	和歌山大学教育学部教授	松越 勝
		8. 学校と地域社会の連携・協働	"	3	和歌山大学地域連携・生涯学習センター教授	出口 寿久
		9. 教育委員会制度と教育	"	3	神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授	山下 晃一
		10. 教育の現代的課題と社会教育	"	3	和歌山大学教育学部准教授	越野 章史
		11. 教育方法の理論	"	1.5	和歌山大学教育学部准教授	平田 知美
		12. 学習情報の整理とデータの活用	"	3	和歌山大学教育学部准教授	豊田 充崇
社会教育演習	2	地域社会教育計画の企画・立案 (1)家庭教育・子育て支援	演習	60	和歌山大学地域連携・生涯学習センター准教授	村田 和子
		(2)まちづくり・生涯学習	"		和歌山大学地域連携・生涯学習センター客員教授	古田 義久
		(3)地域の青少年育成と生涯学習	"		和歌山大学地域連携・生涯学習センター教授	出口 寿久
		(4)開かれた学校づくり	"		和歌山大学南紀熊野サテライト特任助教	西川 一弘
		(5)健康・生涯スポーツ	"		和歌山大学教育学部教授	松越 勝
			"		和歌山大学教育学部教授	山崎由可里
社会教育特講	3				和歌山大学教育学部教授	越野 章史
					和歌山大学教育学部准教授	平田 知美
					和歌山大学教育学部教授	本山 貢
					和歌山大学教育学部講師	彦次 佳
		1. 生涯スポーツ論	講義	1.5	和歌山大学教育学部講師	彦次 佳
		2. 健康スポーツと社会教育	"	1.5	和歌山大学教育学部教授	本山 貢
		3. 地域調査と地域再生	"	1.5	和歌山大学システム工学部准教授	平田 隆行
		4. 社会教育・生涯学習計画と住民の活動	"	1.5	田辺市教育委員会生涯学習部生涯学習課長	小川 雅則
		5. 子育て最前線事情と社会教育	"	1.5	つばき共同保育園園長・和歌山大学地域連携・生涯学習センター客員教授	市原 悟子
		6. NPO・ボランティア活動と社会教育	"	1.5	わかやまNPOセンター副理事長	有井 安仁
		7. 家庭問題と社会教育	"	3	和歌山大学地域連携・生涯学習センター客員教授	古田 義久
		8. 震災後の自治体財政の役割を考える	"	3	立命館大学経済学部教授	河音 琢郎
		9. 伝統文化と上方文化	"	1.5	天満天神繁昌亭支配人	恩田 雅和
		10. 文化財保護と活用	"	1.5	京都国立博物館副館長	栗原 祐司
		11. 人権問題と社会教育	"	1.5	和歌山県教育庁生涯学習局生涯学習課人権教育推進室主任指導主事	堂本 淳也
		12. 障害者問題と社会教育	"	3	社会福祉法人一麦会麦の郷理事	伊藤 静美
		13. 社会福祉と社会教育	"	1.5	和歌山大学経済学部准教授	金川めぐみ
		14. 高・大・地域連携	"	1.5	和歌山県立粉河高等学校教諭	横出加津彦
		15. 災害とジェンダー	"	1.5	福島県男女共生センター副主査	長沢 涼子
		16. 「新しい公共」と社会教育	"	—	京都造形芸術大学芸術学部教授	寺脇 研

科目名	単位数	講義内容・テーマ	教育方法	配当時間数	講 師	
社会教育特講		17. 子育て・子育てネットワーク	シンポジウム	3	貝塚子育てネットワークの会代表 貝塚市立中央公民館嘱託職員 子育て支援NPO法人あったカフェ代表 わかやま子育てサークル本部サンマザー代表 ※和歌山大学地域連携・生涯学習センター准教授	木藤 順子 中川 知子 岩崎ひろみ 林 明子 村田 和子
		18. 災害と社会教育	〃	3	和歌山大学防災研究教育センター特任准教授 福島県男女共生センター事業課社会教育主事 新宮市社会福祉協議ボランティアコーディネーター ※和歌山大学地域連携・生涯学習センター准教授	照本 清峰 森 米吉 奥田 修子 村田 和子
		19. 若者支援とまちづくり	〃	3	和歌山県教育庁県西牟婁教育支援事務所社会教育主事 奈良市生涯学習財団職員 NPO法人ハートツリー代表 ※和歌山大学南紀熊野サテライト特任助教	福田 勝也 佐野万里子 南 芳樹 西川 一弘
		20. 地域づくりと地域再生	〃	3	和歌山外国語専門学校長（和歌山県社会教育委員長） 農業法人関秋津野社長 那智勝浦町教育委員 ※和歌山大学地域連携・生涯学習センター教授	藪添 泰弘 玉井 常貴 伊藤 松枝 出口 寿久
		21. きのくに共育コミュニティと社会教育	〃	3	和歌山県教育庁生涯学習局生涯学習課社会教育主事 新宮市立緑丘中学校長 上富田町共育コミュニティ推進本部地域共育コーディネーター ※和歌山大学地域連携・生涯学習センター教授	松下 香好 速水 盛康 松本 輝子 出口 寿久
		22. 「新しい公共」と社会教育	〃	3	京都造形芸術大学芸術学部教授 前和歌山県教育委員会教育長 和歌山大学長 ※和歌山大学理事・副学長	寺脇 研 山口 裕市 山本 健慈 堀内 秀雄

※コーディネーター

### 3 講習日程表

別表 2

月	日	曜	午 前		午 後			夜 間	備考
			9:20～10:40	10:50～12:10	13:10～14:30	14:40～16:00	16:10～17:30	18:30～21:20	
7	24	火	生涯学習概論(山本)		生涯学習概論(堀内)		生涯学習概論(山口)		
	25	水	生涯学習概論(村田)		生涯学習概論(出口)	生涯学習概論(馬場)			
	26	木	生涯学習概論(村田)			生涯学習概論(末本)			
	27	金	生涯学習概論(岩槻)		生涯学習概論(白石)		生涯学習概論(平林)		
	30	月		社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習	合宿研修
	31	火	社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習		合宿研修
8	1	水		社会教育計画(足立)	社会教育計画(船越)		社会教育計画(梅原)		
	2	木	社会教育計画(山崎)		社会教育計画(松岡)	社会教育計画(豊田)			
	3	金	社会教育計画(渡部)		社会教育計画(久保)		社会教育特講(有井)		
	4	土	社会教育特講(伊藤)		社会教育特講(河音)				
	6	月	社会教育計画(山下)		社会教育計画(平田)	社会教育計画(出口)			
	7	火	社会教育計画(越野)		社会教育特講(市原)	社会教育特講(子育て・子育てネットワーク)			
	8	水	社会教育特講(金川)	社会教育特講(横出)	社会教育特講(堂本)	社会教育特講(地域づくりと地域再生)			
	9	木	社会教育特講(彦次)	社会教育特講(本山)	社会教育特講(長沢)	社会教育特講(災害と社会教育)			
	10	金	社会教育特講(古田)		社会教育特講(小川)	社会教育特講(若者支援とまちづくり)			
	16	木	社会教育特講(栗原)	社会教育特講(恩田)	社会教育特講(平田)	社会教育特講(きのくに共育コミュニティと社会教育)			
	17	金	社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習		
	20	月		社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習	合宿研修
	21	火	社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習	合宿研修
	22	水	社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習		合宿研修
	23	木		社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習	社会教育演習		
	24	金	社会教育演習	社会教育演習	社会教育特講(寺脇)	社会教育特講 (新しい「公共」と社会教育)	16:30～閉講式		

\* 7/24(火)は開講式のため、開始時刻、終了時刻は20分遅れ

#### ■社会教育演習

- (1)家庭教育・子育て支援 村田、古田(佐武)
- (2)まちづくり・生涯学習 出口、西川(杉本)
- (3)地域の青少年育成と生涯学習 船越、山崎(岸岡)
- (4)開かれた学校づくり 越野、平田(水上)
- (5)健康・生涯スポーツ 本山、彦次(和田)

■ 7/30～7/31の合宿場所は、秋津野ガルテン(田辺市上秋津)

8/20～8/22の合宿場所は、セミナーハウス未来塾(海草郡紀美野町)

#### 4 平成24年度 和歌山大学社会教育主事講習運営委員会 委員一覧

役 職	氏 名	官 職 等
委員長	出 口 寿 久	和歌山大学地域連携・生涯学習センター長／教授
委 員	伊 藤 学 司	文部科学省生涯学習政策局社会教育課長
委 員	森 本 修 司	和歌山県教育庁生涯学習課長
委 員	北 野 允	滋賀県教育委員会生涯学習課長
委 員	丸 川 修	京都府教育庁指導部社会教育課長
委 員	吉 原 孝	大阪府教育委員会地域教育振興課長
委 員	石 橋 晶	兵庫県教育委員会社会教育課長
委 員	奥 田 秀 紀	奈良県教育委員会人権・地域教育課長
委 員	平 田 健 正	和歌山大学地域創造支援機構長、理事・副学長(地域連携・研究支援)
委 員	盛 本 力	和歌山大学理事・副学長(総務・財務・施設)
委 員	村 田 和 子	和歌山大学地域連携・生涯学習センター准教授
委 員	瀧 口 美千代	和歌山大学社会連携課長

(平成24年 7 月24日現在)

## 1 平成27年度 和歌山大学社会教育主事講習実施要項

1. 趣 旨 本講習は、社会教育法第9条の5の規定及び社会教育主事講習等規程に基づき実施するもので、社会教育主事の職務を遂行するに必要な専門的知識・技術を習得させ、社会教育主事となる資格を附与することを目的とする。
2. 主 催 文部科学省
3. 実施機関 和歌山大学
4. 開催期間 平成27年7月22日(水)～平成27年8月21日(金)
5. 会 場 和歌山大学松下会館(和歌山大学地域連携・生涯学習センター)  
〒641-0051 和歌山市西高松1-7-20 (TEL 073-427-4623)  
秋津野ガルテン  
〒646-0001 和歌山県田辺市上秋津4558-8 (TEL 0739-35-1199)  
セミナーハウス未来塾  
〒640-1363 和歌山県海草郡紀美野町田25 (TEL 073-498-0521)
6. 受講定員 50名
7. 講習を行う科目名、単位数、内容・テーマ、教育方法、配当時間数及び担当講師  
別表1のとおり
8. 講習日程 別表2のとおり
9. 単位認定 講習修了後に、各科目の出席状況、演習における発表、レポート及び報告書による総合判定の上、合格した者に対して行う。

## 2 講習科目・時間・講師名

別表1

科目名	月日	時 間	時間数	内容・テーマ	講師の職・氏名
生涯学習概論	7/22(休)	11:00-12:20 13:10-14:30	3.0	社会教育・生涯学習の意義	和歌山大学地域連携・生涯学習センター教授 村田 和子
	7/22(休)	14:40-16:00 16:10-17:30	3.0	社会教育・生涯学習の内容と方法	和歌山大学地域連携・生涯学習センター講師 西川 一弘
	7/23(休)	09:30-10:50 11:00-12:20	3.0	教育の現代的課題と社会教育	和歌山大学教育学部准教授 越野 章史
	7/23(休)	13:10-14:30	1.5	社会教育の歴史	和歌山大学地域連携・生涯学習センター教授 村田 和子
	7/23(休)	14:40-16:00	1.5	生涯学習政策論Ⅰ	文部科学省社会教育課課長補佐 佐藤 秀雄
	7/23(休)	16:10-17:30	1.5	生涯学習政策論Ⅱ	文部科学省社会教育課課長補佐 佐藤 秀雄
	7/24(金)	09:30-10:50 11:00-12:20	3.0	社会教育行政と社会教育主事の職務	和歌山大学地域連携・生涯学習センター教授 村田 和子
	7/24(金)	13:10-14:30 14:40-16:00	3.0	世界の成人教育	神戸大学名誉教授 末本 誠
	7/24(金)	16:10-17:30	1.5	社会教育の評価	和歌山大学地域連携・生涯学習センター教授 村田 和子
	7/27(月)	09:30-10:50 11:00-12:20	3.0	教育方法の理論	和歌山大学教育学部准教授 谷口 知美
	7/27(月)	13:10-14:30	1.5	社会教育・生涯学習の施設	和歌山大学地域連携・生涯学習センター講師 西川 一弘
	7/27(月)	14:40-16:00 16:10-17:30	3.0	社会教育と福祉の連携	和歌山大学教育学部教授 山崎 由可里
	7/28(火)	09:30-10:50	1.5	社会教育の制度	和歌山大学地域連携・生涯学習センター講師 西川 一弘
社会教育計画	7/28(火)	11:00-12:20 13:10-14:30	3.0	社会教育計画論	和歌山大学附属図書館教授 渡部 幹雄
	7/28(火)	14:40-16:00 16:10-17:30	3.0	生涯スポーツの計画づくり	和歌山大学教育学部准教授 彦次 佳
	7/29(水)	09:30-10:50 11:00-12:20	3.0	社会教育と学校教育改革の可能性	元和歌山県教育委員会教育長 山口 裕市
	7/29(水)	13:10-14:30	1.5	メディアリテラシーの理解	和歌山大学教育学部教授 豊田 充崇
	7/29(水)	14:40-16:00 16:10-17:30	3.0	社会教育における調査データの活用	和歌山大学教育学部教授 豊田 充崇
	8/3(月)	09:30-10:50 11:00-12:20	3.0	社会教育・生涯学習計画と住民の活動	和歌山県田辺市生涯学習課 岡本 将之・山本 良明
	8/3(月)	13:10-14:30 14:40-16:00	3.0	社会教育・生涯学習関連法	和歌山大学教育学部教授 添田 久美子
	8/3(月)	16:10-17:30	1.5	教育委員会制度と教育行政	和歌山大学教育学部教授 添田 久美子
	8/4(火)	09:30-10:50	1.5	社会教育委員の役割	橋本市社会教育委員会議議長 佐藤 律子
	8/4(火)	11:00-12:20 13:10-14:30	3.0	ESDと社会教育	岡山県教育委員会生涯学習課課長補佐 内田 光俊
	8/4(火)	14:40-16:00 16:10-17:30	3.0	地域子ども組織と社会教育計画	和歌山大学教育学部教授 船越 勝
社会教育演習	後掲日程表のとおり		60.0	地域社会教育計画の企画・立案 ①家庭教育・子育て支援 ②まちづくり・生涯学習 ③地域の青少年育成と生涯学習 ④開かれた学校づくり ⑤健康・生涯スポーツ	①和歌山大学地域連携・生涯学習センター教授 村田 和子、 和歌山信愛女子短期大学准教授 森下 順子 ②和歌山大学地域連携・生涯学習センター講師 西川 一弘、 わかやま地元力応援基金専務理事 有井 安仁 ③和歌山大学教育学部教授 船越 勝、 和歌山大学教育学部教授 山崎 由可里 ④和歌山大学教育学部准教授 越野 章史、 和歌山大学教育学部准教授 谷口 知美 ⑤和歌山大学教育学部准教授 彦次 佳、 和歌山大学教育学部教授 本山 貢

科目名	月日	時 間	時間数	内容・テーマ	講師の職・氏名
社会 教育 特 講	8/5(木)	11:00-12:20 13:10-14:30	3.0	自治体財政論	和歌山大学経済学部准教授 中島 正博
	8/5(木)	14:40-16:00 16:10-17:30	3.0	健康スポーツと社会教育	和歌山大学教育学部教授 本山 貢
	8/6(木)	09:30-10:50 11:00-12:20	3.0	地域調査と地域再生	和歌山大学経済学部教授 足立 基浩
	8/6(木)	13:10-14:30	1.5	高大地域連携(学校づくりと地域づくり)	和歌山県立粉河高等学校教諭 横出 加津彦
	8/6(木)	14:40-16:00 16:10-17:30	3.0	(学校づくりと地域づくり) シンポジウム	和歌山県立粉河高等学校教諭 横出 加津彦 紀州粉河まちづくりNPO 楠 富晴 桃山学院大学学生 西端 崇典
	8/7(金)	09:00-10:50	1.5	社会的排除と社会教育	和歌山大学経済学部准教授 金川 めぐみ
	8/7(金)	11:00-12:20	1.5	高齢者問題と社会教育	和歌山大学経済学部准教授 金川 めぐみ
	8/7(金)	13:10-14:30	1.5	障がい者問題と社会教育	社会福祉法人麦の郷理事長 田中 秀樹
	8/7(金)	14:40-16:00 16:10-17:30	3.0	東日本大震災と社会教育	福島大学行政政策学類教授 千葉 悦子
	8/8(土)	09:30-10:50	1.5	伝統文化と上方文化	天満天神繁昌亭支配人 恩田 雅和
	8/8(土)	11:00-12:20	1.5	上方落語と文学	天満天神繁昌亭支配人 恩田 雅和
	8/8(土)	13:30-16:30	3.0	祭礼と地域社会	和歌山大学紀州経済史文化史研究所特任准教授 吉村 旭輝
	8/17(月)	09:30-10:50 11:00-12:20	3.0	カウンセリングの理論と実際	和歌山信愛女子短期大学准教授 森下 順子
	8/17(月)	13:10-14:30	1.5	男女共同参加社会の課題	和歌山県男女共同参画センターいぶる所長 山中 浩子
	8/17(月)	14:40-16:00 16:10-17:30	3.0	現代子育て最前線事情	社会福祉法人アトム共同福祉会理事長 市原 悟子
	8/18(火)	09:30-10:50 11:00-12:20	3.0	NPO・ボランティアと社会教育	大阪ボランティア協会事務局主幹 岡村 こず恵
	8/18(火)	13:10-14:30	1.5	若者支援と社会教育	南紀若者サポートステーション 南 芳樹
	8/18(火)	14:40-16:00 16:10-17:30	3.0	(若者支援と社会教育) シンポジウム	和歌山県教育委員会西牟婁教育事務所社会教育主事 福田 勝也、 奈良市生涯学習財団 佐野 万里子、 大阪府守口市職員 播磨 正弥
	8/19(水)	09:30-10:50	1.5	地域学習の創造	東京大学名誉教授 佐藤 一子
	8/19(水)	11:00-12:20	1.5	(社会教育の未来と大学の役割) シンポジウム	東京大学名誉教授 佐藤 一子 和歌山大学地域連携・生涯学習センター教授 村田 和子

### 3 講習日程表

別表 2

日程・時間	午 前		午 後			夜 間		会場
	9:30-10:50	11:00-12:20	13:10-14:30	14:40-16:00	16:10-17:30	18:30-19:50	20:10-21:30	
7月22日(休)	10:00 開講式	A	A	A	A			M
7月23日(休)	A	A	A	A	A			M
7月24日(休)	A	A	A	A	A			M
7月27日(月)	A	A	A	A	A			M
7月28日(火)	A	B	B	B	B			M
7月29日(水)	B	B	B	B	B			M
7月30日(木)		C	C	C	C	C	C	T
7月31日(金)	C	C	C	C	C			T
8月3日(日)	B	B	B	B	B			M
8月4日(火)	B	B	B	B	B			M
8月5日(水)	B	D	D	D	D			M
8月6日(木)	D	D	D	D	D			M
8月7日(金)	D	D	D	D	D			M
8月8日(土)	D	D	D ※1	D ※2				M
8月10日(月)		C	C	C	C	C	C	K
8月11日(火)	C	C	C	C	C			K
8月12日(水)		C	C	C	C	C		M
8月17日(日)	D	D	D	D	D			M
8月18日(火)	D	D	D	D	D			M
8月19日(水)	D	D	C	C	C	C		M
8月20日(木)	C	C	C	C	C	C		M
8月21日(金)		C	C	C	16:00 閉講式			M

○表の見方

A	生涯学習概論（2単位）	B	社会教育計画（2単位）
C	社会教育演習（2単位）	D	社会教育特講（3単位）

○会場

M	和歌山大学松下会館	T	秋津野ガルテン
K	セミナーハウス未来塾		

※1 13:30開始

※2 16:30終了



#### 4 平成27年度 和歌山大学社会教育主事講習運営委員会 委員一覧

役 職	氏 名	職 名
委員長	村 田 和 子	和歌山大学地域連携・生涯学習センター副センター長/教授
委 員	谷 合 俊 一	文部科学省生涯学習政策局社会教育課長
委 員	雑 賀 敏 浩	和歌山県教育庁生涯学習局生涯学習課長
委 員	津 田 清	大阪府教育委員会事務局市町村教育室地域教育振興課長
委 員	西 明 夫	兵庫県教育委員会社会教育課長
委 員	阿 部 篤 士	京都府教育庁指導部社会教育課長
委 員	山 崎 薫	滋賀県教育委員会生涯学習課長
委 員	筒 井 昭 彦	奈良県教育委員会人権・地域教育課長
委 員	遠 藤 史	和歌山大学地域連携・生涯学習センター長/経済学部教授
委 員	西 川 一 弘	和歌山大学地域連携・生涯学習センター講師
委 員	西 川 博 紀	和歌山大学総務課地域連携室長

## 1. 平成30年度 和歌山大学社会教育主事講習実施要項

1. 趣 旨                      本講習は、社会教育法第9条の5の規定及び社会教育主事講習等規程に基づき実施するもので、社会教育主事の職務を遂行するに必要な専門的知識・技術を習得させ、社会教育主事となる資格を附与することを目的とする。
2. 主      催                      文部科学省
3. 実施機関                      和歌山大学
4. 開催期間                      平成30年7月23日（月）～ 平成30年8月21日（火）
5. 会      場                      和歌山大学キャンパス内（北4号館（産学連携イノベーションセンター）他）  
〒640-8510 和歌山市栄谷 930                      (TEL 073-457-7152)  
  
秋津野ガルテン  
〒646-0001 和歌山県田辺市上秋津 4558-8                      (TEL 0739-35-1199)
6. 受講定員                      50 名
7. 講習を行う科目名、単位数、内容・テーマ、教育方法、配当時間数及び担当講師  
別表1のとおり
8. 講習日程                      別表2のとおり
9. 単位認定                      講習修了後に、各科目の出席状況、演習における発表、レポート及び報告書による総合判定の上、合格した者に対して行う。

## 2. 講習科目・時間・講師名

別表 1

科目名	月 日	時 間	時間数	内 容 ・ テー マ	講師予定者の職・氏名
生涯学習概論	7/23 (月)	11:00-12:20 13:10-14:30	3.0	社会教育・生涯学習の意義	和歌山大学クロスカル教育機構生涯学習部門教授 村田 和子
	7/23 (月)	14:40-16:00 16:10-17:30	3.0	社会教育・生涯学習の内容と方法	和歌山大学クロスカル教育機構生涯学習部門准教授 西川 一弘
	7/24 (火)	09:30-10:50	1.5	社会教育行政と社会教育主事の職務	和歌山大学クロスカル教育機構生涯学習部門教授 村田 和子
	7/24 (火)	11:00-12:20	1.5	教育委員会制度と教育行政	和歌山大学教育学部教授 添田 久美子
	7/24 (火)	13:10-14:30 14:40-16:00	3.0	社会教育・生涯学習関連法	和歌山大学教育学部教授 添田 久美子
	7/24 (火)	16:10-17:30	1.5	社会教育行政と社会教育主事の職務	和歌山大学クロスカル教育機構生涯学習部門教授 村田 和子
	7/25 (水)	09:30-10:50 11:00-12:20	3.0	学校・家庭・地域の連携	和歌山大学クロスカル教育機構生涯学習部門准教授 西川 一弘
	7/25 (水)	13:10-14:30 14:40-16:00	3.0	教育方法の理論	和歌山大学教育学部准教授 谷口 知美
	7/26 (木)	09:30-10:50 11:00-12:20	3.0	教育の現代的諸課題と社会教育	和歌山大学教育学部教授 越野 章史
	7/26 (木)	13:10-14:30 14:40-16:00	3.0	子ども理解と社会教育	和歌山大学教育学部准教授 二宮 衆一
	7/26 (木)	16:10-17:30	1.5	生涯学習関連政策の動向	文部科学省生涯学習政策局社会教育課運営支援係長 久保 晃一
	7/28 (土)	09:30-10:50 11:00-12:20	3.0	社会教育施設	和歌山大学クロスカル教育機構生涯学習部門教授 村田 和子
社会教育計画	7/27 (金)	09:30-10:50	1.5	社会教育の評価	和歌山大学クロスカル教育機構生涯学習部門教授 村田 和子
	7/27 (金)	11:00-12:20 13:10-14:30	3.0	地域こども組織と社会教育計画	和歌山大学教育学部教授 船越 勝
	7/27 (金)	14:40-16:00 16:10-17:30	3.0	生涯スポーツの計画づくり	和歌山大学教育学部准教授 彦次 佳
	7/28 (土)	13:10-14:30	1.5	公民館事業の企画・立案・実施・評価	大阪府貝塚市中央公民館職員 中川 知子
	7/28 (土)	14:40-16:00 16:10-17:30	3.0	社会教育・生涯学習計画と事業計画	和歌山大学クロスカル教育機構生涯学習部門教授 村田 和子
	7/30 (月)	09:30-10:50 11:00-12:20	3.0	社会教育における調査データの活用	和歌山大学教育学部教職大学院教授 豊田 充崇
	7/30 (月)	13:10-14:30	1.5	メディア・リテラシーの理解	和歌山大学教育学部教職大学院教授 豊田 充崇
	7/30 (月)	14:40-16:00 16:10-17:30	3.0	カウンセリングの理論と方法	和歌山信愛女子短期大学准教授 森下 順子
	8/4 (土)	09:30-10:50 11:00-12:20	3.0	健康スポーツと社会教育	和歌山大学教育学部教授 本山 貢
	8/4 (土)	13:10-14:30	1.5	自治体財政論①	和歌山県上富田町企画員 中島 正博
	8/4 (土)	14:40-16:00	1.5	自治体財政論②	和歌山県上富田町企画員 中島 正博
	8/4 (土)	16:10-17:30	1.5	自治体財政論③	和歌山県上富田町企画員 中島 正博
	8/6 (月)	09:30-10:50 11:00-12:20	3.0	地域調査と地方創生	和歌山大学経済学部教授 足立 基浩
	7/27(金)18:30-19:50 7/31(火)11:00-19:50 8/ 1(水) 9:30-21:30 8/ 2(木) 9:30-17:30 8/ 3(金)11:00-17:30 8/17(金) 9:30-17:30 8/18(土) 9:30-17:30 8/20(月) 9:30-19:50 8/21(火) 9:30-12:20 詳細は別表2のとおり		60.0	地域社会教育計画の企画・立案 ①家庭教育・子育て支援 ②まちづくり・生涯学習 ③地域の青少年育成と生涯学習 ④開かれた学校づくり ⑤健康・生涯スポーツ	①和歌山大学クロスカル教育機構生涯学習部門教授 村田 和子 和歌山信愛女子短期大学准教授 森下 順子 ②和歌山大学クロスカル教育機構生涯学習部門准教授 西川 一弘 和歌山県立医科大学教育研究開発センター特別研究員 平野 隆則 ③和歌山大学教育学部教授 船越 勝 和歌山大学教育学部准教授 二宮 衆一 ④和歌山大学教育学部准教授 越野 章史 和歌山大学教育学部准教授 谷口 知美 ⑤和歌山大学教育学部准教授 彦次 佳 和歌山大学教育学部教授 本山 貢

科目名	月 日	時 間	時間数	内容・テーマ	講師予定者の職・氏名
社会教育特講	7/25 (水)	16:10-17:30	1.5	ファシリテーション・ワークショップの実際(1)	和歌山大学教育研究アドバイザー 後藤 千晴
	8/6 (月)	13:10-14:30 14:40-16:00	3.0	NPO・ボランティアと社会教育	公益財団法人わかやま地元力応援基金専務理事 有井 安仁
	8/6 (月)	16:10-17:30	1.5	ファシリテーション・ワークショップの実際(2)	和歌山大学教育研究アドバイザー 後藤 千晴
	8/7 (火)	09:30-10:50 11:00-12:20	3.0	社会福祉と社会教育の連携	和歌山大学教育学部教授 山崎 由可里
	8/7 (火)	13:10-14:30	1.5	「みえない障害」の理解	和歌山大学障がい学生支援部門講師 森 麻友子
	8/7 (火)	14:40-16:00 16:10-17:30	3.0	災害と社会教育	熊本大学教育学部准教授 山城 千秋
	8/8 (水)	09:30-10:50 11:00-12:20	3.0	図書館運営論	和歌山大学附属図書館長 教授 渡部 幹雄
	8/8 (水)	13:10-14:30 14:40-16:00	3.0	ESDと社会教育	岡山市教育委員会職員 内田 光俊
	8/8 (水)	16:10-17:30	1.5	文化財の保護と活用	和歌山県岩出市教育委員会専門員 本多 元成
	8/9 (木)	09:30-10:50 11:00-12:20	3.0	人権教育の推進について	和歌山県教育庁生涯学習局生涯学習課人権教育推進室専門員 山本 美博
	8/9 (木)	13:10-14:30	1.5	若者支援と社会教育	南紀若者サポートステーション 南 芳樹
	8/9 (木)	14:40-16:00 16:10-17:30	3.0	(若者支援と社会教育)シンポジウム	和歌山県教育庁西牟婁教育支援事務所社会教育主事 福田 勝也 奈良市生涯学習財団 佐野 万里子 大阪府忠岡町教育委員会教育部生涯学習課主事 川端 謙太
	8/10 (金)	09:30-10:50	1.5	社会的排除と社会教育	和歌山大学経済学部准教授 金川 めぐみ
	8/10 (金)	11:00-12:20	1.5	高齢者問題と社会教育	和歌山大学経済学部准教授 金川 めぐみ
	8/10 (金)	13:10-14:30 14:40-16:00	3.0	多文化共生と社会教育	和歌山大学教育学部非常勤講師 藤田 美佳
	8/10 (金)	16:10-17:30	1.5	障害者と地域社会	社会福祉法人一麦会理事長 田中 秀樹
	8/16 (木)	09:30-10:50 11:00-12:20	3.0	現代子育て最前線事情	社会福祉法人アトム共同福祉会理事長 市原 悟子
	8/16 (木)	13:10-14:30	1.5	高大地域連携	和歌山県立粉河高校教諭 横出 加津彦
	8/16 (木)	14:40-16:00 16:10-17:30	3.0	(学校づくり・地域づくり)シンポジウム	和歌山県立粉河高校教諭 横出 加津彦 天野里づくりの会 会長 谷口 千明 和歌山大学クロスカル教育機構生涯学習部門教授 村田 和子
	8/21 (火)	13:10-14:30	1.5	大学と地域社会	国立大学協会専務理事 山本 健慈

所属 2018年4月1日現在

### 3. 講習日程表

別表2

日程・時間	午前			午後			夜間		会場
	9:30-10:50	11:00-12:20		13:10-14:30	14:40-16:00	16:10-17:30	18:30-19:50	20:10-21:30	
7月23日（月）	10:00 開講式	A		A	A	A			W_北4
7月24日（火）	A	A		A	A	A			W_北4
7月25日（水）	A	A		A	A	D			W_北4
7月26日（木）	A	A		A	A	A			W_北4
7月27日（金）	B	B		B	B	B	C		W_北4
7月28日（土）	A	A		B	B	B			W_北4
7月30日（月）	B	B		B	B	B			W_北4
7月31日（火）		C		C	C	C	C		G
8月1日（水）	C	C		C	C	C	C	C	G
8月2日（木）	C	C		C	C	C			G
8月3日（金）		C		C	C	C			W_北4
8月4日（土）	B	B		B	B	B			W_北4
8月6日（月）	B	B		D	D	D			W_北4
8月7日（火）	D	D		D	D	D			W_北4
8月8日（水）	D	D		D	D	D			W_北4
8月9日（木）	D	D		D	D	D			W_北4
8月10日（金）	D	D		D	D	D			W_北4
8月16日（木）	D	D		D	D	D			W_北4
8月17日（金）	C	C		C	C	C			W_西2
8月18日（土）	C	C		C	C	C			W_西2
8月20日（月）	C	C		C	C	C	C		W_西2
8月21日（火）	C	C		D	14:30 閉講式				W_西2 W_北4

○表の見方

A	生涯学習概論（2単位）	B	社会教育計画（2単位）
C	社会教育演習（2単位）	D	社会教育特講（3単位）

○会場

W_北4	和歌山大学北4号館 （産学連携イノベーションセンター）	W_西2	和歌山大学西2号館 （経済学部講義棟）	G	秋津野ガルテン
------	--------------------------------	------	------------------------	---	---------

#### 4. 平成30年度 和歌山大学社会教育主事講習運営委員会

##### 委員一覧

役 職	氏 名	職 名
委員長	村田 和子	和歌山大学地域イノベーション機構地域活性化総合センター教授
委 員	八木 和広	文部科学省生涯学習政策局社会教育課長
委 員	合田 遼	滋賀県教育委員会生涯学習課長
委 員	片山 嘉徳	京都府教育庁指導部社会教育課長
委 員	大野 広	大阪府教育庁市町村教育室地域教育振興課長
委 員	土屋 由利子	兵庫県教育委員会社会教育課長
委 員	大山 博司	奈良県教育委員会人権・地域教育課長
委 員	中村 憲司	和歌山県教育庁生涯学習局生涯学習課長
委 員	足立 基浩	和歌山大学経済学部教授／地域イノベーション機構地域活性化総合センター長
委 員	西川 一弘	和歌山大学地域イノベーション機構地域活性化総合センター准教授
委 員	千葉 清行	和歌山大学研究・社会連携課長

# KOKÔ 塾「まなびの郷」

「高校大学連携」に関しては、今日の「高大接続」、「スーパーグローバルハイスクール」にみられるように国際競争に勝ち抜くための教育政策が推進されている。他方、グローバリゼーションが進展し、人口減少・超高齢化社会が進行するなか、高校と大学、地域社会の互恵的な連携を図り、青年を育てる視座が提起され、地域社会の担い手の形成も含めて実践的な研究課題としての高大地域連携も生まれている。

粉河高校は普通科と理数科をもち、定時制を併設している高校で、2000年に100周年を迎えた非常に伝統のある学校である。この伝統校も、大学・地域連携が始まる前は、学校が荒れ、地域からの評判も悪く、苦情が多かった。また、歴史的にもこの地方の中心地として発展してきたこの地域が、疲弊し、商店街はシャッターが降りたままの商店が増えてきていた。学校の状況、地域の状況、そしてそれらの状況が生徒をとりまいている、その関係を変えていかなければならない。『学校が変わり地域が変わると、生徒（子どもたち）の育ちが変わる』と、当時の校長であった山口裕市と、和歌山大学生涯学習教育センター（現地域連携・生涯学習センター）の堀内秀雄との出会いと発案により、地域の再生という「地域づくり」と＜荒れた学校＞の再生という学校づくりを統合させた社会教育型のKOKÔ塾「まなびの郷」という取り組みを始めることになった。

初年度の2002年は、和歌山大学、地域と粉河高校が連携し、まずは試行という形式で、地域公開型の4つの講演会が開催された。その参加者からの感想には、継続を望む声が多くあった。そこで翌2003年からは、KOKÔ塾「まなびの郷」という名称で、テーマごとのワークショップ形式で取り組まれるようになった。これが、今日に続くテーマ別WGの立ち上げであった。それは、参加者（高校生や地域住民等）が自由に意見やアイデアを出し合ってそれらをまとめ上げていく全員参加型の学びを創り出すもので、学校での授業とは全く異なるものである。

テーマごとにワーキンググループ（WG）は、2003年から「まちづくり」「福祉」「教育」「環境」「情報」の5つのWGが、それぞれ活動している。また、アラカルト講座を設けている年もあった。（図1参照）

1年の流れは、4月に事務局会議で今年の日程や進め方を検討、5月に企画委員会を開催し、方針を決定する。6月、参加者全員によるオリエンテーションを行い、WGの賜与族の決定、各WGごとに年間テーマや活動内容について協議する。その後は、各WGでのそれぞれの活動が年間に渡って随時開催され、2月にその年度の取

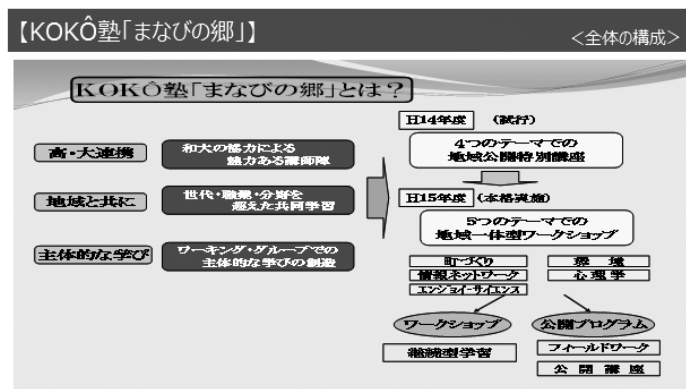


図1

り組みの報告書の作成、年度終わりの3月にジョイントフォーラム（活動成果発表会）を開催し、成果の共有化が進められる。（図2参照）。このほか活動の成果については、毎年「活動報告書」が発行されるほか、大学生涯学習センターによって、実践・研究として10周年史、15周年史『高校が地域コミュニティの核に - 高校・大学・地域の連携』（2017年3月）が発刊されている。

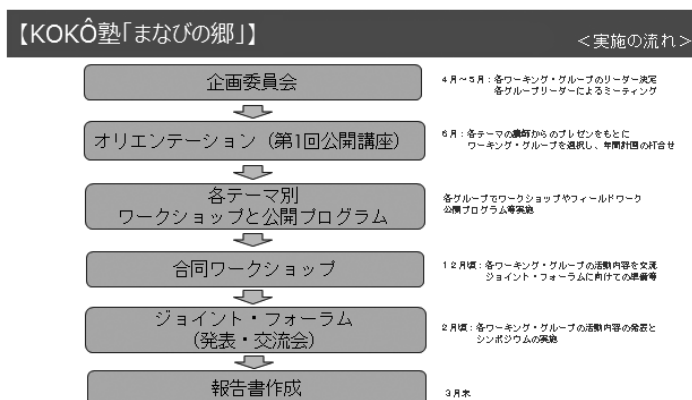


図2

KOKÔ塾事例にみる高大地域連携は、高校生と地域住民という世代を超えた人間的な連帯を生み、既存の価値を問い直し、市場原理に抗した新たな価値を発見、生成し、変革しうる主体を生み出す共同的な学びあいによって、相互の成長をもたらし、地域コミュニティの形成に寄与しているといえる。

※その活動は、「ESD 推進のためのノンフォーマル教育とフォーマル教育との連携」公民館・CLCのためのユネスコ世界会議in 岡山のプレ会議において、2013年10月23日、加藤とも子氏、楠富晴氏によって、次のとおり発表され、世界的に稀有な事例として注目された。

<p>KOKÔ塾「まなびの郷」15周年</p> <p><b>高校が地域コミュニティの核に</b></p> <p>—— 高校・大学・地域の連携 ——</p> <p>和歌山大学</p> <p>和歌山県立粉河高等学校</p> <p>2017年（平成29年）</p>	<p>目次</p> <p>序言に当たって</p> <p>KOKÔ塾「まなびの郷」代表世話人・和歌山大学 校長 柳 孝一……………3</p> <p>目次</p> <p>和歌山県立粉河高等学校 校長 藤 田 昌……………4</p> <p>序言</p> <p>西岡 謙 柳 孝一 佐藤 正史 野田 隆雄……………5</p> <p>【編纂・研究の経緯】</p> <p>「ESDを推進するための学習と地域の連携」をテーマとする、 和歌山大学校長 佐藤正史氏、和歌山県立粉河高等学校校長 藤田昌一氏、 和歌山大学 生涯学習部門 教授 柳 田 孝一……………10</p> <p>KOKÔ塾のシステム化と、活動の発展</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………11</p> <p>「和歌山大学」の発展</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………12</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………13</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………14</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………15</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………16</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………17</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………18</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………19</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………20</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………21</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………22</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………23</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………24</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………25</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………26</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………27</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………28</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………29</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………30</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………31</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………32</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………33</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………34</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………35</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………36</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………37</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………38</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………39</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………40</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………41</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………42</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………43</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………44</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………45</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………46</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………47</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………48</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………49</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………50</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………51</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………52</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………53</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………54</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………55</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………56</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………57</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………58</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………59</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………60</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………61</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………62</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………63</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………64</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………65</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………66</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………67</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………68</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………69</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………70</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………71</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………72</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………73</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………74</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………75</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………76</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………77</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………78</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………79</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………80</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………81</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………82</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………83</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………84</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………85</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………86</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………87</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………88</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………89</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………90</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………91</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………92</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………93</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………94</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………95</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………96</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………97</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………98</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………99</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………100</p>	<p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………101</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………102</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………103</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………104</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………105</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………106</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………107</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………108</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………109</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………110</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………111</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………112</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………113</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………114</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………115</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………116</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………117</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………118</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………119</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………120</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………121</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………122</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………123</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………124</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………125</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………126</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………127</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………128</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………129</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………130</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………131</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………132</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………133</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………134</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………135</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………136</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………137</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………138</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………139</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………140</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………141</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………142</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………143</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………144</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………145</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………146</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………147</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………148</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………149</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………150</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………151</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………152</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………153</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………154</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………155</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………156</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………157</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………158</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………159</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………160</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………161</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………162</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………163</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………164</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………165</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………166</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………167</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………168</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………169</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………170</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………171</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………172</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………173</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………174</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………175</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………176</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………177</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………178</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………179</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………180</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………181</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………182</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………183</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………184</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………185</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………186</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………187</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………188</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………189</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………190</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………191</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………192</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………193</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………194</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………195</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………196</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………197</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………198</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………199</p> <p>和歌山大学 教授 柳 田 孝一……………200</p>
---	---	---



KOKÔ塾 10周年記念ジョイントフォーラム（2012年3月）



## ESD（Education for Sustainable Development ; 持続可能な開発のためのインフォーマル教育と フォーマル教育との連携（世界会議 in 岡山）にて

加藤ともこ（和歌山県立粉河高校教諭）

粉河高校は普通科と理数科をもち、定時制を併設している高校で、2000年に100周年を迎えた非常に伝統のある学校である。

この伝統校も、大学・地域連携が始まる前は、学校が荒れ、地域からの評判も悪く、苦情が多かった。また、歴史的にもこの地方の中心地として発展してきたこの地域が、疲弊し、商店街はシャッターが降りたままの商店が増えてきていた。

学校の状況、地域の状況、そしてそれらの状況が生徒をとりまいている、その関係を変えていかなければならない。『学校が変わり地域が変わると、生徒（子どもたち）の育ちが変わる』と、当時の校長と、和歌山大学生涯学習教育センター（現地域連携・生涯学習センター）の先生とで、KOKO塾「まなびの郷」という取り組みを始めることになった。

2002年、和歌山大学、地域と粉河高校が連携し、まずは試行として、地域公開型の4つの講演会が開催された。その参加者からの感想には、継続を望む声が多かったので、翌2003年からは、KOKO塾「まなびの郷」という名で、テーマごとのワークショップ形式で取り組まれるようになった。それは、参加者が自由に意見やアイデアを出し合ってそれらをまとめ上げていく全員参加型の学びを創り出すもので、学校での授業とは全く違うものである。

テーマごとにワーキンググループ（WG）があるが、現在、「まちづくり」「福祉」「教育」「環境」「情報」の5つのWGが、それぞれ活動している。また、アラカルト講座を設けている年もある。

1年の流れは、まず4月に事務局会議で今年の日程や進め方を検討し、5月に企画委員会を行う。そこで大まかな方針を決定する。そして6月、参加者が全員揃うオリエンテーションを開催する。その場で参加者はどのテーマのWGに所属するか決定する。その後は各WGで、それぞれの活動をする。そして2月にその年度の取り組みの報告書を作成し、3月にジョイントフォーラムを開催し、発表交流会をもつ。

少しWGの主な活動を紹介すると、まちづくりWGは、地域の宝探しをすることから活動は始まった。2004年、初めてオープンカフェを開催し、今では毎年の恒例行事になっている。一昨年は10周年（2002年度の試行を含め）を迎え、10m巻き寿司を大勢の参加者が一斉に巻き成功させた。また生徒から応募したマスコットキャラクターのゆるキャラを作成し、広報活動をしようと計画中である。そして、粉河の町や粉河寺などを観光客に紹介する粉河ガイドも手がけている。環境WGは水をテーマに水質調査をした結果、有機栽培が、環境にも健康にも大切であることを、自分たちの学びで感じとり、校庭に畑を作り無農薬で野菜を育てることを生徒が発案し、さつまいもやトウモロコシなどを育てた。今でもそこで育てた野菜を加工し、毎年オープンカフェで販売している。

生徒たちはこの活動には自由参加で、しかも、地域住民との活動でもあることから、土・日曜日の活動が多い。そこに参加している生徒たちは、いろいろな世代の人たちに出会い、様々

な人の考えやまなびの姿を見ながら、自分たちが学んでいる。そして、生徒たちが発表する力など確実に成長している姿を見ることができる。そういう姿を見ることが自分にとっても大きな喜びになっている。そして今、学校は落ち着きを取り戻し、地域からの苦情も少なくなっている。

地域にも、商店街にアンテナショップが立ち上がり、「町づくり協議会」が再開されるようになったなど、変化が見られるようになってきた。

まだまだ課題はあるが、和歌山大学地域連携・生涯学習センター、地域、粉河高校の3者が企画し、出会いを大切にしながら今後も続けていきたい。



KOKÔ 塾平成 19 年度 まちづくり WG



KOKÔ 塾環境 WG

## Non Profit Organization

### KISYU・KOKAWA・MACHIDUKURI・JYUKU

NPO 法人紀州粉河まちづくり塾 理事長 楠 富晴

#### 〔設立の経緯〕

大型店舗法の撤廃・規制緩和などにより、流通も大きく変わり大型で複合型のショッピングセンターが郊外に進出し、人の流れも大きく変わり商売に限界を感じた後継者が働きに行くようになりました。結果店主の高齢化が進み廃業する店も出てきました。

このままでは、店と店の繋がりどころか地元密着型商店特有の人と人の繋がりすら薄らいできてしまいます。

そこで「以前の賑わいを取り戻そう」と商店主らが中心に勉強会という意味を込めて紀州粉河まちづくり塾を発足しました。KOKÔ 塾がスタートした事も大きな起爆剤になりました。テーマも従来型のような商業振興だけでは、到底消費者には長く受け入れてもらえないと考え、少し回り道かもしれませんが「人づくりから地域づくり」を目標に、各種団体とも連携をとりながら、スタート致しました。

テーマは①〔福祉・（高齢化が進む中において地域商店の役割）〕 ②〔観光・（西国三番の札所「粉河寺」を核とした歴史や文化の町の活用）〕 ③〔環境・（住民参加の環境を意識した町づくり）〕を掲げて活動しています。

#### 〔活動内容〕

##### ①〔福祉・（高齢化が進む中において地域商店の役割）〕

2007年に全国組織の共同作業所連合会設立30周年を記念して「ふるさとをください」〔しょうがい者と健常者の共生がテーマ〕という映画を撮る事になりました。

そのふるさとのロケ地に紀の川市粉河が選ばれ、同塾が中心となって地域の人々との橋渡しをし、約200人のエキストラが集まってくれました。このボランティアで集まってくれたエキストラの人々との繋がりが今の塾の活動の大きな原動力になっています。また映画の内容が人と人が繋がる為の地域の役割を考える良い機会を与えてくれました。



② [観光・(西国三番の札所「粉河寺」を核とした歴史や文化の町の活用)]

JR・行政・門前商店・JA・各種団体との連携の中「粉河ぶらぶら散策」を実施しました。先ず電車に乗って来てもらい、各商店で地産の物を食しながら、町の文化や歴史に触れてもらう企画です。語り部が先導して行く先々で、地元の愛好者（民謡や南京玉すだれ）のパフォーマンスを楽しんでもらう。又粉河寺管長様の講和など盛りだくさん託三な内容に、県内外からも沢山の人が参加いただいています。  
[安くて・近場で・一日楽しく・おまけにちょっと得した感]の企画を今後も継続して行く予定です。



③ [環境・(住民参加の環境を意識した町づくり)]

各種団体・まち中商店との連携の中、まち中清掃・資源ゴミリサイクル運動を定期的に行う。参加者には、協賛店の特典クーポンをプレゼント。又希望者には認定カードを発行（有料）認定カードは、今後の商店街振興の特典やイベント情報の連絡カードとして活用を模索中です。



[成果]

- 活動を通じて「人と人の連携と信頼関係」を育む事が出来ました。
  - 住民参加のまちづくりを通じて「地域力」が培われてきました。
- 今後は、もっと地域の老若男女問わず参加いただける様、又近隣地域とも連携をはかり面的な広がりを作っていければと考えます。

## マナビイスト支援セミナー企画ゼミ

マナビイスト支援セミナーとは、「住みよい地域づくりについて住民が主体的に学び、自ら共同学習を進めながら、地域の課題解決を目指していくための社会教育プログラムであり、2002（平成12）年から、和歌山県教育委員会と和歌山大学が協働して開催してきている。

学習システムは、成人を対象として年間全5回程度のフィールドワークを基本とした少人数（15～20人程度）によるゼミナールである。このような課題探究型の「企画ゼミ」（全5回）に併せて、一年間のゼミ活動の成果を公開、発表する「支援セミナー」位置づけられている。

企画ゼミは、毎年1回ペースで開催され、1回の時間は、2時間である。

生涯学習センターの専任教員がコーディネーター役をつとめ、教育委員会からのニーズ（課題、テーマ、内容等）を受け止め、学内のニーズ（講師となる適切な研究者の発見と交渉、依頼を進め、シーズとのマッチングを図る。研究者との橋渡しを研究職がコーディネートするのは、専門領域や、関連領域であるか否か。研究者自身にとっても本事業への関与が自身の研究の関心を高めたり、深化させるものであるかどうか。また、実際のゼミ活動は、青年期学生のそれとは異なり、主には様々な人生キャリアを有する成人学習者が対象であることによって、フレキシブルな学習方法が開発される必要もある。こうしたことが「ニーズとシーズのマッチング」という際の、マッチングに内包されることとなるからである。

また、地域の課題解決をめざす共同学習の本質は、コミュニティ・エンパワメントであり、地域住民のコミュニティ・エンパワメントにおいて、マナビイスト支援セミナーが果たしてきた役割は、①地域住民に生涯学習の場を提供し、地域課題に気づく機会をつくること②地域住民のニーズに柔軟に対応し、プログラムを提供すること③地域住民の学びを支援し、生涯学習を組織すること。④地域に住む人々の人的ネットワークを構築し、地域のつながりを深めることと整理されている。

平成16年度からは、それまで県内一か所（和歌山市内）での開設から、紀北・紀南の県内2会場での開設となり、紀南地区は、以来、15年にわたって田辺市で開設された。

さらに、事業終了後も自主的に「わかやまヒューマン・カレッジ・アフターの会」といったように継続した学習活動が誕生し、地域の活性化を進める取組み、高齢期を地域で支え合う仕組みづくりと実践活動が生まれ、継続している。

本事業を事例とした研究は、センターの専任教員のみならず、本学の研究者<sup>i</sup>、他大学の研究者等によっても論文、研究レポートとして執筆されている。<sup>ii</sup>



平成24年度マナビイスト支援セミナー紀北の部

i 足立基弘「ポスト肩書世代の挑戦と街づくり」、和歌山大学生涯学習教育研究センター年報第6号、和歌山大学生涯学習教育研究センター発行、2008年3月

金川めぐみ「地域福祉の理論と実践をつなぐ生涯学習装置としてのマナビイスト支援セミナー」、和歌山大学生涯学習教育研究センター 年報第9号、和歌山大学生涯学習教育研究センター発行、2011年3月ほか

ii 張ティティ「大学の地域貢献の再検討－生涯学習系センターによるコミュニティ・エンパワメントの形成に着目して－」和歌山大学クロスカル教育機構生涯学習部門 年報第16号  
和歌山大学クロスカル教育機構生涯学習部門発行、2018年3月

## マナビィスト支援セミナーの経緯

年 度	平成12年度			平成13年度		
事 業 名	わかやま・ヒューマン・カレッジ			わかやま・ヒューマン・カレッジ		
タ イ ト ル	自分らしい生き方ができる社会を目指して			夢と希望にあふれた地域社会づくりを考える		
	男女共同参画社会の実現を目指し、地域の課題を自ら気づき、考え、主体的に判断し、それらの課題を解決し得る力を育てるための学習機会を提供する。			男女共同参画社会の実現を目指し、地域の課題を自ら気づき、考え、主体的に判断し、それらの課題を解決し得る力を育てるための学習機会を提供する。		
テ ー マ	男女共同参画社会の形成を目指した「学習」と「活動」			男女参画社会の形成を目指した「学習」と「活動」		
	学社連携 PTA	少子高齢化 福祉	子育て支援	地域福祉 NPO	まちづくりプラン	子育て支援
担当講師	山本健慈	堀内秀雄	松本勝正	堀内秀雄	足立基治	山崎由可里
定 員	20名	20名	20名	20名	20名	20名
期 間	6月～2月			6月～2月		
回 数	全体会3回・各ゼミ10回、発表1回			全体会3回・各ゼミ8回、発表会1回		
グループ 詳 細	①「地域に開かれた学校づくり」を考える ②共に生き、地域を支え合う「結いの心」 ③ママたちの「子育て環境」探検隊			①「結いの心」DE共に生きるまちづくり「家族」「高齢者」「障害者」「女性」「地域」「地域福祉課題」「市民NPO」「グローバルゼーションと地球市民」▼②市民が創る「住み続けたい魅力的なまちづくり」ソフト班・ハード班▼③「子ども・大人の育ちと地域社会におけるネットワークづくり」を考える。子育てサポートの実態調査・ネットワークづくり		

年 度	平成14年度			平成15年度	
事 業 名	わかやま・ヒューマン・カレッジ			まちづくり・エンパワメント・カレッジ	
タ イ ト ル	生活者が創る「共生型のまちづくり」を探ろう!			住民のコラボレーションが織りなす豊かなまちづくり	
	男女共同参画社会の実現を目指し、地域の課題を自ら気づき、考え、主体的に判断し、それらの課題を解決し得る力を育てるための学習機会を提供する。			「わかやま・ヒューマン・カレッジ」の成果を踏まえ、21世紀の豊かで活力ある「ふるさと和歌山」のまちづくりを目指して、和歌山大学と協働しながら開設する。	
テ ー マ	住民のコラボレーションが織りなす豊かなまちづくり			住民のコラボレーションが織りなす豊かなまちづくり	
	福祉のまちづくり	「住み続けたいまち」探求	子育て・教育	「住み続けたいまち」探求	まちづくりと子育て・教育
担当講師	堀内秀雄	足立基浩	山下晃一	足立基浩	山下晃一
定 員	20名	20名	20名	15名	15名
期 間	6月～2月			7月～2月	
回 数	全体会3回・各ゼミ8回、発表会1回			全体会6回、各ゼミ7回	
グループ 詳 細	①「結いの心」紡ぐ地域へ「ワークショップ」岸和田グループ・岬グループ・御坊市グループ▼②市民が創る「住み続けたい」魅力的なまちづくり 市民参加条例班・探検・発見・ほっとけん隊・人に優しいまちづくり班▼③子どもと大人の育ちあい－和歌山発のひとづくりを考える学校班、家庭・地域班▼			①「住み続けたいまち」探求▼コミュニティバスで街に飛び出そう▼持続可能なまちづくり活動を考える▼アクティブシニアが「美しく、健康に、楽しく」生きる和歌山湾のまちづくり▼②まちづくりと子育て・教育▼子どもと大人がともに育つまちづくり	

年 度	平成16年度	平成17年度
タイトル	学びがつなぐ人とまち	つどい、ふれあい、元気なまちづくり
趣 旨	学習活動を積み重ねている県民カレッジ入学者が、その学びの成果を生かせる活動を支援する「マナビスト支援セミナー」の企画ゼミを和歌山大学と連携しながら、きのくに県民カレッジの中核講座として実施する。	地域課題に、自ら主体的に学び共同学習を展開する中で、住みよい地域づくりに参画する活動を支援する「マナビスト支援セミナー」の企画ゼミを和歌山大学と連携しながら、きのくに県民カレッジの中核講座として実施する。
テ ー マ	紀北:ひとづくり・まちづくりの未来をみつめて 紀南:情報化とまちづくり、地域づくり	紀北:創ろう、私たちの福祉のまち 紀南:紀南の産業と雇用を考える
担当講師	紀北:山下晃一 紀南:小島敏宏	紀北:金川めぐみ 紀南:小島敏宏
定 員	紀北:15名 紀南:15名	紀北:15名 紀南:15名
期 間	9月～2月	9月～2月
回 数	各ゼミ5回、各セミナー1回	各ゼミ5回、各セミナー1回
グループ 詳 細	紀北:わかやま再発見、夢と生き方を語る場づくり、遊びをキーワードに、子どもと大人の居場所づくり等 紀南:地域経済研究班 まちづくり班 IT研究	紀北:高齢者を災害から守ろう、障害者が地域で暮らすには、ひと(人)・えん(縁)・むすび(結び)等 紀南:観光と雇用個別テーマ

年 度	平成18年度	平成19年度
タイトル	学びがつなぐ人とまち	つどい、ふれあい、元気なまちづくり
趣 旨	地域課題に、自ら主体的に学び共同学習を展開する中で、住みよい地域づくりに参画する活動を支援する「マナビスト支援セミナー」の企画ゼミを和歌山大学と連携しながら、きのくに県民カレッジの中核講座として実施する。	地域課題に、自ら主体的に学び共同学習を展開する中で、住みよい地域づくりに参画する活動を支援する「マナビスト支援セミナー」の企画ゼミを和歌山大学と連携しながら、きのくに県民カレッジの中核講座として実施する。
テ ー マ	紀北:団塊の世代の参加を通じての福祉システムを考える。 紀南:紀南地方の防災について考える	紀北:金川めぐみさんとひとにやさしい福祉のまちづくりを語りませんか? 紀南:防災によるまちづくり
担当講師	紀北:金川めぐみ 紀南:此松昌彦	紀北:金川めぐみ 紀南:此松昌彦
定 員	紀北:15名 紀南:15名	紀北:15名 紀南:15名
期 間	9月～2月	9月～3月
回 数	各ゼミ5回、各セミナー1回	各ゼミ5回、各セミナー1回
グループ 詳 細	紀北:ボランティアリーダー養成、団塊の世代の人々と共に築く共助福祉のまちづくり等 紀南:過去の地震の被害調査、観光地の防災、人に伝える防災教育等	紀北:ひとにやさしい福祉・高齢者・障害者が集う場、つなぐ場、創る場づくり等▼ 紀南:被災体験、地域の防災力、防災の啓発等

年 度	平成20年度	平成21年度
タイトル	つどい、ふれあい、元気なまちづくり	つどい、ふれあい、元気なまちづくり
趣 旨	学習活動を積み重ねている県民カレッジ入学者が、その学びの成果を生かせる活動を支援する「マナビスト支援セミナー」の企画ゼミを和歌山大学と連携しながら、きのくに県民カレッジの中核講座として実施する。	学習活動を積み重ねている県民カレッジ入学者が、その学びの成果を生かせる活動を支援する「マナビスト支援セミナー」の企画ゼミを和歌山大学と連携しながら、きのくに県民カレッジの中核講座として実施する。
テ ー マ	紀北:みんなで魅力ある福祉のまちづくりを考えよう 紀南:持続発展可能な紀南の地域再生を探る▼この人に学ぶ!▼～地域に根ざし、地域を耕す人々～	紀北:“食”の学びを活かした地域づくりの可能性▼～食育と地域再生との接点を求めて～ 紀南:持続発展可能な紀南の地域再生を探る▼紀南の“地域資源”研究▼～‘地域’の元気から学びませんか?～
担当講師	紀北:金川めぐみ 紀南:西川一弘	紀北:藤田武弘 紀南:西川一弘
定 員	紀北:15名 紀南:20名	紀北:21名 紀南:14名
期 間	6月～3月	6月～3月
回 数	各ゼミ5回、各セミナー1回	各ゼミ5回、各セミナー1回
グループ詳細	紀北:高齢者福祉研究班、障害者福祉研究班、▼地域福祉研究班 紀南:伝統文化、環境、福祉健康、観光等	紀北:地産地消班、食材・商品開発班、▼健康・安全班、食育・食農班、産地班 紀南:一次産業、観光、地域イベント等

年 度	平成22年度	平成23年度
タイトル	つどい、ふれあい、元気なまちづくり	つどい、ふれあい、元気なまちづくり
趣 旨	地域課題について、住民が自ら主体的に学び共同学習を展開し、住みよい地域づくりに参画する活動を支援する「マナビスト支援セミナー」の企画ゼミを、和歌山大学と連携しながら、きのくに県民カレッジの中核講座として実施する。	地域課題について、住民が自ら主体的に学び共同学習を展開し、住みよい地域づくりに参画する活動を支援する「マナビスト支援セミナー」の企画ゼミを、和歌山大学と連携しながら、きのくに県民カレッジの中核講座として実施する。
テ ー マ	紀北:都市農村交流を通じた地域再生の可能性を探る▼～食と農との関係性を問い直す～ 紀南:持続発展可能な紀南の地域再生を探る▼『紀南の未来予想図研究』▼～“若者”が育つ地域を考えてみませんか?～	紀北:都市と農村▼～繋がりを取り戻すために～ 紀南:『持続可能な▼地域コミュニティづくりを探る』▼～紀南地域の防災・減災を考えてみませんか!～
担当講師	紀北:藤田武弘 紀南:西川一弘	紀北:藤田武弘 紀南:照本清峰
定 員	紀北14名 紀南14名	紀北14名 紀南13名
期 間	6月～3月	8月～2月
回 数	各ゼミ5回、各セミナー1回	各ゼミ5回、各セミナー1回
グループ詳細	紀北:農村内発力検証班、農村自立班、▼体験・食育班 紀南:若者と文化・祭り、若者とまちづくり、▼仕事・生業等	紀北:歴史・文化班、直売所班、6次産業化▼・人材班 紀南:*紀南地域の防災・減災の現状▼*台風12号被害の現場から学ぶこと▼*明治大洪水から見たもの



年 度	平成24年度	平成25年度
タイトル	つどい、ふれあい、元気なまちづくり	つどい、ふれあい、元気なまちづくり
趣 旨	地域課題について、住民が自ら主体的に学び共同学習を展開し、住みよい地域づくりに参画する活動を支援する「マナビスト支援セミナー」の企画ゼミを、和歌山大学と連携しながら、きのくに県民カレッジの中核講座として実施する。	地域課題について、住民が自ら主体的に学び共同学習を展開し、住みよい地域づくりに参画する活動を支援する「マナビスト支援セミナー」の企画ゼミを、和歌山大学と連携しながら、きのくに県民カレッジの中核講座として実施する。
テ ー マ	紀北:地域ネットワークづくりと生涯学習 紀南:見直してみようわがまち、わが地域▼～地域コミュニティを防災・減災の視点から考える～	紀北:地域ネットワークづくりと生涯学習 紀南:持続可能な紀南の地域コミュニティづくりを探る～亡災にしない防災に～
担当講師	紀北:村田和子 紀南:照本清峰	紀北:村田和子 紀南:西川一弘
定 員	紀北:17名 紀南:18名	紀北:15名 紀南:15名
期 間	7月～3月	7月～3月
回 数	各ゼミ5回、各セミナー1回	各ゼミ5回、各セミナー1回
グループ詳細	紀北:子育て応援、地域づくりネットワーク、▼まちづくり 紀南:学校防災、ヒューマンチェーン、▼芳養ぶさ、カンパン	紀北:子育て応援、地域と若者研究、多世代間交流 紀南:避難路・避難場所の確保、観光地における防災、地域コミュニティの視点から学ぶ防災

年 度	平成26年度	平成27年度
タイトル	つどい、ふれあい、元気なまちづくり	つどい、ふれあい、元気なまちづくり
趣 旨	地域課題について、住民が自ら主体的に学び共同学習を展開し、住みよい地域づくりに参画する活動を支援する「マナビスト支援セミナー」の企画ゼミを、和歌山大学と連携しながら、きのくに県民カレッジの中核講座として実施する。	地域課題について、住民が自ら主体的に学び共同学習を展開し、住みよい地域づくりに参画する活動を支援する「マナビスト支援セミナー」の企画ゼミを、和歌山大学と連携しながら、きのくに県民カレッジの中核講座として実施する。
テ ー マ	紀北:「地域のネットワークづくりと生涯学習」～地域の課題に向き合う学びを求めて～ 紀南:「〇〇減少時代」の和歌山に生きる▼～若者に伝えたいこと・若者が伝えたいこと～	紀南:これからは「人」の時代です
担当講師	紀北:村田和子 紀南:西川一弘	紀南:西川一弘
定 員	紀北:18名 紀南:20名	紀南:25名
期 間	7月～3月	7月～2月
回 数	各ゼミ5回、各セミナー1回	ゼミ5回、セミナー1回
グループ詳細	紀北:子育て応援、地域と若者、高齢者と地域、 紀南:地域の自治意識、結婚・子育て、▼魅力再発見	

年 度	平成28年度	平成29年度
タイトル	つどい、ふれあい、元気なまちづくり	つどい、ふれあい、元気なまちづくり
趣 旨	紀北:和歌山大学と連携し、地域課題について自らの学びを深めながら、共同学習を展開する中で、住みよい地域づくりに参画しようとする人(マナビスト)を育てるよう支援する。また、受講生自らが和歌山大学講師の指導の下で企画運営するマナビスト支援セミナーとそこに至る企画ゼミを「きのくに県民カレッジ」の講座として実施する。	紀北:和歌山大学と連携し、地域課題について自らの学びを深めながら、共同学習等を展開する中で、住みよい地域づくりに参画しようとする人(マナビスト)を育てるよう支援する。また、受講生自らが和歌山大学講師の指導の下で企画運営するマナビスト支援セミナーとそこに至る企画ゼミを「きのくに県民カレッジ」の講座として実施する。
	紀南:地方創生政策が展開される中、地域における課題解決のためには、社会教育の役割・方法を問い直していくことが必要不可欠となっている。そこで今年度のマナビストは、紀南地方をかたちづくっている様々な地域資源について、きらきらと輝く「光」の側面だけを注視するのではなく、その裏側に必ず存在する「影」の部分も捉え、両面に焦点を当てることが地域活性化の糸口を探ってきた。本セミナーでは、平成28年度マナビスト支援セミナー企画ゼミで学んだ受講者が、その学びの成果を基に、世代を超えた方々と広く意見交換を行い、県民一人一人がまちづくりについて考える契機とする。	紀南:住みよい地域づくりについて住民が自ら主体的に学ぶ場を提供し、協同学習を展開しながら地域課題の解決を目指す「マナビスト支援セミナー」の企画ゼミを、きのくに県民カレッジの中堅講座として和歌山大学と連携しながら実施する。
テ ー マ	紀北:和歌山を知る!!和歌山を語る!!主体的生涯学習～何を知りたいのか?何を語りたいのか?「キュレーション」をテーマとした学習	紀北:和歌山の文化資源再発見
	紀南:紀南地域の光と影	紀南:地域と若者～紀南の高校生の今～
担当講師	紀北:菅原真弓 紀南:岸上光克	紀北:菅原真弓 紀南:岸上光克
定 員	紀北:10名 紀南:15名	紀北:15名 紀南:15名
期 間	12月～3月	紀北:10月～3月 紀南:8月～2月
回 数	各ゼミ4回、各セミナー1回	各ゼミ5回、各セミナー1回



2008 年度マナビスト支援セミナー  
(紀南の部)



2008 年度マナビスト支援セミナー企画ゼミ  
(紀南の部)

## 地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー

大学の地域連携が大学運営上、極めて重要な取り組みとなる中で、センターでは、地域連携に関わる教職員・コーディネーターの人材養成、大学と地域の発展に向けた輿論づくり、地域型大学サテライトへ拠点の発展を目的に、2012（平成 24）年から年に一回「地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー（合宿型研修）」を開催してきている。

第一回目の開催となった 2012（平成 24）年は、高等教育政策として取り組まれた『地（知）の拠点整備事業』（通称、COC 事業）の立ち上げという政策動向や、大学にとって、地域と大学の連携に関しての関心の高まりもあり、国立だけでなく、公立、私立大学も合わせて 51 大学・機関、100 人が集い、地域を支える「第三領域」の人材育成論としての「大学のコーディネーター」をめぐる実践交流と研究がスタートした。

セミナーでは毎年、開催校を変え、和歌山大学と開催校との共催という形態でセミナーを継続してきた。また、毎年の研究テーマ・研修方法についても現場のニーズに基づいて創意工夫がこらされてきた。先進事例の発表と検討、テーマを設けたワークショップの実施方法も取り入れ、地域連携の専門性、技術、教員とのマッチング、学生教育への展開、悩み、現場コーディネーター戦略、コーディネーターのキャリア形成、コーディネーターの引き継ぎ等、さまざまな観点から参加者が共に参画するといった実践的なプログラムに取り組みられ、大学運営、地域連携の現場に生かされることが目指されてきた。

さらに、このセミナーの参加等を通じて、ゆるやかなネットワーク組織の構築とともに、実際の活動事例や研究成果を取りまとめた、『大学地域連携研究』も毎年発行されている。<sup>i</sup>



第 8 回セミナーの様子（高崎商科大学）



第 8 回セミナーの様子



<sup>i</sup> 『大学地域連携研究』 ver1～6 和歌山大学地域連携・生涯学習センター、2014～2018

## 地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー

回数	開催年	開催校	参加校数	参加者数
1	2012年	和歌山大学 地域連携・生涯学習センター	51 大学・機関	100人
基調講演				
文部科学省高等教育局大学振興課長		池田 貴城	大学改革実行プラン～社会の変革のエンジンとなる大学づくり～	
和歌山大学長		山本 健慈	地域発展の責任主体の一翼を担う大学へ	
先駆的事例発表				
岩手県立大学総合政策学部長 地域連携本部・地域政策研究センター長		豊島 正幸	地域と大学をつなぐ「公募型地域課題研究」	
松本大学地域づくり考房「ゆめ」運営委員長 専任講師		福島 明美	地域と大学の協働・共創による地域づくりを育む～地域づくり考房「ゆめ」の 実践を通しての松本大学の取組～	
和歌山大学地域連携コーディネーター		神谷 千春	地域を支える「第三領域」人材の育成に向けて	
		松本 俊哉		
		後藤 千晴		
		古久保 綾子		
		西川 一弘		
和歌山大学地域連携・生涯学習センター長		出口 寿久	ネットワークの今後の進め方について提案	
ワークショップ		大学の地域連携戦略／コーディネーターの専門力開発プラン		

回数	開催年	開催校	参加校数	参加者数
2	2013年	和歌山大学 南紀熊野サテライト	30 大学・機関	51人
先駆的事例発表				
兵庫県立大学 環境人間学部エコ・ヒューマン 地域連携センター センター長代理(専任講師)		内平 隆之	学生を通じた地域連携とコーディネート	
高知大学 国際・地域連携センター 地域連携・再生部門長 特任講師		吉用 武史	地域課題解決と自治体連携におけるコーディネート～高知大学と自治体との 連携事例から～	
和歌山大学南紀熊野サテライト 地域連携コーディネーター		古久保 綾子	地域拠点を通じた地域の人材育成と活性化～観光・ジオツーリズムにおける 地域連携コーディネート～	
基調提起				
和歌山大学		西川 一弘	地域連携コーディネートと教育研究への貢献	
		後藤 千晴		
		古久保 綾子		
		酒井 豊		
		神谷 千春		
		松本 俊哉		
分科会セッション		具体的地域連携について		
		地域連携コーディネートと研究教育への貢献について		

回数	開催年	開催校	参加校数	参加者数
3	2014年	和歌山大学 岸和田サテライト	27 大学・機関	55人
先駆的事例発表				
長野大学 前地域連携センター主幹		千住 義明	私立大学地域貢献度ランキング日本一を支えるCDの役割とその力	
金沢大学 里山里海プロジェクト 特任助教		伊藤 浩二	地域再生を担う人材養成に果たす大学CDの役割	
和歌山大学岸和田サテライト地域連携コーディネーター		西田 喜一	大都市圏郊外自治体との連携とCDの役割	
		神谷 千春		
分科会セッション		先駆的事例発表の掘り下げ		
		地域連携コーディネーターの役割と専門性		

回数	開催年	開催校		参加校数	参加者数
4	2015年	長野大学		28 大学・機関	49人
基調提起					
長野大学地域連携センター長 環境ツーリズム学部教授		古田 睦美	民が建てた大学の使命～長野大学の地域連携～		
国立大学協会専務理事		山本 健慈	大学と地域を繋ぐ理由～当セミナーの意義と課題～		
分科会		コーディネーター登竜門のための分科会			
		実践ステップアップのための分科会			
		実践を論理的にも考える分科会			

回数	開催年	開催校	参加校数	参加者数
5	2016年	尚綱学院大学	17 大学・機関	37人
事例報告				
尚綱学院大学 前連携交流課長		庄司 則雄		
鼎談				
尚綱学院大学大学長		合田 隆史	地域の危機に何ができるのか	
国立大学協会専務理事		山本 健慈		
ワークショップ		地域の課題を確認・共有する		
		地域の課題に対する立ち向かい方・解決策を立案する		

回数	開催年	開催校	参加校数	参加者数
6	2017年	福岡大学	31 大学・機関	44人
パネルディスカッション				
法政大学 多摩地域交流センター コーディネーター		本野 直子	コーディネーターのキャリア形成	
高知大学 地域連携推進センター 准教授		吉用 武史		
和歌山大学 研究・社会連携課 地域連携コーディネーター		後藤 千晴		
国立大学協会専務理事		山本 健慈		
和歌山大学生涯学習部門 ／地域活性化総合センター 准教授		西川 一弘		
ワークショップ		コーディネーターのリビングストーリー		
		地域の課題を確認・共有する		
		地域の課題に対する立ち向かい方・解決策を立案する		

回数	開催年	開催校	参加校数	参加者数
7	2018年	高知大学	31 大学・機関	43人
事例報告				
高知大学 地域連携推進センター 准教授		吉用 武史	地域との連携における考え方～高知大学COC事業、地域コーディネーター(UBC)の経験から～	
北九州市立大学 地域創生学群特任教員		蓮本 浩介		
ワークショップ		理想の大学地域連携センターづくり		
		地域連携センターの理念づくり		
		地域連携を進める手順や組織、基準を作る		

回数	開催年	開催校	参加校数	参加者数
8	2019年	高崎商科大学	39 大学・機関	52人
基調講演				
国立大学協会専務理事		山本 健慈	大学と地域～大変革期の地域連携論～	
事例報告				
高崎商科大学地域連携センター 地域連携コーディネーター		川又 彩夏	高崎商科大学の地域連携の取り組みと次世代への継承	
パネルディスカッション				
長野大学		千住 義明	CDの引き継ぎ～引き継いだ人と引き継がれた人～	
		坂口 洋		
和歌山大学地域活性化総合センター		西川 一弘		
		後藤 千晴		
ワークショップ		うまく引き継ぐために～何を残すのか～		
		うまく引き継ぐために～どう残すのか～		

# 和歌山大学子育て支援員研修

子育て支援員研修とは、2015（平成 27）年度に国庫補助（国、都道府県）として全国展開されることとなった、子育て支援に関わる人材養成事業である。

導入の背景は、「子ども・子育て支援法」（平成 24 年法律第 65 号）に基づく給付又は事業として実施される小規模保育、家庭的保育、ファミリー・サポートセンター、一時預かり、放課後指導クラブ、地域子育て支援拠点等の事業や家庭的な養育環境が必要とされる社会的養護については、子どもが健やかに成長できる環境や体制が確保されるよう、地域の実情やニーズに応じて、これらの支援の担い手となる人材を確保することが必要であるとされた。このため、地域において保育や子育て支援分野の各事業等に従事することを希望する者に対し、多様な保育や子育て支援分野に関しての必要な知識や技能等を修得するための全国共通の研修制度を創設し、これらの支援の担い手となる「子育て支援員」の養成を図ることとなったのである。さらに、「子育て支援員」とは、国で定めた「基本研修」及び「専門研修」を修了し、「子育て支援員研修修了書」の交付を受けたことにより、子育て支援員として保育や子育て支援分野の各事業等に従事する上で必要な知識や技術等を修得したことを認められる者とされた。

本学では、和歌山県からの委託事業として、センターが受託し、センターのミッションに照らし、社会人の学び直し、大学の生涯学習事業として実施することとなった。2015（平成 27）～2017（平成 29）年度の3年間にわたって取り組み、約 5,000 人の子育て支援員の養成に貢献した。講師には本学の教育学部の教員を中心に、和歌山県立医大、また地域の医療機関の医師等専門職の協力を得て実施した。こうした講師体制をつくることができたのは、センターの学びのプロデュース機能の本領発揮といってよいだろう。その後、運営のノウハウは、和歌山信愛女子短期大学に引き継がれ、継続されている。

また、成果と課題については、下記の論考がある。

村田和子「大学の生涯学習方法論の検討 - 和歌山大学子育て支援員研修を事例に」和歌山大学クロスカル教育機構生涯学習部門年報第 16 号、2018 年 3 月、p7～p14

船越 勝「学童保育指導員の成長と研修体型の構築 - 子ども理解の力や実践構想力のさらなる発達のために -」和歌山大学クロスカル教育機構生涯学習部門年報第 16 号、2018 年 3 月、p21～p32

平成 29 年度 和歌山大学
事前予約不要


## 「子育て支援員研修」説明会

和歌山大学の社会貢献・生涯学習事業として取組みます。  
大学の「子育て支援」研究を活かして、  
地域のみならず子どもたちの  
健やかな成長を支えるための研修です。

平成 27 年 4 月から「子ども・子育て支援新制度」がスタートし、  
地域保育型保育や、地域子ども・子育て、事業の担い手となる人材を確保することが  
求められています。本研修は、地域において保育や子育て支援などの仕事に関心を持ち、  
保育や子育て支援分野の各事業等に従事することを希望する方、または従事している方  
を対象として実施します。  
この度、事前説明会を開催しますので関心のある方はどなたでもご参加ください。

**紀南地区** 5月12日（金）14：00～15：30  
和歌山県立情報交流センタービッグユニー研修室 2  
(田辺市新庄町 3 3 3 3-9)

**紀北地区** 5月16日（火）10：00～11：30  
和歌山大学松下会館 2 階ホール（和歌山市西高松 1-7-20）  
※いずれも内容は同じです。



**お問い合わせ先**  
和歌山大学松下会館・子育て支援員研修担当宛（〒641-0051 和歌山市西高松 1-7-20 ）  
tel: 073-427-4623 / fax: 073-427-7616 / mail: lifelongcenter.wakayama-u.ac.jp  
要項はサイトからダウンロードできます！ 2017 年 4 月 28 日公開  
<http://www.life.wakayama-u.ac.jp/>

※この研修は、和歌山大学が和歌山県から委託を受けて実施します。

平成 29 年度説明会開催チラシ

## まちかど事業（和歌山市・和歌山大学連携事業）

2010（平成22）年2月19日、本学と和歌山市は、相互の発展のため、緊密な連携・協力関係を構築し、産業・経済・教育・文化・行政等総括的分野での地域振興と活性化に貢献できるよう互恵の精神をもって連携を推進するものとし和歌山市・和歌山大学地域連携推進協定」を締結した。

まちかど事業はこの協定に基づき行う事業で、和歌山大学が有する人的資源および知的資源を活用し、「和歌山を学ぶ」を基調テーマに、児童・生徒から社会人・高齢者まで幅広い年齢層を対象に開催する公開講座などである。これまで、和歌山市・和歌山大学地域連携推進協議会主催、和歌山市、和歌山大学共催で、小中学生を対象とした「まちかど土曜楽交」や一般市民を対象とした「ワダイノカフェ」などに取り組んでいる。

「まちかど土曜楽交」は、2013（平成25）年度から始まった「楽しく学ぶ」を基本に、小中学生が大学生や友だち、モノや知識など周りとの関わりを大切にしながら学ぶ授業である。将来教師を目指す教育学部生が講師となってオリジナルの教材を使い授業を進める。講師役を務める学生にとっては教育実践の場になっており、また、参加する児童やその保護者にとっては和歌山の良さを知ったり、和歌山大学への親近感を高めたりする場として位置づけている。

「ワダイノカフェ」は、これまでに取り組んできた「宇宙カフェ」「歴史カフェ」「ワダイのカフェ-情報デザイン」を前身に、さまざまな領域で活躍している和歌山大学の研究者と一般の方々が、飲み物を片手にちょっと知的な会話を楽しむコミュニケーションの場である。和歌山市内のカフェや大学等を会場に、年に10回程度開催している。



まちかど土曜楽交

# まちかど土曜楽交の成果と課題

## Results and problems through managing Machikado Doyo Gakko

和歌山大学教育学部 准教授 豊田 充 崇（とよだ みちたか）  
和歌山大学地域連携・生涯学習センター 地域連携コーディネーター 後藤 千 晴（ごとう ちはる）

**要約：**和歌山市と和歌山大学の連携事業として2011年にスタートした「まちかど土曜楽交」では、地域の子どもたちに、教育学部生がオリジナル教材を使った授業を行っている。これまでの2年間の実績から、将来教員を目指す学生の教育実践の場としての土曜楽交の成果と課題について考察したい。

**キーワード：**土曜授業、教育実践、ICT

### 1. はじめに

和歌山大学まちかどサテライト<sup>1</sup>は、2008年に和歌山市内の複合型商業施設フォルテワジマ内に「和歌山大学サテライト」として開設された。本サテライトは「地域を支え、地域に支えられる大学」として持続可能な社会の実現に寄与すべく、大学の保有する高等教育機能を活かし、地域社会と大学相互の情報交流・情報発信をはじめ、地域の人たちとのふれあいを通じて、大学と地域がともに発展するための役割を担っている。まちかど土曜楽交は、和歌山市と和歌山大学の地域連携推進協定に基づき行われる事業の一つであり、和歌山大学が有する人的資源及び知的資源を活用し、「和歌山を学ぶ」を基調テーマに児童・生徒を対象に、文化・学術のまちづくりに寄与するものである。

### 2. まちかど土曜楽交(どようがっこう)とは

#### 2.1 まちかど土曜楽交について

まちかど土曜楽交(以下、土曜楽交)は、2011年に和歌山市・和歌山大学地域連携推進協定に基づき始まった事業である。「楽交」とは、まずは「楽しく学ぶ」を基本に、1人で学習するのではなく、先生(大学生)や友だち、モノや知識などまわりとたくさんの関わりを大切にしながら学習を進めるという造語である。教科書は一切使わず、身近な生活や和歌山をテーマにしたオリジナルの教材を使って学習を進め、子ども達の興味・関心を引き出す学びを目指してい

る。また、ここで講師を務めるのは、将来教師を目指す教育学部2・3年生を中心とした学生グループで、授業設計のプロセスや児童・生徒との交流について学ぶ場となっており、教育実践力の力量形成に役立っている。

#### 2.2 運営について

土曜楽交の運営は、学生グループ、担当教員、まちかどサテライト職員(和歌山大学特任職員1名、和歌山市役所職員1名)で行っている。授業内容や構成、授業準備等については、学生グループおよび担当教員によって行われ、広報および会場コーディネート等はまちかどサテライト職員によって行われている。2011年度、教育実践専攻学生の10名により始まった土曜楽交は、2012年度は教育実践専攻および社会科専攻学生約20名によって運営されるようになっていく。

#### 2.3 土曜楽交の特徴

土曜楽交に参加する児童・生徒は、主に和歌山市内に住む小学校4年生～6年生と、中学校1年生～3年生である。それぞれ学校も学年も違う子どもたちが一緒に学習する、いわゆる複式学級形式である。また、学校の教科書は一切使わず、学生たち手作りのオリジナル教材を使った授業やタブレット端末等を使った先進的なICT授業を行う点もまた特徴的である。

1 和歌山大学まちかどサテライトは大学事務局機能の一元化を目指して、2012年11月30日をもって、事務局機能を地域連携・生涯学習センターに移転している。2013年度以降は地域連携・生涯学習センターを中心に事業が継続されている。



### 3. 実施内容

土曜楽交は2011年4月に始まり、2年間で小学生の授業42回、中学生の授業10回、計52回の授業を実施してきた。52回の内容は表1の通りである\*1。教材準備の負担を減らすため、前期・後期でそれぞれ2回ずつ同じ内容を繰り返す方法でスタートしたが、この場合子どもは2クール続けて参加することはできない。現実問題としてリピーターの子どもたちが多いため、最近ではクールごとに違う内容を実施し、

リピーターの子どもたちも楽しく参加できるように工夫している。また年度終わりには、まちかど土曜楽交成果報告会として、土曜楽交を通して得た経験・学びを、大学教職員、和歌山市役所員等関係者の前で発表する機会を設けている。さらにこの成果報告会では、実際に使われている教材を利用した模擬授業や、土曜楽交の今後の展望等を話し合う時間を設けており、学生、教員、職員がともに考え創る事業となっている。

表1 これまでの土曜楽交の内容一覧(小学生)

クール	回	実施日	授 業 内 容	参加人数	学生参加数
2011年 第1クール (4/16～5/21) ・ 第2クール (6/4～7/2)	1	2011.4.16	地図はかせになろう！日本編	16	4
		2011.6.4	本当は楽しい“文章題&立体”の実験	16	4
	2	2011.4.23	地図はかせになろう！和歌山県内市町村編	17	6
		2011.6.11	日本語の面白さを知ろう	13	4
	3	2011.4.30	和歌山今昔探検	21	8
		2011.6.18	～昔の写真を頼りに「今」を撮影し、写真展を開きましょう！～	19	5
	4	2011.5.14	地図はかせになろう！世界・アジア編	15	5
		2011.6.25	クイズ@わかやま！～自分の住む和歌山をどれくらい知っている？～	18	4
	5	2011.5.21	地図はかせになろう！世界・日本と関係の深い国編	17	4
		2011.7.2	蝶の不思議～身の回りの虫を拡大観察してみよう！～	14	3
2011年 第3クール (9/17～10/15) ・ 第4クール (11/5～12/10)	1	2011.9.17	地図はかせになろう！世界編・日本や和歌山と関係の深い国編	14	5
		2011.11.5	本当は楽しくて役に立つ算数～身近な生活の中での「分数」	13	6
	2	2011.9.24	和歌山探検レポート～地元の特産物を学ぶ・食す	16	5
		2011.11.12		10	5
	3	2011.10.1	和歌山探検レポート～和歌山の伝記・偉人リサーチ！	15	8
		2011.11.26		13	8
	4	2011.10.8	プロも真っ青！～ポスター&CM作成	13	4
		2011.12.3		13	6
	5	2011.10.15	目指せ！「コピーライター・脚本家」	14	4
		2011.12.10	理科・おもしろ実験教室	15	4
体験		2012.2.18	地図はかせになろう！・社会科を楽しむカルタ 等	7	4
		2012.3.10		6	6
2012年 第1クール (5/12～6/9) ・ 第2クール (6/23～7/21)	1	2012.5.12	生活に役立つ算数・遊びながら学ぶ国語	19	6
		2012.6.23		5	3
	2	2012.5.19	見えないモノを見てみよう(微生物・電気等)	22	10
		2012.6.30		8	6
	3	2012.5.26	面白くてためになる社会科“楽習”	18	8
		2012.7.7		5	6
	4	2012.6.2	「わかやまブランド」を学ぶ・味わう	22	7
		2012.7.14		5	3
	5	2012.6.9	取材の極意・デジカメを持って出かけよう	17	6
		2012.7.21		5	3
2012年 第3クール (9/29～10/27)	1	2012.9.29	生活に役立つ算数・遊びながら学ぶ国語	6	5
	2	2012.10.6	見えないモノを見る・測る(水質・微生物・電気等)	10	6
	3	2012.10.13	面白くてためになる社会科“楽習”	7	6
	4	2012.10.20	「わかやま」を学ぶ・味わう	4	5
	5	2012.10.27	デジカメを持ってまちに出かけよう！	4	6
2012年 第4クール (11/10～12/15)	1	2012.11.10	「ピタゴラ装置」をつくろう！	7	3
	2	2012.11.17	和歌山水質調査隊！身の周りの水を調べちゃおう	4	3
	3	2012.12.1	数値で見る和歌山～和歌山から数を探る	5	5
	4	2012.12.8	みかんアート～皮を捨てるなんてもったいない！ 飛ぶおもちゃ工作で飛距離を競争だ！	6	3
	5	2012.12.15	和歌山横断クイズで「和歌山検定」に挑戦！	6	3

表2 これまでの土曜楽交の内容一覧(中学生)

クール	回	実施日	授 業 内 容	参加人数	学生参加数
2011年	1	2011.5.28	社会科の基礎を楽しく学ぼう！ 中学一年生からわかる！実は楽しい「高校入試問題」	7	5
	2	2011.7.9	社会科の基礎を楽しく学ぼう！ 今度は世界編！ 中学一年生からわかる！実は楽しい「高校入試問題」 PART 2	7	2
	3	2011.10.22	国語力向上は「言葉を楽しむ」ことからはじめよう！ 中学一年生から解ける数学入試問題	6	4
	4	2011.10.29	国語力向上は「言葉を楽しむ」ことからはじめよう！ PART 2 中学一年生から解ける数学入試問題 PART 2	3	5
2012年 第1クール (5/12～6/9)	1	2012.5.12	国語・文章トレーニング！ その1 フォンランド式思考トレーニングで理解されやすい文章を書こう	10	2
	2	2012.5.26	理科・簡単顕微鏡をつくろう！ レンズの仕組みがわかるかも～!?自分で作った顕微鏡で観察！	10	2
	3	2012.6.9	国語・文章トレーニング！ その2 フォンランド式思考トレーニングで理解されやすい文章を書こう	7	2
2012年 第2クール (6/23～7/21)	1	2012.6.23	苦手分野をカルタで克服！ 自分で苦手分野を調べてカルタをつくろう	5	2
	2	2012.7.7	みんなで5択受験問題をつくろう！ その1 パワーポイントを使って5択受験問題を作ったらクイズ大会！	5	2
	3	2012.7.21	みんなで5択受験問題をつくろう！ その2 iPadを活用して苦手分野を克服！	4	2

#### 4. 教員養成からみた「土曜楽交」の成果

##### 4.1 土曜楽交の授業コンセプト

「土曜楽交」は、通常の教科学習や塾とは異なる学びを作り出すことを念頭に置き、「学校」ではなくて「楽交」という造語を用いている。ここには、「楽しく学ぶ」を基本に、一人で学習するのではなく、先生(大学生)や友人、モノや知識などまわりとのたくさんの関わりと「交わり」を大切にしながら進めるという意味が込められている。何をどれだけ学んだかというよりは、知的好奇心を持つこと、学び方を学ぶこと、どれだけ多くの人とコミュニケーションできたかを重視している。

実施形態としては、小学校4・5・6年生(中学校版は1・2・3年生)の3学年に渡る複式指導を前提としているため、知識の習得は重視せず、「興味・関心を持って、自分なりに課題を達成できたか」を目的にし、協働的に学ぶ意義や多様な物事の考え方を異年齢集団や大学とのかかわりから学ぶことを目指している。

国語や社会、理科といった教科の枠は無いが、授業コンセプトとしては、「和歌山(市)」や身近な生活に根差した学習内容、グループや集団で協力し、相互に交流・発信し合う学習体制を前提にした授業設計をおこなっている。なお、中心となって授業を進行する学生2名に加えて、各グループの学習を支援する学生の2段階構えの指導体制で実施し、できるだ

け子ども達と大学生との交流を深める意図を含ませている。

更に、原則として、「オリジナルの教材」(図1)を使って学習を進めること、一斉指導は極力抑え、協働的に学ぶ場を設定して何らかの成果物を残すこと、創作的活動を重視することなどが掲げられている。

ある意味、教科書や教材が確立されている通常の教育実習よりも学生が考えなければならない領域は広く、配慮すべき授業設計事項も多いといえる。

ただ、教材の連続性は無く、単発で終わるために知識獲得や学習の深まりは重視していない。授業時間内に興味・関心を持って取り組めたか、他者と関わりながら学習を進められたかが土曜楽交授業の成否であるため、通常の授業のように学習結果(理解度)が問われることは無い。

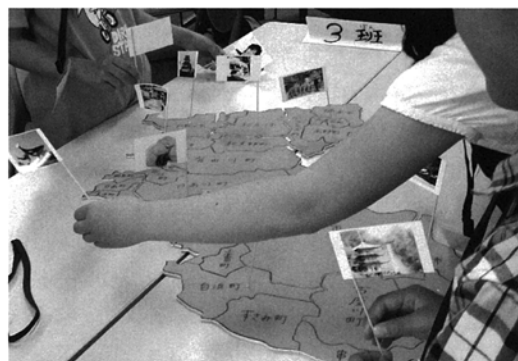


図1 オリジナル教材「和歌山地図パズル」

#### 4.2 「教員養成」における力量形成の位置づけ

「土曜楽交」が教育実習や学校ボランティアと異なる点は、授業内容の考案はもとより、その進行方法、学内の教室環境の設定、教材の作成に至るまで、授業計画・設計の全行程を学生独自で担う事である。また、そういった場・学習内容を設定した上で、学びたい子ども達が集まるといふ点では、「呼び込み型教育実習」との位置づけと考えられる。こういった視点から、「土曜楽交」を実施する学生の授業実践力向上の効果を検討してみたい。

まず、「知識獲得を目的とした一斉指導形態」の授業は、本学内における模擬授業(マイクロティーチング)においても、ある一定レベルまでは可能ではある。しかし、子どもらを活動させる、関わらせるようなグループ学習をはじめ協働的な学びの場を仮想的に設けて授業シミュレーションすることは非常に困難(=不可能)である。つまり、「指導者の持つ知識を教える」のではなく、「子ども達を活動させることで学びを促す」という発想を教員養成の学生らに認識させるためには、やはり学部内の講義や演習では限界があり、理論だけに終始し実践が伴わない。そういった点で、土曜楽交の授業コンセプトは、教員養成の学生において、「子どもが主役」の授業づくりと、そのための実践力強化に優れているといえるだろう。また、子ども達が学習課題を理解し、興味・関心を持って主体的な活動をおこなうために、こういった教材・教具の準備が必要か、活動時間の見通しは、学習レベルはどうかなど、多くの授業設計上の配慮事項を理解することで、指導力向上に役立っていることは間違いないことである。

また、教育実習と更に異なるところは、複数の学生が持ち前の技能を活かした授業を設定できること、十分な準備時間が確保できることに加えて、児童・生徒との交流が余裕を持ってできることも挙げられる。教育実習は、学校カリキュラム内の時間を割いての取り組みであるため、「失敗できない」というプレッシャーがあり、子どもひとり一人を見ていない、関わることができていないという指摘が多々なされることがある。土曜楽交は、参加する学生の下級生が、まずは各グループを担当するファシリテーター役から入っていき、徐々に子ども達の実態・様子を見極めながら、メインの授業者となっていくことで、子ども達への対応に段階を踏むことができていく。

まずは、個別に関わり、グループに関わり、全体に関わるというステップである。

加えて、「教材開発の力量向上」にも寄与できているはずである。教科書は一切使わず、オリジナル教材を開発(特に和歌山を学ぶ学習教材)することを前提としているため、各種掲示物・プレゼンスライドからはじまり、パズルや立体物・工作物、地元産食材を用いた料理まで幅広く教材を考案・作成している。担当する学生は、和歌山(市)出身の学生だけではないため、地域を教材として扱うことは未知の領域を扱うことに等しいが、地域を学習テーマに適合させる方法や、地域教材作成の手順を経験することとなる。これは、仮に、初任者教員として見知らぬ土地で勤務することとなっても活かされる体験であることは確実であり、現に「土曜楽交」での教材開発の手法を教育実習で用いている例も報告されている。

#### 4.3 「教育の情報化」への対応と学生のICT活用指導力の向上

会場となる「和歌山大学まちかどサテライト」には、情報機器環境が常設されているわけではない。よって、学習の目的を達成するためには、こういった機器がどの程度必要で、そのための設定や各種機器の使い方をどこまで習得しておくかを考えなければならない。これ自体が、学生のICT活用指導力を向上させる機会となっている。プロジェクターの設置や、デジタル教材の作成にはじまり、モバイル端末の無線LANへの接続やクラウドサービス、ワイヤレスプリント等々実践を見通して、こういった場面でICTを活用するかをシミュレーションしておく必要がある。こういった経験を積み重ねた学生が近い将来に教職に就いた際、子ども達の取材活動の充実をはじめ情報活用能力の育成を目的とした授業設計に役立てられるのではないかと考えられる。

教員を志す学生にとって、ICTが果たす役割を意識して、効果的に使用できる場面を考え実行できる機会は少ない。また、現状の教育現場においても、最新の情報機器(モバイル端末や電子黒板等)を使った活動的な学習の機会は少ない。これらの両者のニーズがマッチし、ICT活動指導力や主体的な学習活動の推進を目指す教育学部学生と、好奇心を抱いてアクティブな学習を欲する子どもたちが交わる場

として発展していけることは、多くの事例から考えられることである。

## 5. 今後の展望

2013年度も小学校版で全4クール(20回)の実施が計画通りに実施されている。これまで、教育実践学ゼミの学生が主体となっていた運営が、社会科教育ゼミ・理科(生物)ゼミにも拡大し、日程を分担しながら進めている。これによって、より多様な学習内容を含めることができ、子ども達もより多くの大学生との関わりも生まれている。教育実践学ゼミでは、上回生が下級生に授業担当の引継ぎをするなどして、継承的なゼミ活動の一端として位置づいているともいえる。

つまり、現体制での実施については、一定の軌道に乗っており、和歌山市との連携事業や教員養成の側面から見ても多種多様な成果が見込まれるといえるだろう。また、参加する子ども達にとっても、毎回の満足度が高く、当初の学びのコンセプトは達成されていると考えられる。

しかしながら、個々の授業内容を振り返り、評価することなく、「やりっぱなし」の感があり、全体運営に関する労力・費用対効果をどう評価するかも総括できていない。

またこの活動の「広がり」という点では、3年目にしても現状維持に甘んじているところがあるのも否めない。

今後は、教員養成の色合いを強め、学生らの授業

実践力形成を測る尺度を持って評価することや、授業設計や教材開発の面で現職教員からの評価を得ることも考えられる。

また、和歌山市の学校への「出前授業」を前提に、「土曜楽交」を試行的な場として設定し、学校教育現場ではなかなか実施しづらい特殊な教材を用いる授業や体験的授業(支援スタッフが多数必要な授業)をもって地域の学校教育に貢献することも考えられる。

もしくは、授業者である大学生らを組織立てて「授業研究サークル」として位置づけ、独立した組織として稼働させ、そこに運営側が委託するという形態をとることで、より学生の自主性に委ねた実施体制をとるという方策も考えられる。

こういった状況の中、文部科学省から「土曜授業」\*<sup>2</sup>の提案が出されたが、この方針を汲んだ活動に位置づくことで、更なる価値づけが生まれる可能性もある。「土曜楽交」3年目を経て、地域の要望・教育ニーズを検討し、これまでの総括的評価が必要である。

### 参考URL：

- \* 1) 「まちかど土曜楽交」の活動報告  
<http://www.wakayama-u.ac.jp/machikado/report/>
- \* 2) 土曜授業を活用した取り組みの推進(文部科学省)平成25年9月30日  
<http://www.mext.go.jp/a-menu/shotou/doyou/index.htm>

## 韓国公州大学校師範大学との交流

和歌山大学生涯学習部局と韓国・公州大学との学術交流協定に関する経過について

番号	年月日	内容
1	2014 年以前	韓国公州大学、忠清南道教育庁関係者との断続的な交流、社会教育に関する自治体視察等あり
2	2014 年 4 月～ 2015 年 2 月	韓国・公州大学師範大学校よりヤン・ビョンチャン教授のサバティカル研修を本学地域連携・生涯学習センターにて受け入れ。研究目的としては、大学の地域連携、生涯学習について本学の事例の検討。
3	2014 年 6 月	東アジア生涯学習グローバルフォーラム村田教員招聘講演（主催：忠清南道教育庁）
4	2014 年 8 月	日韓生涯学習フォーラム（主催：和歌山大学地域連携・生涯学習センター） 韓国から研究者 3 名、自治体平生教育士等 17 名が来和
5	2015 年 2 月 15 日	公州大学師範大学校と本学地域連携・生涯学習センター部局間学術交流協定締結
6	2015 年 6 月 9 日～ 15 日	学校と地域の連携に関する日韓比較研究調査（公州大学の取り組み事例調査） 村田教員、西川教員、船越教員（教育学部） 生涯学習グローバルフォーラム村田、西川招聘講演（主催：公州大学師範大学校）
7	2016 年 9 月	本学教育学部生本多智良さん（3 回生）、公州大学に短期留学
8	2016 年 11 月	東アジア生涯学習グローバルフォーラム村田招聘講演（主催：忠清南道教育庁）
9	2017 年 11 月 24 日～ 28 日	社会教育・平生学習日韓学術交流集会参加（ソウル大）及び大学の平生教育院（生涯学習センター）に関する現地（公州大学）科研費調査 村田教員
10	2017 年 12 月 12 日～ 14 日	忠清南道教育庁和歌山視察 平生教育振興院長ほか 2 名来和、村田教員、西川教員アテンド
11	2018 年 10 月 16 日～ 19 日	忠清南道教育庁「マウル教育共同体」構築に向けての日本研修 大阪（貝塚市）、和歌山（橋本市、かつらぎ町天野、県立粉河高校）、公州大学ヤン・ビョンチャン教授、忠誠南道教育庁及び道内自治体教育関係者 17 名、村田教員アテンド



韓国・公州大学校師範大学関係者と和歌山大学表敬訪問  
(2012年11月1日)



学校と地域の連携に関する調査（韓国・プルム高等学校）  
(2015年6月9日)

和歌山大学

# 生涯学習ニュース No. 42

<http://www.life.wakayama-u.ac.jp/>

2014年7月1日号

## 巻頭言

### 和歌山大学の実践から学ぶ

大韓民国 公州大学校 教授  
和歌山大学地域連携・生涯学習センター外国人研究員  
ヤン ビョンチャン  
梁 炳 贊  
Yang Byungchan



私は韓国の公州大学校に勤務しています。2年前、公州大学校は教育部（注：日本の文部科学省に相当する。）の「平生教育中心大学」（注：平生教育・平生学習は日本の生涯学習に相当する。）という3年間のパイロット事業を受託しました。当時の私は平生教育院院長を務めており、日本の大学の実践を分析するため、日本の研究者たちに地域連携が優れた大学がどこかを質問したところ、和歌山大学を推薦され、私は同僚たちとともに和歌山大学を訪問しました。和歌山大学は、他の大学の事業推進とは異なり、地域の要求に密着し、そして構造的なパートナーシップを構築していました。大学内にとどまることなく地域に拡張されたサテライトと、時代変化に敏感な「土曜講座」、地方自治体との協同、地域の高等学校との連携等がそれでした。国立大学として地域の社会貢献の責務を持つ我が国としては、こうしたパートナーシップ事業はたいへん参考になりました。

現在、韓国の大学も日本と同様に、少子化に伴う入学志願者の減少等で大学間競争が熾烈化し、構造改革を目前にしています。高等教育の大衆化（universal access）時代を迎えているにもかかわらず、大学内部の自己認識は依然として過去のエリート大学の水準で、高等学校を卒業した伝統的學生だけを教育の対象として認識しています。このような大学と社会の矛盾関係は、今日の日本でも起きているでしょう。このような変革期に新しい視点とアプローチが必要だという考えから、私は再び1年間和歌山大学に参りました。「和歌山らしい」実践はどのように成り立っているのかを現場で見たかったのです。4月から1年間、生涯学習の観点から地域で大学はどのように存在すべきかという問いを持って両国の事例を比較し、研究しようと思います。

私が外部者の観点から和歌山大学の実践に注目していることが3つあります。

第1は、地域と大学の関係から何を創造するかという問題です。一般的に大学は学問という名で知識を生成・流通・消費してきました。このように生成されたアカデミックな知識が、地域住民や産業に一方的に流れていくことで生じる不協和音が多かったのです。

今、私たちはグローバル社会<sup>※</sup>に生きています。社会が急激にグローバル化しても、地域の独自性が保障されなければならない、地域の地域らしさが生命であり競争力である社会において、新しい知識はどのように創造されるのでしょうか。大学の研究室や実験室だけでは十分ではない新しい地域知（local knowledge）の創造方式が必要です。大学の地域貢献の努力は、ただ大学の地域に対する奉仕といった次元にとどまるものではなく、このような努力の成果が、大学の教育と研究の発展に寄与できる可能性をいっそ

う拡大することができる条件を作っていかなければなりません。OECDの「地域に貢献する大学」の概念や日本の「COC（Center of Community）事業」も、このような観点での地域の中心になる大学を意味するものでしょう。和歌山大学の学部は、その地域の住民の生き方と密接な経済・産業・教育部門に焦点が合わされています。地域による、地域のための、地域の知識創造に、和歌山大学の何を寄与すれば何をを得るのかを注目したいのです。

第2は、大学と地域の連携で誰が中間ネットワークとしての役割を果たすかです。これまで大学と地域の関係は個人の次元で、かつ、断続的なアプローチが一般的でした。大学教員個人があちこちにぶち当たりながら地方自治体や団体・企業との関係を形成して定着するようになる場合がありますが、ここには多くの試行錯誤があり、多くの場合は困難を経て途中で放棄するのが常です。しかし、これからは大学と地域との関係はいっそう構造的でネットワーク的な方式を取らなければならないでしょう。したがって、誰がこの異質な関係において中間プラットフォームとしての役割を担当するのか。二つの主体を連結する通路として、和歌山大学地域連携・生涯学習センターの役割は先導的です。地方自治体や教育委員会、学校等とのネットワークにおいて公式に持続可能な構造を構築していく手順もたいへん実践的で組織的だと思いました。

最後に、地域と関係する方法の次元でどのように接近するかということです。私はこれまで田辺市をはじめ、橋本市・有田市など、和歌山大学が関係している地方自治体の生涯学習推進計画策定のための地域関係者会合を参観する機会を得ました。一般的に大学の専門家たちと地域関係者たちの出会いは専門家主義に立脚して、一方的な関係を結ぶことになりがちですが、和歌山大学の方式は、協働的（collaboration）関係を堅持していました。地域の力を引き出せなければ専門家の構想も助言も無意味だという経験が続けてきた私としては驚くべき場面でした。地域が主体的に構想し、実践できるよう共に悩む大学の態度は、日本と韓国のどこでも容易に見ることのできない姿勢でした。地域が、自ら成長することができる主体を形成することが生涯教育の基本原理ですが、容易でない作業であり、大学と地域の持続的な関係形成の観点から、この方法に注目しようと思っています。

今、日韓両国の大学は転換期を迎えています。これまでの大学の存在のあり方や地域との関係から全面的な構造転換を試みなければならない時が到来しました。和歌山大学のこれまでの実践に注目しながら、今後の両国の大学と地域の関係における新しい視点のアプローチをともに模索してみたいと思います。

※グローバルはグローバル（global）とローカル（local）からの造語であり、地球規模の視野と草の根の地域の視点でさまざまな問題を捉えていることとする考え方を示す。



## 4. 參考資料





## センター設置にあたり文部科学省に提出された資料

和歌山大学生涯学習教育研究センター  
設置計画（案）

平成 9 年 8 月

和歌山大学

# 和歌山大学生涯学習教育研究センター 設置計画

## I 和歌山大学における生涯学習の現状

### 1 和歌山県における生涯学習の現状

#### (1) 和歌山県における歴史と現状

和歌山県は、広大な山間地、農産地を抱える地理的条件のため、戦後、高度成長期において、経済的、文化的発展から立ち遅れてきた。

しかし近年、経済的、文化的発展を支える県民の力量を培うことに重点をおく、自治体施策が行われてきた。和歌山県北部に位置する貴志川町では、全国的にも早い昭和 63 年「生涯学習の町宣言」を行い、町の長期総合計画においてもそれが基調となっている。平成 2 年「生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律」制定もあって施策化された国の「生涯学習モデル市町村事業」の指定を受けた県下市町村は、平成 8 年度までに 50 市町村中 32 市町村を数えている。

また、和歌山県では、昭和 63 年度より和歌山県生涯学習推進会議を設置し、県民の生涯学習への取り組みを交流し、励ますために平成 3 年度から和歌山県生涯学習フェスティバル（平成 6 年度まで）を、平成 7 年度から「きのくにまなびふれあい広場」を事業化し、また、平成 6 年度より自治体職員、教員、民間事業者の生涯学習にかかわる実務的、理論的力量を高めるための「生涯学習プロパー研修事業」を実施している。

また、一方、県下の高等教育機関の事情を見れば、量的に少なく地理的にも北に偏在している。また、県下の公私立大学においても公開講座等が開設されているが、他府県と比べて、大学が地理的に偏在化していることもあって、広く県民に及んでいるとはいいがたく、質量ともに十分とはいえない。

#### (2) 和歌山県における生涯学習のニーズ

##### ①県民の学習ニーズの高まり

和歌山県は、山間地の市町村を含む地域であり、高齢化も進んでいる（65 歳以上人口 17.5%、全国 15 位）。こうしたこともあって「健康や体力づくりやスポーツ」（51.1%）、「趣味や芸術など」（47.1%）を学びたいという学習内容への関心が高い。同時に「地域の歴史や文化・自然など」（25.0%）、「政治、経済、科学、文化など」（20.5%）とするものも高い。しかし「近くに学びたい内容の講座や場所がなかったから」（26.7%）として「学ばなかった」とするものが少なくない。これは自治体の多くが小さい規模であり、多様な学習内容が準備できないことを反映している。

このため県民からは「公開講座を開いている学校・大学などで学びたい」（13.2%）、「将来、大学等（専修学校、大学院を含む）で学びたい」（28.4%、特に 30 歳代 41.7%、40 歳代 35.3%。大学所在地からもっとも遠方の東牟婁郡でも 26.6%）と希望が出されている。また、「近くの学校で、地域の人を対象にした講座を開いて欲しい」（41.5%）という希望も高い。ま

た、学習方法においては、「テレビ・ビデオやラジオなどを利用して」学びたいというものが高い（30.8%）のも特徴的である（データは、いずれも和歌山県教育委員会『県民の生涯学習に関する意識調査報告書』（平成6年1月））。

以上のような県民のニーズは、市町村自治体の調査にも表れている。御坊市での調査によれば、「生涯学習が必要である」とするものは、70.2%である。特に40歳代においては、81.9%に上る。内容的には、「趣味や楽しみ」（53.3%）、「老後の生活」、「保健・健康」に続き、「知識・教養」（20.7%）、「仕事に役立つ」（17.5%）など職業的な学習を求めている。しかし、実際の自治体の事業には参加していないとする者が6割あり、その理由として「魅力的な講座などがない」とする者が多く（19.7%、特に男性は23.0%）、ニーズと現実のギャップを示している（御坊市教育委員会『御坊市生涯学習市民意識調査報告書』平成7年度）。

これらのデータは、高度な生涯学習ニーズや職業的な学習ニーズに対して大学が応えていくことの必要性を示している。

## ②地域のリフレッシュ教育へのニーズと本学の対応

上記のデータにおいても、職業的必要から学習ニーズの高まりを見ることができたが、急速な科学技術の進展や社会の変化に伴い、企業や地方公共団体及びそこでの従事者からのリフレッシュ教育へのニーズも高まっている。

本学と地域の産業界は、技術開発と人材確保、企業経営方法の開発普及を目的として、「産学交流センター」（本学システム工学部、近畿大学生物理工学部、和歌山商工会議所の三者。平成8年3月）及び「和歌山県地域経済研究機構」（本学経済学部、和歌山経済研究所、和歌山商工会議所。平成8年7月）を設立している。

一方、地方公共団体も地域社会の急激な変化のなかで、事業官庁から政策官庁への脱皮を求められ、高度な職業的な教育を必要としている。これらの諸団体は独自の研修の充実を図っているが、大学等への期待も高い。和歌山県職員研修所の調査によれば、政策理論、政策形成手法、地域政策論など公共政策関連課題については、特に「大学、各種学校等の教育機関を利用する」ことを希望する者が多い。地域政策論については、次長級12.8%、課長級（課長職以外）8.7%が希望し、政策形成論については、課長級7.0%、課長級（課長職以外）8.7%が希望しているなど、政策作成業務に携わる管理職クラスほど大学等の学習ニーズが高いのである（いずれも和歌山県職員研修所『和歌山県職員研修ニーズ調査報告書』平成7年10月）。

また、学校職員については、本学大学院教育学研究科において、和歌山県教育委員会との連携の下に、他府県と比べて多くの現職教員を受け入れており（入学者数の4割・国立大学平均約3割）、また、学校教育現場の緊急課題に応える公開講座を、教員と父母の共同学習として展開できる方法で実施している。

このように、生涯学習への強い要望を見るとき、和歌山県及び県下の自治体と高等教育機関が、それぞれが生涯学習の事業を充実させるだけでなく、相互に連携・協力し、多様な学習ニーズに応えることが必要であることを示している。また、放送メディア等を活用し、遠隔地にも届けることができる方法などを考慮する必要性を示している。

特に、和歌山大学は教育学部、経済学部に加え、県民の多年の要望であった理工系のシステム工学部を設置し、多様な学部を擁する県内唯一の国立大学となった。この多様な学問分野

を生かし、県民の生涯学習ニーズ及び産業界、官界が必要とするニーズに応えていく上で本学の役割は極めて大きいと言えよう。

### ③地域からの要請・期待

既に触れたように、和歌山県は積極的に生涯学習振興策を実施しているものの、高等教育機関の本県における偏在等により、高等教育段階における生涯学習については未だ十分とはいえないが、和歌山県または県民からの本学を含めた高等教育機関に対する要請・期待には大きなものがある。和歌山県教育委員会からは、すでに別紙1のとおり、地域の生涯学習の中核機関としての本学の生涯学習教育研究センター設置への要望書が提出されており、また、現在策定中の和歌山県生涯学習推進基本構想においても、地域の高等教育機関への期待が議論されている。こうした地域的ニーズからも本学としても早急に同センターを設置することが地域の国立大学としての責務であると考ええる。

また、平成7年3月に、県の「和歌山県高等教育調査委員会」は次のような提言を行っている。「生涯学習の機運が高まる中で、カルチャーセンター的な活動にとどまらず、レベルは高度化、多様化しており、高等教育機関の人材、教育施設への期待が大きくなっている。こういったニーズに応えるためには、高等教育機関が主体となって教育・研究機能、施設など多様な資源を広く住民に開放し、産業界や行政にも活用できるような体制を整える必要がある」。また、「放送や通信メディアを活用した新しいシステムによる学習情報や高等教育機関相互間（中略）の連携、交流を可能とするためのネットワークの整備を図る必要がある」との提言も行っている。さらに、「行政においても多様化、複雑化する行政ニーズに対応するための課題は山積していて、高等教育機関はこれらに応える必要がある」としている。これらは、和歌山県として高等教育機関に対する期待を表明したものであり、これに応えるためには、学部や附属施設の枠を越えた学内共同教育研究施設としての生涯学習教育研究センターを本学に設置する必要があると考える。

さらに、財団法人和歌山経済同友会は昨年12月に、「次なる和歌山の活力を求めて」と題する提言をまとめたが、その中で人材育成の観点から、「多様化・複雑化が進むビジネス社会において、社会人はより高度な専門的な知識を求めている。大学は社会人を対象とした『大学連合公開講座』を開設し、地域教育レベルの向上に資することが望ましい」としており、県内の大学に対する期待を表明している。本学は、県内唯一の国立大学として、社会人に対する高等教育レベルの教育機会を提供するほか、他の県内大学と共同した多様な生涯学習機会を提供する必要がある。

また、同提言をまとめる際、和歌山経済同友会が会員へのアンケート調査を実施しており、その中で、「教育・研究活動といった観点から地域の魅力づくりを進めるため、何をすべきか」との問いに関し（二つ以内の複数回答）、「地域内における産官学共同の研究活動を強化する」とする者が44%であるのに対し、「個性ある大学の育成、誘致に努力する」との回答が62%にも達しており、个性的な大学づくりの必要性が明確に示されている。

本学は、生涯学習教育研究センターを設置することによって、地域社会や企業とのチャンネルを豊かにし、地域が期待する「個性ある大学」に脱皮することができる。

以上のように地域のニーズを恒常的に受信し、大学の高度な研究と教育内容を発信する

ネットワーク型生涯学習システムを大学が担うことを求めている。

## 2 本学における生涯学習の取り組みの現状

### (1) 生涯学習社会に対応する本学の沿革

本学は戦後発足以来、地域の各界各層のニーズに応じて公開講座等生涯学習への対応を行ってきた。

特に近年は、地域社会に向けての事業とともに、社会人等の学習機会を拡充するための諸制度を導入してきた。

①社会人入学制度、科目等履修制制度の導入

②経済短期大学の廃止と経済学部・夜間主コースの設置

③編入学定員の設定

④経済学部への社会人研究生（産業教育内地留学生）の受け入れ

⑤経済学研究科修士課程の夜間開講、社会人大学院生の受け入れ

⑥教育学研究科修士課程への現職教員の受け入れ

⑦教育学部における特殊教育特別専攻科の設置

⑧教育学部整備に伴い文化社会課程生涯教育コース（平成7年4月、総合科学課程生涯教育コースに改組）を設置し、生涯学習にかかわる教育・研究体制を整備

### (2) リカレント教育、市民向け公開講座等の取り組み等

本学は、市民向け公開講座及び職業上の学習ニーズにも応えるリカレント教育にも取り組んできた。

① 教育学部では、教員免許認定講習や学校図書館司書教諭講習などに取り組んできた。現職教員の資格取得の機会を提供するとともに、学校図書館司書教諭の養成を通して、生涯学習社会に必要な自己教育力を形成する教育指導者の向上に貢献してきた。

② 和歌山県教育委員会と共催し、女性の学習意欲に応えるウィメンズ・ライフロング・カレッジを実施し、女性の高度で多様な学習ニーズに応えてきた。

③ 和歌山県教育委員会と共催し、地域の自治体職員、教員の生涯学習への専門的教養と実務能力を高めるための生涯学習プロパー研修事業を実施してきた。自治体職員が、環境・福祉・文化などに関わる地域課題を住民の生涯学習と参加によって解決する手法と政策形成能力を身につけるプログラムを、教育学部、経済学部、システム工学部教員の連携によって開発、実施してきた。

④ 公開講座を本学独自及び市町自治体との共催で実施してきた。これは、本学キャンパスで開催するだけでなく、市街地に位置する附属学校や新宮市や粉河町など遠隔地でも開催してきた。テーマについても、時代の切実な課題を取り上げ（「日本の金融システムを考える」、「子ども・教師・親たちのSOSからの出発」平成8年度）、市民的、職業的なニーズに応え好評であった。また、受講生との双方向的コミュニケーションを保障するため、セミナー方式なども取り入れ好評を得てきた。また、共催する自治体との費用分担を行い、受講者のための保育室を設置するなど工夫も行ってきた。

- ⑤ 本学教員の多くが、和歌山県及び市町村自治体の長期総合計画及び生涯学習計画の策定やコンサルティングに貢献し、また、個別生涯学習事業に貢献している（別紙2参照）。

しかし、これらの多くは学部別あるいは教員個人の対応にとどまっており、全学的に組織的、計画的に実施されているとはいいがたい。また、教員個人による地域・自治体との関係の蓄積を生かした対応に止まっている。従って、全学的に組織的・計画的に実施されているとはいいがたく、全学的な体制の整備が求められている。

### （3）オープンカレッジ構想の検討

本学は昭和62年、市街地の西高松団地、真砂地区から現在の栄谷団地への移転統合が完了して以来、地域社会及び国際社会に開かれた大学にするべく構想を検討してきた。

平成5年12月、評議会のもとに設置された和歌山大学西高松団地利用計画検討委員会は、平成7年3月、「和歌山大学の地域及び国際交流のための施設」の設置構想を提言した。その基本的機能は、①知的情報・資源の伝達・継承活動、②文化・芸術活動、③物的な学術資源の陳列・展示活動、④古文書・公文書、記念品等の収蔵・整理活動、⑤その他（留学生関係の展示など）である。この施設を拠点として、本学に蓄積された学術研究の業績を地域社会に還元するとともに、本学を地域社会と国際社会に開かれたオープンカレッジとして展開しようとする構想である（なお、「オープンカレッジ」は、生涯学習教育研究センターを含む大学・大学院及び附置・附属施設全体が、地域社会と国際社会に開放される構想の全体像を意味する）。

本学では、以上のように既存の組織（その改革を含め）によって、本学に蓄積された学術研究の業績と地域の生涯学習へのニーズを結びつける事業を実施しつつ、さらに広く地域社会に貢献しうる全学の組織の効率的に効果的運営の構想を成熟させてきたのであり、本センターを設置することによって、本学は地域及び国際的に開かれた大学へと大きく前進するであろう。

### 3 本学の生涯学習の取り組みの課題

平成8年4月、生涯学習審議会答申「地域における生涯学習の充実方策について」は、大学をはじめとする高等教育機関の生涯学習社会の実現への貢献を求めている。

答申は、大学等が「社会人の受け入れの促進」のために、①教育内容、履修の方法の弾力化、②公開講座の拡充、③学内の組織整備体制整備、④社会人学生への支援を充実することが必要であり、「地域社会への貢献」のために、①施設開放の促進、②ボランティア等社会からの支援を受け入れることが必要であると指摘している。

これら答申に指摘された内容と照らすとき、本学及び和歌山県のこれまでの生涯学習への対応は十分とは言えないであろう（別紙3参照）。

特に和歌山県は、国公私立を合わせても大学等高等教育機関が全国的に少ないのであり、本学が果たすべき役割は、他の都道府県に位置する国立大学に比して格段に大きい。本学以外の大学が、宗教・人文系（高野山大学）、医学系（和歌山県立医科大学）、理工系（近畿大学生物理工学部）のいわば単科大学であることを考えれば、本学が大学における生涯学習への対応を研究、開発することや地域の大学等教育機関のネットワーク化の中心的役割を果たすことが必要である。

また、本学には県民の長年の要望であった理工系のシステム工学部が増設されたことにより、人文、社会、理工系の多様な研究者を擁する大学となり、地域社会の文化、教育はもちろん、産業振興上に大きな役割を果たすことができるようになった。また、県民及び自治体、企業の文化・教育的必要からの学習ニーズ、産業的・職業的必要からの学習ニーズと本学の研究及び技術開発が結びつくことによって、本学の学術研究はさらに活性化するであろう。

さらに、全学の教員が生涯学習への対応に積極的に係わるためには、教員の生涯学習についての意識改革とともに、教員の生涯学習への貢献を業績評価として確立する必要がある。この業績評価の在り方についての研究開発を進める必要もある。

以上のような地域社会、産業社会、官界の生涯学習の必要に応える体制を整備することによって、学部教育における生涯学習にかかわる教育がより充実し、生涯学習社会において有用な人材を送り出せることができる。

## Ⅱ 生涯学習教育研究センターの設置

### 1 生涯学習教育研究センター設置の必要性

既に述べたように、本学では、大学・大学院教育として生涯学習へのニーズに応えるとともに、地域・自治体と協同し生涯学習事業を展開してきたが、今後、本学が大学にとっての新たな課題である生涯学習に全学一体となって組織的・計画的に進めるためには、学部ごと若しくは学部連携の取り組みには自ずから限界があり、和歌山県下のニーズに十分に対応しうる生涯学習の推進は不可能である。

また、全学的に組織的・計画的な取り組みを進めるためには、生涯学習に関する学識と実績及び実務的力量を有する教員が必要不可欠である。このため、専任の教員組織による生涯学習を総合的に推進する体制の整備を早急に行い、本学のもつ多様な人材と業績、施設を効果的に活用し、地域の生涯学習システムの中核的役割を担うため、「生涯学習教育研究センター」を平成10年度に設置する必要がある。

### 2 生涯学習教育センターの役割及びその意義（別紙4参照）

本学が構想する生涯学習教育研究センターの役割は、地域における大学等高等教育機関の立地状況からみて、他の都道府県に位置する国立大学のものに比して格段に大きいことは強調されなければならない。このため、和歌山県における高等教育機関のオピニオンリーダーとして、生涯学習に関わる研究と事業の開発に取り組み、また、県下の大学の連携の中核を担う。

教育学部、経済学部に加えて設置された理工系のシステム工学部に蓄積された専門的領域に関わる高度な研究業績の成果を、地域振興に関わる産業上・職業上必要とする人々に、様々な学習プログラムとして提供するリフレッシュ教育に取り組むことが必要である。

また、山間地も含む県下各地で、地域の生活、産業上必要とする課題として総合的な公開講座を、自治体や地域団体と協同し、また、通信メディア等の活用の開発をしながら実施する。

特に、青少年向け公開講座を積極的に開設する。本学には不登校児とその家族を援助する学生サークルなどの実績もあり、青少年向けプログラムには、教員だけにとどまらず、大学院学



生や学部学生あるいは社会人をボランティア講師として活用するなどして多彩なプログラムを実施する。

また、本センターを中核に、本学に蓄積する地域の社会的・経済的分析手法（経済学部等）、地域計画の手法（システム工学部）、地域の多様な学習ニーズに関わる多様な専門研究（教育学部等）が結合することにより、和歌山県及び市町村の地域生涯学習計画の充実に貢献することができる。この課題については、既に触れた和歌山県生涯学習プロパー研修事業において端的に実施されているが、今後、本センターの設置によって継続的・系統的に取り組むならば、日本における新たな水準の研究と現実への貢献を実現することができる。また、現実的・実際の課題と結びついた大学における研究活動の発展によって大学における研究の活性化がもたらされるのである。

以上のように、本センターは、地域のニーズを的確に受信しそれを受止めながら、大学の高度な教育・研究内容を広域的・重層的に発信するネットワーク型センターとして機能するのである。

本センターは、上記の事業と結びつきながら、生涯学習に係る基礎研究（生涯学習の本質、理念、教育内容・方法、評価、計画策定、比較研究等）を、学際的な共同研究として展開し学問的に体系化を行う。この成果は、地域生涯学習の実践に還元されるだけでなく、大学教育の内容に取り入れることで、学部教育における専門的・基礎的教育内容を充実させ、生涯学習社会と言われる時代に有用な社会人、市民として成熟した人材を社会に送り出すことができる。

加えて、生涯学習を大学の教育・研究と並ぶ基本的機能の一つとして確立する上で、生涯学習に関わる教員の業績評価に関する研究を行い、業績評価の改善に取り組むことで、大学の社会的機能の活性化に寄与できる。

### 3 生涯学習教育研究センターの具体的な活動・事業（別紙5、6参照）

本センターでは、基礎研究を含む調査研究を専任教員及び全学教員の学際的共同研究として行い、生涯学習教育研究機関としての役割を果たし、併せて地域の生涯学習社会の形成に寄与する事業を展開する。

#### （1）調査・研究部門

##### ① 基礎研究分野

生涯学習及び大学における生涯学習に関わる分野の研究

イ 生涯学習における大学の役割に関する調査・研究（大学教員の生涯学習に関わる事業評価を含む）

ロ 生涯学習の理念と目的に関する調査・研究

ハ 生涯学習に関する資料・情報の収集、分析と提供

ニ 生涯学習の実践、ニーズに関する調査・研究

ホ 生涯学習のプログラムの調査・研究

ヘ 生涯学習に関わる各種メディア、放送大学などの活用などに関する調査・研究

ト 生涯学習社会における学校教育に関する調査・研究

チ 地域生涯学習の計画化、システム化に関する調査・研究

## ② 地域応用研究分野

### イ 生涯学習に関わる現代的課題に関する研究

- i 地域開発と環境保全に関わる諸課題
- ii 高齢化と生涯学習・地域福祉システムの諸問題
- iii 国際化・異文化理解に関わる諸問題
- iv 情報化社会に関わる諸問題

上記のような現代社会と地域が求める諸課題について、教育学部（総合科学課程国際文化コース及び生涯教育コースなど）並びにシステム工学部（環境システム学科、情報通信システム学科など）等が軸となりながら、全学的な研究体制をとり、かつ外部からの研究参加者を求めている。

### ロ 地域の生涯学習に関わる基礎研究

- i 和歌山の歴史・文化に関する研究
- ii 紀伊半島の自然と環境保全
- iii 和歌山の伝統産業・地場産業と地域開発

ここでは、学内共同研究組織である紀州経済史文化史研究所（学内措置）や経済研究所（学内措置）などの学術的蓄積を生かしながら、全学的な研究体制をとるとともに、外部からの研究参加者を求めている。

なお、調査・研究部門の課題については、専任教員が中心となり進めるが、専任教員に加えて教育学部、経済学部及びシステム工学部の教員との連携において行う。特に学内には学部ごとにあるいは学部間を越えた地域研究プロジェクト及び産官学共同研究プロジェクトが稼働しており、それらの学術的陸績を本センターに集約し、生涯学習社会の理論的形成に貢献する。

## （２）事業部門

### ① 学習機会の提供

- イ 公開講座などの社会人に対する学習機会の提供
- ロ 各種専門職への高度専門共同セミナーの開設
- ハ 社会人の大学教育へのニーズに対する履修指導、助言
- ニ 大学の施設・設備の開放による地域住民への教育・学習機会の提供
- ホ 和歌山県に設置の予定されている放送大学学習センターとの連携事業
- ヘ 中高生への学問的関心を高めるための講座等の開設

### ② 大学の学術研究業績の公開・提供

- イ 学術講演会の開催
- ロ 学術研究業績を生かした研究会、研修会の開催
- ハ 学術研究資料の公開

### ③ リフレッシュ教育

- イ 各種専門職への高度専門共同セミナーの開設

- ロ 大学院や学部教育体系にはすぐに位置づかない学問の成果の提供
- ハ 地域社会や企業環境が即効性をもって必要とする領域の研究と学習の場の提供
- ④ 指導者養成・研修
  - イ 生涯学習指導者の研修
  - ロ 大学院教育・学部教育における生涯学習に関する教育の充実
- ⑤ 情報提供・相談活動
  - イ 生涯学習に関わる市民への情報提供・相談
  - ロ 生涯学習機関・団体への情報提供・相談
  - ハ 生涯学習に関する情報ネットワーク形成
  - ニ 地域生涯学習計画のコンサルティング

これらの生涯学習社会の形成への具体的支援としての大学の貢献の事業については、本センターの専任教員を含む運営委員会の計画・立案の下に教育学部、経済学部、システム工学部の全教員の支援を得て遂行される。特に、学内で稼働する学部ごとあるいは学部間を越えた地域研究プロジェクト及び産官学共同研究プロジェクトの学術的蓄積を、本センターから公開し、職業的・市民的学習ニーズに応えていく。また、この事業部門には、和歌山県から派遣が予定される研修生を参加させ、大学と地域を結ぶ生涯学習事業を担う人材の育成を図る。

### (3) ネットワーク部門

- ① 遠隔地とのネットワーク化
 

遠隔地の人たちが、ネットワークを通じて本センターにおける同等の生涯学習ができるようにする。

  - イ 分室の設置
  - ロ 公共機関と連携し情報端末の設置
- ② 生涯学習関連組織等とのネットワーク化
 

生涯学習関連組織・行政のネットワーク化を進める。産学共同、官学共同を含みながら、より広い地域（行政、企業、市民を含む）と大学の共同、地域社会や市民に開かれた大学への改革を推進していくために関連組織のネットワーク化を進める。

  - イ 行政機関との連携
  - ロ 高等教育機関との連携
  - ハ 産業界との連携
  - ニ 各種生涯学習関連団体及び市民との連携

以上の三部門を有機的に関連させ、本センターを機能させる。特に、調査・研究部門、地域応用研究分野の研究課題については、広く地域から募集（委託研究を含む）し、学内外の研究者の継続的な研究を組織し、その成果を事業部門において公開講座、学術講演会などの形式で具体化し、広く地域社会からの批判、批評を受けて現実的効用のある業績とするとともに、地域的提言としてその成果を普及する。これを円滑に推進するのが、ネットワーク部門である。

この部門は、地域・市民及び産業界、官界の生涯学習に関わるニーズを大学の諸講座等及び研究プロジェクトを媒介し、大学が研究内容的にも社会に開かれていることを促進していくのである。

本センターは、以上の機能を担うことによって、本学が広く県民、地域社会に開かれたものになっていくのである。

#### 4 生涯学習教育研究センターの組織

教（一）				計	
教授	助教授	講師	助手		
△ 1 1	△ 1 1			△ 2 2	振替元 教授—教育学部 英語教育講座 助教授—教育学部 学校教育講座

#### 5 生涯学習教育研究センターの管理運営組織（次葉参照）

- （１）センター管理委員会を置く。
- （２）センター運営委員会を置く。
- （３）センター教員組織を専任教員及び併任教員で構成する。
- （４）センターの役割が、地域において十分に果たせるように教育委員会等生涯学習関連組織との協議組織を置く。

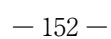
#### 6 特別要求額内訳

##### ① 施設及び営繕費

施設整備 西高松団地松下会館改修 1,743㎡ 286,500 千円

##### ② 設備費 41,463 千円

##### ③ 運営費 6,815 千円



(別紙 3)

生涯学習審議会答申（平成 8 年 4 月）の課題等と本学の現況

1 社会人の受け入れの促進

	課 題 と 主 内 容	現 況																								
教育内容の多様化と履修形態の弾力化	◆社会人特別選抜の推進 ・社会人特別選抜の一層の推進 ・社会人を主たる対象とする研究科・専攻、専修コース設置	・大学院教育学研究科での現職教員の受入れ <table><tr><td>H6 年度</td><td>1 6 名</td></tr><tr><td>7 年度</td><td>2 1 名</td></tr><tr><td>8 年度</td><td>1 7 名</td></tr><tr><td>9 年度</td><td>2 0 名</td></tr></table> ・教育学部発達障害教員養成課程（現教職員及び社会人を対象）（9 年度より特殊教育特別専攻科に改組） <table><tr><td>H6 年度</td><td>2 1 名</td></tr><tr><td>7 年度</td><td>1 7 名</td></tr><tr><td>8 年度</td><td>3 2 名</td></tr><tr><td>9 年度</td><td>1 3 名</td></tr></table> ・経済学部での社会人の受入れ（研究科を含む。） <table><tr><td>H6 年度</td><td>2 3 名</td></tr><tr><td>7 年度</td><td>1 6 名</td></tr><tr><td>8 年度</td><td>2 名</td></tr><tr><td>9 年度</td><td>1 4 名</td></tr></table>	H6 年度	1 6 名	7 年度	2 1 名	8 年度	1 7 名	9 年度	2 0 名	H6 年度	2 1 名	7 年度	1 7 名	8 年度	3 2 名	9 年度	1 3 名	H6 年度	2 3 名	7 年度	1 6 名	8 年度	2 名	9 年度	1 4 名
	H6 年度	1 6 名																								
	7 年度	2 1 名																								
	8 年度	1 7 名																								
9 年度	2 0 名																									
H6 年度	2 1 名																									
7 年度	1 7 名																									
8 年度	3 2 名																									
9 年度	1 3 名																									
H6 年度	2 3 名																									
7 年度	1 6 名																									
8 年度	2 名																									
9 年度	1 4 名																									
◆夜間大学院の拡充 ・夜間大学院の設置 ・都市部にサテライト的学習の場設立 ・昼夜開講制  ・標準修業年限の延長	・未着手 ・未着手（本センターにおいて実施） ・経済学研究科に夜間主コースを設定（H9） 実績 H9 - 10 人 ・未着手																									
◆科目等履修生制度の積極的活用	・規定済（H6 年度）（研究科を含む。） ・実績 <table><tr><td>H6 年度</td><td>2 2 名（1 3）</td></tr><tr><td>7 年度</td><td>2 1 名（1 5）</td></tr><tr><td>8 年度</td><td>2 9 名（1 7）</td></tr><tr><td>9 年度</td><td>1 6 名（1 0）</td></tr></table>	H6 年度	2 2 名（1 3）	7 年度	2 1 名（1 5）	8 年度	2 9 名（1 7）	9 年度	1 6 名（1 0）																	
H6 年度	2 2 名（1 3）																									
7 年度	2 1 名（1 5）																									
8 年度	2 9 名（1 7）																									
9 年度	1 6 名（1 0）																									
		注）括弧内は、高齢者、主婦等生涯学習のための入学者																								

	課 題 と 主 な 内 容	現 況																				
教育内容の多様化と履修形態の弾力化	◆研究生の受入れ ・企業からの研究生等	・実績 <table><tr><th colspan="2">教育学部</th><th colspan="2">経済学部・産業教育内地留学生</th></tr><tr><td>H6 年度</td><td>2 名</td><td>H 2 年度</td><td>1 名</td></tr><tr><td>7 年度</td><td>3 名</td><td>3 年度</td><td>1 名</td></tr><tr><td>8 年度</td><td>1 名</td><td>4 年度</td><td>1 名</td></tr><tr><td>9 年度</td><td>1 名</td><td>5 年度</td><td>1 名</td></tr></table> 注) 卒業後すぐに研究生となった者及び留学生を除く。	教育学部		経済学部・産業教育内地留学生		H6 年度	2 名	H 2 年度	1 名	7 年度	3 名	3 年度	1 名	8 年度	1 名	4 年度	1 名	9 年度	1 名	5 年度	1 名
	教育学部		経済学部・産業教育内地留学生																			
	H6 年度	2 名	H 2 年度	1 名																		
	7 年度	3 名	3 年度	1 名																		
8 年度	1 名	4 年度	1 名																			
9 年度	1 名	5 年度	1 名																			
◆通信教育の改善充実 ・通信制未採用大学→情報通信網活用 他大学との連携 地教委、社会教育施設と連携公開講座	・本センター設置により実施予定。 ・平成9年度紀伊半島3県（和歌山・奈良・三重）の教育員会、国立大学の共同により実施予定（衛星通信利用による公民館等の学習機能高度化事業）																					
◆大学への編入学等 ・編入学定員の積極的設定  ・大学間の単位互換  ・大学外の実施施設の学習成果の単位認定	・経済学部中間主コースで実施（H7） <table><tr><td rowspan="3">定員10名</td><td>H7年度</td><td>8名</td></tr><tr><td>8年度</td><td>8名</td></tr><tr><td>9年度</td><td>7名</td></tr></table> ・大経大・京教大・奈良教・滋賀大・和歌山大の大学院教育学研究科間で実施済（H7） 実績 H9ー和歌山←→大経大 （2人）（1人） ・規定済	定員10名	H7年度	8名	8年度	8名	9年度	7名														
定員10名	H7年度		8名																			
	8年度		8名																			
	9年度	7名																				
公開講座の拡充	◆講座内容・方法の改善 ・新たなニーズに対応 ・高度な専門的内容を具備 ・社会教育施設等と連携・接続 ・演習・実験方法の導入＝参加型を ・自治体、民間団体等との連携・協力 ・地域への広報改善	（実績）－別葉  ・セミナー方式の導入 ・地域共催方式（出張による公開講座）－別葉																				
	◆単位の認定 ・大学授業科目を公開講座指定←→科目等履修生登録で単位認定	・未着手→本センターにおいて実施																				
	◆短期集中プログラムの解説 ・職業能力充実、向上→専門的、集中プログラム	・公開講座「教師のためのインターネット入門」開設（H8→募集人員20名のところ27名受講） →本センターにおいて積極的に実施																				
学内の組	◆生涯学習センターの整備 ・学内体制の整備 委員会設置 大学院、社会人対応講座	・生涯学習教育研究センター設置検討委員会で検討中  ・生涯学習推進委員会（仮称）を設置し、全学的に検																				

組織体制の整備	全学センター 調査研究、事業企画・運営、情報収集 ・提供、他との連携	討予定（本センターの運営組織に移行） ・設置を概算要求（平成 10 年度）
	◆教員の実業評価の改善 ・地域への貢献を実業評価に	・本センターにおいて研究予定

## 2 地域社会への貢献

	課 題 と 主 内 容	現 況															
施設開放の促進	◆施設開放の拡充 ・多様な施設の開放	・図書館の一般開放															
	◆大学博物館の整備 ・学術標本の多面的活用（標本の収集、保存 画像情報の提供） ・展示や講演会 ・一般博物館の支援、教育	・紀州経済史文化史研究所（学内措置）所蔵の古文書等を定期的に公開															
社会からの支援	・社会各分野の研究者、技術者、実務家などを教員に  ・寄付講座、寄付研究部門の設置 ・奨学寄附金受入れ	・実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th><th>人数</th><th>内 訳</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H 6 年度</td><td>1 名</td><td>教育 1</td></tr> <tr> <td>7 年度</td><td>3 名</td><td>経済 2、システム 1</td></tr> <tr> <td>8 年度</td><td>7 名</td><td>教育 2、経済 1、システム 4</td></tr> <tr> <td>9 年度</td><td>8 名</td><td>教育 1、経済 1、システム 6</td></tr> </tbody> </table> ・未着手 ・実績 H 6-1 2, 5 2 2 千円 7-1 7, 2 8 7 千円 8-6 2, 5 8 0 千円	年 度	人数	内 訳	H 6 年度	1 名	教育 1	7 年度	3 名	経済 2、システム 1	8 年度	7 名	教育 2、経済 1、システム 4	9 年度	8 名	教育 1、経済 1、システム 6
年 度	人数	内 訳															
H 6 年度	1 名	教育 1															
7 年度	3 名	経済 2、システム 1															
8 年度	7 名	教育 2、経済 1、システム 4															
9 年度	8 名	教育 1、経済 1、システム 6															

## その他（生涯学習関連）

	課題と主内容	現況
体制	教育研究体制の整備	総合科学過程生涯教育コースの設置
専門職養成	社会教育主事（補）	実施
	博物館学芸員	実施、博物館非常勤
	図書館司書	未着手
	学校図書館司書教諭	夏期講習実施
	その他	教員免許法認定講習を実施 H 6 年度-延べ 4 6 4 名 7 年度-延べ 5 7 3 名 8 年度-延べ 7 3 2 名



(別葉)

① 公開講座の実績等

	講 座 の 名 称	学 部	募 集 人 員	備 考
平成 6 年度	ことばの世界	教育学部	40人	250人 新宮市との連携
	歴史に学ぶ	教育学部	40人	
	激動期の日本経済	経済学部	130人	
	人間形成と家族	教育学部	40人	
平成 7 年度	親子で楽しむパソコン教室	教育学部	20人	260人 新宮市との連携
	欧米のことばと文化Ⅰ	教育学部	40人	
	子供と共に学ぶ(パソコン活用授業入門)	教育学部	20人	
	新しい時代の企業会計	経済学部	100人	
	欧米のことばと文化Ⅱ	教育学部	40人	
	自然のロマン	教育学部	40人	
平成 8 年度	教師のためのインターネット入門	教育学部	20人	250人 新宮市との連携
	日本の金融システムを考える	経済学部	100人	
	和歌山の歴史と文化	教育学部	40人	
	子供・教師・親たちの SOS からの出発	教育学部	50人	
	和歌山の自然とくらし	教育学部	40人	
平成 9 年度	子供・親・教師の SOS から未来をひらく	教育学部	45人	260人 新宮市との連携
	生きがい講座	教育学部	45人	
	教室でインターネットを活用しよう	教育学部	25人	
	子供・青年の成長を地域で支える	教育学部	45人	
	21世紀の市場メカニズムを求めて	経済学部	100人	

② 地方公共団体との連携による生涯学習の実施

○ウィメンズ・ライフロング・カレッジ

(目的) 女性を対象に、生涯学習の促進と、職場または地域におけるリーダー的人材を養成すること

年度	人数	内容等
平成6年度	66人	外国から見た万葉、数学の素材等
平成7年度	117人	紀州と吉宗、地域の言葉等
平成8年度	172人	住まい、スポーツと女性、老いと家族等

注) 約3カ月、毎週土曜、10～12講義

生涯学習推進プロパー研修（次葉「プログラム」参照 ― 文部省、和大、自治体課長などによる講師編成）

（目的）生涯学習に関する理論と実践的知識を身につけ、生涯学習推進に関する企画立案及び関連施策を遂行できる専門的指導者を養成することを目的とする。

年 度	人 数	内 容 等
平成6年度	42名	生涯学習施策の動向、生涯学習とは、教育事業の立案実践等
平成7年度	49名	生涯学習施策の動向、生涯学習まちづくり論、福祉問題と生涯学習等
平成8年度	63名	生涯学習施策の動向、生涯学習のまちづくり、マルチメディアの動向等

注）5日間の研修コース

生涯学習推進プロパー研修プログラム

◎平成6年度

【研修内容 - 1】

項 目		講 師 名
特 講 8月22日	生涯学習施策の動向と地方自治体への期待	文部省生涯学習振興課 生涯学習企画官 岡 本 薫
講 義 ① 8月22日	生涯学習の「むら」づくり計画論	鳥取県東伯郡JAとうはく農地開発課長 西 門 隆
講 義 ② 8月23日	生涯学習とは何か	川村学園女子大学教授 元 木 健
講 義 ③	活力ある「まちづくり」実践論	南部町町長 山 崎 繁 雄
講 義 ④ 8月24日	生涯学習計画のつくり方の基本方法	和歌山大学助教授 山 本 健 慈
講 義 ⑤ 8月24日	人々の生きがいづくり	滋賀県伊香郡高月町役場建設課長 平 井 茂 彦
講 義 ⑥ 8月25日	生涯学習時代の青少年教育 ＝学校週5日制の拡大を視野にいて＝	広島大学助教授 土 井 利 樹
講 義 ⑦ 8月25日	青少年の生涯学習＝子育てネットワーク＝	貝塚市中央公民館 主事 村 田 和 子
講 義 ⑧ 8月26日	21世紀の生涯学習ビジョンと課題	愛媛大学助教授 讃 岐 幸 治
講 義 ⑨ 8月26日	社会の進展への対応と課題（研修のまとめ）	和歌山大学助教授 山 本 健 慈
セミナー① 8月23日	教育事業の立案と実際	由良町教育委員会 社会教育主事 岩 崎 正 伸
セミナー② 8月24日	生涯学習はどこまで進展するのか？	南部川村教育委員会 生涯学習振興課長 久 保 正 一
セミナー③ 8月25日	高齢化、過疎化等の変化に対応する学習社会とは？	貴志川町教育委員会 社会教育主事 西 田 好 宏

【研修内容 - 2】

実 技 8月23日	生涯スポーツにトライ (ニュー・スポーツの紹介)	日本レクリエーション協会 公認指導員 小 井 淳 司
実地研修 8月24日	ミニ・コンサートへの誘い	於：県立図書館 (バイオリン・チェロ・ピアノ)

◎平成7年度

【研修内容 - 1】

項 目		講 師 名
開講講演 8月21日	生涯学習とは何か ―本事業の問題にふれて―	和歌山大学教授 山 本 健 慈
特別講演① 8月21日	生涯学習施策の動向と地方自治体への期待	文部省生涯学習局前地域学習活動推進室長 笹 井 宏 益
講 義 ① 8月22日	地域福祉の現状と課題 ―高齢化・過疎・少子化問題を視野に入れて―	和歌山大学助教授 高 橋 正 人
講 義 ② 8月22日	高齢化・少子化時代の自治体・住民の課題と期待 ―国の政策動向と自治体の対応―	和歌山県民生部高齢社会政策課長 堀 江 裕
講 義 ③ 8月22日	実践論 福祉問題と生涯学習 ―地域の福祉・文化・教育―	岸和田市保健福祉部高齢者福祉課主幹 堀 内 秀 雄
セミナー① 8月22日	福祉のまちづくりと生涯学習	南部町住民課課長補佐 汐崎 啓治 岸和田市高齢者福祉課主幹 堀内 秀雄
特別講演② 8月23日	地域とマスメディアの新たな関係 ―和歌山・災害・マスメディア―	和歌山放送編成局次長 鈴 木 裕 範
特別講演③ 8月23日	震災・自然災害と自治体の課題	和歌山大学教授 原 田 哲 朗
特別講演④ 8月24日	メディア新時代の動向と市民・自治体の課題	文教大学教授 平 沢 茂
講 義 ④ 8月24日	芸術のあるまちづくり ―生涯学習まちづくり論―	北海道女満別町社会教育課長 田 中 宏
実践講義 8月24日	まちづくりを語る ―活力あるまちづくりのために―	南部町長 山 崎 繁 雄 愛媛大学教授 岩 崎 幸 治
セミナー② 8月24日	文化のまちづくりと地域の社会教育・生涯学習	粉河町社会教育主事 野 口 和 彦 由良町社会教育主事 岩 崎 正 伸
総括講義 8月25日	研修での学びを仕事・活動に生かす	和歌山大学教授 山 本 建 慈

【研修内容 - 2】

特別実習 8月23日	県立図書館 文化情報センター 「ニュー・メディアにトライ」	文化情報課社会教育主事 濱 端 茂 久
現地研修 8月23日	県立図書館 メディア・アート・ホール 「ミニ・コンサート」	和歌山大学 音楽関係スタッフ

平成 8 年度

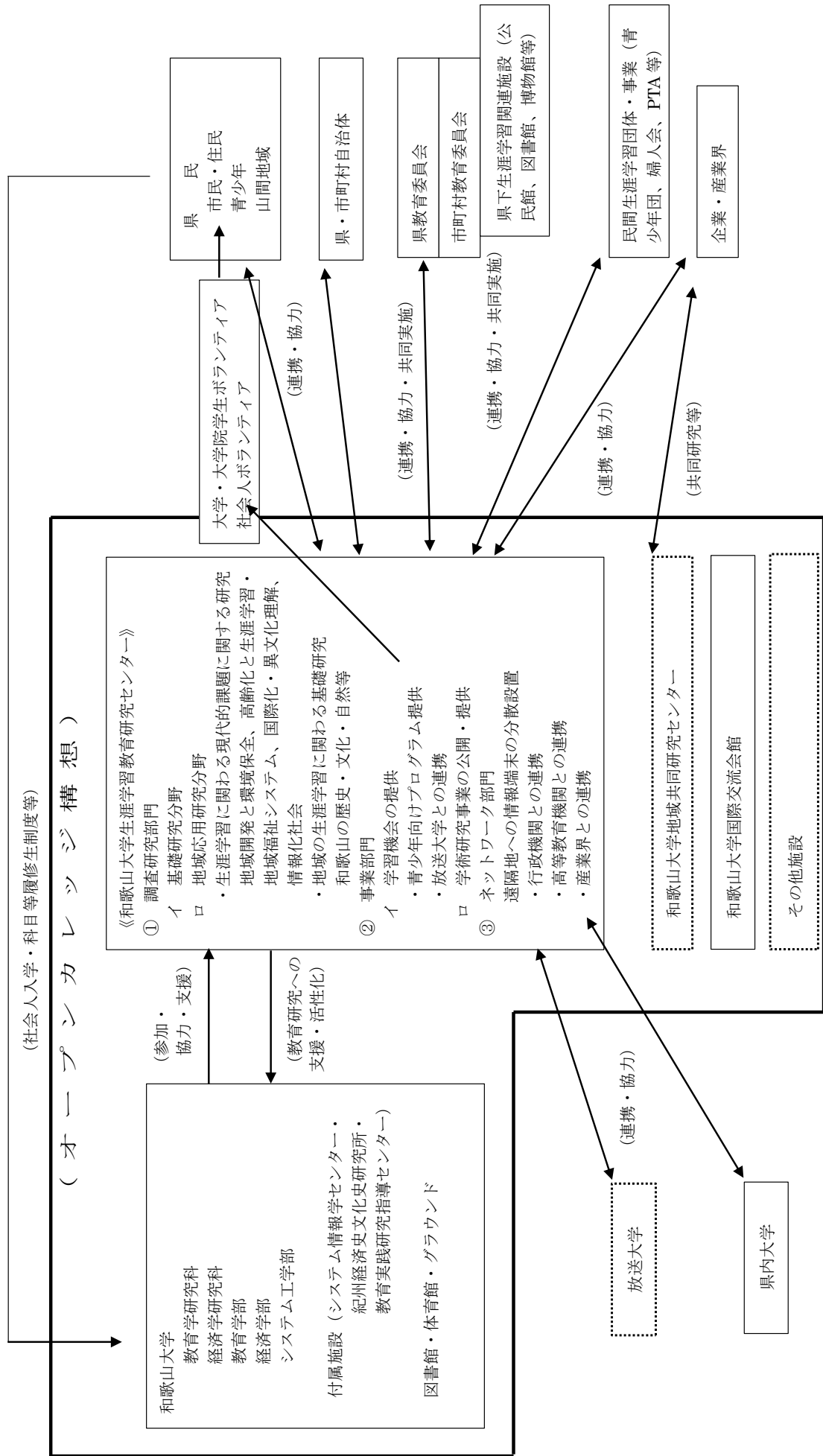
【研修内容 - 1】

項 目		講 師 名
開講講演 8 月 2 6 日	活力あるまちづくり — 生涯学習まちづくり論 —	いきいき紀州村塾長 南部町長 山 崎 茂 雄
特別講演① 8 月 2 6 日	生涯学習施策の動向と地方自治体への期待	文部省生涯学習局地域学習活動推進室長 徳 増 有 治
講 義 ① 8 月 2 6 日	生涯学習とは何か — 本事業の課題にふれて —	和歌山大学教授 山 本 健 慈
実践講義 8 月 2 7 日	生涯学習のまちづくりを考える — 岩手県三陸町まると博物館 —	岩手県三陸町前教育長 佐 藤 栄
特別講義② 8 月 2 7 日	まちづくり戦略と生涯学習の推進 — 生涯学習まちづくりの動向 —	九州女子大学教授 福 留 強
セミナー① 8 月 2 7 日	生涯学習のまちづくりを考える — 生涯学習モデル市町村の動向 —	和歌山大学教授 山 本 健 慈 かつらぎ町、有田市、印南町、熊野川町
講 義 ② 8 月 2 8 日	子育て支援と生涯学習	和歌山県児童家庭課長 宇治田 分 彦
講 義 ③ 8 月 2 8 日	身近な環境と自然保護について	和歌山県立自然博物館長 辰 喜 洗
特別講演③ 8 月 2 8 日	新しい時代の新しい教育 マルチメディアで学び革命	横浜建築研究所教育システム部長 鈴 木 敏 恵
講 義 ④ 8 月 2 9 日	生涯学習・地域・大学 — 放送大学 —	和歌山大学庶務課長 萩 原 均
講 義 ⑤ 8 月 2 9 日	地域 — 行政・住民・大学 —	和歌山大学教授 日 下 正 基
セミナー② 8 月 2 9 日	大学と地域生涯学習を考える	和歌山大学教授 山 本 健 慈 粉河町、田辺市、新宮市
総括講義 8 月 3 0 日	研修での学びを仕事・活動に生かす	和歌山大学教授 山 本 健 慈

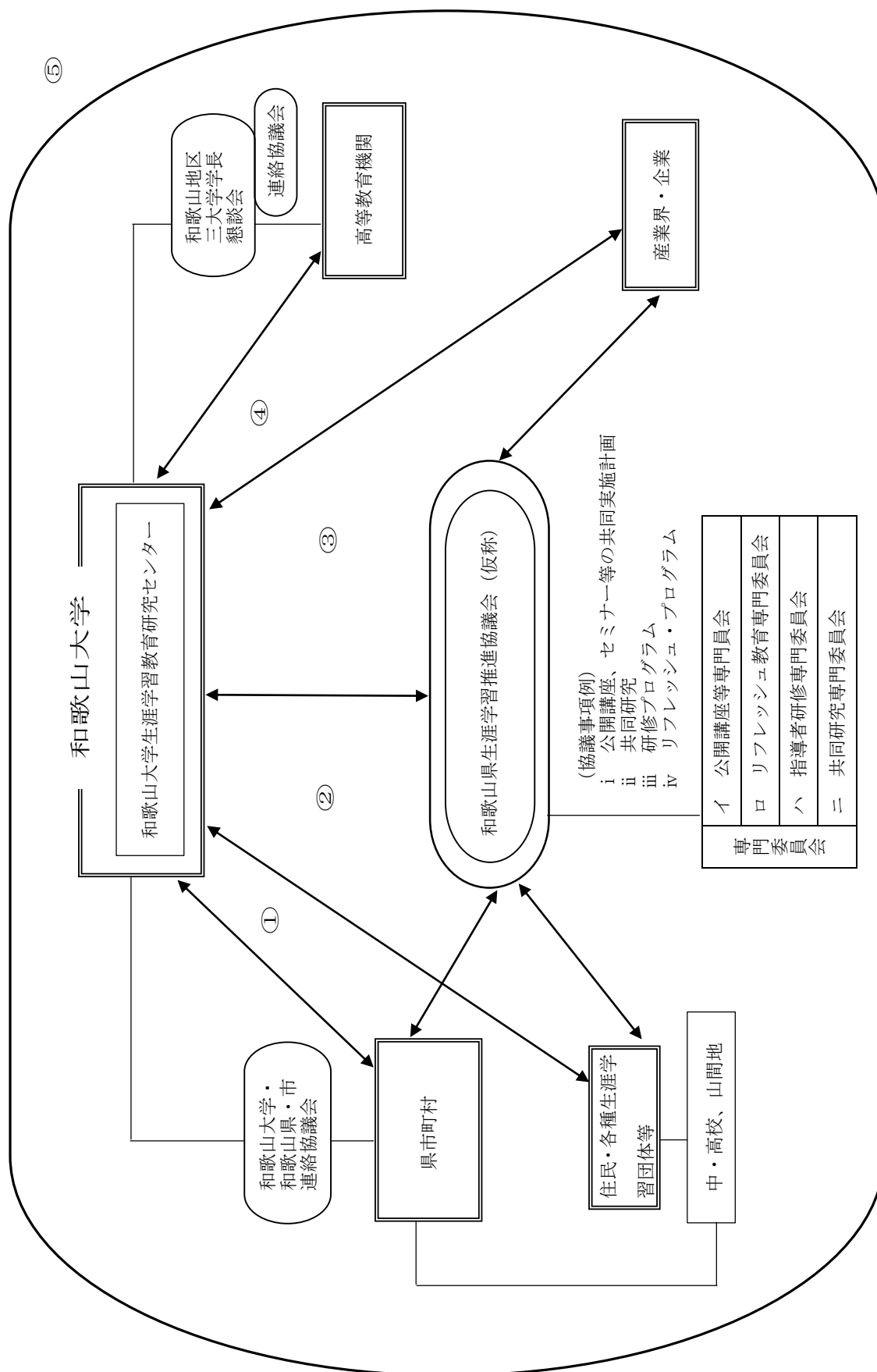
【研修内容 - 2】

特別実習 8 月 2 8 日	県立図書館 文化情報センター 「インターネットにチャレンジ」	文化情報社会教育主事 濱 端 茂 久
現地研修 8 月 2 8 日	県立図書館 メディア・アート・ホール 「ミニ・コンサートの誘い」	和歌山大学助教授 米 山 龍 介 他

## 和歌山大学生涯学習教育研究センターの役割等関連図 (別紙に説明資料)



(別紙4－別葉) 和歌山大学生涯学習教育センターと地域等との連携



調査研究	地域調査研究―地域生涯学習計画策定に必要なニーズ調査、歴史・文化に関する調査研究、自然・環境保全に関する調査研究、等
事業	<p>i 人材派遣―県費負担協力教員（仮称）の派遣受入れ（3名）  地域生涯学習の専門家育成の一環として、研修生3名を1年間受け入れ、実際の生涯学習事業の企画立案、生涯学習に関する諸研究に当たる。</p>
	ii 地域生涯学習コンサルティング
	<p>iii 生涯学習指導者研修</p> <p>.....</p> <p>イ 社会教育主事講習</p> <p>ロ 学校教員の生涯学習研修―生涯学習社会における学校の役割、教員の地域社会における役割等に関する研修</p> <p>ハ 学校管理職のためのリフレッシュセミナー  ―例えば、「学校危機管理セミナー」  現代の学校は、子どもだけでなく家族及び教員自身が大きな問題を抱えながらそれらによって構成されているが、様々なところから危機に陥る可能性がある。学校が本来の教育機能を維持し、充実するためには、この危機を管理し解決する能力が求められる。そこで教育学、法学、経営学などの研究者、法律実務家、行政実務家等を講師として招きセミナーを開催する。</p> <p>ニ 自治体職員生涯学習研修―生涯学習における地域・自治体行政と自治体公務員の役割等の学習セミナー</p> <p>ホ 自治体政策実務者セミナー  ―地方分権の時代を迎え、自治体行政は制作能力が問われており、そのため、和歌山地域の政策課題（新産業の育成、地域開発、環境保全、交通システム開発等）を大学研究者と自治体職員及び市民による共同研究、共同学習（セミナー）を行う。</p>
	iv 公開講座（高齢化社会、少子化、いじめ問題、地域開発等地域に密着したテーマを取り上げる。）の共催。
	v 地域生涯学習システムへの参加―県が中心になり、市町村、大学、民間教育事業機関等が連携することによって構築される広域的な（市町村の域を超えた）生涯学習システム（地域生涯学習システム）に積極的に参加する。
	<p>vi 公民館・図書館等生涯学習施設との連携</p> <p>.....</p> <p>イ 公開講座の受託―地域からの公開講座のテーマを募集し、その求めに応じ講座を編成し、提供する。</p> <p>ロ 講師紹介、講座プログラムに関するコンサルティング</p>

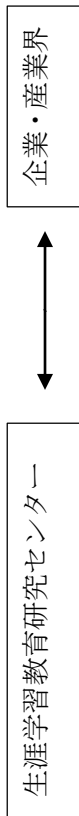


②



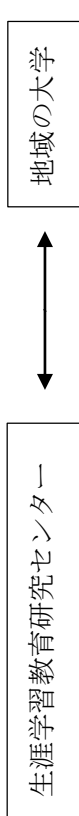
事業  (中・高等学校、 山間地)	i 住民本位の公開講座 住民・市民からの公開講座テーマの募集による開催一・地域生涯大学システムは、県が中心に構築する広域市町村の生涯学習システムであり、それへの参加形態として遠隔地での共同開催（出前による開催）を積極的に実施する。 ・保育ボランティアの採用（育児中の女性が公開講座に参加することをより容易にするため、一時的な保育にあたるボランティアを住民、市民、学生から募集し、保育ボランティア組織をつくる。これは、女性の学習参加の条件整備を図ることのみならず、ボランティア参加の場を提供し、そこに参加すること自体が生涯学習・自己実現の機会を広く提供することとなる。一保育室設置については、すでに実施済）
	ii 各種生涯学習団体との連携事業 ・団体指導者の研修 ・団体構成員研修プログラムのコンサルティング
	iii 中・高等学校生（青少年向け）プログラム ・学問の最先端情報をもとに、学問的関心・好奇心を引き出す講座を開設する。 ・学部学生・大学院学生をボランティア・アシスタント（仮称）、特に、研究者（講師）と中・高等学校生（受講生）とのパイプ役として活躍する。一学部・大学院教育への支援とその活性化
	iv 学部学生・大学院学生と中・高等学校生徒との交流事業 ・不登校児と大学生との交流講座・自主活動講座 一大学の教育相談活動、学生の自主サークル活動と連携し、研究者に指導とボランティア学生の援助の下に、不登校児の癒しと学習の場をつくる。
	v 山間地における生涯学習支援（地域活性化支援一自治体との協調共同が不可欠） ・遠隔地の人達がネットワークを通じて本センターの生涯学習が同等に受講できるよう、プログラム、メディア開発を行う。 また、遠隔地での生涯学習を促進する。 一 分室の設置、通信・放送システムを利用した公開講座の実施・情報提供 一 出前による公開講座

③



事業	<p>リフレッシュ教育―地域に密着したセミナーの開催</p> <p>.....</p> <p>「高度地域経営者セミナー」</p> <p>和歌山は、先端技術開発に成功した起業家と中小零細企業家が共存しており、中小零細企業経営者のための経営セミナーを開催する。</p> <p>.....</p> <p>「高度情報化時代の新しいマネジメント・セミナー」</p> <p>先端技術である情報化技術に関するセミナーを、技術面（システム工学部）、経営面（経済学部）の観点から捉えたセミナーを開催する。</p> <p>.....</p> <p>「まち・地域とともに栄える企業経営セミナー」</p> <p>各種先端技術（システム工学部・教育学部）とその経営戦略（経済学部）（学内の共同研究が前提）に関するセミナーを開催する。</p>
----	---

④



調査研究	<p>地域応用研究分野</p> <p>.....</p> <p>イ 生涯学習に関わる現代的課題に関する研究―高齢化と地域福祉システムに関する共同研究（県立医科大学）</p> <p style="padding-left: 40px;">地域医療に関する高度化（情報化）事業（県立医科大学・システム工学部）</p> <p>.....</p> <p>ロ 地域の生涯学習に関わる基礎研究―紀州、それを包含する紀伊半島の自然、歴史、文化、風土（熊野学）に関する共同の調査研究（高野山大学）</p>
事業	<p>共同による公開講座</p> <p>.....</p> <p>「生命倫理」 ― 生命倫理に関する宗教的（高野山大学）、医学的（県立医科大学）、文化（教育学部、紀州経済史文化史研究所）側面に関する公開講座</p> <p>.....</p> <p>「熊野学への誘い」 ― 熊野信仰に関する宗教的考察（高野山大学）、文化的考察（経済的側面、政治的側面、技術的側面、民衆文化）を含めた総合的公開講座（県（熊野学センターの創設を検討中）の事業委託を検討）。</p>

( 別 紙 5 )

和歌山大学生涯学習教育研究センター専任教員等の分担について

	運 営 委 員	専 任 教 授	専 任 助 教 授	県 負 担 協 力 教 員	県 負 担 協 力 教 員	県 負 担 協 力 教 員	
(1) 調査研究分野	◎						共同研究など学内 他教員又は学外研 究者の参加・支援
① 基礎研究分野		◎	◎				
② 地域研究応用分野							
イ 生涯学習に係る現代的課題に関する研究		△	△				
ロ 地域生涯学習に関わる基礎研究		△	△				
(2) 事業部門	◎	◎	◎	○	○	○	学内他教員の参加
(3) ネットワーク部門	◎						
①行政機関との連携		○	△				
②高等教育機関との連携		△	○	△	△	△	
③産業界との連携		○	△				
④各種生涯学習関連団体等との連携		△	○				

注) 県負担協力教員は、県から派遣される研修生である。

凡例：◎：責任者として、研究分野乃至事業を中心的に担当する者

○：責任者の監督の下、研究分野乃至事業を中心的に担当する者

△：責任者の監督の下、協力者として分担担当する。

( 別 紙 6 )

和歌山大学学習教育研究センターの設置による生涯学習事業の充実 (案)

現 状 の 事 業 等		センターの設置により実施する事業等	備 考
<p>1 社会人の受入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会人特別選抜</li> <li>・ 夜間主コース</li> <li>・ 科目等履修生制度 等</li> </ul>	⇒	<p>1 社会人の受入れの拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種制度の拡充</li> <li>・ 各種制度の情報提供・相談</li> </ul>	新規 新規
<p>2 公開講座等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公開講座の実施</li> <li>・ 出張による公開講座</li> <li>・ 地方公共団体との連携による講座</li> </ul>		<p>2 公開講座等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公開講座の拡充（全学的なテーマによる公開講座，各種専門職への共同セミナー，中高校生への学習機会の提供等）</li> <li>・ 地方公共団体との連携による公開講座</li> <li>・ 地域の他大学との連携による公開講座</li> <li>・ 青少年向け公開講座（ボランティアの活用）</li> </ul>	拡充・新規  拡充 新規 新規
<p>3 施設の開放</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書館の開放</li> </ul>		<p>3 施設・設備の開放</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書館の開放</li> <li>・ 講義室・設備の開放</li> </ul>	拡充 新規
<p>4 生涯学習に関する調査研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育学部総合科学課程生涯教育コースの設定</li> </ul>		<p>4 生涯学習に関する調査研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生涯学習の目的・理念に関する調査研究</li> <li>・ 生涯学習に関する資料・情報の収集分析と提供</li> <li>・ 大学の役割の調査研究</li> <li>・ 生涯学習ニーズの調査研究</li> <li>・ 教員の生涯学習に係る業績評価の在り方の研究</li> <li>・ 通信メディア活用の開発等</li> </ul>	拡充・新規  新規 新規 新規 新規 新規

<p>5 大学の学術研究業績の公開・提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紀州経済史文化史研究所で一部実施</li> <li>・ 各種研究会</li> </ul>	<p>5 大学の学術研究業績の公開・提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究会，研修会の開催</li> <li>・ 学術研究資料の公開</li> </ul> <p>6 養成・研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生涯学習指導者の研修</li> <li>・ 大学院・大学の生涯学習に関する教育への貢献</li> </ul> <p>7 情報提供・相談活動</p> <p>8 生涯学習関連組織・行政とのネットワーク化・連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域（行政機関，各種団体等）及び国際的な連携</li> </ul>	<p>拡充・新規 拡充・新規 拡充</p> <p>拡充・新規 新規</p> <p>新規</p> <p>新規 拡充・新規</p>
--	--	---

## 歴任教員・センター長、副センター長、スタッフ一覧

### センター長

任期	氏名	備考
H10.4.9～H12.3.31	山本 健慈	生涯学習教育研究センター
H12.4.1～H14.3.31	山本 健慈	〃
H14.4.1～H16.3.31	山本 健慈	〃
H16.4.1～H17.3.31	山本 健慈	〃
H17.4.1～H19.3.31	山本 健慈	〃
H19.4.1～H20.3.31	山本 健慈	〃 H20.4.1 教育学部教授
H20.4.1～H21.3.31	堀内 秀雄	〃
H21.4.1～H21.7.31	堀内 秀雄	〃 H21.8.1 理事就任
H21.8.1～H22.3.30	堀内 秀雄	〃 事務取扱(職務命令)、(理事) H22.3.31 辞任
H22.4.1～H22.6.30	出口 寿久	〃 H22.7.1 併任終了
H22.7.1～H23.3.31	出口 寿久	地域連携・生涯学習センター
H23.4.1～H24.12.31	出口 寿久	〃 H24.12.31 辞任
H25.1.1～H25.3.31	(平田 健正)	〃 事務取扱
H25.4.1～H27.3.31	村田 和子	〃
H27.4.1～H29.3.31	遠藤 史	〃
H29.4.1～H30.6.30	足立 基浩	クロスカル教育機構生涯学習部門 H30.7.1 免
H30.7.1～	足立 基浩	地域活性化総合センター

### 副センター長

任期	氏名	備考
H10.4.9～H12.3.30	小島 敏宏	命
H12.4.1～H14.3.31	小島 敏宏	命
H14.4.1～H16.3.31	小島 敏宏	命
H16.4.1～H17.3.31	瀧野 邦雄	
H17.4.1～H19.3.31	瀧野 邦雄	
H19.4.1～H20.3.31	堀内 秀雄	H20.4.1センター長
H20.4.1～H21.3.31	松田 忠之	
H21.4.1～H22.6.30	松田 忠之	H22.7.1併任終了
H22.7.1～H23.3.31	松田 忠之	地域連携・生涯学習センター
H23.4.1～H25.3.31	床井 浩平	
H25.4.1～H27.3.31	床井 浩平	
H27.4.1～H29.3.31	村田 和子	
H27.4.1～H29.3.31	金子 泰純	
H27.6.1～H29.3.31	床井 浩平	
H29.4.1～H30.6.30	村田 和子	クロスカル教育機構(生涯学習部門)
H29.4.1～H30.6.30	金子 泰純	同上
H29.4.1～H30.6.30	床井 浩平	同上

※学長発令ではなくなった

同上

同上

### 教員

	生涯 着任		昇任等		生涯 離任
	年月日	職位	年月日	職位	年月日
山本 健慈	H12.4.1	教授	—	—	H20.3.31
堀内 秀雄	H12.4.1	助教授	H18.10.1	教授	H21.7.31
出口 寿久	H22.4.1	教授	—	—	H24.12.31
村田 和子	H20.4.1	准教授	H25.4.1	教授	—
西川 一弘	H25.4.1	講師	H29.4.1	准教授	—

※ H30.7.1 ～  
地域活性化総合センターに

事務職員

	課長		課長補佐		係長	
H12.4.1	庶務課長	室 溪 浩	－	中 井 達夫	生涯学習教育研究センター 事務係長	濃 中 美宏
H13.4.1	総務課長	↓	－	↓	生涯学習教育研究センター 係長	口 井 英明
H14.4.1	↓	↓	－	↓	↓	↓
H15.4.1	↓	宮 地 弘	交流室長	大 谷 邦夫	↓	木 下 博
H16.4.1	企画総務課長	↓	研究・社会連携推進室長	中 北 幸一	↓	↓
H17.4.1	↓	吉 田 元重	↓	↓	↓	↓
H18.4.1	↓	↓	↓	↓	↓	↓
H19.4.1	研究・社会連携推進課長	森 雅昭	－	中 筋 章夫	↓	(併)中筋 章夫
H20.4.1	↓	↓	－	↓	↓	(欠員)
H20.7.1	↓	↓	－	山 田 博文	↓	(欠員)
H20.10.1	↓	↓	－	↓	↓	中 井 邦昭
H21.4.1	↓	↓	－	↓	↓	(欠員)
H21.10.1	↓	↓	生涯学習センター事務長	↓	↓	(欠員)
H22.1.1	↓	(越本 泰弘)	↓	脇 田 淳一	↓	(欠員)
H22.4.1	↓	山 田 博文	－	↓	↓	(欠員)
H22.7.1	地域創造支援機構 事務長	↓	事務長補佐	↓	地域連携・ 生涯学習センター係長	
H23.4.1	↓	瀧 口 美千代	↓	森 中 崇文	↓	松 尾 寛
H24.4.1	社会連携課長	↓			生涯学習係長	↓
H24.7.1	↓	↓			↓	↓
H25.1.1	↓	門 脇 弘和			↓	↓
H25.4.1	↓	↓	－	杉 山 哲也	↓	↓
H26.4.1	↓	神 山 展任	－	↓	↓	↓
H27.4.1	総務課長	池 下 和美	地域連携室長	西 川 博紀	↓	↓
H28.4.1	総務課地域連携室長	山 畑 一男	－	↓	↓	(併)西川 博紀
H28.10.1	↓	↓		↓	↓	↓
H29.4.1	学務課長	堀 内 伸也			↓	森 本 充昭
H30.4.1	↓	↓			↓	↓
H30.7.1	研究・社会連携課長	千 葉 清行	－	高 橋 正美	生涯学習・リカレント 教育係長	↓
H31.4.1	↓	森 中 崇文	－	小 田 明広	↓	(併)小田 明広

	係員等		
H12.4.1	－		
H13.4.1	駿河 克宏		
H14.4.1	↓		
H15.4.1	↓		
H16.4.1	嶋崎 徹		
H17.4.1	↓		
H18.4.1	↓		
H19.4.1	中井 邦昭		
H20.4.1	↓	永沼 美和	
H20.7.1	↓	↓	
H20.10.1	永沼 美和		
H21.4.1	↓		
H21.10.1	↓		
H22.1.1	↓		
H22.4.1	↓	松尾 寛	小野田 智子
H22.7.1	松尾 寛	小野田 智子	
H23.4.1	小野田 智子		
H24.4.1	↓		
H24.7.1	河合 敏博		
H25.1.1	↓		
H25.4.1	↓		
H26.4.1			
H27.4.1			
H28.4.1			
H28.10.1			
H29.4.1			
H30.4.1			
H30.7.1			
H31.4.1			

事務補佐員	研究支援員	特任職員
出口 美和		
↓		
↓		
↓		
↓		
↓		
永沼 美和	佐藤 奈穂子	
↓	↓	
		後藤 千晴
		↓
		↓
		↓
		↓
		↓
		↓
後藤 千晴		
		後藤 千晴
		↓



## 事業一覧年表

	生涯学習フォーラム（セミナー）		公開講座		研修員＜OB・OG企画＞	
	講師	事業内容	講師	事業内容	講師	事業内容
1998	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育学部付属実践センター長 松浦善満</li> <li>生涯学習教育研究センター長 山本健慈</li> <li>文部省生涯学習局生涯学習調査官 今野雅裕</li> <li>経済学部教授 橋本卓爾</li> <li>和歌山県副知事 山下茂</li> <li>和歌山県農業者 原和夫</li> <li>豊中市政策推進部長 芦田英機</li> <li>生涯学習教育研究センター助教授 堀内秀雄</li> </ul>	創設記念フォーラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育学部助教授 梅津一朗</li> <li>教育学部教授 水田義一</li> <li>教育学部教授 藤本清二郎</li> <li>経済学部助教授 瀧野邦雄</li> <li>和歌山県立医科大学教授 橋本勉</li> <li>教育学部助教授 本山貢 高橋正人</li> <li>高野山大学文学部教授 室田保夫 藤田和正</li> <li>高野山大学長 和多秀乗</li> <li>生涯学習教育研究センター長 山本健慈</li> <li>林原自然科学館準備室 石垣忍</li> <li>システム工学部助教授 床井浩平</li> <li>新横浜ラーメン博物館 竹内伸</li> <li>自治医科大学講師 谷口淳一</li> <li>教育学部教授 本山貢</li> <li>教育学部付属教育実施センター長 松浦善満</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>和歌山城と城下町～武家と民衆の世界～</li> <li>三大学公開講座</li> <li>こだわりの和歌山</li> </ul>		
1999	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育学部付属教育実践センター長 松浦善満</li> <li>教育学部付属教育実践センター助教授 野中陽一</li> <li>わかもの企画委員 山田佳子 堀内邦彦 菅井将人</li> <li>編集工房AMIE代表 井上はねこ</li> <li>教育学部教授 船越勝</li> <li>NPO法人子ども劇場和歌山県センター 事務局長 島久美子</li> <li>日赤和歌山医療センター第二泌尿器科 副部長 東義人</li> <li>日本青年館結婚相談所所長 坂本洋子</li> <li>和歌山県青年団体連絡協議会 会長 中西重裕</li> <li>わかやま創造カンパニー代表 片岡玉恵</li> <li>立命館大学産業社会学部助教授 中村正</li> <li>和歌山県女性センター長 宮崎恭子</li> <li>立命館大学産業社会学部教授 木津川計</li> <li>生涯学習教育研究センター長 山本健慈</li> <li>生涯学習教育研究センター助教授 堀内秀雄</li> <li>文部科学省生涯学習局青少年教育課 竹下典行</li> <li>生涯学習教育研究センター長 山本健慈</li> <li>和歌山県教育委員会教育長 小関洋治</li> <li>地域協働教育センター助教授 松本勝正</li> <li>NPO政策研究所幹事 直田春夫</li> <li>生涯学習教育研究センター助教授 堀内秀雄</li> <li>生涯学習教育研究所センター長 山本健慈</li> <li>NPO法人子ども劇場和歌山県センター理事長 岡本瑞子</li> <li>和歌山県社会経済研究所研究部長 梶谷昭治</li> <li>和歌山県生活文化部県民生活課長 濃中正一郎</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共催フォーラム</li> <li>青年男女共同参画セミナー</li> <li>子どもの育ちを支える行政・学校と市民のパートナーシップを探る</li> <li>NPOセミナー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育学部助教授 本山貢</li> <li>和歌山県立医科大学看護短期大学部教授 有田幹雄</li> <li>和歌山健康センター 木下藤寿</li> <li>和歌山健康センター理事長 茂原治</li> <li>福岡大学スポーツ科学部教授 田中宏暁</li> <li>和歌山健康センター鍼灸師 本多達朗</li> <li>名古屋市立大学助教授 竹島伸生</li> <li>教育学部教授 広瀬正紀</li> <li>経済学部助教授 王妙発</li> <li>経済学部教授 大泉英次 小田章</li> <li>和歌山県立医科大学教授 綿見盛光 仙波美恵子</li> <li>高野山大学文学部教授 藤森賢一</li> <li>高野山大学文学部講師 原田正俊</li> <li>教育学部教授 市川純夫</li> <li>経済学部教授 山田良治</li> <li>地域共同研究センター助教授 松本勝正</li> <li>生涯学習教育研究センター長 山本健慈</li> <li>元共同通信記者 横川和夫</li> <li>Wbs和歌山放送報道制作局長 鈴木裕範</li> <li>生涯学習教育研究センター長 山本健慈</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯スポーツ講座（前期）（後期）（特別）</li> <li>おもしろ体験！学ぼう、遊ぼう大学で！</li> <li>三大学共同公開講座（県立医科大学、高野山大学）</li> <li>開かれた学校づくり コーディネーター養成講座</li> <li>競争の向こうに幸福＜しあわせ＞はあるか？</li> </ul>		

土曜講座		まちかど土曜楽交		ワダイノカフェ		子育て支援員研修	
テーマ	期間	講師	事業内容	講師	事業内容	講師	事業内容
21世紀和歌山へのメッセージ	6月5日～ 3月4日 全10回						

	生涯学習フォーラム（セミナー）		公開講座		研修員＜OB・OG企画＞	
	講師	事業内容	講師	事業内容	講師	事業内容
2000	<ul style="list-style-type: none"> <li>三重県生活部生活課NPO室長 出丸朝代</li> <li>NPO法人ハッピーステーション 笹尾恭子</li> <li>田辺市市民活動推進係長 松下精二</li> <li>（財）経済広報センター国際広報部 担当部長 田代正美</li> <li>近畿ろうきん 小山正人</li> <li>NPO法人コミュニティー・シンクタンク 「評価みえ」 粉河一郎</li> <li>WACわかやま 中村富子</li> </ul>	NPOセミナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>和歌山県立医科大学助手 坂口守男</li> <li>教育学部教授 米山龍介</li> <li>高野山大学非常勤講師 加藤栄敏</li> <li>高野山大学教授 加賀美智子</li> <li>和歌山県立医科大学教授 吉益文夫</li> <li>システム工学部教授 足立啓</li> <li>生涯学習教育研究センター長 山本健慈</li> <li>学長 守屋駿二</li> <li>和歌山県立医科大学長 山本博之</li> <li>高野山大学長 東智學</li> </ul>	三大学公開講座		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>秋津コミュニティ会長 岸裕司</li> <li>家庭裁判所調査官 佐藤美貴</li> <li>和歌山商業高等学校 上野和久</li> <li>読売新聞大阪本社 満田育子</li> <li>教育学部教授 廣井亮一</li> </ul>	教育シンポジウム	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育学部助教授 本山貢</li> <li>和歌山放送報道制作局制作部 副部長 岩田隆清</li> <li>教育学部教授 出原泰明 中俊博</li> <li>和歌山県立医科大学循環器内科助教授 羽野卓三</li> <li>和歌山県立医科大学衛生学教授 宮下和久</li> <li>西日本旅客鉄道株式会社顧問 開発グループ 生田亮</li> <li>教育学部人文地理学教授 水田義一</li> <li>生涯学習教育研究センター 堀内秀雄</li> </ul>	生涯スポーツ講座（特別）		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本図書館協会事務局長 酒川玲子</li> <li>滋賀県高月町立図書館長 明定義人</li> <li>県立図書館紀南館長 川口幸三</li> <li>南部町図書館準備室長 吉田精宏</li> <li>生涯学習教育研究センター長 山本健慈</li> <li>作家 落合恵子</li> </ul>	図書館とまちづくりを考える集い				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>大阪教育大学教授 田中恒子</li> <li>生涯学習教育研究センター助教授 堀内秀雄</li> <li>神戸大学講師 津田英二</li> </ul>	男女共同参画学習推進フォーラム				

土曜講座		まちかど土曜楽交		ワダイノカフェ		子育て支援員研修	
テーマ	期間	講師	事業内容	講師	事業内容	講師	事業内容
世界から見た日本&和歌 山から見た世界	4月8日～ 3月3日 全12回						

	生涯学習フォーラム（セミナー）		公開講座		研修員＜OB・OG企画＞	
	講師	事業内容	講師	事業内容	講師	事業内容
2001	<ul style="list-style-type: none"> <li>長野県松本市元公民館長 手塚英男</li> <li>習志野市秋津コミュニティ顧問 岸裕司</li> <li>文部科学省大臣官房審議官 寺脇研</li> </ul>	生涯学習フォーラム 2001	<ul style="list-style-type: none"> <li>和歌山県福祉保健部健康対策課班長 佐本明</li> <li>和歌山県福祉保健部健康対策課主査 畑中一浩</li> <li>和歌山県立医科大学衛生学教授 宮下和久</li> </ul>	健康スポーツ講座		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習教育研究センター助教授 堀内秀雄</li> <li>粉河高等学校校長 山口裕一</li> <li>和歌山東高等学校校長 田口勝</li> <li>県高P連・箕島高校PTA会長 田尻英三</li> <li>システム工学部助教授 中島敦司</li> </ul>	スクランブル・シンボ 21	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育学部助教授 本山貢 今村律子</li> <li>和歌山県立医科大学神経精神医学教授 吉益文夫</li> <li>和歌山県立医科大学看護短期大学教授 中井國夫</li> <li>保健健康管理センター助教授 塩谷昭子</li> </ul>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>在宅ワーク研究会 堀越久代</li> <li>和歌山大学助教授 堀内秀雄</li> <li>アクト研究室 鳥淵朋子</li> <li>ケイ・ファクトリー 佐野智世</li> <li>ひだまり出版 松永ますみ</li> <li>WACわかやま 中村富子</li> <li>テクライツ(有) 湯崎真梨子</li> <li>(株)アドリエフ 大島美樹子</li> <li>経済学部教授 小島敏宏</li> </ul>	女性の起業支援フォーラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>明治生命厚生事業団体体力医学研究所所長 荒尾孝</li> <li>県立若山西高等学校教諭 中村憲司</li> <li>和歌山県立医科大学第三内科助手 宗正敏</li> <li>和歌山県立医科大学分子医学研究部 教授 坂口和成</li> </ul>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>里の家助産院・助産婦 赤松彰子</li> <li>日本家族計画協会クリニック所長 北村邦夫</li> </ul>	リプロ推進事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>システム工学部助教授 江種伸之</li> <li>生涯学習教育研究センター長 山本健慈</li> <li>和歌山県立医科大学講師 柳川俊彦</li> <li>教育学部教授 廣井亮一</li> <li>高野山大学文学部助教授 荒賀健</li> <li>和歌山県立医科大学非常勤講師 下山田洋三</li> <li>社会福祉法人和歌山ふたば会理事長 岡本敏子</li> <li>わかやま子育てサポートネットワーク代表 神谷和世</li> <li>子育てサークルのはらのうた 田中直子</li> <li>ひろがれ子育てネットワーク代表 川村ゆり</li> </ul>	三大学共同公開講座		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本政策投資銀行フランクフルト事務局長 牧野光朗</li> <li>生涯学習教育研究センター 堀内秀雄</li> <li>和歌山県共生推進局県民生活課 NPO推進室長 東利明</li> <li>田辺市役所企画部企画広報課長 森章二</li> <li>ニッネット代表 櫻井あかね</li> <li>近畿ろうきん 小山まさと</li> <li>経済学部教授 岩田誠</li> <li>ジャズシンガー・音楽工房主宰 岩井ゆき子</li> <li>経済学部助教授 足立基浩</li> </ul>	NPOセミナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済学部助教授 足立基浩</li> <li>ミルキーブルーの会 上野美沙代</li> <li>和歌山高等学校教諭 村崎隆志</li> <li>教育学部教授 岩田勝哉 高須英樹 池際博行 久富邦彦 碓井岑夫 出原泰明</li> <li>経済学部助教授 橋本卓爾 今井武久 鈴木裕範</li> <li>システム工学部教授 森本吉春</li> <li>システム工学部助教授 中嶋敦司 山田宏之</li> </ul>	花づくり・学校づくり・まちづくり講座	20世紀を回顧し、20世紀を展望する…	
		私たちが見たイギリスの街				

土曜講座		まちかど土曜楽交		ワダイノカフェ		子育て支援員研修	
テーマ	期間	講師	事業内容	講師	事業内容	講師	事業内容
前期「20世紀を回顧し、 21世紀を展望する…わか やまから」 後期「21世紀、わかや まの自然環境をいかして」	4月7日～ 3月2日 全12回						

	生涯学習フォーラム（セミナー）		公開講座		研修員＜OB・OG企画＞	
	講師	事業内容	講師	事業内容	講師	事業内容
2002	<ul style="list-style-type: none"> <li>長野県飯田市立公民館 木下巨一</li> <li>上秋津公民館館長 玉井常貴</li> <li>生涯学習教育研究センター長 山本健慈</li> <li>田辺市教育委員会社会教育課長 田中久雄</li> <li>田辺市教育委員会公民館主事 鷹巣正幸</li> <li>経済学部助教授 鈴木裕範</li> <li>秋津野塾アドバイザー 原和男</li> <li>きてら代表 笠松泰充</li> <li>教育学部教授 松浦善満</li> <li>システム工学部助教授 神吉紀世子</li> <li>元秋津野塾塾長・現アドバイザー 谷中康雄</li> <li>上秋津小学校校長 硯慎一</li> <li>生涯学習教育研究センター助教授 堀内秀雄</li> <li>秋津野塾塾長 楠本健治</li> <li>田辺市企画広報課市民活動推進係長 松下精二</li> <li>社団法人神秋津愛郷会会長 小谷育生</li> <li>筑波大学教授 門脇厚司</li> <li>和歌山県教育委員会教育長 小関洋治</li> <li>学校と地域の融合教育研究会副会長 岸裕司</li> <li>海南市立巽小学校教諭 芝保弘</li> <li>上富田町立生馬小学校協議会会長 上羽寛</li> <li>教育学部助教授 寺川剛央</li> </ul>	生涯学習フォーラム 2002	<ul style="list-style-type: none"> <li>和歌山県立医科大学教授 宮下和久</li> <li>教育学部助教授 本山貢</li> <li>厚生労働省関西空港検疫所所長 上家和本子</li> <li>和歌山レクリエーション協会副理事長 岩崎哲</li> <li>日本レクリエーション協会インストラクター 宮崎紀久子</li> <li>奈良女子大学保健管理センター所長 高橋裕子</li> <li>和歌山産業看護研究会保健師 塩崎万起</li> </ul>	健康わかやま 21		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>和歌山県立医科大学長 山本博之</li> <li>経済学部助教授 鈴木裕範</li> <li>和歌山県立医科大学生涯研修・地域医療センター長 吉益文夫</li> <li>高野山大学教授 岸田知子</li> <li>和歌山県立医科大学教授 古川福美</li> <li>和歌山県立医科大学助教授 羽野卓三 吉川福実</li> <li>教育学部助教授 本山貢</li> <li>和歌山県立医科大学助教授 入江真行</li> <li>高野山大学専任講師 山口幸照</li> <li>和歌山大学学長 小田章</li> </ul>	三大学共同公開講座		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>経済学部助教授 足立基浩</li> <li>山大農園営業部取締役 中山敏久</li> <li>県立若山高校教諭 村崎隆志</li> </ul>	若者が考える和歌山の未来		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>長崎大学生涯学習教育研究センター助教授 新田照夫</li> <li>滋賀大学生涯学習教育研究センター長 梅田修</li> <li>和歌山県教育庁生涯学習課社会主事講習主事 音川進</li> <li>経済学部助教授 鈴木裕範</li> <li>生涯学習教育研究センター助教授 堀内秀雄</li> </ul>	地域発展学習プログラムの開発と実施に関するセミナー				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済学部教授 橋本卓爾</li> <li>教育学部教授 小林民憲</li> <li>有機栽培農家 山本博</li> <li>和歌山県くらしの研究会会長 南出初代</li> <li>貴志川町立西貴志小学校校長 吉田征道</li> </ul>	“農”と“食”を考えるフォーラム				

土曜講座		まちかど土曜楽交		ワダイノカフェ		子育て支援員研修	
テーマ	期間	講師	事業内容	講師	事業内容	講師	事業内容
前期「2002年教育改革 ー学校が変わる 教育が 変わる」 後期「文学を通して見る 世界」	4月6日～ 3月1日 全12回						



	生涯学習フォーラム（セミナー）		公開講座		研修員＜OB・OG企画＞	
	講師	事業内容	講師	事業内容	講師	事業内容
2003	<ul style="list-style-type: none"> <li>新潟県聖籠町教育長 手島勇平</li> </ul>	生涯学習フォーラム 2003	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済学部教授 大泉英次</li> <li>加藤國彦 山田良治</li> <li>経済学部客員教授 徳田裕平</li> <li>経済学部助教授 河音琢郎 金川めぐみ</li> <li>教育学部助教授 永沼理善 原田利宣</li> <li>教育学部教授 長谷川哲哉 嶋田由美</li> <li>地域共同研究センター助教授 河崎昌之</li> <li>システム工学部助手 北村元成</li> <li>経済学部教授 小島敏宏</li> <li>「アクト研究室」主宰・女性起業家 鳥淵朋子</li> </ul>	日本経済の活路を拓く女性起業家交流会	<ul style="list-style-type: none"> <li>横浜魁生病院ホスピス病棟長 小澤竹俊</li> <li>坂口内科院長 坂口健太郎</li> <li>公立那賀病院看護師 大橋奈美 永崎昌枝</li> <li>訪問介護ステーションやすらぎ苑 管理者 灘井京子</li> <li>居宅介護支援事務所シンシアケアマネージャー 南山多美</li> <li>「ガンが病気じゃなくなったとき」著者 岩崎順子</li> <li>和歌山県立医科大学 月山淑</li> <li>和歌山信愛短期大学附属中学校・高等学校 教諭 由井峰雄</li> </ul>	第1～3回「死と向き合い、生を考える」集い
	<ul style="list-style-type: none"> <li>リンショピン大学助教授 エルスマリー・アンベッケン</li> <li>生涯学習教育研究センター助教授 堀内秀雄</li> <li>北海道大学高等教育機能開発総合センター教授 木村純</li> <li>和歌山県教育庁生涯学習課社会教育主事 原寿宏</li> <li>和歌山子どもミュージアムをつくる会代表 野澤ゆう子</li> <li>県立粉河高等学校校長 山口裕市</li> <li>slowwave 代表 向口睦美</li> <li>生涯学習教育研究センター助教授 堀内秀雄</li> <li>経済学部助教授 足立基浩</li> <li>教育学部助教授 山下晃一</li> <li>経済学部助教授 足立基浩</li> <li>和歌山県教育庁生涯学習課社会教育主事 村崎隆志</li> </ul>	福祉のまちづくりを考えるタベ  第2回地域発展学習 プログラムの開発と実施に関するセミナー  私たちが見た海外の街づくり 和歌山の街づくり実践フォーラム				

土曜講座		まちかど土曜楽交		ワダイノカフェ		子育て支援員研修	
テーマ	期間	講師	事業内容	講師	事業内容	講師	事業内容
前期「日本経済の活路を拓く」 後期「見て聴いて広がるクリエイティブな世界」	4月5日～ 3月6日 全12回						

	生涯学習フォーラム（セミナー）		公開講座		研修員＜OB・OG企画＞	
	講師	事業内容	講師	事業内容	講師	事業内容
2004	・NPO 法人ええとこネット 吉田悠 ・経済学部教授 大泉英次 ・教育学部助教授 米田頼司 ・和歌山県立粉河高校教諭 土橋孝児 瀬岡美景 ・貝塚プレイパーク実行委員長 大谷美代子 ・子ども居場所づくりコーディネーター 野澤ゆう子 ・和歌山県指導農業士 原和男 ・龍神村参事農林担当 山崎進 ・紀州お祭りプロジェクト実行委員会 上森成人 ・龍神村青年クラブ会長 五味一平 ・貝塚ファミリー劇場・高校生 中川ひろとも ・高知県四万十楽舎楽長 山下正寿 ・龍神村村長 古久保治一 ・経済学部助教授 鈴木裕範	生涯学習フォーラム 2004	・和歌山県農林水産部畜産課 上杉秀樹 ・和歌山県環境生活部食品安全企画課 萩野敬史 ・大阪市立大学大学院生活科学研究科 教授 山口英昌 ・紀ノ川農業協同組合組合長 宇田篤弘 ・和歌山県農林水産部農業生産・就農局 ・エコ農業推進室農業環境班長 谷本好久 ・在宅複合型施設ひろの里職員 豆塚美穂 ・教育学部教授 米澤好史 ・NPO・HANDS 和歌山副理事長 有井安仁 ・イラストレーター 野志明加 ・教育学部助教授 山下晃一 ・紀州よさこい踊り実行委員 上森成人	食の安全・安心を考える学習会	・愛知医科大学看護学部講師 渡邊美千代 ・訪問介護ステーションハートフリー やすらぎ所長 大橋奈美 ・愛知医科大学看護学部非常勤講師 岩崎順子  ・キャスター 須磨佳津江 ・経済学部助教授 足立基浩 ・みさとチューリップの会 中谷一 ・オープンガーデンわかやま 折田節文 ・ライフロングガーデンの会 西川美鈴 ・POKHARA 奥康子 ・和歌山高校土いじり会 黒川千恵美	第4回「死と向き合い、生を考える」集い
	・和歌山県立医科大学精神医学教室教授 篠崎和弘 ・NPO 法人ユニークフェイス会長 石井政之	ライフスタイルを考える人権セミナー		夢をチカラに今を生きる		フラワーフォーラム
	・生涯学習教育研究センター助教授 堀内秀雄 ・システム工学部助教授 中島敦司 ・経済学部助教授 足立基浩 ・学生支援ボランティア・建築士 宮下啓司 ・学生支援ボランティア・大学生 高島太郎 村田一起 ・和歌山工業高等学校教諭 山本多華子	まち再発見ゼミシンポジウム				
	・和歌山県立粉河高校 山口裕市 ・北海道大学大学院教授 姉崎洋一 ・大阪府岬高校長 島崎英夫 ・教育学部助教授 山下晃一 ・経済学部助教授 足立基浩 ・文部科学省生涯学習政策局社会教育官・地域づくり支援室 加藤幹夫 ・生涯学習系教育研究センター 堀内秀雄	地域発展学習プログラムの開発と実施に関するセミナー				
・学生支援ボランティア・建築士 宮下啓司 ・砂山地区連合自治会長 富田信夫 ・経済学部助教授 足立基浩	レッツトライまちづくり実践フォーラム					

土曜講座		まちかど土曜楽交		ワダイノカフェ		子育て支援員研修	
テーマ	期間	講師	事業内容	講師	事業内容	講師	事業内容
前期「南海地震とわかやまを考えてみる」 後期「高野・高野の文化遺産と民衆～世界遺産登録記念～」	4月10日～ 3月5日 全12回						

	生涯学習フォーラム（セミナー）		公開講座		研修員＜OB・OG企画＞	
	講師	事業内容	講師	事業内容	講師	事業内容
2005	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダルク和歌山代表 和高優紀</li> <li>・愛知県医科大学看護学部非常勤講師 岩崎順子</li> <li>・立命館大学産業社会学部助教授 秋葉武</li> <li>・和歌山県 NPO 協働推進課長 幸前裕之</li> <li>・宝塚 NPO センター事務局 長 森綾子</li> <li>・生涯学習教育研究センター助教授 堀内秀雄</li> </ul>	<p>ライフスタイルを考える人権セミナー</p> <p>NPO から考える「公共施設の運営」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近畿農政局和歌山農政事務所 斎藤峰雄 田村日出夫</li> <li>・社団法人農山漁村文化協会 吉井弘和</li> <li>・那賀町有機農業実践グループ副会長 畑敏之</li> <li>・那賀町学校給食センター栄養士 南山郁子</li> <li>・経済学部助教授 清弘正子 足立基浩</li> <li>・野村証券投資情報部証券学習開発課理事補 東原好之</li> <li>・野村証券投資情報部証券学習開発課副理事 木村哲也</li> <li>・野村証券投資情報部証券学習開発課長 篠原秀一</li> <li>・和歌山県弁護士会 中川利彦</li> <li>・日本経済新聞証券部編集委員 前田昌孝</li> <li>・野村証券(株)和歌山支店長 松永恭直</li> <li>・野村証券(株)和歌山支店企業金融課長 武井裕一郎</li> </ul>	<p>食育を考える学習会</p> <p>暮らしの中の証券講座</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育学部助教授 山崎由可里</li> <li>・自立応援隊センター和歌山チャレンジ代表 大谷真之</li> <li>・はぐるま共同作業所 金本直幸</li> <li>・和歌山障害者職業センター主任カウンセラー 渡邊典子</li> <li>・生涯学習教育研究センター助教授 堀内秀雄</li> <li>・ワーキング・ウイメンズ・ネットワーク会長・編集者 正路怜子</li> <li>・生涯学習教育研究センター長 山本健慈</li> <li>・城西病院副院長・筑波大学名誉教授 庄司進一</li> </ul>	<p>障害者の自立</p> <p>自分らしい生き方、働き方をさがして</p> <p>第5回「死と向き合い、生を考える」集い～臨床人間学 あなたならどうする？</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高知県大町役場総務課地域振興係長 畦地和也</li> <li>・和歌山インターネット市民塾 道本浩司</li> <li>・静岡大学助教授 石井山竜平</li> <li>・龍神村えとこねっと 下山真実</li> <li>・田辺市教育委員会生涯学習課長 藤若隆司</li> <li>・吉備町教育委員会社会教育主事 三角治</li> </ul>	生涯学習フォーラム 2005				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・甲南大学・京都大学名誉教授 佐藤文隆</li> <li>・みさと天文台主任研究員 矢動丸泰</li> <li>・みさと天文台研究員 豊増伸治</li> <li>・小澤友彦</li> <li>・学生自主創造科学センター教授 尾久土正己</li> <li>・教育学部教授 富田晃彦</li> <li>・経済学部教授 小島敏宏</li> <li>・経済学部助教授 金川めぐみ</li> </ul>	<p>由教育研究ネットワーク「天文教室」</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学省生涯学習政策局政策課 地域づくり支援室室長補佐 佐藤誠</li> <li>・滋賀大学生涯学習教育研究センター長 住岡英毅</li> <li>・生涯学習教育研究センター助教授 堀内秀雄</li> <li>・大学生自主創造科学センター教授 尾久土正己</li> <li>・教育学部客員教授 山口裕市</li> <li>・田辺市上秋津公民館長 玉井常貴</li> </ul>	<p>マナビスト支援セミナー</p> <p>全国国立大学生涯学習系センター研究協議会</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青森県弘前市市民会館長 田中弘子</li> <li>・教育学部客員教授 山口裕市</li> <li>・岸和田市女性センター副館長 鍋谷佐和子</li> <li>・天神山地区市民協議会事務局 長 昼馬光一</li> <li>・生涯学習教育研究センター助教授 堀内秀雄</li> </ul>	<p>地域発展学習プログラムの開発と実施に関するセミナー</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済学部助教授 足立基浩</li> <li>・街づくりボランティア・一級建築士 宮下啓司</li> <li>・株式会社ぶらくり取締役 平松博</li> </ul>	<p>まちが元気! ひとが元気! 和歌山が元気!</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新潟市「うちの実家」代表 河田瑠子</li> <li>・NPO 紀北介護ネット代表 南山多美</li> <li>・NPO 福祉施設マザー西山代表 西山エイ子</li> </ul>	<p>支え合う地域づくりをめざして</p>				

土曜講座		まちかど土曜楽交		ワダイノカフェ		子育て支援員研修	
テーマ	期間	講師	事業内容	講師	事業内容	講師	事業内容
前期「和歌山の防災～ 昨年の世界の災害から考 える」 後期「少子高齢化時代 にどう立ち向かうか」	4月9日～ 3月4日 全12回						

	生涯学習フォーラム（セミナー）		公開講座		研修員＜OB・OG企画＞	
	講師	事業内容	講師	事業内容	講師	事業内容
2006	<ul style="list-style-type: none"> <li>千葉大学教授 中村攻</li> <li>学生自主創造科学センター教授 尾久土正己</li> <li>教育学部教授 米山龍介</li> <li>教育学部教授 此松昌彦</li> <li>経済学部助教授 金川めぐみ</li> <li>地域・生涯学習支援ボランティア 宮下啓司</li> <li>高知県四万十楽舎楽長 山下正寿</li> <li>浅井学園大学生涯システム学部 助教授 谷川松芳</li> <li>北海道大学高等教育機能開発 総合センター教授 木村純</li> <li>田辺市教育委員会生涯学習課 企画推進係長 小川雅則</li> <li>紀南サテライト事務室長 中筋章夫</li> <li>生涯学習教育研究センター長 山本健慈</li> <li>大正紡績株式会社取締役営業 部長 近藤健一</li> <li>北海道大学高等教育機能開発 総合センター助教授 亀野淳</li> <li>岸和田市助役 明瀬正武</li> <li>貝塚市教育委員会社会教育係 長 村田和子</li> <li>生涯学習教育研究センター助教 授 堀内秀雄</li> <li>経済学部助教授 足立基浩</li> </ul>	生涯学習フォーラム 2006 観月会 マナビリスト支 援セミナー まち再発見ゼミ シンポジウム 地域発展学習 プログラムの開 発と実施に関 するセミナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済学部助教授 岡田真理子 内田浩史</li> <li>経済学部教授 大泉英次</li> <li>栄養士 鯨徳代</li> <li>和歌山県エコ農業推進室 大東享子</li> <li>郷土料理家 坂口サチエ</li> <li>和歌山市民生協常任理事 須本起代子</li> <li>㈱オークワ総務部長 坂口進</li> <li>保健管理センター所長 宮西照夫</li> </ul>	金融経済講座 食育を考える 学習会 現代社会と心 のやまい	<ul style="list-style-type: none"> <li>㈱毎日放送制作局番組アドバイザ ー 安江俊明</li> <li>教育実践総合センター助教授 豊田充崇</li> <li>わかやまメディアリテラシー研究会 代表 真砂美香</li> <li>経済学部助教授 鈴木裕範</li> <li>和歌山県立医科大学付属緩和ケ ア病棟医師 月山淑</li> <li>トンガの鼻自然クラブ代表 中口重喜</li> <li>フラワーネットワーク和歌山代表 泉治代</li> <li>いきいきガーデンサポーター 田中豊子 岡崎庄治</li> <li>ニュース和歌山記者 西山徳朗</li> <li>生涯学習教育研究センター客員 教授 村崎隆志</li> </ul>	メディアと市民 の上手なつき あい方 第6回「死と向 き合い、生を考 える」集い〜話 しましょう緩和 ケア病棟のこと フラワーフォー ラム

土曜講座		まちかど土曜楽交		ワダイノカフェ		子育て支援員研修	
テーマ	期間	講師	事業内容	講師	事業内容	講師	事業内容
前期「世界研究探訪ー私のテーマ、出会った世界ー」 後期「和歌山・新・天文対話 2006」	4月8日～ 3月3日 全12回						



	生涯学習フォーラム（セミナー）		公開講座		研修員＜OB・OG企画＞	
	講師	事業内容	講師	事業内容	講師	事業内容
2007	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育学部准教授 此松昌彦</li> <li>生涯教育研究センター教授 堀内秀雄</li> <li>経済学部准教授 金川めぐみ</li> </ul>	マナビスト支援セミナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>農家 貴志正幸</li> <li>米穀販売業者 保井彰友</li> <li>栄養士 鯨徳代</li> <li>教育学部教授 細谷圭助</li> </ul>	食育を考える学習会	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習教育研究センター研修員 中岡儀員</li> <li>サウンドセラピスト Aika</li> <li>在宅療養支援診療所めぐみ在宅クリニック医師 小澤竹俊</li> </ul>	書とサウンドセラピーを紡ぐつと 第7回「死と向き合い、生を考える」集い
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒューマンカレッジアフターの会 宮下啓司</li> <li>現マナビスト支援セミナーの受講者 山田至</li> <li>経済学部准教授 足立基浩</li> <li>新和歌浦 NPO 理事長 木野学</li> <li>マザー西山 西山エイ子</li> <li>生涯学習教育研究センター教授 堀内秀雄</li> <li>紀南第1回マナビスト支援セミナー修了者 田辺商工会議所 田ノ岡比呂志</li> <li>紀南第2回マナビスト支援セミナー修了者 広田稔</li> <li>秋津野ガルテン 木村則夫</li> <li>経済学部名誉教授 小島敏宏</li> <li>映画監督 入江富美子</li> </ul>	マナビスト支援セミナー入門講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済学部教授 大泉英次</li> <li>経済学部准教授 前原芳文</li> <li>学生自主創造科学センター教授 尾久土正己</li> <li>ボーカリスト 中谷泰子</li> <li>学生自主創造科学センター教授 尾久土正己</li> <li>京都大学大学院人間・環境学研究科研修員 中申孝志</li> </ul>	ぐらしに身近な金融経済講座 あなたと星と音楽と 手づくり電波望遠鏡 工作教室 火星接近の夜	<ul style="list-style-type: none"> <li>坂口内科院長・「生と死を語る会」主宰</li> </ul>	第8回「死と向き合い、生を考える」集い 在宅医療の現場から「家で死ぬということ」
	<ul style="list-style-type: none"> <li>副学長 小畑力人</li> <li>㈱読売旅行元取締役 佐藤崇雄</li> <li>熊野古道案内人 月山渉</li> <li>岸和田市産業部理事 原宗久</li> <li>㈱インターアクト・ジャパン代表取締役 帯野久美子</li> </ul>	ライフスタイルを考える人権セミナー	観光 地域づくりフォーラム			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>法政大学教授・日本社会教育学会会長 佐藤一子</li> <li>田辺市教育委員会生涯学習課企画推進係長 小川雅則</li> <li>生涯学習教育研究センター教授 堀内秀雄 山本健慈</li> <li>文部科学省生涯学習政策局社会教育課</li> <li>ボランティア活動推進専門官 出口寿久</li> <li>高知大学教育学部教授 内田純一</li> <li>岸和田サテライト地域連携 CD 神谷千春</li> <li>田尻町民主部介護健康課長 島田牧人</li> <li>貝塚市教育委員会 村田和子</li> <li>文部科学省生涯学習政策局政策課 教育改革推進室長 塩見みづ枝</li> </ul>	地域発展学習プログラムの開発と実施に関するセミナー				

土曜講座		まちかど土曜楽交		ワダイノカフェ		子育て支援員研修	
テーマ	期間	講師	事業内容	講師	事業内容	講師	事業内容
前期「和歌山の光～観 光へのアプローチ～」 後期「ヒトが育つ環境づ くり～コミュニケーション トラブル解決からコミュニ ティ形成へ」	4月7日～ 3月1日 全12回						

	生涯学習フォーラム（セミナー）		公開講座		研修員＜OB・OG企画＞	
	講師	事業内容	講師	事業内容	講師	事業内容
2008	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紀南サテライト特任助教 西川一弘</li> <li>・生涯学習教育研究センター長 堀内秀雄</li> <li>・経済学部准教授 金川めぐみ</li> <li>・文部科学省高等教育局審議官 久保公人</li> <li>・生涯学習教育研究センター長 堀内秀雄</li> <li>・北海道大学高等教育機能開発センター教授 木村純</li> <li>・国立教育政策研究所生涯学習部統括官 笹井広益</li> <li>・お茶の水大学大学院教授 三輪建二</li> <li>・学校と地域の融合教育研究会 副会長 岸裕司</li> </ul>	マナビリスト支援セミナー  センター設立10周年記念フォーラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育学部教授 細谷圭助</li> <li>・栄養士・料理研究家 鯨徳代</li> <li>・高野町副町長 高橋寛治</li> </ul>	食育実践講座  まちづくり基礎講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO 法人かものはしプロジェクト 代表理事 村田早耶香</li> </ul>	わかものたちのさわやかトーク「幸せってなんだろう」 村田早耶香の伝えたいこと
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雑誌「上方芸能」発行人 木津川計</li> <li>・京都造形芸術大学教授 寺脇研</li> <li>・鹿児島大学生涯学習教育研究センター准教授 小栗有子</li> <li>・岸和田市企画調整部企画課長 西川照彦</li> <li>・岸和田指示値基本条例推進委員会委員 次井義泰</li> <li>・経済学部教授 河音琢郎</li> <li>・生涯学習教育研究センター准教授 村田和子</li> <li>・学校と地域の融合教育研究会 副会長 岸裕司</li> <li>・和歌山県教育委員会教育長 山口裕市</li> <li>・新宮市立光洋中学校長 石川八州男</li> <li>・新宮市立光洋中学校学校運営協議会（やろら会）会長 田岡実千年</li> <li>・生涯学習教育研究センター長 堀内秀雄</li> </ul>	センター設立10周年記念事業 地域発展学習プログラムの開発と実施に関するセミナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇宙教育研究ネットワークプロジェクト</li> </ul>	観月会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白浜医療福祉財団白浜はまゆう病院副委員長 伊藤浩二</li> </ul>	第9回「死と向き合い生を考える集い」 地域のひとりの医師からの発信「いまを生きる」  センター設立10周年記念事業 木津川計一人語りの長谷川伸劇場
2009	<ul style="list-style-type: none"> <li>・副学長 堀内秀雄</li> <li>・教育学部准教授 二宮衆一</li> <li>・上富田町地域ふれあいルームコーディネーター 幾島浩恵</li> <li>・上富田町地域共有コーディネーター 松本輝子</li> <li>・上富田町教育委員会地域教育主事 湯川善典</li> <li>・生涯学習教育研究センター研修員 辻本敦子</li> <li>・法政大学キャリアデザイン学部教授 佐藤一子</li> <li>・和泉の農業協同組合営農経済担当常務 谷口敏信</li> <li>・金野社会福祉士事務所 金野精一郎</li> <li>・岸和田市職員 馬野ヤス子</li> <li>・生涯学習教育研究センター准教授 村田和子</li> </ul>	地域発展学習プログラムの開発と実施に関するセミナー			<ul style="list-style-type: none"> <li>・雑誌「上方芸能」発行人 木津川計</li> </ul>	木津川計の一人語り劇場 王将編
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光学部教授 藤田武弘</li> <li>・生涯学習教育研究センター准教授 村田和子</li> <li>・紀南サテライト特任教授 西川一弘</li> <li>・副学長 堀内秀雄</li> </ul>	マナビリスト支援セミナー		観月会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本子どもの本研究会和歌山支部長 別院清</li> <li>・朝日新聞社記者 上野創</li> </ul>	語りの世界  第10回「死と向き合い生を考える」集い

土曜講座		まちかど土曜楽交		ワダイノカフェ		子育て支援員研修	
テーマ	期間	講師	事業内容	講師	事業内容	講師	事業内容
前期「和歌山・地域再生へ～観光振興からのアプローチ」 後期「わたしたちの生活にせまるリスク～対処方法を考えます」	4月12日～ 3月7日 全12回						
前期「世界天文年2009～宇宙・解き明かすのはあなた～」 後期「紀伊万葉の世界に学ぶ～[地域]に生きる万葉をめざして～」	4月11日～ 3月6日 全12回						

	生涯学習フォーラム（セミナー）		公開講座		研修員＜OB・OG企画＞	
	講師	事業内容	講師	事業内容	講師	事業内容
2010	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携・生涯学習センター長 出口寿久</li> <li>・文部科学省生涯学習政策局社会教育課長 塩見みづ枝</li> <li>・田辺市大塔公民館三川分館長 山本恵美</li> <li>・南紀若者サポートステーション訪問支援員 南芳樹</li> <li>・新宮市社会福祉協議会ボランティアコーディネーター 奥田修子</li> <li>・地域連携・生涯学習センター准教授 村田和子</li> <li>・北海道大学大学院教育学研究院教授 宮崎隆志</li> <li>・岸和田市役所企画調整部企画課長 梶野省治</li> <li>・貝塚市教育委員会社会教育課主査 折出健二郎</li> <li>・熊取町図書館協議会・社会教育委員 森崎シヅ子</li> <li>・岸和田市・蛸地藏商店街役員 泉原一弥</li> <li>・文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課 課長補佐 平山大</li> <li>・北海道大学高等教育推進機構高等教育研究部 生涯学習計画研究部門教授 木村純</li> <li>・南紀熊野サテライト特任助教 西川一弘</li> <li>・地域連携・生涯学習センター長 出口寿久</li> </ul>	地域発展学習プログラムの開発と実施に関するセミナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業法人株式会社秋津野代表取締役副社長 玉井常貴</li> <li>・田辺商工会議所中小企業相談室経営指導員 中山智之</li> <li>・経済学部教授・南紀熊野サテライト長 大泉英次</li> <li>・教育学部人文地理学教授 水田義一</li> <li>・理事 藤本清二郎</li> <li>・教育学部教授 菊川恵三</li> <li>・高野山大学名誉教授 山陰加春夫</li> <li>・観光学部准教授 尾久土正己</li> </ul>	放送大学との連携講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪からだとところの出会いの会 主宰 松井洋子</li> <li>・『『いのちの授業』をもう一度』著者山田泉氏の配偶者 山田真一</li> <li>・雑誌「上方芸能」発行人 木津川計</li> </ul>	「からだ」ってなに？ 第11回「死と向き合い、生を考える」集い「こ縁玉」山田泉さんと歩んだ道 木津川計の一人語り劇場「無法松の一生」
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学長 山本健慈</li> <li>・副学長 堀内秀雄</li> <li>・地域連携・生涯学習センター長 出口寿久</li> <li>・経済学部教授・南紀熊野サテライト長 大泉英次</li> <li>・教育学部教授・南紀熊野サテライト 副サテライト長 本山貢</li> <li>・南紀熊野サテライト同窓会長 木下幾雄</li> <li>・システム工学部准教授 江種伸之 宮川智子</li> <li>・システム工学部教授 足立啓 本多友常 伊藤千尋 井伊博行 和田俊和 吉田登</li> <li>・教育学部准教授 豊田充崇</li> <li>・教育学部教授 此松昌彦</li> <li>・システム工学部助教 谷口正伸</li> <li>・経済学部准教授 鈴木裕範</li> <li>・観光学部准教授 尾久土正己</li> </ul>	南紀熊野サテライト5周年記念事業				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学長 山本健慈</li> <li>・副学長 堀内秀雄</li> <li>・神戸大学農学研究科地域連携センター</li> <li>・地域連携研究員 内平隆之</li> <li>・金沢大学「能登里山マイスター」養成プログラム教務補佐員 伊藤浩二</li> </ul>	地域型サテライト拠点情報交流会 2010				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済学部教授 足立基浩 大西敏夫</li> </ul>	和歌山大学南紀熊野サテライト修士論文発表会&講演会・シンポジウム				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学省生涯学習政策局長 板東久美子</li> <li>・文部科学省生涯学習政策局政策課長 上月正博</li> <li>・副学長 堀内秀雄</li> <li>・観光学部教授 尾久土正己</li> </ul>	生涯学習フォーラム・熟議 観月会				

[illegible]

	生涯学習フォーラム（セミナー）		公開講座		研修員＜OB・OG企画＞	
	講師	事業内容	講師	事業内容	講師	事業内容
2011	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携・生涯学習センター長 出口寿久</li> <li>・福島大学行政政策学類教授 千葉悦子</li> <li>・岸和田市青少年指導員協議会 広報部長 出上実</li> <li>・地域連携・生涯学習センター客員教授 古田義久</li> <li>・海南市教育委員会生涯学習課 社会教育係長 堀内信宏</li> <li>・地域連携・生涯学習センター准教授 村田和子</li> <li>・学長 山本健慈</li> <li>・和歌山県新宮市長 田岡実千年</li> <li>・NPO 法人教育支援協会代表理事 吉田博彦</li> <li>・新宮市社会福祉協議会地域福祉部 奥田修子</li> <li>・田辺市本宮公民館四村川分館長 折戸富子</li> <li>・NPO 法人わかやまNPO センター 事務局次長 土橋一見</li> <li>・副学長 堀内秀雄</li> </ul>	地域発展学習プログラムの開発と実施に関するセミナー 新しい公共と地域の未来	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済学部教授 菊川恵三</li> <li>・システム工学部環境システム学科教授 中島敦司</li> <li>・経済学部准教授 鈴木裕範</li> <li>・教育学部教授 古賀康憲</li> <li>・観光学部教授 尾久土正己</li> </ul>	大人大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前和歌山県教育委員会教育長 山口裕市</li> <li>・和歌山県立和歌山工業高等学校教諭 村崎隆志</li> <li>・和歌山県立和歌山高等学校教諭 瀬岡美景</li> <li>・副学長 堀内秀雄</li> <li>・宇都宮大学生涯学習教育研究センター教授 広瀬隆人</li> <li>・和歌山県立和歌山工業高等学校教諭 村崎隆志</li> <li>・公立那賀病院乳腺外科科長 谷野裕一</li> <li>・雑誌「上方芸能」発行人 木津川計</li> </ul>	高大地域連携を考える ～学校に地域の力を貸してください～  夏休み親子「ものづくり」体験教室 第12回「死と向き合い生を考える集い」～がんで死ぬということ～ 木津川計の一人語り劇場「父帰る」
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携・生涯学習センター長 出口寿久</li> <li>・地域連携・生涯学習センター准教授 村田和子</li> <li>・前和歌山県教育委員会教育長 山口裕市</li> <li>・経済学部教授 足立基浩</li> <li>・観光学部長 山田良治</li> <li>・地域連携・生涯学習センター客員教授 松岡伸也</li> </ul>	新しい公共の担い手養成プログラム 橋本会場 海南会場				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学長 山本健慈</li> <li>・和歌山県教育委員会教育長 西下博通</li> <li>・衆議院議員 岸本周平</li> <li>・参議院議員 鈴木寛</li> <li>・岩手大学長 藤井克己</li> <li>・福島大学名誉教授 鈴木浩</li> <li>・文部科学省社会教育課長 塩見みづ枝</li> <li>・東北大学准教授 石井山竜平</li> <li>・青森中央学院大学経営法学部教授 高橋興</li> <li>・棚橋教育委員会生涯学習課長 小川雅則</li> <li>・副学長・理事 堀内秀雄</li> <li>・スペースアートクリエイター 池下章裕</li> </ul>	大学改革シンポジウム 大震災後の日本再建と生涯学習				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学長 山本健慈</li> <li>・和歌山県知事 仁坂吉伸</li> <li>・パナソニック株式会社代表取締役副課長 松下正幸</li> <li>・教育学部准教授 高橋健一</li> <li>・建築家 中西重裕</li> <li>・名誉教授 八丁直行</li> <li>・パナソニック株式会社 小川理子</li> <li>・太平洋工業株式会社代表取締役社長 細江美則</li> <li>・前和歌山県教育委員会教育長 山口裕市</li> <li>・地域創造支援機構特任教授 湯崎真梨子</li> <li>・理事 堀内秀雄</li> <li>・地域連携・生涯学習センター長 出口寿久</li> <li>・地域創造支援機構特任教授 湯崎真梨子</li> <li>・理事 堀内秀雄</li> <li>・地域連携・生涯学習センター長 出口寿久</li> </ul>	和歌山大学松下会館五十周年記念式典 これまでの五十年 これからの五十年				
		観月会				

土曜講座		まちかど土曜楽交		ワダイノカフェ		子育て支援員研修	
テーマ	期間	講師	事業内容	講師	事業内容	講師	事業内容
「新しい公共」へのみち しるべ～共生の和歌山を 創る～	4月9日～ 3月3日 全12回	まちかど土曜楽交					



	生涯学習フォーラム（セミナー）		公開講座		研修員＜OB・OG企画＞	
	講師	事業内容	講師	事業内容	講師	事業内容
2012	<ul style="list-style-type: none"> <li>文部科学省高等教育局大学振興課長 池田貴城</li> <li>学長 山本健慈</li> <li>理事 平田健三</li> <li>佐賀大学文化教育部教授 上野景三</li> <li>ボランティアグループ「サン・アーチ」 大井純子</li> <li>岡山市教育委員会事務局指導課課長補佐 内田光俊</li> <li>地域連携・生涯学習センター准教授 村田和子</li> <li>前和歌山大学地域連携・生涯学習センター長 出口寿久</li> <li>北海道大学名誉教授 岡田弘</li> <li>美浜町町 森下誠史</li> <li>田辺市長野町内会伏菟野区長 谷口順一</li> <li>前日高町消防団長 清長皓二</li> <li>北海道大学名誉教授 岡田弘</li> </ul>	<p>地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー</p> <p>地域発展学習プログラムの開発と実施に関するセミナー～地域創造と生涯学習～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>稲むら火の館館長 熊野享</li> <li>教育学部教授 梅津一朗</li> <li>丹生都比売神社宮司 丹生晃市</li> <li>高野山大学名誉教授 山陰加春夫</li> <li>経済学部准教授 大澤健</li> <li>観光学部教授 尾久土正己</li> </ul>	大人大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携・生涯学習センター准教授 村田和子</li> <li>教育学部教授 松浦善満</li> <li>雑誌「上方芸能」発行人 木津川計</li> <li>ノンフィクション作家 奥野修司</li> <li>筑波大学人文社会系教授 土井隆義</li> <li>教育学部教授 松浦善満</li> </ul>	<p>輝く高校生！共同グループで学び合い</p> <p>木津川計の一人語り劇場 口演「語る落語」</p> <p>第13回「死と向き合い生を考える」集い～今、改めて死と向き合い生を考える</p> <p>現代の若者とどう向き合うべきか</p>
2013			<ul style="list-style-type: none"> <li>日本城郭史学和歌山支部長 水島大二</li> <li>教育学部教授 菊川恵三 梅津一朗</li> <li>紀伊国屋文左衛門を偲ぶ会長 蔵野圭一</li> <li>観光学部教授 尾久土正己</li> <li>丹生都比売神社宮司 丹生晃市</li> <li>高野山大学名誉教授 山陰加春夫</li> <li>熊野本宮大社宮司 九鬼家隆</li> <li>世界遺産マスター 小野田真弓</li> </ul>	大人大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヴァイオリニスト 廣澤大介</li> <li>ピアニスト 赤川京子</li> <li>教育学部教授 武田鉄郎</li> <li>文筆業 稲光宏子</li> <li>写真家 國森康弘</li> </ul>	<p>発達障害の理解からいじめをなくすために</p> <p>第14回「死と向き合い生を考える」集い～いのちをつなぐということ 被災地・紛争地・在宅看取りの現場に想う～</p>

土曜講座		まちかど土曜楽交		ワダイノカフェ		子育て支援員研修	
テーマ	期間	講師	事業内容	講師	事業内容	講師	事業内容
「3.11これからの地域・日本・世界～ひとり一人が学び・考え・行動する～」	4月7日～ 3月2日 全12回						
「3.11人口減少社会への挑戦」	5月25日～ 3月1日 全12回	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育学部教授 豊田充崇</li> <li>教育学部准教授 岩野清美</li> <li>教育学部教授 石塚互</li> <li>教育学部教務職員 中村文子</li> <li>わかやまSTC 赤阪健司 根来武司 広瀬正記</li> <li>きのくにサイエンスラボ 坂本文博</li> </ul>	まちかど土曜楽交  まちかど科学教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光学部准教授 中串孝志</li> <li>宇宙教育研究所特任教授 木島政親 小谷朋美 秋山演亮</li> <li>観光学部特任教授 吉住千亜紀</li> <li>かわべ天文公園主任技術部員 古屋昌美</li> <li>宇宙教育研究所研究支援員 佐藤奈穂子</li> <li>教育学部教授 富田晃彦</li> <li>みさと天文台 みさと天文台長 矢動丸泰</li> <li>観光学部教授 尾久土正己</li> </ul>	宇宙カフェ		
				<ul style="list-style-type: none"> <li>観光学部教授 東悦子</li> <li>経済学部教授 鈴木裕範</li> <li>経済学部名誉教授 高嶋雅明</li> <li>経済学部准教授 藤田和史</li> <li>教育学部教授 島津俊之</li> <li>図書館特任教授 渡部幹雄</li> <li>地域連携・生涯学習センター講師 西川一弘</li> </ul>	歴史かふえ          まちづくり研究会		

	生涯学習フォーラム（セミナー）		公開講座		研修員＜OB・OG企画＞	
	講師	事業内容	講師	事業内容	講師	事業内容
2014	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光学部准教授 中申孝志</li> <li>名古屋大学教授 磯田文雄</li> <li>立命館大学政策科学部教授 川口清史</li> <li>京都府立大学長 築山崇</li> <li>金沢大学能登学舎里山里海プロジェクト 特任教授 伊藤浩二</li> <li>長野大学前地域連携センター主幹 千住義明</li> <li>岸和田サテライト地域連携コーディネーター 神谷千春 西田喜一</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観月会</li> <li>山本健慈学長退任記念シンポジウム</li> <li>地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本城郭史学和歌山支部長 水島大二</li> <li>教育学部教授 菊川恵三 梅津一朗</li> <li>関西大学非常勤講師 長谷正紀</li> <li>観光学部教授 尾久土正己</li> <li>九度山町まちなか語り部の会 木村憲次</li> <li>高野山大学名誉教授 山陰加春夫</li> <li>公益財団法人南方熊楠記念館館長 谷脇幹雄</li> <li>熊野速玉大社宮司 上野顕</li> <li>熊野三山協議会幹事 山本殖生</li> <li>世界遺産マスター 小野田真弓</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大人大学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>NPO 法人地域生活支援ネットワークサロン 理事兼事務局顧問 日置真世</li> <li>紀の川福祉コミュニティ農園 池田香弥</li> <li>医師 安川修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ないものは自分でつくる。</li> <li>第15回「死と向きあい生を考える集い」～人生のゴールまで自分らしく生きるために</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>田辺市教育委員会 山本良明</li> <li>海南市教育委員会 堀内信宏</li> </ul>	生涯学習フォーラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>韓国・公州大学校師範大学 教授 ヤン・ピョンチャン</li> </ul>	韓国の生涯学習に学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>NPO 法人砂山バンマツリ 梶原雅忠</li> <li>雑誌「上方芸能」発行人 木津川計</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フラワーフォーラム</li> <li>木津川計の一人語り劇場「地獄絵解き・それから篇」</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>大韓民国忠清南道泰安郡平生教育士 崔英姫</li> <li>大阪教育大学名誉教授 村上博光</li> <li>東京学芸大学名誉教授 小林文人</li> <li>公州大学校教授 ヤン・ピョンチャン</li> </ul>	日韓生涯学習フォーラム				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>NPO 法人ここからKit 代表 長谷川秀美</li> <li>文部科学省生涯学習政策局社会教育課 課長補佐 米本義則</li> <li>経済学部教授 足立基浩</li> <li>地域連携・生涯学習センター教授 村田和子</li> <li>公益財団法人わかやま地元力応援基金 専務理事 有井安仁</li> <li>公益財団法人奈良市生涯学習財団事務局 総括主任 佐野万里子</li> <li>上富田町町民創作劇実行委員会 正垣耕平</li> <li>地域連携・生涯学習センター講師 西川一弘</li> </ul>	地域発展学習プログラムの開発と実施に関するセミナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光学部地域再生学科准教授 中申孝志</li> <li>科学文化ゼミ学生</li> </ul>	観月会		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>名古屋大学教授 磯田文雄</li> <li>立命館大学政策科学部教授 川口清史</li> <li>京都府立大学長 築山崇</li> <li>和歌山大学長 山本健慈</li> </ul>	山本健慈学長退官記念シンポジウム				

土曜講座		まちかど土曜楽交		ワダイノカフェ		子育て支援員研修	
テーマ	期間	講師	事業内容	講師	事業内容	講師	事業内容
「医を多面的に考える」	4月5日～ 3月7日 全12回	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育学部教授 豊田充崇 石塚互</li> <li>教育学部准教授 岩野清美</li> </ul>	まちかど土曜楽校	<ul style="list-style-type: none"> <li>米国ブラウン大学地学科惑星地質上級研究員 廣井孝弘</li> <li>観光学部教授 尾久土正巳</li> <li>宇宙教育研究所特任助教 小谷朋美 秋山演亮</li> <li>観光学部特任助教 吉住千亜紀</li> <li>教育学部教授 石塚互 富田晃彦</li> <li>明石市立天文科学館学芸係長 井上毅</li> <li>観光学部准教授 中串孝志</li> <li>独立行政法人産業技術総合研究所 情報技術部門ジョインフォマティクス 研究グループ産総研特別研究員 神山徹</li> <li>伊丹市立こども文化学館 客員准教授 古屋昌美</li> </ul>	宇宙カフェ		
				<ul style="list-style-type: none"> <li>観光学部准教授 山神達也</li> <li>観光学部講師 永瀬節治</li> <li>和歌山市立博物館学芸員 佐藤顕</li> <li>経済学部客員教授 鈴木裕範</li> </ul>	歴史かふえ		
				<ul style="list-style-type: none"> <li>システム工学部講師 川角典弘</li> <li>システム工学部教授 吉野孝</li> <li>システム工学部助教 松延拓生 伊藤淳子</li> <li>システム工学部准教授 床井浩平</li> </ul>	情報デザイン		

	生涯学習フォーラム（セミナー）		公開講座		研修員＜OB・OG企画＞	
	講師	事業内容	講師	事業内容	講師	事業内容
2015	<ul style="list-style-type: none"> <li>長野大学 地域連携センター長 古田睦美</li> <li>一般社団法人国立大学協会専務理事 山本健慈</li> </ul>	地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー			<ul style="list-style-type: none"> <li>医師 坂口健太郎</li> </ul>	第16回「死と向きあい生を考える」集い～今日が人生最後の日だと思っていきたい
	<ul style="list-style-type: none"> <li>海南市立中央公民館館長 宇恵幸次郎</li> <li>有田市社会教育委員会議長 平野勝寛</li> <li>橋本市隅田地区公民館長 松山江津子</li> </ul>	生涯学習フォーラム			<ul style="list-style-type: none"> <li>雑誌「上方芸能」発行人 木津川計</li> </ul>	木津川計の一人語り劇場「番町皿屋敷」異聞
	<ul style="list-style-type: none"> <li>佐賀大学文化教育学部教授 上野景三</li> <li>大阪府泉大津市教育委員会生涯学習課 スポーツ青少年係長 大塚和弘</li> <li>和歌山県橋本市社会教育委員会議長 佐藤律子</li> <li>大阪府岸和田市社会教育委員会生涯学習部長 松阪正登</li> <li>文部科学省社会教育課課長補佐 佐藤秀雄</li> <li>金沢大学地域連携センター教授 浅野秀重</li> <li>地域連携・生涯学習センター教授 村田和子</li> <li>和歌山県教育委員会生涯学習局長 楠義隆</li> <li>地域連携・生涯学習センター講師 西川一弘</li> </ul>	地域発展学習プログラムの開発と実施に関するセミナー			<ul style="list-style-type: none"> <li>国立市公民館社会教育主事 井口啓太郎</li> <li>国立市公民館青年室スタッフ 島本優子</li> <li>きのくに青雲高等学校生徒、他</li> </ul>	学びたい! 話したい! 楽しみたい!! フラワーフォーラム



	生涯学習フォーラム（セミナー）		公開講座		研修員＜OB・OG企画＞	
	講師	事業内容	講師	事業内容	講師	事業内容
2016	<ul style="list-style-type: none"> <li>・尚綱学院大学前連携交流課長 庄司則雄</li> <li>・尚綱学院大学学長 合田隆史</li> <li>・一般社団法人国立大学協会専務理事 山本健慈</li> <li>・地域連携・生涯学習センター講師 西川一弘</li> <li>・東京大学名誉教授 佐藤一子</li> <li>・元和歌山県教育委員会教育長 山口裕市</li> <li>・NPO 法人紀州粉河まちづくり塾 代表 楠富晴</li> <li>・和歌山県立粉河高等学校教諭 横出加津彦</li> <li>・経済学部長 足立基浩</li> <li>・教育学部准教授 越野章文</li> <li>・地域連携・生涯学習センター副センター長 村田和子</li> </ul>	<p>地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー</p> <p>地域発展学習プログラムの開発と実施に関するセミナー</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・めぐみ在宅クリニック院長 小澤竹俊</li> <li>・ボスビス医</li> <li>・きのくに青雲高等学校生徒、他</li> </ul>	<p>第17回「死と向き合い、生を考える」集い～今日が人生の最後の日だと思っていきたい～</p> <p>フラワーフォーラム</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道大学大学院教育学院生涯学習論講座 修士課程 張テイテイ</li> <li>・地域連携・生涯学習センター教授 村田和子</li> <li>・金沢大学地域連携推進センター教授 浅野秀重</li> <li>・北海道大学名誉教授 木村純</li> <li>・地域連携・生涯学習センター講師 西川一弘</li> </ul>	大学の生涯学習センターと地域				

土曜講座		まちかど土曜楽交		ワダイノカフェ		子育て支援員研修	
テーマ	期間	講師	事業内容	講師	事業内容	講師	事業内容
		<ul style="list-style-type: none"> <li>教育学部教授 豊田充崇 石塚互</li> <li>教育学部准教授 岩野清美 梶村麻紀子</li> </ul>	まちかど土曜楽交	<ul style="list-style-type: none"> <li>システム工学部准教授 天野敏之 床井浩平</li> <li>食農総合研究所准教授 岸上光克</li> <li>地域連携・生涯学習センター准教授 西川一弘</li> <li>立野商店代表 立野眞生</li> <li>観光学部准教授 永瀬節治</li> <li>COC+ 推進室特任助教 大坪史人 富永哲雄 友渕貴之 田代優秋</li> <li>教育学部准教授 山神達也</li> <li>システム工学部講師 宮部真衣</li> <li>観光学部客員研究員 吉住千亜紀</li> <li>観光学部教授 尾久土正己</li> <li>附属図書館特任教授 渡部幹雄</li> <li>山東まちづくり会 吉田泰士</li> <li>教育学部教授 海津一朗</li> <li>わかやま NPO センター 副理事長 志場久起</li> <li>株式会社 BEE 代表 久保田善文</li> </ul>	ワダイノカフェ	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済学部准教授 金川めぐみ</li> <li>経済学部教授 米澤好史</li> <li>和歌山信愛女子短期大学准教授 森下順子</li> <li>相愛大学名誉教授 桑原義登</li> <li>地域連携・生涯学習センター教授 村田和子</li> <li>教育学部教授 衣斐哲臣</li> </ul>	基本研修
						<ul style="list-style-type: none"> <li>教育学部教授 舩越勝 米澤好史</li> <li>教育学部准教授 二宮衆一</li> <li>一般社団法人日本学童保育士協会 館優子 大塚謙治</li> <li>地域連携・生涯学習センター教授 村田和子</li> <li>社会福祉法人アトム共同福祉会 市原悟子</li> <li>和歌山信愛女子短期大学准教授 森下順子</li> <li>学校法人大谷学園大谷幼稚園園長 岡佐智子</li> <li>和歌山つくし医療・福祉センター小児科医師 井上美保子</li> <li>日本赤十字和歌山医療センター小児科医師 池田由香</li> <li>経済学部准教授 金川めぐみ</li> <li>和歌山県立医科大学保健看護部特任教授 山田知子</li> <li>和歌山県立医科大学保健看護部准教授 前馬理恵</li> <li>貝塚市主任児童委員 梅原直子</li> </ul>	専門研修



# 10周年記念事業

生涯学習ニュース 29号より抜粋

第29号 生涯学習ニュース 2008年12月発行



**和歌山大学**  
**生涯学習ニュース**  
No.29  
Wakayama University

編集・発行

〒641-0051  
和歌山県和歌山一丁目7番29号  
生涯学習教育研究センター  
TEL 073-427-4623  
FAX 073-427-7616

## 生涯学習教育研究センターの 未来に栄光あれ

文部科学省大臣官房審議官  
(高等教育担当)

**久保 公人**

本年9月21日(日)和歌山大学生涯学習教育研究センターの創立10周年記念フォーラムに参加して感激した記憶も消えない内に、生涯学習ニュースへの投稿をというお話、先輩である山本前センター長には従来私は喜んでお引き受けしました。

高等教育局、生涯学習政策局の両局を経験し、生涯学習教育研究センターについても見聞する機会がありました。

和歌山大学の生涯学習教育研究センターほど学内において重要な役割を果たしているところは初めてでした。歴代センター長が学内・学外において様々な人間関係築き主要な役割を果たしておられることが大きいことはもちろんですが、さらに、センターという組織として大きな役割を担っておられることにたいへん感動したのでした。

自治体で中心的な役割を果たしておられた人材をセンターに引き抜いてきて、主要なポストに就けつつ地域との密接なつながり形成し、同時に学内の職員の啓発、研修といった大学運営の下支え、さらに大学の運営、政策形成のものに關しても様々な役割を演じてきておられます。であるからこそ、休日のフォーラムに学長も出席され、またそれゆえにセンターにも複数の専任配置が認められているわけなのでしょう。

和歌山大学が総合大学として歩み出されている力の源泉の一つを垣間見た気もしました。

今後とも本センターが和歌山大学の牽引者となって、大学共々ますます発展していかれることを期待しております。

2008年12月発行 生涯学習ニュース 第29号

## 講座・セミナーの風景

### 1. 生涯学習教育研究センター設立10周年記念フォーラム

「地域生涯学習の展開と大学の役割」

9月21日(日)開催した生涯学習教育研究センター設立10周年記念フォーラムでは、「センター10年の歩み」のDVDの上から始まり、基調講演として文部科学省大臣官房審議官(高等教育担当)久保公人氏を招き、「今後の大学と生涯学習への期待」をテーマに学壇に響いた講演が行われました。

また基調報告としてセンター長 堀内秀雄氏の「大学による生涯学習～和歌山大学10年の歩みから」、北海道大学高等教育機能開発センター生涯学習部教授木村純氏から「地域生涯学習への高等教育機関の貢献～北海道大学からの提言」が発表されました。

その後、国立教育政策研究所生涯学習政策研究部総括研究官井田宏氏と当センター基教授田村和子をコーディネーターとして、「地域生涯学習の展開と大学の役割」をテーマに、お招きの女子大大学院教授三輪謙二氏、学校と地域の融合教育研究会副会長岸松司氏をコメンテーターとして意見交換を行い、研究者、学生、地域住民の間で活発な議論が展開されました。

これまでの10年間をふりかえって

和歌山大学副学長・中長特別補佐  
(生涯学習教育研究センター長)

**山本 健慈**

センター設立10周年記念事業を終え、改めてこの10年学内外の方々にお世話になったことを実感し深い感謝の意を抱いています。この10年の和歌山大学は激動の時代であり、存在意義を問われる時期でした。センターがチャレンジし続けた地域と大学・生涯学習と大学というテーマでは、この時期の重要な課題でありました。センターの到達は、設立記念フォーラムに寄せられた生涯学習の第一歩の方向のメッセージにみられるように、日本における大学の最新のものとあるという評価をしていただいています。

センターの到達は、この10年本学が学長・理事が、運動のなかで浮足した足跡ある経緯を行ってきたからであり、本学職員および地域の関係者の日積の功に支えられてきたからであると思えます。この間、経験が、和歌山大学の未来に生かされることを願っています。

地域には、激動の課題があり  
地域はそれ解決する ほんまの学習を求めている  
その一環に、大学の生涯学習部門が いかに応えうるのか  
いつも思っています。朝も晩も10年して、

書を讀んだ新しい世紀 世界は混沌と危機の渦の中  
日本は、戦後復興、高度成長、とまどろく時代  
地域は、都市化・少子高齢化、経済停滞、に喘いでいる  
人づくりを願うべき生涯学習施設は 寂しくつつある  
大学もまた、経済的困難と再編の嵐に さらされている

されど 地方国立大学には貧しくとも 知的資源の宝庫でもある  
教育・研究・地域連携  
開かれているのは、その質とベクトルだ  
生涯学習教育研究センターは、その価値を高度化する 大学の最新鋭!

心のこもった 学内外のメッセージに励まれ  
地域・自治体をはじめ、よき人々に教えられ  
ゆるぎないミッションと、しなやかなネットワークで  
地域に支えられ、地域を支える 大学をめざしたい

生涯学習は、持続可能な世界を創る キーワード  
大学の生涯学習化、生涯学習の大学化を  
めざす目標として  
「まちの中の大学」から 教職協働のハーモニーで  
初心に戻り 10年の歩みから新たな10年へ、たゆまぬ挑戦を  
続けます。

第29号 生涯学習ニュース 2008年12月発行

## ～センター設立10周年を祝して寄せられたメッセージ(抜粋)～

本センターは、平成10年4月に設立以来、文部科学省・国公立大学をはじめ、行政・地方自治体・NPO等多くの方々に支えられ、これまでに多岐にわたる事業を展開してきました。このたび、センター設立10周年を祝い、センターを応援いただいた方々から、其のメッセージを頂きましたので、ここで一部ご紹介させていただきます。

**◎寺脇 研さん**  
(元文部科学省大臣官房審議官・  
国公立総合大学教員)

はつきり言わせてもらおうと家は、  
大学と生涯学習とは最も相性が悪い。  
生涯学習の理想から一歩離れ  
離れているのが日本大学なのである。されど、和歌山  
大学生涯学習教育研究センターとは、何度か一緒に  
仕事をさせてもらい、共闘できるの手応えを感じた。  
和歌山大学の未来は、このセンターがどうなっていくか  
にかかっているのではないだろうか。

**◎山口 裕市さん**  
(和歌山県教育委員、元和歌山県立大学教員)

センターとの出会いが、KOKO塾  
「まなびの郷」を可能にし、高校生  
や地域の人が持っている「ホンモ  
ノの学び」への高いニーズ、学校と地域の対立と危機の  
可能性を克服してくれました。また、センターは多くの  
地域の拠点と拠点を結ぶネットワークの拠点ともなり、  
学校とコミュニティに山積している課題を解決し、新しい  
共同を構築する可能性を開きつつあります。

**◎住岡 英毅さん**  
(和歌山大学生涯学習教育研究センター長)

貴センターがこれまで、次々と打ち  
出してきた生涯学習推進の  
中には、大学発という持ち味を存  
分に生かしながらも、他にはほら  
ない魅力的なスタイルが保持されている。それは、  
「地域の人たちと共に創り出していく」との理念を  
きいたものである。そうした活動スタイルの中にこそ、こ  
れからの生涯学習、そして教育全般にとっての「毒さ  
の薬」が隠れているように思われる。

**◎横川 和夫さん**  
(元共同通信社編集局長兼編集委員)

地域に密着した和歌山センターの学  
びの場は、学校教育に嫌気がさした  
子どもや若者たちが参加できた  
から、学校教育にはない新しい人間交流の場、こころ  
の癒しの場が生まれ、やがて数々の絆が生まれ、地域  
開きの発展を巻き起こす原動力になるのではないであ  
ろうか。

**◎手嶋 美平さん**  
(元和歌山県教育委員会委員長・  
和歌山県教育委員会教育政策課長)

貴センターの出会いが、2003年  
度の「生涯学習フォーラム」であ  
った。最初に「学外のネットワー  
ク」取り分け、絆結ぶ人的ネット  
ワークが紹介され、新しい風を吹かしていた。羨ましか  
った。数回の席では、センターの研究と実践生が同等  
で、地域づくりの夢を語り合っていた。羨ましか  
った。私は期待したい。二つの「羨ましかった」から、近い  
将来「和歌山の教育改革」に学べることを。

**◎岸 裕司さん**  
(学校と地域の融合教育研究会会長・  
和歌山県コミュニティ顧問)

センターが掲げる  
「地域を創る学び  
人が育つ地域」を創  
り続けることこそ、生涯学習の究極の目  
的だと思えます。市民のための地域開  
放をめざす生涯学習の拠点としてのセ  
ンターの役割は、ますます光彩を放つと  
確信します。

# 和歌山大学生涯学習教育研究センター規則

## 和歌山大学生涯学習教育研究センター規則

制 定 平成10年3月10日

法人和歌山大学規程第57号

### (趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人和歌山大学組織規則第15条第2項の規定に基づき、和歌山大学生涯学習教育研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

### (目的)

第2条 センターは、学内の共同教育研究施設として、生涯学習に関する教育研究を行うとともに、生涯学習機会を広く提供することによって、生涯学習社会の形成に寄与することを目的とする。

### (業務)

第3条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 生涯学習に関する基礎的・応用的研究
- (2) 生涯学習に関する地域基礎研究
- (3) 生涯学習機会の提供
- (4) 生涯学習指導者の養成及び研修
- (5) 生涯学習に関する資料の収集及び提供
- (6) その他センターの目的達成に必要な業務

### (企画運営委員会)

第4条 センターに関する重要事項を審議するため、和歌山大学生涯学習教育研究センター企画運営委員会（以下「企画運営委員会」という。）を置く。

2 企画運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

### (教員選考委員会)

第5条 センター専任教員の選考について審議するため、企画運営委員会の下に和歌山大学生涯学習教育研究センター教員選考委員会（以下「教員選考委員会」という。）を置く。

2 教員選考委員会に関し必要な事項は、別に定める。

### (職員)

第6条 センターに、次の職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 専任教員
- (4) その他の職員

### (センター長)

第7条 センター長は、和歌山大学（以下「本学」という。）の専任教員の中から、企画運営委員会の推薦に基づき、役員会の議を経て、学長が任命する。

2 センター長の任期は2年として、再任を妨げない。ただし、センター長に欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

3 センター長は、センターの業務を掌理する。

### (副センター長)

第8条 副センター長は、本学の専任教員の中から、企画運営委員会の推薦に基づき、役員会の議を経て、学長が任命する。

2 副センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、副センター長に欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

3 副センター長は、センター長を補佐し、センターの業務を整理する。

(専任教員)

第9条 センターの専任教員は、教員選考委員会の推薦に基づき、企画運営委員会が選考する。

(事務)

第10条 センターに関する事務を処理するため、センターに事務室を置く。

(専門部会)

第11条 センターには、必要に応じて専門部会を置くことができる。

(雑則)

第12条 この規則に定めるもののほか、センターの管理運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。

2 この規則施行後最初に選出されるセンター長及び副センター長の任期は、第7条第2項及び第8条第2項の規定にかかわらず平成17年3月31日までとする。

## 和歌山大学生涯学習教育研究センター企画運営委員会規程

制 定 平成10年3月10日  
法人和歌山大学規程第58号  
最終改正 平成20年6月30日

### (趣旨)

第1条 この規程は、和歌山大学生涯学習教育研究センター規則第4条第2項の規定に基づき、和歌山大学生涯学習教育研究センター企画運営委員会（以下「委員会」という。）について必要な事項を定める。

### (審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 和歌山大学生涯学習教育研究センター（以下「センター」という。）の管理運営方針及び事業計画に関する事項
- (2) センター長及び副センター長の推薦に関する事項
- (3) センター専任教員の選考に関する事項
- (4) センターの予算及び決算に関する事項
- (5) センターの施設・設備の整備計画に関する事項
- (6) その他センターに関する重要事項

### (組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) センター専任教員
- (4) 学部選出委員 教育学部、経済学部及びシステム工学部 各2名、観光学部 1名
- (5) 研究・社会連携推進課選出職員 2名

2 前項第4号の委員は、各学部の専任教員とし、学長が任命する。

3 理事（研究・社会連携・国際交流担当）は、委員会に出席することができる。

### (任期)

第4条 前条第1項第4号及び第5号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

### (委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

### (会議)

第6条 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

2 委員長に事故のあるときは、委員長があらかじめ指名した委員が議長となる。

3 委員会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

4 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

5 第3条第3項の理事は、議決に加わらない。

### (委員以外の出席)

第7条 委員会が必要と認めた場合は、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

### (専門委員会)

第8条 委員会に必要に応じて、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会に関する事項は、委員会において定める。

(事務)

第9条 委員会の事務は、研究・社会連携推進課において処理する。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

1 この規程は、平成16年4月1日から施行する。

2 この規程施行後最初に選出される第3条第1項第4号の委員の任期は、第4条の規定にかかわらず平成17年3月31日までとする。

附 則（平成16. 4. 23一部改正：法人和歌山大学規程第297号）

この規程は、平成16年4月23日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

附 則（平成19年3月30日一部改正：法人和歌山大学規程第602号）

この改正規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成19年6月1日一部改正：法人和歌山大学規程第649号）

この改正規程は、平成19年6月1日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

附 則（平成20年3月31日一部改正：法人和歌山大学規程第783号）

1 この改正規程は、平成20年4月1日から施行する。

2 この規定改正後、最初に第3条第1項第4号により観光学部から選出される委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成21年3月31日までとする。

附 則（平成20年6月30日一部改正：法人和歌山大学規程第838号）

この改正規程は、平成20年6月30日から施行し、平成20年4月1日から適用する。

# 和歌山大学地域連携・生涯学習センター企画運営委員会規定

## 和歌山大学地域連携・生涯学習センター企画運営委員会規程

制 定 平成16年4月1日

法人和歌山大学規程第58号

最終改正 平成27年3月20日

### (趣旨)

第1条 この規程は、和歌山大学地域連携・生涯学習センター規則第4条第2項の規定に基づき、和歌山大学地域連携・生涯学習センター企画運営委員会（以下「委員会」という。）について必要な事項を定める。

### (審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 和歌山大学地域連携・生涯学習センター（以下「センター」という。）の管理運営方針及び事業計画に関する事項
- (2) センター長、副センター長及びセンター専任教員の推薦に関する事項
- (3) センターの予算及び決算に関する事項
- (4) センターの施設・設備の整備計画に関する事項
- (5) その他センターに関する重要事項

2 前項第5号に関する事項については、別に定める。

### (組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) センター専任教員
- (4) 各サテライト長及び副サテライト長
- (5) 産学連携・研究支援センター教員 1名
- (6) 地域連携室選出職員 2名
- (7) その他委員会が必要と認めた者

2 地域連携担当の副学長は、委員会に出席することができる。

### (任期)

第4条 前条第1項第5号、第6号及び第7号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

### (委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

### (会議)

第6条 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

2 委員長に事故のあるときは、委員長があらかじめ指名した委員が議長となる。

3 委員会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

4 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

5 第3条第2項の副学長は、議決に加わらない。

### (委員以外の出席)

第7条 委員会が必要と認めた場合は、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第8条 委員会に必要に応じて、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会に関する事項は、委員会において定める。

(事務)

第9条 委員会の事務は、地域連携室において処理する。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

1 この規程は、平成16年4月1日から施行する。

2 この規程施行後最初に選出される第3条第1項第4号の委員の任期は、第4条の規定にかかわらず平成17年3月31日までとする。

附 則（平成16年4月23日一部改正：法人和歌山大学規程第297号）

この規程は、平成16年4月23日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

附 則（平成19年3月30日一部改正：法人和歌山大学規程第602号）

この改正規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成19年6月1日一部改正：法人和歌山大学規程第649号）

この改正規程は、平成19年6月1日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

附 則（平成20年3月31日一部改正：法人和歌山大学規程第783号）

1 この改正規程は、平成20年4月1日から施行する。

2 この規定改正後、最初に第3条第1項第4号により観光学部から選出される委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成21年3月31日までとする。

附 則（平成20年6月30日一部改正：法人和歌山大学規程第838号）

この改正規程は、平成20年6月30日から施行し、平成20年4月1日から適用する。

附 則（平成22年6月25日一部改正：法人和歌山大学規程第1108号）

この改正規程は、平成22年7月1日から施行する。

附 則（平成23年3月18日一部改正：法人和歌山大学規程第1188号）

この改正規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則（平成24年3月30日一部改正：法人和歌山大学規程第1294号）

1 この改正規程は、平成24年4月1日から施行する。

2 この規程施行後最初に選出される第3条第1項第6号の委員の任期については、改正前の第3条第1項第6号に規定する委員の残任期間とする。

附 則（平成25年3月22日一部改正：法人和歌山大学規程第1417号）

この改正規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則（平成25年5月24日一部改正：法人和歌山大学規程第1433号）

この改正規則は、平成25年5月24日から施行し、平成25年4月1日から適用する。

附 則（平成27年3月20日一部改正：法人和歌山大学規程第1644号）

この改正規則は、平成27年3月20日から施行し、平成27年4月1日から適用する。

## 和歌山大学地域連携・生涯学習センター規則

制 定 平成16年4月1日  
法人和歌山大学規程第57号  
最終改正 平成27年4月1日

### (趣旨)

第1条 この規則は、和歌山大学地域連携・生涯学習センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

### (目的)

第2条 センターは、学内の共同教育研究施設として、生涯学習に関する教育研究を行うとともに、生涯学習機会を広く提供することによって、生涯学習社会の形成に寄与することを目的とする。

### (業務)

第3条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 地域連携・生涯学習に関する基礎的・応用的研究
- (2) 生涯学習機会の提供
- (3) 生涯学習指導者の養成及び研修
- (4) 地域連携・生涯学習に関する資料の収集及び提供
- (5) その他センターの目的達成に必要な業務

2 前項第5号の業務については、別に定める。

### (企画運営委員会)

第4条 センターに関する重要事項を審議するため、和歌山大学地域連携・生涯学習センター企画運営委員会（以下「企画運営委員会」という。）を置く。

2 企画運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

### (職員)

第5条 センターに、次の職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 専任教員
- (4) その他の職員

2 センターの附属機関の組織については、別に定める。

### (センター長)

第6条 センター長は、和歌山大学（以下「本学」という。）の専任教員の中から、企画運営委員会の推薦を得て、学長が任命する。

2 センター長の任期は2年として、再任を妨げない。ただし、センター長に欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

3 センター長は、センターの業務を掌理する。

### (副センター長)

第7条 副センター長は、本学の専任教員の中から、企画運営委員会の推薦を得て、学長が任命する。

2 副センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、副センター長に欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

3 副センター長は、センター長を補佐し、センターの業務を整理する。



(専任教員)

第8条 専任教員は、センターの専門的業務を処理する。

(事務)

第9条 センターに関する事務は、地域連携室において処理する。

(専門部会)

第10条 センターには、必要に応じて専門部会を置くことができる。

(雑則)

第11条 この規則に定めるもののほか、センターの管理運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。

2 この規則施行後最初に選出されるセンター長及び副センター長の任期は、第7条第2項及び第8条第2項の規定にかかわらず平成17年3月31日までとする。

附 則（平成22年6月25日一部改正：法人和歌山大学規程第1107号）

この改正規則は、平成22年7月1日から施行する。

附 則（平成23年3月18日一部改正：法人和歌山大学規程第1187号）

この改正規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則（平成24年3月30日一部改正：法人和歌山大学規程第1293号）

この改正規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成25年3月22日一部改正：法人和歌山大学規程第1416号）

この改正規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則（平成26年3月28日一部改正：法人和歌山大学規程第1476号）

この改正規則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則（平成26年9月10日一部改正：法人和歌山大学規程第1547号）

この改正規則は、平成26年9月10日から施行し、平成26年4月1日から適用する。

附 則（平成27年4月1日一部改正：法人和歌山大学規程第1672号）

この改正規則は、平成27年4月1日から施行する。

和歌山大学地域連携・生涯学習センター20周年史

発行日 2020年3月31日

発 行 和歌山大学地域活性化総合センター

生涯学習・リカレント教育推進室

〒640-8510 和歌山市栄谷930

TEL 073-457-7152 FAX 073-457-7784

URL <https://www.wakayama-u.ac.jp/region/>

編集者 村田和子

印 刷 中和印刷紙器株式会社

